レポート課題集
2021

C
心理専門編

このレポート課題集掲載のレポート課題の提出期限：
2023年 9 月30日到着分まで

変更があれば『With』などでご案内します。

東北福祉大学 通信教育部

目　次

福祉心理学科関連専門科目

CC2149・CC2103
福祉心理学 …… 18
FA2531 2018～ 心理学概論A …… 24
FA2532 2018～ 心理学概論B …… 29
FA2501 ～2017 心理学概論 …… 34
FB2533 2018～ 心理学実験ⅠA …… 37
FB2534 2018～ 心理学実験ⅠB …… 43
FB2505 ～2017 心理学実験Ⅰ …… 49
FB3535 2018～ 心理学実験ⅡA …… 57
FB3536 2018～ 心理学実験ⅡB …… 63
FB2506 ～2017 心理学実験Ⅱ …… 67
FB3537 心理学統計法 …… 74
FB3538 2018～ 心理学研究法A
FB3508 ～2017 心理学研究法Ⅰ …… 80
FB4539 心理学研究法B …… 93
FC2540 2018～ 社会・集団・家族心理学A
（社会・集団心理学）…… 100
FC2514 ～2017 社会心理学 …… 109
FC2541 2018～ 社会・集団・家族心理学B
（家族心理学）…… 111
FC2515 ～2017 家族心理学 …… 117
FC3542 産業・組織心理学 …… 119
FC2523 ～2017 産業心理学 …… 126
FC2689 人間関係論 …… 127
FD3543 2018～ 発達心理学 …… 129
FD2502・FD2563
～2017 生涯発達心理学 …… 136
FD2516・FD2527
児童青年心理学 …… 143
FD2544 2018～ 老年心理学A …… 153
FD2545 2018～ 老年心理学B …… 158
FD2517 ～2017 老年心理学 …… 163
FD3546 発達臨床心理学 …… 166
FE2547 2018～ 教育・学校心理学A
（教育心理学）…… 168
FE2513 ～2017 教育心理学 …… 175
FE3548 教育・学校心理学B（学校心理学）…… 176
FE3549 障害者・障害児心理学 …… 182
FF3550 2018～ 感情・人格心理学 …… 188
FF2511・FF2528
～2017 人格心理学 …… 194
FF3553 2018～ 心理的アセスメントⅠ …… 197
FF2519 ～2017 心理アセスメント…… 203
FF4556 心理的アセスメントⅡ …… 205
FF2522 ライフサイクルと福祉心理学 …… 209
FF3552 2018～ 臨床心理学概論Ⅰ …… 211
FF4555 2018～ 臨床心理学概論Ⅱ …… 217
FF3503・FF3564
～2017 臨床心理学 …… 220
FF3554 2018～ 心理学的支援法Ⅰ …… 223
FF3557 2018～ 心理学的支援法Ⅱ …… 228
FF3520 ～2017 心理療法 …… 234
FF3521 ～2017 心理療法各論 …… 242
FF4558 2018～ 心理学的支援法Ⅲ …… 246
FF3551 司法・犯罪心理学 …… 250
FF3524 ～2017 犯罪非行心理学 …… 257
FF3565 災害・防災心理学 …… 258
FF4559 健康・医療心理学 …… 260
FG2682 カウンセリングⅠ …… 267
FG2683 カウンセリングⅡ …… 269
FG3695 カウンセリング演習Ⅰ …… 271
FG3696 カウンセリング演習Ⅱ …… 273
FH3560 2018～ 知覚・認知心理学 …… 275
FH3510・FH3530
～2017 認知心理学 …… 280
FH3561 2018～ 学習・言語心理学 …… 282
FH3512 ～2017 学習心理学 …… 287
FJ3562 神経・生理心理学 …… 288
FP5571 福祉心理学演習（中村担当）…… 294
FP5571 福祉心理学演習（山口担当）…… 299
ZZ5991 卒業研究 …… 304

特講・福祉心理学

FT2605 特講・福祉心理学 5
（自分さがしの心理学）…… 316
FT2608 特講・福祉心理学 8
（ストレスとつきあう心理学）…… 318
FT2609 特講・福祉心理学 9
（コミュニティ心理学）…… 320
FT2617 特講・福祉心理学17
（認知行動療法）…… 322

共通基礎科目・専門選択科目B群

AB1146・DA3146
統計情報を見る眼 …… 324

『レポート課題集』の構成

掲載冊子・ページは、下記の「科目別索引」で探してください。

■2021年度版の冊子を発行するもの（PDF版も通信教育部ホームページに掲載）

A	社福・精保指定科目編	2021年度１年次入学者は別冊を参照してください
B	共通基礎・福祉専門編	
C	心理専門編	本冊子

※他に『客観式レポート集』を発行。すべての科目の客観式レポート課題が掲載されます。

■2021年度版の冊子を発行しないもの

E	2008年度以前入学者科目 社会福祉士指定科目	2015年 PDF 版を通信教育部ホームページに掲載（または『レポート課題集2014（心 理・教職編）』を参照のこと）

各科目の関連を示した履修系統図は、2018～2021年度入学者は、それぞれの入学年度の『学習の手引き』、2017年度以前入学者は『レポート課題集Ｃ（心理専門編）2017』ｐ. 204～207、および本冊子ｐ. 17を参照してください。

目次・索引の科目名に付随するマークについて

～2008 2009年度以降入学者履修不可
～2011 2012年度以降入学者履修不可
～2017 2018年度以降入学者履修不可
2018～ 2017年度以降入学者履修不可
2009～改正 2009年度改正カリキュラム対象者※1以外履修不可
2012～改正 2012年度改正カリキュラム対象者※2以外履修不可
2021改正不可 2021年度改正カリキュラム対象者※3履修不可

※１　2009年度改正カリキュラム対象者＝2009～2020年度入学者すべて
2021年度２・３年次編入学者
※２　2012年度改正カリキュラム対象者＝2012～2020年度入学者すべて
2021年度２・３年次編入学者
※３　2021年度改正カリキュラム対象者＝2021年度１年次入学者

科目別索引

※ページ数が記載されていない科目は、下記でご確認ください。

A	社福・精保指定科目編（2021年度１年次入学者は対象外）
B	共通基礎・福祉専門編
C	心理専門編
E	『レポート課題集2014』または通信教育部HP「レポート課題一覧」

※2021年度改正カリキュラム対象者のみが履修可能な下記科目は、索引中には掲載されていません。『レポート課題集（2021年度１年次入学者用）』をご参照ください。

福祉心理学（CC2068）、社会学と社会システム、高齢者福祉、障害者福祉、児童・家庭福祉、介護論

ア　行

CC3079 2009〜改正 医学一般 …… A
CC3106 〜2008 医学一般 …… E
DF3147 医療・福祉経済論 …… B
DE2113 NPO論 …… B

カ　行

CL2065 2009〜改正 介護概論 …… A
CL2120 〜2008 介護概論 …… E
EA4193 2009〜改正 介護技術 …… 学習期間終了
EB4903 介護実習 …… 学習期間終了
EB4701・EB4741
介護実習事前事後指導 …… 学習期間終了
EC3708 カウンセリング
（教職免許状取得希望者向け） …… 学習期間終了
FG2682 カウンセリングⅠ …… 267
FG2683 カウンセリングⅡ …… 269
FG3695 カウンセリング演習Ⅰ …… 271
FG3696 カウンセリング演習Ⅱ …… 273
AB1020・AB1041
〜2017 科学的な見方・考え方 …… B
AB1032 科学的な見方・考え方 …… B
FH3561 2018〜 学習・言語心理学 …… 282
FH3512 〜2017 学習心理学 …… 287
FC2515 〜2017 家族心理学 …… 117
DH3144・DH3164
家族法 …… B
FC3504 〜2017 環境心理学 …… 学習期間終了
AH1018 観光と文化 …… 学習期間終了
FF3550 2018〜 感情・人格心理学 …… 188
AB1033 基礎演習 …… B
AB1145・DA2145
〜2017 基礎演習 …… B
FE2547 2018〜 教育・学校心理学Ａ（教育心理学） …… 168
FE3548 教育・学校心理学Ｂ（学校心理学） …… 176
FE2513 〜2017 教育心理学 …… 175
EC2301 教育原理 …… 学習期間終了
AH1037 教育の歴史と思想 …… B
EC3706 教育方法論（視聴覚教育等を含む） …… 学習期間終了
EC2702 教職論 …… 学習期間終了
DD4124・DD4196
ケアマネジメント論 …… B
EG4734 （軽度）発達障害教育総論 …… 学習期間終了
EG4733 （軽度）発達障害者の心理 …… 学習期間終了
FF4559 健康・医療心理学 …… 260
AK1016 〜2017 健康科学 …… 学習期間終了
EG4736 言語障害教育 …… 学習期間終了
AH1006 現代社会を見る眼 …… 学習期間終了
DF3110 公衆衛生学 …… B
CM3069 2009〜改正 更生保護制度論 …… A
CA4108 2021改正不可 公的扶助論 …… A
EC3703 高等学校教育課程の意義と編成 …… 学習期間終了
CL2064 2009〜改正 高齢者福祉論 …… A
CL2117 〜2008 高齢者福祉論 …… E
DH4115 国際福祉論 …… B
AH1019 子どもと社会 ……
AL1011 コミュニケーション英語 …… 学習期間終了 B
EG4736 コミュニケーション障害教育
→言語障害教育 …… 学習期間終了

サ　行

FF3565 災害・防災心理学 …… 258
FG3680 産業カウンセリングⅠ …… 学習期間終了
FG3681 産業カウンセリングⅡ …… 学習期間終了
FC2523 〜2017 産業心理学 …… 学習期間終了
FC3542 産業・組織心理学 …… 119
EG3737 視覚障害教育総論 …… 学習期間終了
EF3719 肢体不自由教育 …… 学習期間終了
EE4723 肢体不自由者の心理、生理・病理 …… 学習期間終了
CL2066 2009〜改正 児童・家庭福祉論 …… A
CL2116 〜2008 児童福祉論 …… A
FD2516・FD2527
児童青年心理学 …… 143
EG4735 自閉症教育総論 …… 学習期間終了
FF3551 司法・犯罪心理学 …… 250
FC2540 2018〜 社会・集団・家族心理学Ａ
（社会・集団心理学） …… 100
FC2541 2018〜 社会・集団・家族心理学Ｂ
（家族心理学） …… 111
FC2514 〜2017 社会心理学 …… 109
CE4073 2009〜改正 社会調査の基礎 …… A
DD4114 社会病理学 …… 学習期間終了
CN3130 〜2008 社会福祉援助技術演習Ⅰ …… E
CN4131 〜2008 社会福祉援助技術演習Ⅱ …… E
CN3082 2009〜改正 社会福祉援助技術演習Ａ …… A
CN4083 2009〜改正 社会福祉援助技術演習Ｂ …… A
CN5084 2009〜改正 社会福祉援助技術演習Ｃ …… A
CP5901 〜2008 社会福祉援助技術現場実習 …… E
CP5132 〜2008 社会福祉援助技術現場実習指導 …… E
CP5907 2009〜改正 社会福祉援助技術実習 …… A
CP3190 2009〜改正 社会福祉援助技術実習指導Ａ …… A
CP5191 2009〜改正 社会福祉援助技術実習指導Ｂ …… A
CE3070 2009〜改正 社会福祉援助技術総論 …… A
CE3071 2009〜改正 社会福祉援助技術論Ａ …… A
CE3072 2009〜改正 社会福祉援助技術論Ｂ …… A
CJ3126 〜2008 社会福祉援助技術論Ⅰ …… E
CJ3127 〜2008 社会福祉援助技術論Ⅱ …… A
CJ4128 〜2008 社会福祉援助技術論Ⅲ …… E
CJ4129 〜2008 社会福祉援助技術論Ⅳ …… E
AH1050 社会福祉学入門 …… B
CA3104 2021改正不可
社会福祉原論（職業指導を含む） …… A
DA2050 社会福祉の基礎 …… B
DH4111・DH4165
社会福祉法制 …… B
CA4107 2021改正不可 社会保障論 …… A
CM4076 2021改正不可 就労支援サービス論 …… A
FE3518 〜2017 障害児の心理 …… 学習期間終了
EH4906 障害者教育実習 …… 学習期間終了
EH4740 障害者教育実習の事前・事後指導 …… 学習期間終了
ED3718 障害者教育総論 …… 学習期間終了
FE3549 障害者・障害児心理学 …… 182
CD2118 2021改正不可 障害者福祉論 …… A
EA2195 〜2017 障害の理解 …… 学習期間終了
FD2502・FD2563
〜2017 生涯発達心理学 …… 136
AB1332 〜2017 情報処理Ⅰ …… 学習期間終了
AB1034 情報処理の基礎 …… B
DK4692 職場のメンタルヘルス …… 学習期間終了
FF2511・FF2528
〜2017 人格心理学 …… 194
FJ3562 神経・生理心理学 …… 288
AH1049 人権と福祉 …… B
CC3081 2018〜 人体の構造と機能及び疾病 …… A
DK3690 人的資源論 …… 学習期間終了
FF2519 〜2017 心理アセスメント …… 203
FA2501 〜2017 心理学概論 …… 34
FA2531 2018〜 心理学概論Ａ …… 24
FA2532 2018〜 心理学概論Ｂ …… 29
FB3508 〜2017 心理学研究法Ⅰ …… 80

FB3509 ～2017 心理学研究法Ⅱ …… 学習期間終了
FB3538 2018～ 心理学研究法Ａ …… 80
FB4539 心理学研究法Ｂ …… 93
FB2505 ～2017 心理学実験Ⅰ …… 49
FB2533 2018～ 心理学実験ⅠＡ …… 37
FB2534 2018～ 心理学実験ⅠＢ …… 43
FB2506 ～2017 心理学実験Ⅱ …… 67
FB3535 2018～ 心理学実験ⅡＡ …… 57
FB3536 2018～ 心理学実験ⅡＢ …… 63
FF3554 2018～ 心理学的支援法Ⅰ …… 223
FF3557 2018～ 心理学的支援法Ⅱ …… 228
FF4558 2018～ 心理学的支援法Ⅲ …… 246
FB3537 心理学統計法 …… 74
FF3553 2018～ 心理的アセスメントⅠ …… 197
FF4556 心理的アセスメントⅡ …… 205
FF3520 ～2017 心理療法 …… 234
FF3521 ～2017 心理療法各論 …… 242
AK1040 睡眠改善学 …… B
AS1024 スポーツ（バーンゴルフ）…… 学習期間終了
AS1023 スポーツ（バレーボール）…… 学習期間終了
AS1043 スポーツの心理学 …… B
EA3194 ～2017 生活行動と人体 …… 学習期間終了
AH1026 政治学の基礎 …… 学習期間終了
CQ4140 2021改正不可 精神医学 …… A
CS4139 2021改正不可 精神科リハビリテーション学 …… A
CQ4166 2018～ 精神疾患とその治療Ⅰ …… A
CQ4167 2018～ 精神疾患とその治療Ⅱ …… A
CU3151 2012～改正 精神障害者の生活支援システム …… A
CQ3136 2021改正不可 精神保健学 …… A
CW4141 ～2011 精神保健福祉援助演習 …… A
CW3157 2012～改正 精神保健福祉援助演習Ａ …… A
CW4158 2012～改正 精神保健福祉援助演習Ｂ …… A
CW5159 2012～改正 精神保健福祉援助演習Ｃ …… A
CR3138・CR3148
～2011 精神保健福祉援助技術各論 …… A
CR3156 2012～改正 精神保健福祉援助技術各論 …… A
CR3153 2012～改正 精神保健福祉援助技術総論Ⅰ …… A
CR3154 2012～改正 精神保健福祉援助技術総論Ⅱ …… A
CR3137 ～2011 精神保健福祉援助技術総論 …… A
CX5902 ～2011 精神保健福祉援助実習 …… A
CX4908 2012～改正 精神保健福祉援助実習Ａ …… A
CX5909 2012～改正 精神保健福祉援助実習Ｂ …… A
CX4188 2012～改正 精神保健福祉援助実習指導Ａ …… A
CX5189 2012～改正 精神保健福祉援助実習指導Ｂ …… A
CT3150 2012～改正 精神保健福祉のサービス …… A
CT4152 2012～改正 精神保健福祉の制度 …… A
CS3155 2012～改正 精神保健福祉の理論 …… A
CS3133 ～2011 精神保健福祉論Ⅰ …… A
CT3134 ～2011 精神保健福祉論Ⅱ …… A
CT4135 ～2011 精神保健福祉論Ⅲ …… A
EC3707 生徒指導論（進路指導を含む）…… 学習期間終了
AK1039 生命の科学 …… B
AK1005・AK1042
～2017 生命の科学 …… B
AA1001 ～2017 禅のこころ …… 学習期間終了
AA1031 禅のこころ …… B
EC4709 総合演習 …… 学習期間終了
ZZ5991 卒業研究 …… 304

タ　行

CA3105 2021改正不可 地域福祉論 …… A
FH3560 2018～ 知覚・認知心理学 …… 275
EF3727 知的障害教育 …… 学習期間終了
EE4721 知的障害者の心理 …… 学習期間終了
EE4722 知的障害者の生理・病理 …… 学習期間終了
DD3119 知的障害者福祉論 …… B
EF3730 聴覚障害教育 …… 学習期間終了
EE4725 聴覚障害者の心理 …… 学習期間終了
EE4726 聴覚障害者の生理・病理 …… 学習期間終了
EG4732 重複障害教育総論 …… 学習期間終了
AB1035 データ分析とプレゼンテーション技法 …… B
AB1146・DA3146
統計情報を見る眼 …… 324
EC3705 特別活動の指導法 …… 学習期間終了
ET3771 特別支援教育支援員概論 …… 学習期間終了
AT1029 特講（地域と生活）…… B
DT2201 特講・社会福祉学１
（介護保険と社会福祉士の課題）…… B
DT5205 特講・社会福祉学５ …… 学習期間終了
DT5206 特講・社会福祉学６ …… 学習期間終了
DT2210 特講・社会福祉学10
（スクール・ソーシャルワーク論）…… B
DT2221 特講・社会福祉学21
（コミュニティ・ソーシャルワークⅢ）…… B
DT2222 特講・社会福祉学22
（精神科多職種アウトリーチ支援）…… B
DT2250 特講（防災士研修講座）…… B
FT2605 特講・福祉心理学５（自分さがしの心理学）…… 316
FT2608 特講・福祉心理学８
（ストレスとつきあう心理学）…… 318
FT2609 特講・福祉心理学９（コミュニティ心理学）…… 320
FT2617 特講･福祉心理学17（認知行動療法）…… 322

ナ　行

FC2689 人間関係論 …… 127
AH1017・AH1025
～2017 人間と教育 …… B
AJ1004 人間と宗教 …… 学習期間終了
DD2215 認知症介護論 …… B
FH3510・FH3530
～2017 認知心理学 …… 280

ハ　行

EG4734 発達障害教育総論 …… 学習期間終了
EG4733 発達障害者の心理 …… 学習期間終了
DD2211 発達障害者の地域支援 …… B
DD3161・DD3168
発達障害者の理解と支援 …… B
FD3543 2018～ 発達心理学 …… 129
FD3546 発達臨床心理学 …… 166
FF3524 ～2017 犯罪非行心理学 …… 学習期間終了
EF3729 病弱教育 …… 学習期間終了
EF4731 病弱教育総論 …… 学習期間終了
EE4724 病弱者の心理、生理・病理 …… 学習期間終了
EC3704 福祉科の指導法 …… 学習期間終了
DH3121 福祉機器論→福祉用具と生活支援 …… B
CC4080 2009～改正 福祉行財政と福祉計画 …… A
CE4074 2009～改正 福祉経営論 …… A
DH3123 ～2008 福祉計画法 …… B
DE4125 ～2008 福祉施設管理論 …… B
DH2109 福祉思想論 …… B
CC2101 2021改正不可 福祉社会学 …… A
CC2103・CC2149
福祉心理学 …… 18
FP5571 福祉心理学演習 …… 294、299
AH1003 ～2017 福祉と経済 …… 学習期間終了
AH1021 福祉と生活 …… 学習期間終了
CB3063 2009～改正 福祉法学 …… A
CB3102 ～2008 福祉法学 …… E
DA2142 福祉ボランティア活動 …… B
DF3121・DF3163
福祉用具と生活支援 …… B
DE3143・DF3162
福祉リスクマネジメント …… B
AH1036 法の基礎 …… B
AH1007・AH1030
～2017 法の基礎（日本国憲法を含む）…… B
CD4075 2009～改正 保健医療サービス論 …… A
AB1002 ボランティア論 …… B

ラ　行

FF2522 ライフサイクルと福祉心理学 …… 209
DF3122 リハビリテーション論 …… B
FF3503・FF3564
～2017 臨床心理学 …… 220
FF3552 2018～ 臨床心理学概論Ⅰ …… 211
FF4555 2018～ 臨床心理学概論Ⅱ …… 217
AJ1009 歴史を見る眼 …… 学習期間終了
AJ1038 歴史を読み解く …… B
DL3280 レクリエーション概論 …… 学習期間終了
DL4282 レクリエーション事業 …… 学習期間終了
DL4281 レクリエーション実技 …… 学習期間終了
DK4691 労働法 …… 学習期間終了
FD2517 ～2017 老年心理学 …… 163
FD2544 2018～ 老年心理学Ａ …… 153
FD2545 2018～ 老年心理学Ｂ …… 158

『レポート課題集』の活用方法

科目名・担当教員名など

●単位数

単位修得方法にそって、レポートや試験が合格すると得られる、科目ごとに定められている単位数について、法令では１単位あたりの学習時間は45時間（２単位科目90時間・４単位科目180時間）と定められています。

通信教育部では、①教科書や参考文献を読んだり調べたりする時間、②学習内容について理解する時間、③レポートをまとめる時間、④スクーリングを受講する時間とその予習復習の時間、⑤科目修了試験の学習時間・試験時間などを確保して学習を進めていってください。

●履修方法

各科目の単位修得方法を記載しています。「R：レポート＋科目修了試験」「SR：スクーリング＋レポート」「R or SR：RかSRを自分で決める科目」「S：スクーリングのみ」となります。『学習の手引き』2021版ｐ.14、2020版ｐ.14、2019版ｐ.14、2018版ｐ.14、2017版ｐ.12、その他の版ｐ．４（またはｐ．２）で確認ください。

履修方法＝Sの科目については、レポート課題はなく、教科書もないものが大半です。スクーリング事前学習・スクーリング受講・スクーリング事後学習により、１単位あたり45時間の学習時間を確保するようにしてください。

●配当年次

履修登録・学習ができる年次を記載しています。たとえば、「１年以上」と記載のある科目は、１年生以上（２～４年生含む）の方が履修登録できます。

●担当教員

主としてレポート添削指導をおこなう教員名を記載しています（S科目はスクーリング担当教員）。スクーリング担当教員は受講会場により異なる場合があります。なお、一部科目のレポートは添削指導員が担当する場合があります。また、担当教員が科目に関連する実務経験を有する場合は「科目の内容」欄に表示しています。

科目の概要

●到達目標

各科目の学習を通じて、身につけてほしい目標を記載しています。意識して学習を進めてください。

●教科書

レポート学習やスクーリング時に使用する教科書を記載しています。在学中に変更になる場合もありますので、今年度学習するにあたり必ずご確認ください。

【スクーリング時の教科書について】

教科書が変更された科目について、通常変更後 2 年間は、変更直前の教科書を所持している方に対し、必要に応じて配慮をいたします。

教科書が変更されて 2 年以上経過した科目について、スクーリング時に新規教科書の所持が求められたり、事前学習において新規教科書が必要とされる場合、所持していない方は事前に購入などをお願いいたします。

なお、通信教育部へ購入を申込む場合は、本冊子巻末の「教材購入申込書」をご利用いただき、事前に郵送で、料金分の定額小為替も同封のうえ余裕をもってお申込みください。当日の購入は原則としてできません。本冊子巻末の「教材購入申込書」に記載のない教科書の料金はお問い合わせください。

●「卒業までに身につけてほしい力」との関連

各科目の学習を通じてとくに伸ばしてほしい点を、社会福祉学科・福祉心理学科の「学位授与の方針＝ディプロマポリシー」にあげられた「卒業までに身につけてほしい力」との関連で記載したものです。

●科目評価基準

評価するにあたり、評価の計算方法を記載しています。

2018年度以降の科目評価の算出方法は下記の通りです（入学年度により計算方法が異なります）。

■2014年度以降入学者の評価計算方法

計算上、「優」「良」「可」などの評価を 4 点満点で得点換算し、『レポート課題集』記載の評価割合で計算されます。

◇レポート評価

評価	優	良	可
レポートの得点換算	4	2	1

※レポート評価に、「秀」はありません。

◇スクーリング評価　or科目修了試験

評価	秀	優	良	可
試験の得点換算	4	3	2	1

◇科目評価の計算式

例）科目評価基準が、レポートa%＋スクーリング試験or科目修了試験b%の場合（a%+b%＝100%）

$$\text{科目評価得点} = \frac{\Sigma\,\text{〔（レポートの得点換算の合計）}\times a\%\text{〕}}{\text{レポート課題数}} + \text{試験の得点換算}\times b\%$$

◇科目の評価

科目評価得点	4.0	4.0未満～2.5以上	2.5未満～1.5以上	1.5未満～1.0以上
科目評価	秀	優	良	可
100点満点換算	100～90相当	89～80相当	79～70相当	69～60相当

※2017年度以前の単位修得科目の評価にも「秀」が加わります。
2017年度以前の単位修得科目の科目評価の計算方法は、『レポート課題集2017』記載のとおりです（上記の方法では計算されません）。
※100点満点換算は「秀」「優」「良」「可」の位置づけの理解のために、参考に記載しております。

■2013年度以前入学者の評価計算方法

計算方法は2014年度以降入学者と同じですが、2013年度以前の入学者に「秀」の評価はつきません。

スクーリング

【会場によって担当教員が異なる科目】

会場により担当教員が異なる科目があります。会場ごとの講義概要を記載していますので、スクーリング受講前に必ずご確認ください。

【オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングの際のご注意】

オンデマンド・スクーリングおよびビデオ・スクーリングにおいて、録画が前年度以前である科目も多いため、以前の教科書にもとづく講義の場合があります。その際は、最新の教科書を所持している方に対しては、必要に応じて配慮します。
また、講義内容も本冊子に記載の内容と若干異なる場合がありますが、ご了承ください。「オンデマンド・スクーリング用の講義概要」は、「TFUオンデマンド」の「各種申込」より確認してください。

【その他スクーリング受講上の留意点】

『学習の手引き』の「スクーリング」をご確認ください（掲載している章は入学年度により異なります）。

●スクーリングで学んでほしいこと

スクーリング時に、特に学んで欲しいポイントを記載しています。

●講義内容

コマごとのテーマ・内容が記載されています。なお、テーマの記載に当たって、スクーリング試験を分けていますので、たとえば、回数＝1～9と表記されている科目のスクーリングのコマ数は8コマです。

●スクーリング　評価基準

評価するにあたり、判断基準の割合などを記載しています。スクーリング試験にあたっての補足事項（持込の可否など）も記載されています。

●スクーリング事前学習

スクーリングを受講するにあたり、事前に学習しておいてほしい事項を記載しています。記載されていなくても、教科書を一読したり不明な用語を調べておいたり、レポート課題について考察しておくことをお奨めします。また、受講中（後）も、疑問点について意欲的に調べることが望まれます。

予習・復習により、学習が深まり、学習効果の向上が期待できます。

●スクーリング事後学習

スクーリング受講後に、学習（復習）してほしい事項を記載しています。その他、スクーリング受講で得た知識を踏まえ、未提出のレポートがある場合はレポート課題に取り組みましょう。また、「到達目標」を達成できるよう各自で知識をさらに深める学習をしてください。

講義中に紹介された参考図書を読んだり、スクーリングで得た知識を、受講後の職場や家庭での実践に役立て、知識を自分のものとすることも非常に大切な事後学習となります。

レポート学習

●在宅学習のポイント

主に教科書を読むポイントを15回（一部の科目を除く）に分けて記載しています。このポイントを身につけられれば、その科目の要点は十分理解したことになります。テーマ部分の（　）内は現在使用している教科書の章立てまたはページ数です。

一部科目で、参考図書の内容が含まれる場合もあります。学習内容をより深めたい場合は、参考図書を活用することをお奨めします。なお、参考図書を読むことが必須の科目もありますので、レポートのアドバイス欄で確認してください。

●レポート課題

皆さんの学習の成果を先生に提出するものがレポートです。下記の「アドバイス」をよく読み、まとめてください。レポートの書き方は『学習の手引き』４章１節（2016版以前は６章）の「レポート学習」をご確認ください。

なお、福祉心理学科専門科目の大半の科目は、一部の課題が○×式や選択肢式などの「客観式レポート」です。「TFUオンデマンド」上で解答するか、『客観式レポート集』を利用して郵送で提出してください。

●アドバイス

レポート課題に取り組むにあたってのアドバイスが記載されています。よく読んでレポートに取り組ん

でください。大半の科目のレポート評価は「レポートにおける観点別ルーブリック評価」にもとづいて行います。レポートは学習の成果ですので、評価は自身の振り返りの材料、学習を深めるためのものとして利用してください。

【レポートにおける観点別ルーブリック評価】

評価の観点	A 十分満足できる	B やや努力が必要である	C かなり努力が必要である
題意把握・内容理解	①レポート課題そのものを理解している。②課題にそって解答がなされている。③答えるべきことがらの内容について正確に理解している。④専門用語の意味などについて、正確に理解している。	①〜④のいずれか 2 つ以上が満たされている。	①〜④の 3 つ以上が不十分である。
論理構成・考察力	①レポートが論理的に、わかりやすく展開されている。②自分なりの視点をもって、課題を考察している。③自分なりの考え方が書かれていて、独創性の芽が感じられる。	①〜③のいずれか 1 つ以上が満たされている。	①〜③のすべてが不十分である。
表現・文字の正確さ	①誤字・脱字がない。②文章の主語・述語が対応している。③適切な語彙を用いている。	①〜③のいずれか 1 つ以上が満たされている。	①〜③のすべてが不十分である。
引用・出典明示	引用・出典が明示され、引用した部分については、「　」でくくり、どこから引用したのかを、著者名・『書名』・出版社名・出版年（初版）・引用ページ（引用の場合）を挙げて明示している。	引用・出典が明示されているが、表記方法が誤っている。	引用や参考文献が用いられているにもかかわらず、明示されていない。※教科書の出典明示も必須であるので、明記がなければ当評価となる。
現実との関連づけ（※課題により要求されない場合もある）	本学の建学の精神である「行学一如」に沿って、学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけて（事例を挙げる等）まとめている。	学問的な内容を、身近な出来事や職場での問題、時事問題に関連づけてまとめようとしている努力は伺えるが、内容が不十分である。	レポート内容について、現実との関連づけを行った形跡が見られない。

科目修了試験

●評価基準

科目修了試験について、先生方からのアドバイスや評価する上での判断基準が記載されています。とくに指示がない場合は「在宅学習のポイント」「到達目標」「レポート課題」と関連した内容が出題される科目が大半ですので、ポイントをしぼって学習してください。

福祉心理学科　関連専門科目　留意事項

福祉心理学科の専門必修科目（専門選択必修科目）、専門選択科目A群の学習開始にあたっての留意点です。

全学生へのご案内

●カリキュラムが2018年度以降入学者と2017年度以前入学者で大きく異なります

・2018年度入学者より福祉心理学科のカリキュラムが大きく変わりました。2017年度以前入学者と科目名称・単位数などが異なる科目が多くあります。

・スクーリングは2017年度以前入学者と2018年度以降入学者とが一緒に受ける科目も多くあります。本冊子の利用やカリキュラムに関する学友同士の情報交換の際は入学年度によってカリキュラム・科目名称・単位数が異なる場合があることにご注意ください。

（例）2017年度以前入学者「心理学概論」－ 2018年度以降入学者「心理学概論A」「心理学概論B」

●各科目ともスクーリングの受講をお奨めします

・慣れるまでは教科書を読んでも専門用語が多く難しく感じることが多いかもしれません。その場合は、スクーリングを受講することをお奨めいたします。スクーリングを受講し、教科書や参考図書を読み進めていくうちに、心理学的な考え方に慣れてきて「わかった」ということが増えてきます。

・心理学は私たちのこころや行動を扱っていますので、具体例と結びつけて考えてみてください。

●『福祉心理学科スタディ・ガイド』も活用ください

・本学福祉心理学科の先生からのメッセージを掲載しています。参照のうえ学習を進めてください。

●「心理学」の用語辞典

下山晴彦編集代表『誠信心理学辞典（新版）』誠信書房、2014年（領域別）

外林大作ほか編『誠信心理学辞典』誠信書房、1981年（五十音順）

中島義明ほか編『心理学辞典』有斐閣、1999年（五十音順）

のいずれか 1 冊は購入し手元に置いておくことをお奨めしています。

●教科書より平易な入門書もご利用ください

教科書や辞書の文章が難しく感じる場合は、下記のようなよりやさしい心理学の入門書で心理学のイメージをつかんでいただくこともお奨めしています。

・大井晴策監修『史上最強カラー図解プロが教える心理学のすべてがわかる本』ナツメ社、2012年

・青木紀久代・神宮英夫編著『カラー版徹底図解　心理学』新星出版社、2008年

・渋谷昌三著『面白いほどよくわかる！心理学の本』西東社、2009年

・植木理恵著『ゼロからわかる　ビジュアル図解　心理学』KADOKAWA、2013年

・加賀谷崇文監修『いちばんよくわかる図解　臨床心理学』成美堂出版、2018年

※他にもありますので、書店などでさがしてみてください。

●その他、この『レポート課題集』や『試験・スクーリング情報ブック』、『学習の手引き』、『With』でご案内の留意点をご覧ください。

2018年度以降入学者へのご案内（既報）

●2018年度入学者に配付している『学習の手引き2018版』の変更事項

p. 70・143　履修方法変更

・「心理学統計法」　履修方法：R or SR

・「心理学研究法Ｂ」　履修方法：SR

・「心理的アセスメントⅡ」　履修方法：SR

・「神経・生理心理学」　履修方法：R or SR

p. 70　科目名変更

（変更前）障害者・障害児の心理 →（変更後）障害者・障害児心理学

p. 143　認定心理士の取得には「ｂ　心理学研究法」欄は、「心理学研究法Ａ」「心理学統計法」が必修となります。

●受講条件・受講上の注意・スクーリング受講にあたっての留意事項等が課される科目

【基礎的な科目】「心理学概論B」「心理学実験ⅠB・ⅡA」「老年心理学B」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」「ライフサイクルと福祉心理学」「産業・組織心理学」　留意事項は各科目欄参照（上記科目の留意事項は強制ではありません）。

【応用的な科目】「心理学実験ⅡB」「心理学研究法A・B」「臨床心理学概論Ⅱ」「障害者・障害児心理学」「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「心理的アセスメントⅡ」「健康・医療心理学」「神経・生理心理学」「福祉心理学演習」「卒業研究」

※科目名にA・Bが付されている科目は、A・Bの受講の順序の指定はありません。また、「カウンセリングⅠ」と「カウンセリングⅡ」の受講の順序の指定はありません。実験科目は「心理学実験ⅠA」から受講することを推奨しますが、「心理学実験ⅠB」「心理学実験ⅡA」からの受講も可能です。

●卒業にあたって会場スクーリング受講が必須の科目　「心理学実験ⅠA」

●単位修得期限が2022年度の科目

・**「児童青年心理学」**　今後の会場スクーリング開講はありません。オンデマンド・スクーリング開講は2022年度までの予定です。

●会場スクーリングが隔年開講予定の科目

・『学習の手引き2018・2019・2020・2021版』１章５節参照。

●2018年度以降入学者の「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格取得について

・現在は「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格が取得できる課程ではありません。ｐ. 14の特例要件による取得もできません。

2017年度以前入学者へのご案内（既報）

※今回始めてご案内する内容です。

●福祉心理士に関する科目について

「障害児の心理」は学習期間が終了しました。現在は「障害者・障害児心理学」に変更されています。

※2019年度からの変更点です（既報）。

●「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」の仙台会場スクーリング開講形態

2021年度：心理学実験Ⅰ＝4日間連続、心理学実験Ⅱ＝2日間×2回に分けて受講

●下記の科目が2019年度より開講され、福祉心理学科の2017年度以前入学者も卒業要件単位に含めることができるようになりました。

「心理学統計法」「心理学研究法Ｂ＊」「福祉心理学演習＊」「教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）」「発達臨床心理学」「障害者・障害児心理学＊」「健康・医療心理学＊」「神経・生理心理学＊」「心理的アセスメントⅡ＊」

上記＊印の科目のほか、いくつかの科目に受講条件などが設定されています（各科目欄参照）。

2017年度以前入学者の福祉心理学科の専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目A群の「開設授業科目一覧」はｐ. 15のとおりです。

●上記2019年度開設科目で社会福祉学科の2017年度以前入学者が卒業要件単位に含められるのは下記のみです。

「教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）」「発達臨床心理学」「障害者・障害児心理学＊」

●「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」科目内容の変更について＝『レポート課題集2018』記載内容から大幅に変更

・「心理学研究法Ⅰ」は科目名は変更せず学習が継続可能となりました（2018年度以降入学者の「心理学研究法A」と内容を統一するため、2019年度からスクーリングやレポートの内容は変更になりました）。

・「心理学研究法Ⅱ」の学習期間は終了しました。

・「心理学研究法Ⅱ」を単位修得していない認定心理士取得希望者は、「心理学統計法」を履修し単位修得をしてください。認定心理士資格に関する科目の詳細は、ｐ. 16を参照してください。

・「心理学研究法Ⅱ」の単位修得の有無にかかわらず、「心理学統計法」「心理学研究法B」のいずれも履修登録をし、学習することは可能です。「心理学研究法B」は、「心理学統計法」の単位を修得していないと学習ができません。また、「心理学研究法B」は、卒業研究希望者・大学院進学希望者向けのやや高度な内容となります。

※2018年度からの変更点です（既報）。

●単位修得期限が2022年度の科目

・**「児童青年心理学」**　今後の会場スクーリング開講はありません。オンデマンド・スクーリング開講は2022年度までの予定です。

・**「老年心理学」「人格心理学」「心理療法」「認知心理学」**　2022年度までは4単位科目として開講。2023年度以降は2単位科目として単位修得が可能になる予定。

「公認心理師国家試験受験資格」の基礎資格取得について

心理専門職の国家資格「公認心理師」国家試験受験資格を得るためには、大学で必要な科目を修めて卒業した後、所定の業務に２年以上従事するか、所定の大学院に進学・修了することが必要です。

「臨床心理士」など他の心理系の資格と同様、資格取得は狭き門になることが予想されます。また、現在、心理職の需要は福祉職ほど多いものではなく、公認心理師の需要が将来どのように伸びていくのかは、まだ分かりません。

2017年４月までに入学の正科生は、法令上の特例要件を満たせば、実習・演習科目なしでの受験資格の基礎資格が取得（＝「大学で必要な科目を修めて卒業」を満たす扱いとなる）でき、所定の大学院の受験が可能となります。

法令上の特例要件を満たすために通信教育部で単位修得すべき科目は下記のとおりです。

公認心理師の経過措置対応科目表2020　（2017年度４月入学者まで対応 ※１）

No.（条件）		大学における必要な科目名	通信教育部における必要な科目（2010～2017年度単位修得　※２）	通信教育部における必要な科目（2018年度単位修得）	通信教育部における必要な科目（2019年度以降単位修得）	備考
Ⅰ 3科目以上選択	1	心理学概論	「心理学概論」			
	2	臨床心理学概論	「臨床心理学」			
	3	心理学研究法	「心理学研究法Ⅰ」			
	4	心理学統計法	「心理学研究法Ⅱ」		「心理学研究法Ⅱ」or「心理学統計法」	
	5	心理学実験	「心理学実験Ⅰ」＋「心理学実験Ⅱ」			2科目必修
Ⅱ 4科目以上選択	6	知覚・認知心理学	該当科目なし	「認知心理学」		
	7	学習・言語心理学	「学習心理学」＋「児童青年心理学」or「老年心理学」	「学習心理学」		
	8	感情・人格心理学	「人格心理学」＋「老年心理学」or「児童青年心理学」	「人格心理学」		
	9	神経・生理心理学	該当科目なし		「神経・生理心理学」	
	10	社会・集団・家族心理学	「社会心理学」＋「家族心理学」			2科目必修
	11	発達心理学	「生涯発達心理学」			
	12	障害者・障害児心理学	「障害児の心理」		「障害者・障害児心理学」	
Ⅲ 2科目以上選択	13	心理的アセスメント	「心理アセスメント」			
	14	心理学的支援法	「心理療法」			
Ⅳ 2科目以上選択	15	健康・医療心理学	該当科目なし		「健康・医療心理学」	
	16	福祉心理学	「福祉心理学」			
	17	教育・学校心理学	「教育心理学」	「教育心理学」or「特講・福祉心理学４（スクール・カウンセリング）」	「教育心理学」or「教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）	
	18	司法・犯罪心理学	「犯罪非行心理学」	「司法・犯罪心理学」		
	19	産業・組織心理学	「産業心理学」	「産業・組織心理学」		
Ⅴ 1科目以上選択	20	人体の構造と機能及び疾病	「医学一般」			
	21	精神疾患とその治療	「精神医学」			

※１　本対応表は，2017年度４月までの入学者を対象とする。（2017年度10月生は含まない）
※２　2009年度までの単位修得科目については，別途ご相談ください。
※３　「児童青年心理学」または「老年心理学」は，No.７・８に同じ科目を使用することはできない。

「専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目A群の一覧」2017年度以前入学者用

福祉心理学科の2017年度以前入学者が2021年度に単位修得可能な「専門必修科目、専門選択必修科目、専門選択科目A群の一覧」は、下記のとおりです。

科目によりスクーリング単位やオンデマンド・スクーリングの開講情報が変更されておりますので、ご確認ください。

科目名（2017年度以前入学者）	配当年次	科目単位	履修方法	オンデマンド	スクーリング単位
（専門必修科目）　18単位必修					
福祉心理学	1年以上	2	R or SR	○	1
心理学概論	1年以上	4	R or SR	○	2
心理学研究法Ⅰ	2年以上	2	R or SR	○	1
社会心理学	1年以上	2	R or SR	○	1
生涯発達心理学	1年以上	4	R or SR	○	1
臨床心理学	2年以上	4	R or SR		1
（専門選択必修科目）　2単位以上選択履修					
心理学実験Ⅰ	1年以上	2	SR		1
心理学実験Ⅱ	1年以上	2	SR		1
（専門選択科目Ａ群）34単位以上を選択履修（ただし、専門選択必修科目で規定の単位数以上修得した単位は専門選択科目Ａ群の単位数に含めます）					
心理学統計法	2年以上	2	R or SR		1
心理学研究法Ｂ	3年以上	2	SR		1
家族心理学	1年以上	2	R or SR	○	1
人間関係論	1年以上	1	S	○	1
産業・組織心理学	2年以上	2	R or SR	○	1
児童青年心理学	1年以上	4	R or SR	○	1
老年心理学	1年以上	4	R or SR	○	2
発達臨床心理学	2年以上	1	S		1
教育心理学	1年以上	2	R or SR	○	1
教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）	2年以上	2	R or SR	○	1
障害者・障害児心理学	2年以上	2	R or SR		1
人格心理学	1年以上	4	R or SR	○	1
心理アセスメント	1年以上	2	R or SR	○	1
ライフサイクルと福祉心理学	1年以上	1	S	○	1
心理療法	2年以上	4	R or SR	○	2
心理療法各論	2年以上	1	R		
司法・犯罪心理学	2年以上	2	SR	○	1
災害・防災心理学	2年以上	1	S	○	1
心理的アセスメントⅡ	3年以上	1	SR		1
健康・医療心理学	3年以上	2	R or SR	○	1
カウンセリングⅠ	1年以上	1	S	○	1
カウンセリングⅡ	1年以上	1	S		1
カウンセリング演習Ⅰ	2年以上	1	S		1
カウンセリング演習Ⅱ	2年以上	1	S		1
認知心理学	2年以上	4	R or SR	○	1
学習心理学	2年以上	2	R or SR	○	1
神経・生理心理学	2年以上	2	R or SR		1
福祉心理学演習	4年	2	SR		1
特講・福祉心理学５（自分さがしの心理学）	1年以上	1	S		1
特講・福祉心理学８（ストレスとつきあう心理学）	1年以上	1	S		1
特講・福祉心理学９（コミュニティ心理学）	1年以上	1	S	○	1
特講・福祉心理学17（認知行動療法）	1年以上	1	S	○	1
卒業研究	4年	8	卒業研究		

「認定心理士資格に関する科目一覧」2017年度以前入学者用

2017年度以前入学者が2019年度以降に単位修得可能な「認定心理士資格に関する科目一覧」について、2018年度までの科目名と2019年度以降の科目名を下記のとおりご案内します。

資格申請方法については、『学習の手引き』または日本心理学会のホームページをご参照ください。

科目	領　域	本学の科目名（2017年度以前入学者）	
		2018年度までの単位修得	2019年度以降の単位修得
基礎科目	a 心理学概論	心理学概論	
	b 心理学研究法	心理学研究法Ⅰ	
		心理学研究法Ⅱ	心理学統計法 or 心理学研究法Ⅱ
	c 心理学実験・実習	心理学実験Ⅰ	
		心理学実験Ⅱ	
選択科目	d 知覚心理学・学習心理学	学習心理学	
		認知心理学	
	e 生理心理学・比較心理学	—	神経・生理心理学
	f 教育心理学・発達心理学	生涯発達心理学	
		—	発達臨床心理学
		教育心理学	
		—	教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）
		児童青年心理学	
		老年心理学	
		障害児の心理	—
	g 臨床心理学・人格心理学	臨床心理学	
		人格心理学	
		—	障害者・障害児心理学
		心理アセスメント	
		心理療法	
		犯罪非行心理学（司法・犯罪心理学）	司法・犯罪心理学
		精神保健学	
		カウンセリングⅠ	
		カウンセリングⅡ	
		カウンセリング演習Ⅰ	
		カウンセリング演習Ⅱ	
		福祉心理学	
		—	健康・医療心理学
	h 社会心理学・産業心理学	環境心理学	—
		社会心理学	
		家族心理学	
		産業心理学（産業・組織心理学）	産業・組織心理学
		組織心理学	—
		人間関係論	
その他	i 心理学関連科目・卒業論文	卒業研究	

※本学では「卒業研究」は 8 単位ですが、認定心理士認定委員会では 4 単位として認定されます。
※「児童青年心理学」は、今後会場スクーリング開講予定がなく、2022年度までに単位修得が必要な科目。

福祉心理学科関連専門科目

「特講・福祉心理学」の科目内容は、ｐ.315〜323をご覧ください。

※2018年度より、多くの科目について「別レポート対象課題」であった論述式課題が客観式レポート課題に変更されました。
※R・SRどちらで受講する場合も、１（〜２）課題分は客観式レポート課題となります（一部科目を除く）。

福祉心理学

科目コード	CC2149・CC2103

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	1年以上	渡部　純夫

※本科目は、入学年度や対象カリキュラムにより科目コードが異なります。
　2018年度以降入学者→CC2149　　2017年度以前入学者→CC2103
※2021年度改正カリキュラム対象者→CC2068　は、別冊（2021年度１年次入学者用）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

人間を取り巻き、目まぐるしく変化する社会の中で、私たちは自己形成を目指しながら生きていくために多種多様な問題と取り組まなければなりません。この世に生を受けた瞬間から死を迎えるまで、ライフサイクルを通して抱えなければならない問題や課題は山のようにあります。「福祉心理学」は、このような時代を生き抜く人々の、一人一人が求める「幸せの追求」をサポートし、「生活の質」の向上のために貢献する必要不可欠な学問ということができます。一人一人の生命と生活を守るための取り組みを行いながら、社会全体にも働きかけていくことが「福祉心理学」には求められます。一人一人の心理面を心理アセスメントから深く理解し、日常生活に散見するたくさんの問題に実践的見地からの分析と対応を行うことが求められます。人間生活の基本にかかわる、「福祉心理学」をしっかり学びましょう。

【教員等の実務経験による指導内容】

心理的支援の経験をいかし、事例をもとに、「心理学」の理論や手法を身につけ人々の福祉に対処できる人財を育成します。

■到達目標

1）人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を理解し、説明できる。
2）人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解し、説明できる。
3）日常生活と心の健康との関係について理解し、説明できる。
4）心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解し、説明できる。
5）公認心理師に関する内容について理解し、説明できる。

■教科書（「人格心理学」と共通）

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年（改訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2019年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60％＋スクーリング評価 or 科目修了試験40％

■参考図書

中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編『福祉心理学の世界　人の成長を辿って』ナカニシヤ出版、2018年
佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年
今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2004年
岡田明著　『福祉心理学入門』学芸図書、1995年
水島恵一編著　『人間科学入門』有斐閣双書、1976年
村上陽一郎著　『生と死への眼差し』青土社、1993年
藤森和美編　『子どものトラウマと心のケア』誠信書房、1999年
岩城宏之著　『いじめの風景』朝日新聞社、1996年
村瀬嘉代子著　『子どもと大人の心の掛け橋』金剛出版、1995年
佐藤泰正・山根律子編著　『福祉心理学』学芸図書、1998年（改訂版、2005年）
白樫三四郎編著　『現代心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
小林重雄監修　『福祉臨床心理学』コレール社、2002年
安藤治著　『福祉心理学のこころみ』ミネルヴァ書房、2003年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

人の心の基本的な仕組みと機能、環境との相互作用の中で生じる心理的反応、および成長・発達段階の各期に特有な心理的課題、および日常生活と心の健康との関係について理解するため、「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法、福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び支援について学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	心理学の視点	心理学の歴史と対象、心理学の未来、心を探求する方法の発展
2	人の心の基本的仕組みと機能①	心理学における諸理論と形成過程、心の生物学的基盤、感情・動機づけ・欲求、感覚・知覚
3	人の心の基本的仕組みと機能②	学習・行動、認知
4	人の心の基本的仕組みと機能③	個人差、人と環境
5	人の心の発達過程	生涯発達、心の発達の基盤、生きがいと問題行動への対応
6	日常生活と心の健康	生活環境と心の健康、心の不適応、健康生成論、喪失体験
7	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本①	心理アセスメント、心理的支援の基本的技法
8	心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本②	心理アセスメントとその技法、心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職、まとめ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリング、ビデオ・スクーリングでは、上記講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

一人ひとりの幸せを考えていくために、心理学がどのように貢献できるか、具体例をあげながら講義をしていきます。その中で理論と実践がどう融合していくのかについても考えていきます。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書を読み、人の一生と心理学がどのように結びつきを持つのかについてまとめてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の身近な福祉の問題を取り上げ、「福祉心理学」の理論や技法から、どのような援助が可能かまとめてみてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学の歴史から未来を考える①	心の学の誕生とその歩み **キーワード**：行動主義、ゲシュタルト、精神分析	心理学の歴史を振り返ることにより、心理学がどのような発展を遂げてきたかを学ぶ。
2	心理学の歴史から未来を考える②	現代の心理学から未来へ **キーワード**：環境・社会心理学、発達心理学、臨床心理学、倫理	現代の心理学とその課題を理解することにより、未来における心理学の可能性を考える。
3	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか①	「知る」ことの仕組みとその応用 **キーワード**：知覚、認知	「知る」という心理機能と行動の基本的メカニズムについて学び、日常生活への活用について考える。
4	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか②	「学び、覚える」ことの仕組みとその応用 **キーワード**：学習、条件づけ、行動主義、記憶	社会・文化的な側面の理解についての結びつきを踏まえ、「学習、記憶」という心理機能と行動のメカニズムについて学ぶ。
5	人は現実世界をどう捉え、経験し、困難を克服するか③	「考え行う」ことの仕組みとその応用 **キーワード**：知能、問題解決	「知能」とは何か、「問題を解決する」時の心の働きに着目し、「思考」のメカニズムについて学ぶ。
6	心の成り立ちと個性の形成を考える①	「行動」から見た心と個性 **キーワード**：動機づけ、感情、社会的認知	人間の「行動」を、心理学的に理解していくための諸理論について学ぶ。
7	心の成り立ちと個性の形成を考える②	「パーソナリティ」から見た心と個性 **キーワード**：パーソナリティ、自我・自己、自己実現	人を特徴づける「パーソナリティ」の様々な考え方について学ぶ。
8	心の成り立ちと個性の形成を考える③	「人間性」から見た心と個性 **キーワード**：人間性心理学、感性、コミュニケーション、適応	「人間性心理学」の各理論と「コミュニケーション」の基礎概念についてを学ぶ。
9	ともに生きるための心理学の役割①	生活環境作りと心理学の役割 **キーワード**：父性原理・母性原理、ウェルビーイング、文化心理学、パーソナル・スペース	心理学的アプローチに基づいて、人と人、家族、社会・文化、環境との関連性を学び、心理学の役割を考える。
10	ともに生きるための心理学の役割②	人の健康と心理学の役割 **キーワード**：ストレス、予防	健康と「ストレス」の関連性について、様々な生活場面における問題と、心理的側面からの対処について考える。
11	ともに生きるための心理学の役割③	心理臨床の現場から **キーワード**：DSM-IV、ICD-10、アセスメント、心理療法、福祉と心理	単純に因果関係を特定できない「心の問題」を学び、「アセスメント」「心理療法」について考える。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
12	「人生」を生きていくということ①	生涯発達 **キーワード**：変化、積み重ね、可塑性	「生涯発達心理学」という視点から「発達」についての考え方を学ぶ。
13	「人生」を生きていくということ②	障害をもって生きるということ **キーワード**：WHO、受容	「障害」とは何かを正確に理解する。 「障害」の意味・援助のあり方を考える。
14	「人生」を生きていくということ③	思春期を生きる **キーワード**：同一性、自我、モラトリアム	「思春期の変化」を、「身体的変化」と「心理的変化」に分けて考える。 また、その過程で、心理学がどのように貢献できるかを考察する。
15	「人生」を生きていくということ④	老年期を生きる **キーワード**：個人差、パーソナリティ、生きがい、死、幸福、福祉	加齢が及ぼす身体的・心理的変化を学び、心理学・社会福祉学の両面からのアプローチを考える。

■レポート課題

【2018年度以降入学者】

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2018年度以降入学者は、1単位めが客観式、2単位めが論述式になります。

【2017年度以前入学者】

1 単位め	福祉心理学の枠組みのひとつである人間理解が、「心理学的視点」からはどのように行われるかについてまとめ、考察しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※2017年度以前入学者は、1単位めが論述式、2単位めが客観式になります。

■アドバイス

「福祉心理学」では、深い人間理解が必要になります。人間は発達を通していろいろなものを身に付け、自己形成の課題に取り組んでいきます。課題に直面し不適応を起こすこともあります。そのような人々に対して援助を行うにあたっては、一般的な発達においての特徴と課題をしっかりと押さえておくことが必要になります。しかし、人間には個性や個人差があります。個としての見方やとらえ方も同時に必要になります。

この「福祉心理学」では、まず心理学の視点から人間理解を深めていくことを行います。その上で、何

らかの援助を必要としている人に対して、どのような援助方法があるのか、ひとりひとりのニーズにどのように応えていけばよいかについて、理念と実践から考えていくことにしたいと思います。

「福祉心理学」を考えるとき、「社会福祉」と「心理学」の二面性の問題と向き合うことになりますが、ここでは「心理学」を「福祉」にどう活用するかという観点から考えていただきたいと思います。

客観式課題アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

論述式課題アドバイス

⑴　テキスト『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』の第１部「心理学の歴史から未来を考える」から第３部「心の成り立ちと個性の形成を考える」までをよく読み、人間の心理的活動がどうなっているかを理解するための努力をしてください。

⑵　次に、参考図書にあたり人間理解のための方法や視点の共通点と違いについてまとめ、考えを膨らませてください。あなた自身が今まで行ってきた理解の仕方についてもふりかえりを行ってください。

⑶　それらを、分析・考察しながら自分なりにまとめていくことにより、深い人間理解にもとづいたレポートができあがると思います。

⑷　人間のすべての行動面に「心理学」は関わりをもちますから、日々の生活の中で気になる人間の行動をとりあげ、「心理学」とつないで学んでみるとよいと思います。

科目修了試験

■評価基準

１）人生のライフステージの課題を理解しているか
２）福祉心理学の視点が理解されているか
３）テキスト以外の文献で発展的学習をしているか
４）自分の考えをまとめる力があるか
５）専門的内容をどれくらい理解しているか

心理学概論A 2018～

科目コード	FA2531

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	1年以上	佐藤　俊人・柴田　理瑛

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p.34「心理学概論」（FA2501、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

※2020年度より、スクーリングが8コマになりました。

※2020年度より、担当教員が追加になりました。

科目の概要

■科目の内容

心理学の基礎を学び、自分や他者の心を理解することは日常生活の多くの場面で有効なものです。

心理学の研究対象になっている諸現象の基本について概観しながら「人間らしさ」を考え、心理学的な現象がいかに日常生活に関連しているかを学びます。研究をはじめて間もない方にとっては心理学の全体像をイメージしていただき、また、すでに 研究が進んでいる方にとっては、その再確認をしていただけることをめざします。教科書・レポート学習では基礎的な理論を学び、スクーリングでは心理学諸理論をどう日常生活と関連づけて考えるかを学びます。

■到達目標

1）心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。

2）心理学の成り立ちや人の心の基本的な仕組みと働きを、具体例を挙げながら説明できる。

■教科書（「心理学概論B」と共通）

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門（四訂版）』培風館、2016年（四訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

■履修登録条件

この科目は、「心理学概論B」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA、2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかについて、心理学の成り立ちと関連づけながら学ぶ。
2	知覚と認知	錯視を用いて、知覚と認知の仕組みについて学ぶ。
3	心の構造①（精神分析的な視点から）	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
4	心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
5	日常生活の中の学習理論①	古典的条件づけの基本について学ぶ。
6	日常生活の中の学習理論②	古典的条件づけの応用可能性について学ぶ。
7	日常生活の中の学習理論③	オペラント条件付けの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
8	まとめ	知覚・認知、人格・発達、学習の観点からまとめ、心理学の基本的な考えを理解する。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。教科書は主として図表の確認のために使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリングで取り上げた心理学理論を実学としてどう応用するかを考えていただきます。

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
1	心理学とは（p．1～4）		心理学とは何を目的としたどのような学問であるかを理解するとともに、心理学の歴史と諸領域について理解する。	心理学では、どのような目的のためにどのような手法を使ってどのような情報を収集するのか、そしてどのような領域に分類されているのかを理解しておくことにより、心理学全体のイメージがわかりやすくなります。
2	パーソナリティと適応（臨床心理学）１パーソナリティの諸理論（p．35～42）第Ⅰ部２章２．１	①	さまざまなパーソナリティ理論について理解する。	心理検査によってパーソナリティを測定することは心理学の課題の一つですが、測定されるべきパーソナリティについて理解することにより、次に学習する心理検査の理解がスムーズになります。パーソナリティの理論には様々なものがあり、それぞれ難解なものです。必要に応じてテキスト以外の情報を得ながら、時間をかけてゆっくりと理解してください。
3		②		
4		③		
5	パーソナリティと適応（臨床心理学）２心理テスト（p．42～50）第Ⅰ部２章２．２	①	心理アセスメントで使われる心理テストの全体像を理解する。	心理検査には、性格検査、知能検査その他様々な目的の検査があり、その中でも質問紙法、作業検査法、投影法などの手法にわかれています。これら心理検査の基本を学ぶことにより、心理検査の長所と短所を自分なりに考えてみてください。
6		②		
7	学習と動機づけ・情動（行動心理学１古典的条件づけ（p．101～108）第Ⅱ部４章４．１	①	心理学における「学習」とはどのようなものかを理解する。その基本的な学習理論である古典的条件づけについて正しく理解する。	レモンを見ただけで、食べてもいないのに唾液が出ます。どうしてこのような現象が起こるのでしょうか。また、この現象を私たちの日常生活に応用するにはどうしたらいいでしょうか。様々な生理的反応を考え、古典的条件づけの応用性について考えてみましょう。
8		②		
9	学習と動機づけ・情動（行動心理学）２オペラント条件づけ（p．108～p114）第Ⅱ部４章４．１	①	オペラント条件づけに関する古典的な実験を知ることにより、オペラント条件づけのしくみと、その長所、短所を理解する。	私たちは日常的に「いいことをしたら賞」を、「悪いことには罰」を与える、与えられることに慣れています。オペラント条件づけを正しく理解することにより、賞罰の与え方、その危険性などについて考えてみましょう。
10		②		

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
11	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ） 1 記憶 （p. 125〜138） 第Ⅲ部 5 章 5．1	①	記憶の種類や特徴について理解するとともに、新しい課題に直面した時に人間や動物はどのようにそれを解決するのかについての諸理論を理解する。	私たちは、新しい課題を解決するために様々な方法をとっています。やみくもにやってみることもあれば、こうすればできるはずという、見通しを立てることもあります。
12		②		
13	感覚・知覚（認知心理学Ⅰ） （p. 153〜177） 第Ⅳ部 6 章 6．1〜6．6	①	感覚器から入ってくる情報を、私たちは脳で解釈（認知）して判断している。人間の認知が決して現実、事実をそのまま受け取っているわけではないことを理解する。	感覚器から同じ情報を受け取っても、その理解は一人ひとり違います。それぞれの脳で自分らしく判断しているということを理解しましょう。
14		②		
15	まとめ　心理的支援の方法の立案		心理的支援のプログラムを提案する	身の回りで心理的に支援を必要としている事例を具体的に探してみて、具体的にどのようなプログラムを提案できそうかを考えてみてください。そしてそのプログラムはどのような心理学的理論に関連しているものなのかを確認しながら考えることが必要です。なお、実際に心理的支援を行う必要はありません。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面でどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとし始めます。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっている

ことです。

つまり道具的条件づけ（四訂版ｐ.108〜114　三訂版ｐ.100〜105　改訂版ｐ.14〜16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えてみてもいいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみると、おのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずです。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられたのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それは「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？　おそらく３日もたてばもとの行動に戻っていたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

科目修了試験

■評価基準

テキストに書いてあることの暗記〜再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。

心理学概論B 2018〜

科目コード	FA2532

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	佐藤　俊人・平泉　　拓

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 34「心理学概論」(FA2501、4単位、履修方法：RorSR)を参照してください。

※2020年度より、スクーリングが8コマになりました。

※2020年度より、担当教員が追加になりました。

科目の概要

■科目の内容

「心理学概論A」p. 24参照。

■到達目標

1）心理学を実学ととらえ、心理学諸理論を説明できることに加え、実生活に応用できる。

2）心理的支援の考え方の基本を説明し、実践することができる。

■教科書（「心理学概論A」と共通）

金城辰夫監修、藤岡新治・山上精次編『図説 現代心理学入門（四訂版）』培風館、2016年（四訂版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2016年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を持参してください。主に図表の参照として使用します。

■履修登録条件

この科目は、「心理学概論A」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

小泉吉宏著『なやんでもいいよとブッタは、いった。』KADOKAWA、2014年

※教科書各章末の「参考図書」も使えるものがあるかもしれません。

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「心理学概論A」のスクーリングを受講してから、本科目を受講することを推奨します。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
2	発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
3	欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合うための方略を学ぶ。
4	カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
5	カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
6	心理学的な情報を冷静に判断して考えるということ	心理学の諸理論の根拠とされてきた現象や事例について正しく理解し、自分なりの判断力を持つことを学ぶ
7	心理学的支援の考え方	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
8	まとめ	第１回から第７回までの学習内容を振り返り、到達目標に沿って再考する。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとに板書も行いながら進めます。視聴覚教材も視聴します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（持込可）

「知識」ではなく、それをどう活かしていくかという「知恵」が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

テキストの該当箇所を読んでくると同時に、現在の自分の活動の中でどのような部分で心理学的な理論や考え方が応用できそうかを考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
1	社会的行動（社会心理学）①個人と社会（p．5～18）第Ⅰ部１章１．１～１．３		社会心理学研究の諸理論を理解する。	多くのストレスは対人関係に起因するものです。社会心理学の基本を学ぶことにより、自由に活動しているように見える個人が、いかに社会的な要因によって縛られているかを考えてみましょう。
2	社会的行動（社会心理学）②コミュニケーション（p.18～33）第Ⅰ部１章１．４～１．７		集団の中でも個人の動きについて、社会心理学的な視点から理解する。	社会心理学の諸理論は、自分の周りに実際にある事例などを考えながら学習することが、理解をより深めます。日常生活の中で、心理学がどのように観連しているのかを考えながら学習してみましょう。
3	パーソナリティと適応（臨床心理学）３適応と防衛機制（p.50～70）第Ⅰ部２章２．３～２．６	①	フラストレーションに関する理論を理解するとともに、私たちがフラストレーションと戦うために持っている防衛機制について理解する。	様々な不適応状態についての基本を概観するとともに、そのような状態に対する心理的支援の方略としてどのような方法があるのか、その基本を学び、将来の臨床心理学的な支援への足がかりをつかみましょう。
4		②		
5	成熟と成長（発達心理学）１（p.71～82）第Ⅱ部３章３．１～３．２	①	発達とは青年期までだけのものではなく、超高齢社会にも対応した発達観があることを理解するとともに、発達心理学における研究方法について理解する。	人間の発達の様相を研究する様々な方法がありますが、それぞれ長所と短所があります。また、例えば遺伝の力を確かめているような研究でも環境要因を排除できていなかったり、因果関係と相関関係を混同していたりする例も少なくありません。自分なりに疑いながら考えてみましょう。
6		②		
7	成熟と成長（発達心理学）２（p.82～99）第Ⅱ部３章３．３～３．５	①	発達に関する古典的な研究について理解する。また、研究の倫理についても考える。	発達心理学では、例えば代理母実験のように、現代では倫理的に実施できないような研究も多くなされてきました。また、人間の親子関係を理解する出発点として、他の動物たちとの比較もされてきました。これら貴重な研究を理解することにより、人間の発達について自分なりに考えてみましょう。
8		②		

回数	テーマ		学習内容	学びのポイント
9	学習と同期づけ・情動（行動心理学）3 動機づけ、情動 （p.114〜124） 第Ⅱ部4章4.2	①	動物に行動を起こさせる動機について、本能的なものから社会的なものまで理解する。また、感情というものがどのように生じているのかを理解する。	動物の行動には、さまざまな動因が考えられます。本能的なものであったり、社会的なものであったりしますが、その理論を把握することにより、誰かに何かを行動してほしい際の心理的支援に結びつけることができます。また、感情の発生について脳の働きと観連づけて考えてみると、心理療法への応用も可能になるでしょう。
10		②		
11	記憶・言語・思考（認知心理学Ⅰ）2 言語・思考 （p.138〜150） 第Ⅲ部5章5.2〜5.3	①	思考に及ぼす言語の影響に関する諸理論を理解する。また、「知能」に関する諸理論を理解し、自分なりに知能を考える。	何ができれば知能が高いのか、については大変難しい問題です。第2章に取り上げられている知能検査を参照しながら、知能に関する諸理論を学んでみましょう。さまざな問題解決の方法について学んでみましょう。特に試行錯誤学習や洞察学習については、学習と動機づけの章と観連づけながら考えてみてください。
12		②		
13	心的活動の生理学的基礎（生理心理学） （p.179〜199） 第Ⅳ部7章7.1〜7.9	①	脳の機能に関する基本的な情報を理解する。	脳科学の発展により、人間の思考や感情を脳内物質や電気信号レベルで説明されるようになってきましたが、それでもなお説明しきれない部分はたくさん残されています。脳の各領域の機能を理解しながらも、脳科学で心を説明する限界なども考えながら学習してみましょう。
14		②		
15	まとめ　心理的支援の方法の立案		心理的支援のプログラムを提案する	身の回りで心理的に支援を必要としている事例を具体的に探してみて、具体的にどのようなプログラムを提案できそうかを考えてみてください。そしてそのプログラムはどのような心理学的理論に関連しているものなのかを確認しながら考えることが必要です。なお、実際に心理的支援を行う必要はありません。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め
アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロゥによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

しかし、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版ｐ.93　図3-33、三訂版ｐ.87　図3-27、改訂版ｐ.143　図6-26）に示されるような関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

科目修了試験

■評価基準

テキストに書いてあることの暗記～再生では不足です。それを自分なりに理解し、自分のことばに噛み砕いて説明することにより、本当に理解していることを表現してください。

心理学概論 〜2017

科目コード	FA2501

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR（講義）	1年以上	佐藤　俊人・柴田　理瑛 平泉　拓

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※「心理学概論A」「心理学概論B」の 2 科目の内容を学ぶため、下記記載の「■講義内容」「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p. 24「心理学概論A」（科目コード：FA2531、 2 単位、履修方法：RorSR）と p. 29「心理学概論B」（科目コード：FA2532、 2 単位、履修方法：RorSR）の 2 科目をあわせて参照してください。

※「心理学概論A・B」のスクーリングを16コマ受講する必要があります。スクーリング試験も 2 回行います。

※2020年度より、担当教員が追加になりました。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	心理学とはどのような学問か	心理学とはどのような学問で、どういう方法で心を知ろうとしているのかを学ぶ。
2	知覚と認知	錯視を用いて、知覚と認知の仕組みについて学ぶ。
3	心の構造①（精神分析的な視点から）	フロイトの人格論の概要について学ぶ。
4	心の構造②	フロイトの発達論の概要と、実際の乳幼児の発達の様相を比較検討。
5	日常生活の中の学習理論①	古典的条件づけの基本について学ぶ。
6	日常生活の中の学習理論②	古典的条件づけの応用可能性について学ぶ。
7	日常生活の中の学習理論③	オペラント条件付けの基本とその有用性、危険性を学ぶ。
8	まとめ	知覚・認知、人格・発達、学習の観点からまとめ、心理学の基本的な考えを理解する。
9	スクーリング試験	
10	発達について考える①	生まれてから就学前までの発達の様相と育児に関する考え方を学ぶ。
11	発達について考える②	児童期から青年期までの発達の様相とアイデンティティの確立について学ぶ。
12	欲求不満と防衛機制	精神分析的な視点から、自分の欲求不満と付き合うための方略を学ぶ。

13	カウンセリングの考え方①	来談者中心療法を中心にカウンセリングの基本的な考え方を学ぶ。
14	カウンセリングの考え方②	カウンセリングマインドと、日常への応用性について考える。
15	心理学的な情報を冷静に判断して考えるということ	心理学の諸理論の根拠とされてきた現象や事例について正しく理解し、自分なりの判断力を持つことを学ぶ
16	心理学的支援の考え方	心理学が実学であることを再認識し、これからの自分の活動にどのように応用できそうかを考える。
17	まとめ	第10回から第16回までの学習内容を振り返り、到達目標に沿って再考する。
18	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

レポート学習

■レポート課題

1 単位め	人間の初期（乳幼児期）の親子関係の特徴について、ほかの動物たちの親子関係との違いや愛着理論に絡めながら記述してください。
2 単位め	スキナーによる「道具的条件づけ（オペラント条件づけ）」とはどのようなものかを具体例を挙げながら概説するとともに、自分や周囲の人など身近な経験に照らし合わせながら、道具的条件づけによって他者の行動をコントロールすることの長所と短所を自分なりに考えなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

（2017年度以前履修登録者）2018年４月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題での提出は2019年９月で締め切りました。ただし、『レポート課題集2017』記載の３単位めの論述式課題に合格した方は、１単位めの課題は『レポート課題集2017』の課題で提出してください。

■アドバイス

1単位め
アドバイス

初期の親子関係の確立については、文化や各家庭でそれぞれ違って当たり前であり、「正しい親子関係」を論ずることはできません。しかし、例えば「刻印づけ」で有名なハイイロガンと人間は明らかな違いがあり、ハーロゥによるアカゲザルを使った代理母親実験も、代理母が、全く動かない布製と針金製の人形（サル形）であるという点ではそのまま人間に当てはめるわけにはいきません。人間は複雑な感情や性格を持っていますので、親子関係や親の養育態度によって子どもはさまざまに変容し得る存在です。

しかし、「必ずしも親が子どもに一方的に影響するわけではない」ことは忘れてはいけません。

テキスト（四訂版ｐ.93　図３-33、三訂版ｐ.87　図３-27、改訂版ｐ.143　図６-26）に示されるよう

な関係は広く報告されていますが、あくまでも「関連がある」ということであり、養育態度と子どもの行動性格傾向のどちらが原因でどちらが結果か、については両方の可能性があるわけです。子どもを甘やかすとわがままになる、という表現の情報は私たちにすんなり入ってきますが、ひどくわがままな子を育てていると、甘やかせずにはやってられない、ということもよくある話です。このように、人間は親と子どもがお互いに影響し合いながら親子関係を発達させていきます。そのような人間の親子関係の特徴について、自身の経験や身近な例などと絡めながら自分なりに論述してください。

2単位めアドバイス

人間は社会的な動物であり、常にお互いに影響し合っていますが、お互いの間に「ある側面でどちらかが優位」という関係になった場合、優位に立つ側が他者の行動をコントロールしようとし始めます。その最も簡単な方法の一つが「やって欲しい行動をしてくれた場合」には賞を与え、「やってほしくない行動をした場合」は罰を与えるということで、おそらく人間が人間になった大昔から行われてきました。家庭の中でも悪いことや危ないことをした子どもを叱り（罰を与え）、良い行動をした子どもにご褒美をあげたりほめたりすることは、心理学を知らなくとも誰でもやっていることです。

つまり道具的条件づけ（四訂版ｐ.108〜114　三訂版ｐ.100〜105　改訂版ｐ.14〜16）という方法は、決して心理学者が発明したものではなく、誰もが日常的にやっている他者コントロールの方法です。

まず、その長所を考える場合は、なぜ私たちは「賞と罰」を自然に使ってしまうのか、を考えてみてもいいと思います。あるいはもしも「賞と罰」を使わずに他者の行動をコントロールするとしたら、どのような方法があるか、を考えてみるとおのずと長所（なぜ使いやすいのか、なぜつい使ってしまうのか）が明らかになってくるかもしれません。

しかし、一方では自分が罰を与えられた経験を振り返ってみると、短所もあることも見えてくるはずです。スピード違反をしてお金を納付するのも「罰」ですし、言うことを聞かずに親に「ゴツン」とやられたのも罰です。その直後は反省したり、行動としては一瞬おとなしくなったりしたとは思いますが、それは「考え方や行動の様式が変わった」と言えるでしょうか？おそらく 3 日もたてばもとの行動に戻っていたのではないかと思います。

このような視点も参考に、道具的条件づけの長所と短所を皆さんなりに考えてみてください。

3･4単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

心理学実験ＩA 2018～

科目コード	FB2533

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	SR（実験）	1年以上	佐藤　俊人・大関　信隆 半澤　利一

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 49「心理学実験Ｉ」（科目コード：FB2505、2単位、履修方法：SR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験ＩA・ＩB」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

1）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
2）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
3）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
4）実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
5）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
6）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験ＩB・ⅡA・ⅡB」「心理学研究法A」と共通）

1）高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　補訂版』有斐閣アルマ、2017年
2）『福祉心理学科スタディ・ガイド〔第3版〕』東北福祉大学

（教科書配本方法）

教科書１）：履修登録時に配本します。

教科書２）：【福祉心理学科】＝入学時に配本済みです。

【社会福祉学科・科目等履修生】＝通信教育部ホームページから閲覧してください。冊子版の配本を希望される場合は、履修登録後、『学習の手引き』巻末様式25、または『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙の「教科書特例配本希望届（無料）」をご利用いただき、郵送またはFAX（または同様の内容を記載してugr@tfu-mail. tfu. ac. jpあてにメール）でお申込みください。

（スクーリング時の教科書）教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■単位修得方法

①事前レポート（客観式１課題）提出・合格＋②スクーリング受講＋③実験レポート（２つ）提出・合格で単位を修得します。

①事前レポート（客観式１課題）提出・合格：スクーリング受講前に、『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で事前に解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

②スクーリング受講：２日間連続で受講してください。

③実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または次頁記載の期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

■科目評価基準

事前レポート評価10％＋スクーリング（実験レポート）評価90％

■レポート提出期限

会場	事前レポート	実験レポート
仙台	スクーリング初日に持参または事前に「TFUオンデマンド」上で解答	2021年５月15日
札幌		2021年10月１日

■受講上の注意

実験科目については、「心理学実験ⅠA」から受講が望ましいですが、「心理学実験ⅠB」または「心理学実験ⅡA・ⅡB」からの受講も可能とします。「心理学実験ⅠB」または「心理学実験ⅡA・ⅡB」から受講する場合の留意点は、各科目の【受講上の注意】を参照してください)。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？　アルカリ性の液体をつけると…？　理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果)。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。　２つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■講義内容・進め方

スクーリングでは、「刺激の弁別閾」、「ミュラーリヤー錯視」という２つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（札幌会場では「心理学実験ⅠB」と連続して受講する場合３日間のスクーリングとなり、２日めに２つの実験を行います)。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2	刺激の弁別閾①	知覚における閾値の考え方を学び、感覚弁別実験の概要を理解する。
3	刺激の弁別閾②	実験実施。
4	刺激の弁別閾③	感覚弁別実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
5	ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6	ミュラーリヤー錯視②	実験実施。
7	ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8	まとめ	心理学実験ＩＡを終えて、あらためて実験計画・仮説検証の考え方、考察の仕方などを復習する。

▶実験１「刺激の弁別閾」　（担当　仙台会場：大関信隆　札幌会場：佐藤俊人）

刺激の弁別閾とは、２つの刺激の強さの違いを区別する感覚の分解能に関する閾（感覚の相違を引き起こす境界）のことです。本実験では人間の触覚について、恒常法や極限法といった精神物理学的測定法を用いて、その弁別閾を推定する実習を行います。

▶実験２「ミュラー・リヤーの錯視」　（担当　仙台会場：半澤利一　札幌会場：佐藤俊人）

私たちの知覚は、物理的世界のそのまま同じではありません。心理的世界の特性と物理的世界の特性にはずれがあります。このようなずれは、錯覚として体験されます。実験では、視覚における錯覚（錯視）を取り上げ、調整法によって、錯視の生じる条件について検討します。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中に行った２つの実験のレポート100％（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、４色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で解答するか、スクーリング受講時に持参してください。

また、『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください（p. 42在宅学習９のポイントの７）。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいてください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	科学と実証 （教科書１） 第１章）	心理学でなぜ実験を行うかを理解するとともに、因果関係と相関関係の違いや、因果関係を確かめることのむずかしさについて理解する。	小さな子どもが、数年間のうちに「身長も高くなり」同時に「知能も高くなった」からといって、「身長が高い方が知能が高い」という結論にはなりません。因果と相関の違いを理解することで、心理学で因果関係を確かめる重要性とむずかしさを考えてみましょう。
2	さまざまな実験法 （教科書１） 第７章）	研究の目的によって使い分けられる、さまざまな実験法についての全体像をとらえる。	まずは、テキストの随所に出てくる「独立変数」「従属変数」について、事項索引（教科書１）p. 347～）で探して理解しましょう。その上で、それぞれの実験法の長所と短所、短所を補うための工夫などを考えてみましょう。
3	研究の実施 （教科書１） 第14章）	心理学実験の研究計画や論文・レポート作成の際の章立てを理解する。	特に７節の「研究の立案と実施」については十分に理解し、研究計画や論文・レポート作成の基本について学んでおきましょう。
4	結果の解釈 （教科書１） 第15章）	実験を行い、その結果を解釈する際の留意事項について理解する。	まず、６章の剰余変数に関する部分を読み直してみましょう。その上で、実験で扱わなかった要因の可能性などを考え、それを解決するためにはどうしたらよいかを考えてみましょう。
5	統計的分析 （教科書１） 第16章）	実験の目的と実験計画に応じた統計的な分析の基本を学ぶ。統計の具体的手法を学ぶよりも、どのような場合にどのような統計が使えるかのイメージをとらえる。	難しいイメージのある統計的分析ですが、何を確かめるための分析かを考えることにより、身近なものに感じられます。統計的手法は実験の中心ではなく、実験結果をまとめる際の「道具」にすぎないことを念頭に置きながら全体のイメージをとらえましょう。
6	研究報告 （教科書１） 第17章）	心理学研究における論文、レポート執筆の基本について理解する。また、表17-１により、論文の標準的な構成について学ぶ。	論文、レポート執筆にはそれぞれの学問分野独特のルールや表現方法…いわば方言があります。一見面倒くさそうですが、これらの基本を身に着けることにより、必要な情報をわかりやすく的確に他者に伝える力がつき、心理学のレポート作成以外の場面においても応用できるはずです。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	実験の意味・実験レポートの書き方（教科書２）Ⅱ章ｐ.48〜73）	実験の意味や具体的な実験レポートの書き方について学ぶ。	簡単な手続きによって、心理学的現象を実験によって確かめることが可能です。剰余変数や交互作用などの危険性もありますが、まずは簡単な実験により、心理学実験の面白さを理解することが大切です。
8	論文の作成（教科書２）Ⅳ章48ｐ.174〜194）	学術論文の作成について学ぶ。	学術的な研究論文は、実験レポートの延長上にあります。実験や調査によって人間の心理を把握する面白さを実感できたならば、ぜひ卒業研究にもチャレンジして頂ければと思います。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	「実験ＩＢ」を受講する方は、「実験ＩＢ」のスクーリング終了後１課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■事前レポート課題

『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で事前に解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

■アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

心理学実験ＩB 2018～

科目コード	FB2534

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	SR（実験）	1年以上	佐藤　俊人・山口　奈緒美

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、ｐ. 49「心理学実験Ｉ」（科目コード：FB2505、２単位、履修方法：SR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学実験ＩA」ｐ. 37参照。

■到達目標

「心理学実験ＩA」ｐ. 37参照。

■教科書（「心理学実験ＩA・ⅡA・ⅡB」「心理学研究法A」と共通）

「心理学実験ＩA」ｐ. 37～38参照。

■履修登録条件

この科目は、「心理学実験ＩA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

「心理学実験ＩA」ｐ. 38参照。

■単位修得方法

①スクーリング受講＋②実験レポート（２つ）提出・合格＋③単位認定レポート（１課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：２日間連続で受講してください。

②実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（１課題）提出・合格：スクーリング受講後に、ｐ. 46記載の「単位認定レポート課題」に示す４つの課題の中から１つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1, 000字以上2, 000字程度4, 000字以内）。未提出の場合、単位は与えられません。

※「札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30％＋スクーリング（実験レポート）評価70％

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備　　考
仙台	2021年５月15日	2021年12月24日	仙台2021年９月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2021年８月31日
札幌	2021年10月１日		—

■受講上の注意

推奨する受講順は「ＩＡ」→「ＩＢ」→「ⅡＡ」→「ⅡＢ」です。

ただし「ＩＡ」の受講を後にし「ＩＢ」を先に受講する場合は、下記の２つを行ってください。

①「ＩＡ」事前レポート課題（ｐ. 42参照）を、「ＩＢ」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答するか、開始時に持参してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ｉ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理学実験ＩＡ」ｐ. 39参照。

■講義内容・進め方

スクーリングでは、「印象形成におよぼす背景効果」、「長期記憶の検索」という２つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（札幌会場では「心理学実験ＩＡ」と連続して受講する場合３日間のスクーリングと

なり、２日めに２つの実験を行います）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション・印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
2	印象形成②	実験実施。
3	印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
4	長期記憶の検索①	記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。
5	長期記憶の検索②	実験実施。
6	長期記憶の検索③	長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
7	心理学実験を深める	心理学実験の考え方の整理、論述式単位認定レポート課題の解説

▶実験１「印象形成におよぼす背景効果」　（担当　仙台会場：山口奈緒美　札幌会場：佐藤俊人）

私達は人と会うときに、美しい景色、良い香り、快い音楽など快適な環境を選びます。それはなぜでしょうか。ここでは人物の印象評定に対する背景の効果を、評定尺度法という方法を用いて調べるとともに、この方法のメリット、デメリットについても検討します。

▶実験２「長期記憶の検索」　（担当　佐藤俊人）

長期記憶の中からいくつかの記憶を探し出す時、我々はどのような探し方をするのでしょうか。さまざまな探し方が考えられますが、長期記憶を探す時に、人は一般にどのような心の使い方をするのか（ストラテジーという）を実験的に調べます。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中に行った２つの実験のレポート100％（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、４色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

「心理学実験ⅠA」ｐ.41参照。

なお、「心理学実験ⅠA」を受講する前に「心理学実験ⅠB」を受講する方は、とくに『福祉心理学科スタディ・ガイド』のⅡ章（ｐ.42在宅学習９のポイントの７）などの熟読を念入りに行ってきてください。さらに、「心理学実験ⅠA」事前課題を「心理学実験ⅠB」開始時に持参してください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

「心理学実験ⅠA」ｐ.41～42参照。

■単位認定レポート課題　スクーリング終了後１課題選択

課題1（担当 佐藤俊人）	「マジックナンバー・セブン」の実験的検証 短期記憶の貯蔵能力には限界があり、健康な成人で、おおむね７個であるとされているが、その通りであるかどうかを確かめる実験を工夫し、実際に確かめてみなさい。
課題2（担当 山口奈緒美）	心理学的測定や評定における恒常誤差と偶然誤差を説明し、対策を述べなさい。
課題3（担当 半澤利一）	幾何学的錯視以外の錯覚現象を調べ、その説明と体験した感想を述べなさい。そして、もし錯覚が生じないとすれば、私たちの知覚された世界はどのようなものであると思うか、考察しなさい。
課題4（担当 大関信隆）	心理学の方法論の一つとしての実験（法）の意義について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※「札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■アドバイス

上記の課題から１つ選びｐ.44記載の期限内に提出してください。レポート用紙の表紙の「科目名」右側に担当教員名を、「課題欄」に課題を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいて結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×４枚で）。パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

課題1 アドバイス

スクーリングで詳しいアドバイスをしますが、まず、短期記憶とはどういうものかを確認してみてください。その中から、自分が何を提示刺激にした実験をするかを決めるところから始まります。具体的には数字の列、意味のない文字列などが例に出されることが多いですが、いろいろと工夫をしても面白いと思います。

次にそれをどのように被験者に提示するのかも決めなければなりません。紙に書かれたものを見せるのか、読んで聞かせるのか、あるいはパソコンをつかってスライドショーのように提示することも可能でしょう。

さて、課題の中心は、短期記憶がいくつくらいまでなら覚えていられるか、ということですから、確実に覚えていられる数（刺激の種類によっても変わりますが３～５くらい？）からマジックナンバーである７をはさんで、覚えているのが無理な数（15以上？）まで、いろいろな刺激数で実験してみてください。ある刺激数を超えると急激に覚えられなくなってくるのではないでしょうか。そこが一人ひとりの実験でのマジックナンバーになります。この刺激の数が 7 ± 2 になればマジックナンバー 7 が検証されたことになります。もし実験の結果がマジックナンバーが 7 ± 2 から大きくずれたら、それがなぜかも考察しなければなりません。

以上の点を押さえた上で、覚えていられる数を増やすという実験を重ねても面白いと思います。例えばチャンクという考え方も有効なのではないでしょうか。

課題2 アドバイス

参考書やスクーリング時に配布する資料を参考にまとめてください。「誤差」は“真の値からのずれ”といえるものですが、まずはどのような誤差があるか、それはどのような時に生じるのかを調べてみてください。誤差が私たちの測定につきものだとすれば、それをできる限り小さくするには、どのようなことに注意しなければならないか、考えてみましょう。

課題3 アドバイス

錯覚現象については、幾何学的錯視以外の錯視、視覚以外の錯覚などがあります。それらについて、単に知識として知るだけでなく、自ら観察あるいは体験してその感想やコメントを述べてください。そして、スクーリングでの説明などを参考に錯覚現象の背後にある知覚の働き（作用）について考え、もしそれらがなかったらと考えてみてください。

課題4 アドバイス

心理学における実験（法）の意義を考える際には、次のような視点を持つことが必要と思われます。すなわち、①：「こころ」という対象に接近していくために、心理学の中にはどのような方法があるのか、②：実験（法）とは、具体的にどのようなやり方を有する方法論なのか、③：実験（法）の特徴や長所は何か、などです。これらのことは、言い換えれば心理学における他の方法論との比較、と考えることができるかもしれません。そうすることで、一層、実験（法）の意義や長所・短所が見えてきて、さらには心理学独自の多様な方法論を俯ふ瞰かん的に眺められるかと思います。また、実験（法）は心理学成立の歴史とも深い関係がありますので、これらについて＋αの考察をしてみることもよいかもしれません。

■参考図書

課題１：金城辰夫編『図説現代心理学入門　四訂版』培風館、1996年（「心理学概論A・B」の教科書 p.127～128）

課題２：市川伸一 編著『心理測定法への招待』（新心理学ライブラリ　13）サイエンス社、1991年　ほ

か、心理学研究法・心理測定などに関する本、または心理学の教科書で「測定や研究法」に関する箇所など。

課題３：後藤倬男・田中平八編『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会、2005年
北岡明佳著『錯視入門』朝倉書店、2010年
丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版、1996年
椎名健著『錯覚の心理学』講談社現代新書、1995年
梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田新監修『新版　心理学事典』平凡社、1981年
http://www. kecl. ntt. co. jp/IllusionForum/ja/visual. html（ホームページ「錯視について」）
http://www. ritsumei. ac. jp/~akitaoka/（ホームページ「北岡明佳の錯視のページ」）

課題４：南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編　『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年
小牧純爾著『心理学実験の理論と計画』ナカニシヤ出版、2000年
利島保・生和秀敏編著『心理学のための実験マニュアル』北大路書房、1993年
宮原英種・宮原和子監修　加知ひろ子・武藤幸穂著『心理学実験を愉しむ―心理学の「日常性」と「科学性」』ナカニシヤ出版、2003年
大山正・中島義明編『実験心理学への招待』（新心理学ライブラリ８）サイエンス社、1993年
中島義明著『実験心理学の基礎』誠信書房、1992年
B. フィンドレイ著　細江達郎・細越久美子訳『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996年

心理学実験Ⅰ 〜2017

科目コード	FB2505

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(実験)	1年以上	佐藤　俊人・大関　信隆 山口奈緒美・半澤　利一

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もそのひとつです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいますが、心理学では、特定の要因（独立変数とよぶ）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法と呼んでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

1）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
2）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
3）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
4）実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
5）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
6）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

1）高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）
2）『福祉心理学科スタディ・ガイド〔第3版〕』東北福祉大学（第3版でなくても可）

※福祉心理学科の方の教科書配本方法

・新入生は入学時に配本します。

※社会福祉学科・科目等履修生の方の教科書配本方法

・教科書1）は「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅱ」のいずれかを履修登録済みで単位未修得者について、教科書2）は上記3科目と「心理学研究法Ⅰ」のいずれかを履修登録済みで単位未修得

者について、配本希望をいただいた方に発送します。『学習の手引き2012-2016版 or 2017版』巻末様式25、または『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙の「教科書特例配本希望届（無料）」をご利用いただき、郵送またはFAX（または同様の内容を記載してugr@tfu-mail. tfu. ac. jpあてにメール）でお申込みください。

（最近の教科書変更時期）2017年10月

（スクーリング時の教科書）教科書は使用しません。実験に必要な資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■単位修得方法

①事前レポート（客観式１課題）の提出・合格＋②スクーリング受講＋③実験レポート（４つ）提出・合格＋④単位認定レポート（１課題）提出・合格で単位を修得します。

①事前レポート（客観式１課題）提出・合格：スクーリング受講前に『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

②スクーリング受講：４日間（札幌会場は３日間）連続で受講してください。

③実験レポート（４つ）提出・合格：４種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

④単位認定レポート（１課題）提出・合格：スクーリング受講後に、ｐ. 54記載の「単位認定レポート課題」に示す４つの課題の中から１つを選び、ｐ. 51記載の期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1, 000字以上2, 000字程度4, 000字以内）。未提出の場合、単位は与えられません。

※「札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30％＋スクーリング（実験レポート）評価70％

■レポート提出期限

会場	事前レポート	実験レポート	単位認定レポート	備　　考
仙台	スクーリング初日に持参または事前に「TFUオンデマンド」上で解答	2021年5月15日	2021年12月24日	2021年9月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2021年8月31日
札幌		2021年10月1日		—

■受講上の注意

「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」に受講の順序指定はありません。「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングは、どちらを先に受講していただいても結構です。「心理学実験Ⅱ」を先に受講する方は、p. 68【受講上の注意】をご確認ください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

理科の実験を思い出してみてください。リトマス試験紙に酸性の液体をつけると…？アルカリ性の液体をつけると…？　理科ではある刺激を加えるとどのような結果が生じるのかについて実験を行いました。心理学も同じです。講義でみなさんに何気なく紹介されている様々な知見は、心理実験や調査といった科学的な手法を用いて検討されてきたものです。心理実験などの手法を学ぶことによって、従来の知見がどうやって見出されてきたかを検討することができるようになります。そうすると、また新たな疑問をもつことができ、さらには、それを自分で実証的に確かめることが可能になります。こうした視点は、心理学を学ぶ上だけではなく、日常生活において個人的に疑問に思った因果関係を確かめるという点において有用です。このスクーリングを通して、ぜひ因果関係を解明する視点と実験による技法を身につけていただければと思います。また、心理学実験では、実験者の教示の仕方や実験を行う態度が被験者に影響します（実験者効果）。実験者の態度についても配慮し、身に付けていただければと思います。

合わせて、心理学には心理学独自の知見のまとめ方があります。４つの実験結果をまとめることを通して、こうした研究報告書の書き方を身につけていただきたいと思います。

■講義内容・進め方

スクーリングでは、「刺激の弁別閾」、「ミュラーリヤー錯視」、「印象形成」、「長期記憶の検索」という４つの実験をグループに分かれて体験学習します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより、また受講会場により、変更になります（仙台会場は１日１つずつの実験を行い４日間、札幌会場は２日めに２つの実験を行い３日間のスクーリングとなります）。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。

回数	テーマ	内容
1	オリエンテーション	心理学ではなぜ実験するのかを理解すると同時に、レポート記述の基本を学ぶ。
2	刺激の弁別閾①	知覚における閾値の考え方を学び、感覚弁別実験の概要を理解する。
3	刺激の弁別閾②	実験実施。
4	刺激の弁別閾③	感覚弁別実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
5	ミュラーリヤー錯視①	さまざまな錯視現象を理解し、ミュラーリヤー錯視実験の概要を理解する。
6	ミュラーリヤー錯視②	実験実施。
7	ミュラーリヤー錯視③	錯視実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
8	中間まとめ	心理学実験前半を終えて、あらためて実験計画・仮説検証の考え方、考察の仕方などを復習する。
9	印象形成①	印象形成について理解し、印象形成の実験の概要を理解する。
10	印象形成②	実験実施。
11	印象形成③	印象形成の実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
12	長期記憶の検索①	記憶の特徴について理解し、長期記憶の検索実験の概要を理解する。
13	長期記憶の検索②	実験実施。
14	長期記憶の検索③	長期記憶検索実験の意味を理解し、自分のデータに基づいた実験レポートを作成する。
15	心理学実験を深める	心理学実験の考え方の整理、論述式単位認定レポート課題の解説。

▶実験 1 「刺激の弁別閾」　（担当　仙台会場：大関信隆　札幌会場：佐藤俊人）

刺激の弁別閾とは、２つの刺激の強さの違いを区別する感覚の分解能に関する閾（感覚の相違を引き起こす境界）のことです。本実験では人間の触覚について、恒常法や極限法といった精神物理学的測定法を用いて、その弁別閾を推定する実習を行います。

▶実験 2 「ミュラー・リヤーの錯視」　（担当　仙台会場：半澤利一　札幌会場：佐藤俊人）

私たちの知覚は、物理的世界のそのまま同じではありません。心理的世界の特性と物理的世界の特性にはずれがあります。このようなずれは、錯覚として体験されます。実験では、視覚における錯覚（錯視）を取り上げ、調整法によって、錯視の生じる条件について検討します。

▶実験 3 「印象形成におよぼす背景効果」　（担当　仙台会場：山口奈緒美　札幌会場：佐藤俊人）

私達は人と会うときに、美しい景色、良い香り、快い音楽など快適な環境を選びます。それはなぜでしょうか。ここでは人物の印象評定に対する背景の効果を、評定尺度法という方法を用いて調べるととも

に、この方法のメリット、デメリットについても検討します。

▶実験 4「長期記憶の検索」　（担当　佐藤俊人）

長期記憶の中からいくつかの記憶を探し出す時、我々はどのような探し方をするのでしょうか。さまざまな探し方が考えられますが、長期記憶を探す時に、人は一般にどのような心の使い方をするのか（ストラテジーという）を実験的に調べます。

※担当教員は変更になる場合があります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中に行った 4 つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、 4 色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 〜10時間）

『客観式レポート集』に記載の客観式レポート課題に取り組み、スクーリング受講時に持参してください。

また、『福祉心理学科スタディ・ガイド』の II 章を熟読してきてください（ p. 42在宅学習 9 のポイントの 7 ）。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなど、心理学実験に関する予備知識をもっておいてください。

レポート学習

■在宅学習 9 のポイント

「心理学実験 I A」 p. 41〜42参照

■事前レポート課題

『客観式レポート集』に記載の「心理学実験 I　事前レポート課題」に取り組み、「TFUオンデマンド」上で事前に解答、またはスクーリング受講時に持参してください。

■単位認定レポート課題　スクーリング終了後１課題選択

課題1 （担　当 佐藤俊人）	「マジックナンバー・セブン」の実験的検証 短期記憶の貯蔵能力には限界があり、健康な成人で、おおむね７個であるとされているが、その通りであるかどうかを確かめる実験を工夫し、実際に確かめてみなさい。
課題2 （担　当 山口奈緒美）	心理学的測定や評定における恒常誤差と偶然誤差について説明し、対策を述べなさい。
課題3 （担　当 半澤利一）	幾何学的錯視以外の錯覚現象を調べ、その説明と体験した感想を述べなさい。そして、もし錯覚が生じないとすれば、私たちの知覚された世界はどのようなものであると思うか、考察しなさい。
課題4 （担　当 大関信隆）	心理学の方法論の一つとしての実験（法）の意義について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

※「札幌会場でのスクーリング」を受講する方は、単位認定レポート課題についてはスクーリング時に別途資料配付して説明します。

■アドバイス

上記の課題から１つ選びｐ.51記載の期限内に提出してください。レポート用紙の表紙の「科目名」右側に担当教員名を、「課題欄」に課題を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2,000字程度を標準としますが、最長4,000字程度まで記入していただいて結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×４枚で）。パソコン印字の場合、本文は明朝体にしてください。

課題1
アドバイス

スクーリングで詳しいアドバイスをしますが、まず、短期記憶とはどういうものかを確認してみてください。その中から、自分が何を提示刺激にした実験をするかを決めるところから始まります。具体的には数字の列、意味のない文字列などが例に出されることが多いですが、いろいろと工夫をしても面白いと思います。

次にそれをどのように被験者に提示するのかも決めなければなりません。紙に書かれたものを見せるのか、読んで聞かせるのか、あるいはパソコンをつかってスライドショーのように提示することも可能でしょう。

さて、課題の中心は、短期記憶がいくつくらいまでなら覚えていられるか、ということですから、確実に覚えていられる数（刺激の種類によっても変わりますが３～５くらい？）からマジックナンバーである７をはさんで、覚えているのが無理な数（15以上？）まで、いろいろな刺激数で実験してみてください。ある刺激数を超えると急激に覚えられなくなってくるのではないでしょうか。そこが一人ひとりの実験でのマジックナンバーになります。この刺激の数が 7 ± 2 になればマジックナンバー 7 が検証されたことになります。もし実験の結果がマジックナンバーが 7 ± 2 から大きくずれたら、それがなぜかも考察しなければなりません。

以上の点を押さえた上で、覚えていられる数を増やすという実験を重ねても面白いと思います。例えば

チャンクという考え方も有効なのではないでしょうか。

課題2 アドバイス

参考書やスクーリング時に配布する資料を参考にまとめてください。「誤差」は“真の値からのずれ”といえるものですが、まずはどのような誤差があるか、それはどのような時に生じるのかを調べてみてください。誤差が私たちの測定につきものだとすれば、それをできる限り小さくするには、どのようなことに注意しなければならないか、考えてみましょう。

課題3 アドバイス

錯覚現象については、幾何学的錯視以外の錯視、視覚以外の錯覚などがあります。それらについて、単に知識として知るだけでなく、自ら観察あるいは体験してその感想やコメントを述べてください。そして、スクーリングでの説明などを参考に錯覚現象の背後にある知覚の働き（作用）について考え、もしそれらがなかったらと考えてみてください。

課題4 アドバイス

心理学における実験（法）の意義を考える際には、次のような視点を持つことが必要と思われます。すなわち、①：「こころ」という対象に接近していくために、心理学の中にはどのような方法があるのか、②：実験（法）とは、具体的にどのようなやり方を有する方法論なのか、③：実験（法）の特徴や長所は何か、などです。これらのことは、言い換えれば心理学における他の方法論との比較、と考えることができるかもしれません。そうすることで、一層、実験（法）の意義や長所・短所が見えてきて、さらには心理学独自の多様な方法論を俯ふ瞰かん的に眺められるかと思います。また、実験（法）は心理学成立の歴史とも深い関係がありますので、これらについて＋αの考察をしてみることもよいかもしれません。

■参考図書

課題1：金城辰夫編『図説現代心理学入門　四訂版』培風館、1996年（「心理学概論A・B」の教科書 p. 127〜128）

課題2：市川伸一 編著『心理測定法への招待』（新心理学ライブラリ　13）サイエンス社、1991年　ほか、心理学研究法・心理測定などに関する本、または心理学の教科書で「測定や研究法」に関する箇所など。

課題3：後藤倬男・田中平八編『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会、2005年
北岡明佳著『錯視入門』朝倉書店、2010年
丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版、1996年
椎名健著『錯覚の心理学』講談社現代新書、1995年
梅津八三・相良守次・宮城音弥・依田新監修『新版　心理学事典』平凡社、1981年
http://www. kecl. ntt. co. jp/IllusionForum/ja/visual. html（ホームページ「錯視について」）
http://www. ritsumei. ac. jp/~akitaoka/（ホームページ「北岡明佳の錯視のページ」）

課題４：南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編　『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年
小牧純爾著『心理学実験の理論と計画』ナカニシヤ出版、2000年
利島保・生和秀敏編著『心理学のための実験マニュアル』北大路書房、1993年
宮原英種・宮原和子監修　加知ひろ子・武藤幸穂著『心理学実験を愉しむ―心理学の「日常性」と「科学性」』ナカニシヤ出版、2003年
大山正・中島義明編『実験心理学への招待』（新心理学ライブラリ８）サイエンス社、1993年
中島義明著『実験心理学の基礎』誠信書房、1992年
B. フィンドレイ著　細江達郎・細越久美子訳『心理学実験・研究レポートの書き方』北大路書房、1996年

心理学実験ⅡA 2018〜

科目コード	FB3535

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	SR(実験)	2年以上	中村　修・平川　昌宏

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、p. 67「心理学実験Ⅱ」（科目コード：FB2506、2単位、履修方法SR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

1）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
2）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
3）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
4）実験法という心理学方法論の特徴を説明できる。
5）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
6）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験ⅠA・ⅠB・ⅡB」「心理学研究法A」と共通）

「心理学実験ⅠA」p. 37〜38参照。

■履修登録条件

この科目は、「心理学実験ⅠA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■評価の方法・基準

①スクーリング受講（２日間）＋②実験レポート（２つ）提出・合格＋③単位認定レポート（１課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：仙台会場

②実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（客観式レポート）提出・合格：下記期限までに、『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で解答、または郵送で提出してください。未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30％＋スクーリング（実験レポート）評価70％

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備　　考
仙台	2021年９月10日	2021年12月24日	９月卒業希望者や10月生科目等履修生の単位認定レポート提出期限は2021年８月31日

■受講上の注意

推奨する受講順は「ⅠA」→「ⅠB」→「ⅡA」→「ⅡB」です。

ただし「ⅠA」「ⅠB」の受講を後にし「ⅡA」を先に受講する場合は、下記の２つを行ってください。

①「ⅠA」事前レポート課題（p. 42参照）を、「ⅡA」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答するか、開始時に持参してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験ⅡA・Bと心理学実験ⅠA・Bが目的とするものは同じで、実施する実験の内容が異なると考えてください。

主な目的は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして○○な行動をするのだろう？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいでしょうか？　この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうかが、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

心理学実験ⅡA・Bでは、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う4つのテーマはp.61〜62・67に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこでは何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「系列学習法」、「概念学習」という2つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内　容
1	オリエンテーション／系列学習法①	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
2	系列学習法②	実験実施
3	系列学習法③	データ分析とレポートの記述法
4	系列学習法④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
5	概念学習①	テーマ及び実験方法の説明
6	概念学習②	実験実施
7	概念学習③	データ分析とレポートの記述法
8	概念学習④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／2つのテーマを通したまとめ

▶実験 1 「系列学習法」　（担当　平川昌宏）

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な 3 タイプのうち系列学習法（ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法）を実習し、系列位置効果（呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること）について調べます。

▶実験 2 「概念学習」　（担当　中村　修）

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目（抽象）し、また他の特性群を無視（捨象）することによって、任意のカテゴリー（概念）を「心」の中につくりあげていると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます（ところで何が同じ？）。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中の 2 つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、 4 色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 〜10時間）

『福祉心理学科　スタディ・ガイド』の II 章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習 9 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実験と観察（教科書 1 ）第 2 章）	実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。	暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	実証の手続き （教科書１） 第３章）	研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。	例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。
3	独立変数の操作 （教科書１） 第４章）	実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。	条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。
4	従属変数の測定 （教科書１） 第５章）	従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。	従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。
5	剰余変数の統制①：固体内変動の統制 （教科書１） 第６章）	ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。	実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。
6	剰余変数の統制②：直接的な統制 （教科書１） 第６章）	実験計画を立てる際に、研究者だけが考えた剰余変数の統制だけでは危険な場合もある。先行研究や文献から、これまでにどのような要因の影響があることが分かっているか、という文献研究の重要性を理解する。	実験を実施したあとで、考慮に入れていなかった剰余変数がでてきてもやり直しがききません。あらかじめ先行研究などから考慮すべき剰余変数を把握しておきましょう。また、交互作用という現象とその解釈について、理解しておくことが重要です。
7	仮説とその検証 （教科書２） Ⅳ章49・50 ｐ.195～204）	心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。	どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	独立変数・従属変数とデータ収集法（教科書２） Ⅳ章51 ｐ. 205〜211）	仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。	データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかける重要性とともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。
9	単位認定レポート課題	スクーリング受講後に「TFUオンデマンド」上で解答、または郵送で提出する。	教科書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題

スクーリング受講後ｐ. 58に記載の期限までに、『客観式レポート集』記載の客観式レポート課題に取り組み、「TFUオンデマンド」上で解答、または郵送で提出してください。未提出の場合、単位は与えられません。

■アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

心理学実験ⅡB 2018～

科目コード	FB3536

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	SR（実験）	2年以上	柴田　理瑛・平泉　　拓

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。

※2017年度以前に入学した方は、ｐ. 67「心理学実験Ⅱ」（科目コード：FB2506、２単位、履修方法SR）を参照してください。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学実験ⅡA」ｐ. 57参照

■到達目標

「心理学実験ⅡA」ｐ. 57参照

■教科書（「心理学実験ⅠA・ⅠB・ⅡA」「心理学研究法A」と共通）

「心理学実験ⅠA」ｐ. 37～38参照

■履修登録条件

この科目は、「心理学実験ⅠA」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

「心理学実験ⅡA」ｐ. 58参照

■評価の方法・基準

①スクーリング受講（２日間）＋②実験レポート（２つ）提出・合格＋③単位認定レポート（１課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：仙台会場２日間連続で受講してください。

②実験レポート（２つ）提出・合格：２種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（１課題）提出・合格：スクーリング受講後に、ｐ.66記載の「単位認定レポート課題」に示す２つの課題の中から１つを選び、下記期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1,000字以上2,000字程度4,000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30％＋スクーリング（実験レポート）評価70％

■レポート提出期限

会場	実験レポート	単位認定レポート	備　　考
仙台	2021年８月31日	2021年12月24日	９月卒業希望者や10月生科目等履修生の実験レポート単位認定レポート提出期限は2021年８月31日

■受講上の注意

推奨する受講順は「ⅠA」→「ⅠB」→「ⅡA」→「ⅡB」です。

「心理学実験ⅡB」は、「ⅠA」「ⅠB」「ⅡA」のいずれかのスクーリングを受講済みであることを推奨しています。どうしても2021年度に「ⅡB」を一番最初に受講希望の場合は、下記①②を行ってください。

①「ⅠA」事前レポート課題（ｐ.42参照）を、「ⅡB」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答するか、開始時に持参してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理学実験ⅡA」ｐ.59参照

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「鏡映描写」、「社会的影響」という２つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内　容
1	オリエンテーション／鏡映描写①	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
2	鏡映描写②	実験実施
3	鏡映描写③	データ分析と実験レポートの記述法
4	鏡映描写④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
5	社会的影響①	テーマ及び実験方法の説明
6	社会的影響②	実験実施
7	社会的影響③	データ分析と実験レポートの記述法
8	社会的影響④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／２つのテーマを通したまとめ

▶実験１「鏡映描写」　（担当　平泉　拓）

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として、鏡映描写の実験を体験します。運動技能の上達過程を検討し、両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

▶実験２「社会的影響」　（担当　柴田理瑛）

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中の２つの実験のレポート100%（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、４色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

『福祉心理学科　スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

「心理学実験ⅡA」ｐ. 60～62参照

■単位認定レポート課題　スクーリング終了後１課題選択

課題1 （担　当 平泉　拓）	一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。
課題2 （担　当 柴田理瑛）	社会的手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から１つ選びｐ. 64記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2, 000字程度を標準としますが、最長4, 000字程度まで記入していただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×４枚まで）。

課題1 アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておくと、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしていた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独持のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずです。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。

課題2 アドバイス

スクーリング時の解説、配付資料ならびにスクーリング時に紹介する参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけではなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

■参考図書

課題１：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題２：アロンソン. E.　岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル　第11版　人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

本間道子著『集団行動の心理学　ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年

釘原直樹著『グループ・ダイナミックス　集団と群集の心理学』有斐閣、2011年

山口裕幸著『チームワークの心理学　よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年

心理学実験Ⅱ 〜2017

科目コード	FB2506

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(実験)	1年以上	中村　修・平川　昌宏 柴田　理瑛・平泉　拓

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

心理学は行動科学の一分野であり、どのような条件の下でどのような行動が生じるか、あるいは、ある行動はどのような条件で起こったのかなどということを明らかにしようとしています。そのための方法にはいくつかありますが、実験法もその一つです。

科学的知識とは、客観的事実として実証されたものをいいます。心理学では、特定の要因（独立変数とよびます）を系統的に変化させ、意識や行動（従属変数）がどのように変わるかということを明らかにしようとする手法があり、これを実験法とよんでいます。条件を厳密に統制するというところに実験法の特徴がありますが、「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」では、さまざまな角度から、この実験法について、その基礎を学ぶことを目標とします。

■到達目標

1）心理学において「実験」という手法がどのように行われるのか説明できる。
2）「独立変数」や「従属変数」などの意味を説明できる。
3）「要因を操作する」や「条件を統制する」という行為の意味や意義を説明できる。
4）実験法という心理学的方法論の特徴を説明できる。
5）基本的な心理学的実験を自ら計画して実施することができる。
6）実験で得られたデータを統計的に分析・考察し、レポートとしてまとめることができる。

■教科書（「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ」と共通）

1）高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）
2）『福祉心理学科スタディ・ガイド〔第3版〕』東北福祉大学（第3版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2017年10月

※教科書配本方法については「心理学実験Ⅰ」の教科書欄p.49〜50をご覧ください。

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは教科書は使用しません。適宜、資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■評価の方法・基準

①スクーリング受講（４日間）＋②実験レポート（４つ）提出・合格＋③単位認定レポート（１課題）提出・合格で単位を修得します。

①スクーリング受講：仙台会場４日間受講してください。

②実験レポート（４つ）提出・合格：４種目それぞれの実験において指示された内容について、実験レポートをスクーリング中、または下記期限までに提出して合格することが必要です。１種目でも欠席しレポートが提出されない場合にはその時点で単位が与えられなくなるので気をつけてください。

※実験レポートの評価は、心理学的なレポート構成が厳守されているか、記述が客観的であるか、実験方法がきちんと書けているか、結果を明確に述べているか、考察が理論的であるか、について行います。これらの書き方はスクーリング中にご紹介しますので心配無用です。

※実験レポートは返却しますが、添削指導は行いません。

③単位認定レポート（１課題）提出・合格：スクーリング受講後に、ｐ. 72記載の「単位認定レポート課題」に示す４つの課題の中から１つを選び、期限までにレポートを作成して提出してください（字数は1, 000字以上2, 000字程度4, 000字以内）。もちろん、未提出の場合、単位は与えられません。

■科目評価基準

単位認定レポート評価30％＋スクーリング（実験レポート）評価70％

■レポート提出期限

「心理学実験ⅡＡ」ｐ. 58を参照してください。

■受講上の注意

原則として「心理学実験Ⅰ」から受講してください。「心理学実験Ⅱ」から受講することも可能ですが、その場合は下記の事前学習を必ず行ってください。

①「心理学実験Ⅰ」で提示されている事前レポート課題を「心理学実験Ⅱ」受講前に「TFUオンデマンド」上で解答するか、開始時に持参してください。

②『福祉心理学科スタディ・ガイド』の「心理学実験Ⅰ」箇所を熟読してきてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学実験Ⅱと心理学実験Ⅰが目的とするものは同じで、実施する実験の内容が異なると考えてください。

主な目的は、因果関係を解明する視点と手法の基礎を身につける、ということです。私たちは自分や他人の行動について、「どうして○○な行動をするのだろう？」と疑問を持った際、「それは△△が原因ではないのか？」と「想像」することができます。しかし、原因だと思いついたものが「真の原因」なのか、それとも他の原因があるのか、確かめるにはどうすればいいでしょうか？この「原因と結果の対応」が先に述べた「因果関係」ということなのですが、この「確かめ方」を知っており実際に行ってみることができるかどうかが、「学問として心理学を学んだ者」と「心理（学）好き」との大きな違いになると言えるでしょう。

心理学実験Ⅱは、実験対象とする現象・テーマが異なります。扱う４つのテーマはｐ. 70に示しますが、それぞれのテーマにおいて、どのような行動や心の働きを扱うのか、そこでは何が問題になるのか、どんな疑問がもたれるのか、学んでください。

■講義内容・進め方

このスクーリングでは、「系列学習法」、「鏡映描写」、「概念学習」、「社会的影響」という４つの実験をグループに分かれて体験します。なお、実験の順番、担当者についてはグループにより変更になります。

実験ごとに、その実験についての概説を聞く、実験の実施、実験データの整理と分析、レポート作成という一連の作業を行います。実験の実施については、個人作業またはグループ作業となります。

回数	テーマ	内　容
1	オリエンテーション／系列学習	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
2	系列学習法②	実験実施
3	系列学習法③	データ分析とレポートの記述法
4	系列学習法④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
5	概念学習①	テーマ及び実験方法の説明
6	概念学習②	実験実施
7	概念学習③	データ分析とレポートの記述法
8	概念学習④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／２つのテーマを通したまとめ
9	オリエンテーション／鏡映描写	心理学における実験の意義／テーマ及び実験方法の説明
10	鏡映描写②	実験実施
11	鏡映描写③	データ分析とレポートの記述法
12	鏡映描写④	レポート作成と実験法の観点からの本テーマの振り返り
13	社会的影響①	テーマ及び実験方法の説明

回数	テーマ	内　容
14	社会的影響②	実験実施
15	社会的影響③	データ分析と実験レポートの記述法
16	社会的影響④／まとめ	レポート作成と実験計画の観点からの本テーマの振り返り／２つのテーマを通したまとめ

※それぞれの実験の順序は、変更になる場合があります。

▶実験１「系列学習法」　（担当　平川昌宏）

記憶研究の先駆者といわれるエビングハウスが用いた伝統的な実験材料である無意味綴りを用いて、言語学習実験の代表的な３タイプのうち系列学習法（ある順序で呈示された無意味綴りをその順序どおり覚えさせる実験法）を実習し、系列位置効果（呈示された刺激がはじめの方にあるか、終わりの方にあるか等で学習しやすさに差があること）について調べます。

▶実験２「鏡映描写」　（担当　平泉　拓）

一般に先行した学習が後続の学習に何らかの影響を与えることを学習の転移といいます。転移の一例として、鏡映描写の実験を体験します。運動技能の上達過程を検討し、両側性転移現象の有無、さらにはその理由について考察します。

▶実験３「概念学習」　（担当　中村　修）

われわれは、いくつかのモノやコトが持つさまざまな特性のうち、ある特性群に注目（抽象）し、また他の特性群を無視（捨象）することによって、任意のカテゴリー（概念）を「心」の中につくりあげていると仮定できます。だからこそ、“アリ”と“ゾウ”を同じ“動物”とみなすことができます（ところで何が同じ？）。こうした概念作用に影響を与える諸要因について、実験的に検討します。

▶実験４「社会的影響」　（担当　柴田理瑛）

他者へ影響を与えることおよび他者から影響を受けることを社会的影響といいます。その影響過程について実験的に検討します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング期間中の４つの実験のレポート100％（それぞれ100点満点の平均点）で評価します。

■スクーリングで必要なもの

筆記用具、定規（グラフを書くのに必要）、電卓（携帯電話の電卓ではないもの）、４色ボールペンを持参してください。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

『福祉心理学科　スタディ・ガイド』のⅡ章を熟読してきてください。福祉心理学科以外の方は、『試験・スクーリング情報ブック』巻末用紙を利用して配本申請をするか、ホームページ右側「福祉心理学科で学ぶために」の箇所から実験に関する記述を一読されるなどしておいてください。

レポート学習

■在宅学習９のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	実験と観察 （教科書１） 第２章）	実験的研究と観察的研究の長所と短所を学ぶとともに、因果関係と相関関係を分けて考える重要性を、具体的な実験例をもとに理解する。	暴力的な映像をみると暴力的になるのか、暴力的な性格だから暴力的な映像を好むのか。そこをきちんと確かめるような研究計画は簡単そうで難しいものです。因果関係と相関関係の違いを理解しながら、研究計画を立てる際の留意事項を理解しましょう。
2	実証の手続き （教科書１） 第３章）	研究手続きや質問紙調査における質問項目の信頼性と妥当性の重要性について理解する。	例えば「暴力をふるう」かどうかを測定する時、暴力とは具体的にはどのような行動が含まれるかをきちんと概念規定しておく必要があります。子どもの戦いごっこは暴力か？赤ちゃんが母親の顔をたたくのは暴力か？など、それを決めるのは簡単ではありません。研究者の概念規定に沿った研究計画を立てる重要性について考えてみましょう。
3	独立変数の操作 （教科書１） 第４章）	実証的研究に必要な独立変数と、その設定の難しさについて理解する。	条件の違いさえあればそれが独立変数として使えるわけではありません。実験、研究を実施する際の独立変数の設定の方法については、細心の注意を払うべきであることを考えてみましょう。
4	従属変数の測定 （教科書１） 第５章）	従属変数の設定の方法と、心理尺度の妥当性、信頼性について学ぶ。	従属変数によって、本当に自分の測定したいものが測れているか、本当にその測定結果が安定していて信頼できるものかという点に注意を払うことは大切なことです。さまざまな具体例をもとに、従属変数に対する具体的なイメージを捉えてください。
5	剰余変数の統制①：固体内変動の統制 （教科書１） 第６章）	ミュラーリヤー錯視の例を考えながら、実験の目的ではない剰余変数を統制する工夫について理解する。	実験を実施する際には、繰り返しによる疲労や実施の順番など、実験者が独立変数として想定していないような要因も結果に影響します。実験実施の際には、可能な限りこれらの剰余変数を統制することが必要です。どのような工夫が効果的かを考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	剰余変数の統制②：直接的な統制（教科書１）第６章）	実験計画を立てる際に、研究者だけが考えた剰余変数の統制だけでは危険な場合もある。先行研究や文献から、これまでにどのような要因の影響があることが分かっているか、という文献研究の重要性を理解する。	実験を実施したあとで、考慮に入れていなかった剰余変数がでてきてもやり直しがききません。あらかじめ先行研究などから考慮すべき剰余変数を把握しておきましょう。また、交互作用という現象とその解釈について、理解しておくことが重要です。
7	仮説とその検証（教科書２）Ⅳ章49・50 ｐ. 195〜204）	心理学研究における仮説の立て方と、仮説を検証するための方法の重要性について理解する。	どのような心理現象に興味をもっていて、それについて今までどのような研究者がどのような特徴を報告しているか、そしてそこから新たな疑問を持つことが研究のはじまりです。その疑問を仮説として具体的に考え、検証するプロセスについてイメージを捉えましょう。
8	独立変数・従属変数とデータ収集法（教科書２）Ⅳ章51 ｐ. 205〜211）	仮説を検証するために、どのような独立変数、従属変数を使い、どのようにデータを収集するかが研究を進める上でのポイントになる。この一連の流れを理解する。	データをどのように収集し、まとめ、必要に応じて統計的な検定にかける重要性とともに、先行研究論文の探し方や引用、参考の仕方について学びましょう。
9	各自が選んだ単位認定レポート課題	スクーリング終了後１課題選択。	選んだ課題のアドバイス・参考図書をよく読んで取り組んでください。

■単位認定レポート課題　スクーリング終了後１課題選択

課題1（担当 平川昌宏）	系列学習において「なぜ系列位置効果が現れるのか」について文献やスクーリングでの体験などを参考にしながら考察しなさい。
課題2（担当 平泉　拓）	一般に以前の学習が後の学習に影響を及ぼすことを学習の転移という。以前の学習が後の学習を促進する場合を正の転移、逆に以前の学習が後の学習を妨害する場合を負の転移と呼んでいる。日常生活でみられる上記のような学習の転移の例を示し、説明しなさい。
課題3（担当 中村　修）	次の４つの尺度について、日常生活の中から２つずつ例を挙げて、違いを説明しなさい。また、なぜ尺度をこのような４つに分ける必要があるのか、考察しなさい。①名義尺度（nominal scale）、②順序尺度（ordinal scale）、③間隔尺度（interval scale）、④比率尺度（ratio scale）。
課題4（担当 柴田理瑛）	社会的手抜きと社会的補償とは何かについて文献などを参考に調べなさい。また、なぜこれらの現象が生じるのかについて具体的事例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

上記の課題から１つ選びｐ. 58記載の期限内に提出してください。レポート用紙の「課題欄」に課題を、また表紙の科目名の右側に担当教員名を必ず記入してください。なお、レポートの字数は2, 000字程度を標準としますが、最長4, 000字程度まで記入していただいても結構です（パソコン印字の場合左右40字×30行×４枚まで）。

課題1 アドバイス

スクーリング時の解説、配付する資料を参考にまとめてみてください。

課題2 アドバイス

学習の転移は、さまざまな領域・場面でみられます。スキーを習う前にスケートをマスターしておくと、一般的にスキーの初歩の上達は早いでしょう。また、軟式テニスをしていた人が、硬式テニスに切りかえた場合、ストロークやラケットの持ち方など、軟式独持のくせがなかなか抜けなくて困る場合もあるでしょう。しかし、軟式・硬式を問わないテニスに共通の点も多く学びやすいこともあるはずです。

このように、生活の中でさまざまな転移がみられますが、「両側性転移に関連する事例を探して、その事例を詳しく分析し報告してください」というのが課題です。まず両側性転移について一般的な心理学書、心理学辞典などで概念理解とその生起要因について理解したうえで、自分の生活を振り返り、正の事例、もしくは負の事例を探して、分析し報告してください。

課題3 アドバイス

この課題では、４つの尺度の概念弁別がきちんとなされているかが評価ポイントとなります。心理学の本というよりも、統計学、心理統計学、心理学研究法などの入門書などを参考になさった方がいいかもしれません。例を挙げて説明してもらうのは、調べたことを使って自分で考えたんだ！自分で見つけたんだ！というヨロコビを味わっていただきたいからです。ぜひお書きください。参考図書欄には、手元にあった文献のなかから少しあげておきます。

課題4 アドバイス

スクーリング時の解説、配付資料ならびにスクーリング時に紹介する参考図書を参考にまとめてください。用語の説明だけではなく、具体的事例に対する自らの考えを必ず述べるようにしてください。

■参考図書

課題１：スクーリング時の解説、配付する資料を参考にしてください。

課題２：山内光哉・春木豊編著『グラフィック学習心理学』サイエンス社、2001年

課題３：山内光哉著『心理・教育のための統計法〈第３版〉』サイエンス社、2010年
岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年
吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、2003年

課題４：アロンソン. E.　岡隆訳『ザ・ソーシャル・アニマル　第11版　人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年
本間道子著『集団行動の心理学　ダイナミックな社会関係のなかで』サイエンス社、2011年
釘原直樹著『グループ・ダイナミックス　集団と群集の心理学』有斐閣、2011年
山口裕幸著『チームワークの心理学　よりよい集団づくりをめざして』サイエンス社、2008年

心理学統計法

科目コード	FB3537

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	2年以上	河地　庸介

※2017年度以前・2018年度以降に入学した方どちらも履修登録できます。
※2017年度以前入学者で「心理学研究法Ⅱ」を単位修得しておらず認定心理士の取得を目指す方は、本科目を履修登録してください。

科目の概要

■科目の内容

本科目では、近年マスメディアでも取りあげられることの多い心理学に関する話題を統計学の観点から評価するための力を身につけることを目指します。特に、数値・グラフ・表の形で表されるデータの意味を統計学的に理解できることを目指します。本科目では、身近な問題への統計学の適用例を具体的な計算を含めながら紹介するとともに、図表を多用することで科目内容をイメージしやすいように進めていきます。

具体的な内容としては、心理学研究の中で実際にどのように統計学が用いられているかについて触れながら、１）図表によってデータの全容をできるだけ詳細に確認することの大切さが理解できるようになること、２）種々のデータの特徴について平均値等の代表値のみならず「ばらつき」を表す散布度をも考慮して理解できるようになること、３）データとデータがどのように関連しているのかを理解できるようになること、４）われわれが集めることのできるデータ量には限界があることを踏まえて確率を用いること、そして確率を用いて集めたデータから一般性を推測できるようになること、に焦点をあててお話しします。

【スクーリングで学ぶ内容】

データを実際に分析する方法を学び、統計的な推定や検定を行います。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

統計学の基礎的な用語や知識について学習します。

■到達目標

１）データを図表（度数分布表・ヒストグラム等）で表すことの重要性が説明できる。
２）データを代表する値やデータのばらつきを数値化し、その数値が表す意味を理解できる。
３）２種類のデータの関係性を相関係数の形で数値化し、その数値が表す意味を理解できる。
４）得られたデータから一般を推測する際に確率を用いるという考え方について説明できる。
５）得られたデータを用いて一般についての仮説を検証する「統計的検定」の考え方を説明できる。

■教科書

1）涌井貞美著『まずはこの一冊から　意味がわかる統計解析』ベレ出版、2013年

2）「心理学統計法」配付資料

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは上記2）の配付資料を使用します。上記1）の教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60％＋スクーリング評価or科目修了試験40％

■参考図書

1）南風原朝和著『心理統計学の基礎－総合的な理解のために』有斐閣アルマ、2002年

2）鈴木公啓著『やさしく学べる心理統計法入門』ナカニシヤ出版、2018年

■受講条件・事前に学習してほしい科目

中学・高校までの範囲の数学の知識は必要不可欠となりますので復習をお勧めします。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	統計学とは何か	統計学とは何かを学び、データを評価するための尺度（ものさし）を学びます。
2	データの特徴を記述する①	度数分布表・ヒストグラムによるデータの全容の把握について学びます。加えて、代表値によるデータの記述について学びます。
3	データの変数の特徴を記述する②	データのばらつきを表す散布度の重要性、およびその具体的な計算方法について学びます。
4	2種類のデータの関係を記述する	クロス集計表・散布図によるデータの全容の把握について学びます。加えて、2種類のデータの関係性を示す相関係数について学びます。
5	2種類のデータの関係を解釈する	相関関係の多様な解釈について学びます。
6	集めたデータの一般性を考える	推測統計、母集団・標本の関係、サンプリングについて学びます。特に標本データから母集団の特徴を推定する「統計的推定」について学びます。

回数	テーマ	内　容
7	統計的検定	統計的検定の考え方、進め方について学びます。
8	まとめと統計解釈上の注意	まとめとともに、データや検定結果を解釈する際の留意事項について学びます。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を用いて講義を行います。教科書は参考程度に使用します。可能な限り、各回の冒頭にて学生の疑問に関する説明・解説を行います。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。なお、講義資料は持ち込み可とします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

事前に配付する資料に目を通して、予習を行ってください。また、中学・高校までの範囲の数学の復習をお勧めします。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

理解できたつもりでも、いざ自分で統計学的に分析するとなると難しいものです。念入りな復習を心がけてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	統計学とは何か（１章-１）	統計学とは何か、その概略について学びます。	本科目で扱う統計学は「記述統計」と「推測統計」に分けられます。この２つの大きな枠組みに従って講義を進めますので、両者の違いについてしっかりと把握して下さい。
2	データを評価するためのものさし（２章-1, 2, ３）	種々の調査や実験で得られるデータを評価する「ものさし」である尺度について学びます。	「名義尺度」・「順序尺度」・「間隔尺度」・「比尺度」といった尺度があります。データを適切な尺度で評価できることを目指します。
3	データの全体的な様子を図表を使って表す（２章-4, ５）	種々の調査や実験で得られるデータを図表（度数分布表・ヒストグラム）の形で表す方法について学びます。	本科目で扱う統計学はデータの全容がいかなるものかを考慮しなければ成立しません。データが得られたら、まずは全体的な様子を把握するという習慣を身に着けることを目指して頂ければと思います。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
4	データを代表する値 （2章-6, 7）	データの中心的な傾向をあらわす代表値（平均値・中央値・最頻値）について学び、種々の代表値を扱う際の注意点について学びます。	データの全容に応じて「平均値・中央値・最頻値」のいずれを用いるべきかを自分で判断できることを目指します。
5	データのばらつき① （2章-8, 9）	データの散らばり具合を表す散布度について学びます。	データの傾向を理解する際に代表値は非常に有効である反面、限界があります。その限界をある程度補うものとして散布度を理解し、自ら使用できることを目指します。
6	データのばらつき② （2章-8, 9）	複数ある散布度のうち、標準偏差に着目し、その実際の計算過程を学びます。	データから、「偏差」・「変動」・「分散」を求め、「標準偏差」に至る計算過程を理解することで標準偏差、さらに散布度についての理解を深めていきます。
7	2種類のデータの関係性① （7章-1, 2）	体重と身長といった2種類のデータを図表（クロス集計法・散布図）の形で表す方法について学びます。	前回までとは異なり、2種類のデータの全容がいかなるものかを図表から理解できるようになることを目指します。
8	2種類のデータの関係性② （7章-3, 4）	2種類のデータの関係性を表す相関（係数）について学びます。	相関係数から2種類のデータの関係性を説明できる、また相関係数の注意点についても説明できることを目指します。少々複雑ですが、相関係数の計算過程についても学習するとより理解が深まります。
9	一般を予測する （3章-1, 2, 5, 6, 8, 9, 10, 11, 4章-1, 2, 3, 4）	標本から一般としての母集団を推測する方法について学びます。関連してサンプリング・確率についても学びます。	ごく少数のデータである「標本」から一般としての「母集団」を推測するためには「確率」が必要です。中でも「正規分布」が大切となります。この「確率」を用いて推測するという考え方に慣れることが重要です。
10	統計的推定① （5章-1, 2）	標本から母集団の特徴を推定する方法として点推定と区間推定について学びます。	特に「点推定」は多くの統計解析において用いられている推定方法ですので、自ら計算して平均値や分散の点推定値を求められることを目指します。
11	統計的推定② （4章-5 5章-3, 4）	標本から母集団の特徴を推定する方法として点推定と区間推定について学びます。	「区間推定」は「点推定」とともに統計的推定の1つですが、「中心極限定理」等に基づいて計算を行う必要があり、容易ではありません。これまでの知識を十分に活用しながら、できる限り具体的にデータの中心的特徴とばらつき具合についてのイメージを持つことが重要です。
12	統計的検定① （6章-1）	統計的検定とは何か、そして統計的検定の具体的な手続きについて学びます。	母集団の平均値等に関する「仮説」を立て、その仮説が棄却されうるか否かの判断をどのように行うのか、その具体的な流れの理解を進めてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	統計的検定②（6章-1、2）	統計的検定の具体的な手続きについて学びます。	検定に関わる「有意水準」・「危険率」・「第1種の誤り」・「第2種の誤り」について学びます。
14	様々な検定（6章-3, 4, 7, 8, 8章）	t検定や分散分析やカイニ乗検定等種々の検定があることを学びます。	どういった検定があるのかの概略を掴むとともに、どのような場合にどの検定を使うことが適切であるのかを判断できるようになることを目指します。
15	まとめ	改めてデータの全容を把握することの重要性を学びます	データの全容を図表を使って可能な限り把握しなければ、代表値・散布度・相関係数などのデータを要約する数値について誤解してしまうことがありうることを理解し、適切に統計学の手法を用いることができるようになることを目指します。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	①どの代表値を用いるか決めるとき、②相関係数を解釈するとき、③統計的推定・検定をするとき、の3つの場面でなぜデータの全容を度数分布表・ヒストグラムあるいはクロス集計表・散布図などの図表を用いて把握することが大切であるか、配付資料・教科書の内容に沿ってその理由を述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2019年度以前履修登録者） 2020年4月よりレポート課題の2単位めが変更になりました。『レポート課題集2019』記載の課題でも2021年9月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

いずれの課題も配付資料・教科書で扱われている範囲内の学習で対応できるものになっています。配付資料・教科書を十分に理解していることが課題をこなす上で最も重要となります。なお統計学が数値を扱う学問である以上、数学は避けては通れないのですが、レポートについては計算をする必要はなく、基本的な知識を答えるものになっていますのであまり身構えることなく取り組んでみて頂ければと思います。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

本レポート課題は、本科目で取り扱うあらゆるデータ分析法、さらにはご自身で発展的に学習されるデータ分析方法においても、基本となる注意事項を取り上げています。具体的には、平均値・中央値・最頻値等の代表値を用いるときに、相関係数を理解するときに、統計

的推定・検定を実施するときに、なぜ度数分布表・ヒストグラムやクロス集計表・散布度などの図表でデータの全容を確認することが必要であるのか、本科目の中で取り扱います。それらの内容をまとめてレポートとして提出してください。特に図表によりデータ全体を見やすくすることで、何に気がつきやすくなるのか考えてみてください。上述の内容をみてわかるとおり、本科目を網羅的に振り返る必要のある課題となっていますので、１回１回を大切に取り組んでみてください。

評価基準は以下の通りです。①設問を振り返りながら、具体的に何を述べていくかが明確な書き出しになっているか（問題の設定）。②度数分布表・ヒストグラムやクロス集計表・散布度などの図表を用いてデータの全容を確認する必要性が生じる上述の具体事案ごとに「なぜ」必要であるのかがわかる記述となっているか（問題への解答）。③全体を通した自分なりのまとめ・結論が（簡潔に）述べられているか（結論の記述）。

科目修了試験

■評価基準

評価の基準は、本科目で扱う内容を正確に理解できているか否かです。そのため、科目修了試験の対策は教科書や配付資料をしっかりと読み、疑問点等を極力残さないようにすることに尽きます。

心理学研究法Ａ 心理学研究法Ⅰ	2018～ ～2017		科目コード	FB3538 FB3508
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	2年以上	佐藤　俊人・大関　信隆 平川　昌宏	

※2017年度以前入学者で、「心理学研究法Ⅰ」を履修登録され、2018年度までにスクーリングが未受講の方は、本科目の内容を参照してください。

※2017年度以前入学者で「心理学研究法Ⅰ」の昨年までのレポート課題に取り組む方（2018年度までにスクーリング合格済の方）は、『レポート課題集C（心理専門編）2018』掲載の「心理学研究法Ⅰ」（科目コードFB3508）を参照してください。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に**「心理学実験ⅠＡ・ⅠＢ・Ⅰ」**、**「心理学実験ⅡＡ・ⅡＢ・Ⅱ」**として科目が設定されているので、ここでは、**実験法以外の方法**について取り上げることにします。

心理学は、実証的学問です。実証的というのは、量的または質的なデータを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つことになります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標にします。

なお、この科目のスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。

■到達目標

1）心理学研究を実施する上で配慮すべき倫理について説明できる。

2）独立変数や従属変数など、心理学研究の基本的な考え方を説明できる。

3）心理学研究における「観察法」、「面接法」、「質問紙法」のメリットとデメリットについて説明できる。

4）「面接法」、「観察法」、「質問紙法」を用いた研究計画をたてることができる。

■教科書（教科書２）は「心理学実験ＩＡ・Ｉ」などと共通）

１）大村彰道編著『教育心理学研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、2000年

２）『福祉心理学科　スタディ・ガイド〔第３版〕』Ⅲ章　東北福祉大学（第３版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2015年４月

※教科書１）は履修登録時に配本します。

※教科書２）の配本方法については「心理学実験ＩＡ・Ｉ」の教科書欄をご覧ください。

（スクーリング時の教科書）教科書１）『教育心理学研究の技法』は必ず持参してください。

■履修登録条件

これらの科目は、「心理学実験ＩＡ」または「心理学実験Ｉ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60％＋スクーリング評価 or 科目修了試験40％

■参考図書

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編著『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦著『心理学研究法』放送大学教育振興会（NHK出版）、2003年

海保博之・大野木裕明・岡市広成著『心理学研究法［新訂］』放送大学教育振興会、2008年

大野木裕明・渡辺直登著『心理学研究法（改訂新版）』放送大学教育振興会、2014年

高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣、2004年

『心理学マニュアル　研究法レッスン』『心理学マニュアル　面接法』『心理学マニュアル観察法』『心理学マニュアル　質問紙法』『心理学マニュアル　要因計画法』北大路書房、1997～2000年

高橋順一ほか編著『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年

日本発達心理学会監修『心理学・倫理ガイドブック』有斐閣、2000年

『発達研究の技法』『臨床心理学研究の技法』『社会心理学研究の技法』『性格研究の技法』『認知研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、1999～2000年

大山正監修『心理学研究法１～６』誠信書房、2011～2015年

『心理学研究法』（１～17）東京大学出版会

三浦麻子監修・著『なるほど！　心理学研究法』（心理学ベーシック１）北大路書房、2017年

Ｎ．Ｊ．サルキンド著・畑中美穂訳『心理学研究法のキホンQ&A100』新曜社、2017年

Ｗ．Ｊ．レイ著・岡田圭二訳『エンサイクロペディア　心理学研究方法論』北大路書房、2003年

森正義彦・篠原弘章『心理学研究法』培風館、2007年

伊藤正人『心理学研究法入門』昭和堂、2006年

吉田寿夫編著『心理学研究法の新しいかたち』誠信書房、2006年
大山正ほか著『心理学研究法』サイエンス社、2005年
丹野義彦編『臨床心理学研究法』誠信書房、2004年
山本力・鶴田和美編著『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』北大路書房、2001年
鈴木淳子著『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版、2002年
松浦均・西口利文編『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版、2008年
安藤清志・村田光二・沼崎誠編『社会心理学研究入門』東京大学出版会、2009年（補訂新版2017年）
やまだようこ編『現場（フィールド）心理学の発想』新曜社、1997年
田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2002年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに福祉心理学科専門必修科目・選択必修科目・選択科目Ａ群の科目から７科目分のレポート（４単位科目は４課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（心理学実験を含めても可・提出していれば不合格や未採点のものがあっても可　Ｓ科目はレポートがないので含められない）。

■スクーリングで学んでほしいこと

この科目は、心理学において使われるいくつかの代表的な研究方法のうち、「観察法」「面接法」「質問紙法」について取り上げ、これらの基本的理解を目指します。最初の１、２コマで、研究法を理解することの重要性、データをもとに考察することの注意点を考え、３、４コマめには研究における倫理の問題と質問紙法の概観についての講義を行います（担当 佐藤俊人）。その後「観察法（平川昌宏）」「面接法（大関信隆）」という、日常生活の中にも対応できる研究の手法について、その特徴および効用と限界について具体的に考えます。

■講義内容

回数	テーマ	内　容	担当
1	心理学研究法概説①	心理学における研究の進め方	佐藤
2	心理学研究法概説②	方法論についての概論	佐藤
3	心理学における研究と倫理	研究における倫理的問題を考える	佐藤
4	質問紙法	質問紙法の基本的理解	佐藤
5	観察法①	観察法の基本的理解と実際	平川
6	観察法②	観察法の効用と限界、実際の際の留意点	平川
7	面接法①	面接法の基本的理解と実際	大関
8	面接法②	面接法の効用と限界、実施の際の留意点	大関

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

1～4コマめは配付資料と板書で進める。5～8コマめはパワーポイントと配付資料をもとに進める。質問紙法・観察法・面接法のそれぞれの時間に、確認小テストをおこなう。

■スクーリング　評価基準

・授業への参加状況（10%）＋「観察法」、「面接法」に関するスクーリング試験（各45%、合計90%）により評価する。
・各試験では、単なる知識の確認ではなく、各研究方法の特徴をふまえたうえで、指定されたテーマあるいは自分自身の興味・関心に基づいて、適切な研究計画を立案することができるかどうかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

受講者は、受講前に本冊子「心理学研究法AorⅠ」のページ、さらに『福祉心理学科　スタディガイド』のⅢ章「心理学研究に取り組む」をよく読んできてください。

■スクーリング事後課題（2単位めレポート）

スクーリング終了後、「観察法」「面接法」を実際に用いた研究論文を配付します。配付された研究論文の中から1つを選び、そこで用いられている方法についてまとめ、考察を行うことが「心理学研究法AorⅠ」のレポート2単位めの課題となります。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	心理学における様々な研究技法（教科書1）1章）	心理学研究において、様々な研究技法（アプローチ）を習得することの重要性を理解する。 **キーワード**：研究技法、観察、面接、質的分析、質問紙調査、実験	テキストでは、著者の研究を具体例とし、自分の研究アイデアを実現する上では様々な研究技法を習得し、使い分けることの重要性が述べられています。この点を学習し、これ以降の学習の動機づけとしてください。
2	倫理的問題（教科書1）p.14・56・105および「心理学研究　倫理」でWeb検索	心理学の研究を進める際の倫理的な問題の重要性を学ぶ。 **キーワード**：研究倫理	他の学問同様、心理学でも研究倫理が強く求められます。論文、レポートの書き方はもちろんのこと、研究の目的や手法が対象者の不利益にならないように、最大限の配慮をする必要があります。他の心理系科目で紹介されているような実験や研究の中で、倫理的に現在では実施できないようなものがないかを探してみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	観察法の基本的理解（教科書１）２章１節）	観察法の２つの流れについて、さらには、それらを使い分けることの重要性について理解する。 **キーワード**：自然科学的観察法、参与観察	以下の点について説明できるように学びを進めてください。 ・自然科学的観察法の考え方と基本原則 ・伝統的な観察法の限界とそれを補う手法としての参与観察 ・２つの観察法はどのような目的で用いられるのか
4	観察法の実際①（教科書１）２章２節）	自然観察法を用いた研究事例にふれることで、自然観察法によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 **キーワード**：自然観察法、符号化	研究事例では、２～３歳児の「泣き」や他児の「泣き」に対する反応の個人差を検討するために、自然的観察法が用いられています。その際、「泣き」のエピソードやそれに対する反応を符号化し、分析可能なデータとすることが大切になります。具体的な符号化の方法や内容に着目しながら、理解を深めていってください。
5	観察法の実際②（教科書１）２章３節）	実験観察法を用いた研究事例にふれることで、実験観察法によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 **キーワード**：実験観察法	研究事例では、子どもの「恐れ（用心深さ）」や「てれ」の表出についてデータを得るために、実験観察法が用いられています。この研究事例を通して、実験観察法の利点について考えながら、学習を進めていってください。
6	観察法の手順と留意点（教科書１）２章４節）	・自然観察法と実験観察法の違いとそれぞれの利点・欠点について理解する。 ・観察法における現象の切り取り方やその記述の仕方について理解する。 ・観察データの信頼性と妥当性をチェックすること・倫理性を意識することの重要性を理解する。 **キーワード**：偶発的観察法、組織的観察法、日誌法、事象見本法、時間見本法、場面見本法、逐一行動描写法、カテゴリーチェック法、評定尺度法、観察者（評定者）がおかしやすい誤り、操作的定義、生態学的妥当性	まずは、観察法を自然観察法と実験観察法に２分し、それぞれの利点と欠点について整理していってください。また、観察法を用いた別の研究を見たときに、現象の切り取り方や記述の仕方という観点からその研究を整理できるように、理解を深めていってください。
7	面接法の基本的理解（教科書１）３章１節）	・「面接法（調査面接）」と「日常会話」の違いについて理解する。 ・「面接法（調査面接）」の利点と留意点について理解する。 **キーワード**：リサーチクエスチョン、臨床面接、調査面接	「面接法（調査面接）」と「日常会話」の違いについては、３点指摘されています。次に面接法を用いた研究実践を学ぶ際に、この３点がどのように具体化されているかを確認していけるよう、学習を進めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
8	面接法の実際① （教科書１） ３章２節）	構造化面接を用いた研究事例にふれることで、構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 **キーワード**：構造化面接、ラポール、プロトコルデータ	研究事例では、絵本における挿絵間の因果関係の理解がどのように発達するのかを検討するために、構造化面接が行われています。具体的な構造化の内容、さらには、データを分析する際の具体的指標などに着目しながら、学習を進めてください。また、研究協力児が面接に際し過度に緊張しないようになされた工夫についても学ぶ意義があると思います。
9	面接法の実際② （教科書１） ３章３節）	非構造化面接を用いた研究事例にふれることで、非構造化面接によるデータ収集の方法とデータの分析手法について理解する。 **キーワード**：非構造化面接、記述モデル、仮説生成	研究事例では、母親の適応（発達）過程の特異性・独自性を検討するために、非構造化面接が行われています。非構造化面接とデータ分析を通した仮説形成の過程について学びを進めてください。
10	面接法の手順と留意点 （教科書１） ３章４節）	・面接法の特色、その利点と限界（留意点）について理解する。 ・面接法の手続きと各過程における留意点を理解する。 **キーワード**：再現可能性・追試可能性、プロトコル分析	面接法の利点と留意点について、第７回目の学習内容と合わせて説明できるよう、学習を進めてください。
11	質問紙法の基本的理解 （教科書１） ５章１節）	・質問紙法の利点と限界（留意点）について理解する。 **キーワード**：構成概念	テキストには「教育心理学研究のいくつかのアプローチの中で、質問紙法によるアプローチはもっとも多用されている」と述べられています。質問紙法のメリットとデメリットについて他の研究法と比較しながら理解するようにしてください。
12	質問紙法の実際② （教科書１） ５章４節）	・研究事例で扱われている構成概念が、具体的にどのような質問項目でどのように測られているかを理解する。 ・因子分析がどのような目的で用いられているかを理解する。 **キーワード**：因子分析	因子分析の説明がテキスト第５章第５節に書かれています。そちらを学習した上で、研究事例の分析について学習を進めるとよいでしょう。
13	質問紙法の手順と留意点 （教科書１） ５章５節）	・質問紙法の手続きと各過程での留意点について理解する。 ・既存する質問紙を使用する場合、その尺度名だけではなく、具体的な質問項目についてもチェックすることの必要性について理解する。 ・「相関関係」と「因果関係」の違いについて理解する。 **キーワード**：尺度の信頼性、尺度の妥当性、相関関係、因果関係	尺度の「信頼性」と「妥当性」について説明できるようにしましょう。質問紙法を用いた研究では、変数間の相関関係を踏まえて、変数間の因果関係について検討することがあります。「相関関係」と「因果関係」の違いを正しく理解することは、結果の考察を行う上でも重要になります。「相関関係」と「因果関係」の違いについて説明できるように学習を進めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	心理学研究の基本① 仮説を立てる （教科書２） Ⅲ章20）	「桶屋の清兵衛」という物語を通して、心理学的な研究計画の立て方を学ぶ。 **キーワード**：仮説、独立変数、従属変数	14回目・15回目の学習内容はこれまでの学びの前提にある、「心理学研究を進めるにあたって基本となる事柄」です。今回の学習内容の観点からこれまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。
15	心理学研究の基本② 構成概念を具体化し、測定する （教科書２） Ⅲ章21）	物理的には測定できない構成概念の測定方法について学ぶ。 **キーワード**：構成概念、構成概念の具体化、評定尺度法	14回目と同様に、今回の学習内容の観点から、これまで学習した研究事例の幾つかを見返してみてください。

■レポート課題

この科目は２単位です。したがって、提出しなければならないレポートは２つですが、１単位めは客観式レポート課題に解答してください。２単位めは、「心理学研究法ＡorⅠ」のスクーリングを受講するかどうかによって、取り組む課題が異なります。つまり、「心理学研究法ＡorⅠ」のスクーリングを受講しない人は課題１に、受講する人は受講後に課題２に取り組みレポートを提出することになります。課題１では⑴〜⑶の中からいずれか１つを選んでください。

なお、１単位めの課題と２単位めの課題のうち、どちらの課題を先に行っても構いません。

１単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
２単位め	**課題１（スクーリングを受講しない人が⑴〜⑶の中からいずれか１つを選んで解答）** ⑴　気の長い人と短気な人を観察法によって見分けるための研究をするとしたら、どのような観察を行うかを中心に、研究計画を立てなさい。（担当：平川昌宏） ⑵　小学生における食事の好き嫌いに影響する要因について面接法で研究するとします。半構造化面接によって調査を行うとしたら、どのような研究計画になるか考えなさい。（担当：大関信隆） ⑶　子どもの攻撃性の高さに対するテレビの影響というテーマで、質問紙法を使って研究するとしたら、どのような研究をするか、研究計画を立てなさい。（担当：平川昌宏） **課題２（スクーリングを受講する人が解答）** スクーリング終了時に配布される研究論文の中から１つを選び、 Ⅰ．選択した研究の①目的、②仮説、③方法をまとめなさい。 Ⅱ．選択した研究と同じ目的や仮説で研究を行うとすれば、あなたは「観察法」「面接法」のどちらの方法を用いるか、そして、なぜその方法を選択するかについて述べなさい。（担当：「観察法」平川昌宏、「面接法」大関信隆） ※課題２の場合、レポート課題記載欄は研究論文名を記載してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2019年度以前履修登録者）2019年４月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題での提出は2020年９月で締め切りました。

■レポート提出上の注意

⑴　この科目のレポートは、**1単位ずつ提出**してください。1単位の課題の字数は2,000字程度ですが、4,000字程度まで記入することも可です（パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで）。

⑵　2単位めの課題1が取り組みにくく感じる方や再提出が続く方は、この科目のスクーリングを受講してから提出してください。

⑶　2単位め課題1に合格した方もスクーリングを受講することができます。その際、2単位め課題2の提出は不要です。

⑷　スクーリングを受講しない方は、通常の科目と同様に科目修了試験受験の必要があります。この科目のスクーリング試験、科目修了試験ともに、心理学研究法の基礎的な理解がないと合格が難しい傾向にありますので、充分学習をしてから臨んでください。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

課題1（スクーリングを受講しない人が⑴〜⑶の中からいずれか1つを選んで解答）

課題1⑴〜⑶は同じ種類の課題ですので、まとめて解説します。それぞれの課題には、テーマと使用する方法が指示されています。この科目の目標は、研究法を学習することにあるので、それぞれの方法についての学習を進めたうえで、つまり、それぞれの方法について十分理解したうえで、指示に従って研究の計画を立てるというのが課題です。次のような学習の進め方をし、そのうえで、以下に示すような内容のレポートにまとめてください。

1）教科書の1章を読んで、研究の進め方についての全体的な理解を図ってください。
ここには、研究の進め方についての一般的な考え方と、実際の研究に基づいた研究の進め方の例とが書かれています。1節の1と2をまず読み、次に3節を読んで理解してから、2節の事例を読んだ方がわかりやすいかもしれません。また、2章以降のそれぞれの方法についての理解を確立した後で、もう一度2節を読むと、より一層理解が深まると思われます。

2）次に、それぞれの方法（2章から5章）について理解します。それぞれの方法について1節に**「〜法への招待」**、2節に**研究紹介**、3節に**「〜法の手順と留意点」**という構成で書かれていますので、まず1節を読んで、その方法についての基本的な理解を確立し、次に3節を読み、一般的な理解が進んでから、2節の研究例を通してその方法についての具体的な理解を図るという学習の仕方が望ましいでしょう。

3）この段階で、**観察法、面接法、質問紙法**の3つの方法についての理解ができたことになります。次に、**課題1⑴〜⑶**のどれかを選んで、そこで使うことになっている方法について改めて読みなおして、理解を確実なものにしてください。特に、各章2節を参考にすることになりますので、そこはしっかり読みましょう。なお、課題1⑵に取り組む際「半構造化面接」の意味を辞典、参考図書で調べて理解する必要があります。

4）いよいよ課題に取り組みます。それぞれに示されているテーマは漠然としていますので、まず研究の目的をはっきりさせることから始めます。つまり、そのテーマにそって、最終的に何を明らかにしたいか、ということをまず考えなければなりません。

課題１⑴は「気が長いか短気か」ですからはっきりしていますが、次のように取り組むとよいでしょう。「気の長い・短い」は、心理学ではこれまでどのような分野で扱われてきたのでしょうか。これから研究計画を立てようとするテーマに関連した行動をある程度特定することが必要です。例えば、「気の長い・短い」は、これまでもよく「のろま・ぐず」とか「せっかち・早とちり」などと称されてきたものに近いかもしれないことに気づくでしょう。そこで、その行動は日常生活のどんな場面でよく見かけるか考えてみてください。このように研究しようとする行動とその「気の長い・短い」の（自分なりの）定義をし、仮説を立てて研究内容を絞り込むことです。その後、研究対象、観察場所、時間、観察行動などを考えてください。観察の手法は、自然的観察だけでなく、その行動が良く見かけるように仕掛けた実験的観察でもよいでしょう。組織的な観察法を用いる場合は、観察チェックに必要な行動カテゴリーをどんなものにするか考えることが必要です。その後の結果処理、すなわちデータがどう示されれば仮説が検証されると言えるのかを考えると良いでしょう。

課題１⑵は「食事の好き嫌い」としか指定していないので、「食事の好き嫌い」ということをどのように捉えるかを具体的に考えなければなりませんし、同時に、「影響する要因」といっても、さまざまに考えられるわけですから、どんな要因を取り上げるかということも考える必要があります。この要因を考える際に、先行研究の知見がヒントになるかも知れません。ぜひ論文検索などを使って先行研究を探してみてください。

課題１⑶も、「テレビの影響」といってもいろいろ考えられるので、そこをどう捉えるか、ということがポイントになります。

5）研究についての具体的なイメージができたら、次は「仮説」を立てるという段階です。「仮説」というと難しく聞こえるでしょうが、単純にいえば「どのような結果を予想するか」ということです。課題１⑴でいえば、「気の長い人と短気な人の行動の違いは、こういうところに現れるだろう」と予想することであり、課題１⑵では「食事の好き嫌いは、こういう要因が影響しているのではないか」と考えることであり、課題１⑶では「子どもの攻撃性に影響するのは、テレビのこういう面ではないか」と考えることです。

この仮説がないと、研究計画が立てられないので、頑張って考えてください。

6）実際に研究を行うとなるといろいろ制約が出てきますが、ここでは机上で計画を立てるという課題なので、実行可能かどうかは考えないで、自由な発想で計画を考えてください。上記の仮説が明らかになったとして、いよいよ具体的な研究計画を考えます。**研究計画**の具体的内容については、課題ごとに説明します。<u>仮説を明らかにした上で、</u>

①課題１⑴：１）観察の対象をどのような人にするか　また、その人数

２）観察の場所と時間

３）どのような行動を観察対象とするか◎

４）観察の仕方と記録の仕方◎

5）観察が終わった後で、どのように分析するか

②課題1⑵：1）面接の対象をどのような人にするか　また、その人数

2）面接の内容（具体的な質問）と記録の仕方◎

3）面接調査が終わった後で、どのように分析するか

③課題1⑶：1）どのような子ども（年齢・性別など）を質問紙調査の対象とするか

子どもたちが低年齢で質問紙に答えることが難しい場合は、どのような人たちを質問紙調査の対象とするか

2）どのような質問紙（具体的質問項目）**を使うか◎**

質問紙には、①視聴時間の長さや視聴時間帯あるいは単独視聴が多いのか複数（例えば家族で）視聴が多いのか、視聴番組の内容といった「テレビの見方や内容など」について＝独立変数を測定するための質問項目と②「攻撃性（の量的・質的な違い）」＝従属変数を測定するための質問項目が含まれていることになります。①については、「仮説」にしたがってどのような内容をどのような項目で尋ねたらよいか考えてください。また、②については、全部で6項目とします。そのうち、3項目は「すぐに暴力をふるう」「言葉遣いが荒い」「つまらない、ささいなことでイライラする」とし、残り3項目は攻撃性を調べる上で適切な項目を自分で考えてください。ぜひ心理学関連の辞典、辞書で「攻撃性」の意味を調べて見てください。その際、上で挙げた3項目の単純な言い換え（たとえば、「簡単に手を挙げる」「乱暴な言葉を使う」「ちょっとしたことで腹を立てる」など）にならないよう注意してください。

3）調査の仕方

4）調査が終わった後で、どのように分析するか

どの課題も、教科書のそれぞれの方法の「研究紹介」に示されている研究例を参考に計画を立ててください。紹介されている研究ほど綿密な計画でなくて構いませんが、基本的には同じような内容になります。また、レポートのポイントは、◎がついた項目です。

7）レポートの内容

レポートは、次のような内容にしてください。

①その課題を選んだ理由

②研究の目的と仮説

③研究計画

④その課題に取り組んで考えたこと、難しかった点、工夫したところ、疑問、感想など

課題2（スクーリングを受講する人が解答）

「研究法AorI」のスクーリングでは、「研究法の成り立ち」「観察法」「面接法」「質問紙法」に関して、その内容や効用・限界について解説していきます。また、この4つのテーマについて、より具体的に理解してもらうために、適宜実習を行います。そして、スクーリング終了後、「観察法」「面接法」の方法を実際に用いた研究論文を配布します。課題2は、これらの配布された研究論文の中から1つを選び、ま

ず、その研究の①目的、②仮説、③仮説を確かめるために用いられている方法とその詳細についてまとめます。さらに、④あなたなら仮説を確かめるためにどの方法を用いるかについて考えを述べることが課題となります。

レポートは、次のような内容で作成してください。

①研究の目的

心理学研究においては、研究者が関心を向けた要因（従属変数）に対して影響を及ぼす別の要因（独立変数）が考えられ、この独立変数と従属変数の関係について検討が行われます。たとえば、『福祉心理学科スタディ・ガイド』Ⅲ章の「心理学研究法Ⅰレポート作成のためのヒント」について見てみると、清兵衛は「桶の売り上げ」に関心を向け（従属変数）、それに影響を及ぼす要因（独立変数）として、「風が吹くかどうか」や「店の雰囲気」を取り上げています。では、選択した研究論文において、研究者は**独立変数、従属変数としてどのような要因を取り上げているのでしょうか。**言い換えれば、**どのような要因とどのような要因との関係を見ること**が目的となっているのでしょうか。この点についてまとめてください。

なお、「①研究の目的」と次に述べる「②研究の仮説」は、研究論文では多くの場合、「問題と目的」の中に書かれています。また、研究によっては論文の題目を見るだけで、独立変数や従属変数が何であるかわかる場合があります。たとえば、「○○が××に及ぼす影響」といった題目であれば、○○が独立変数であり××が従属変数であることがわかります。

②研究の仮説

「①研究の目的」で述べた独立変数と従属変数について、独立変数は従属変数に対してどのような影響を及ぼすのでしょうか？　この点について研究者が調査前に考える「仮の答え」が仮説となります。たとえば、先ほどの例を再び用いると、清兵衛は「風が吹くかどうか」という独立変数が「桶の売り上げ」という従属変数に対して、「風が吹くと桶の売り上げが下がってしまう」という方向ではなく、「風が吹くと桶の売り上げが上がってくれる」という方向で影響を及ぼすことを仮説として考えています。そして、実際の研究では、データを集め分析した結果に基づいて、その仮説が正しいかどうかについての検討が行われます。ここでは、選択した研究論文の中でどのような仮説が考えられているかについてまとめてください。

なお、研究論文においてはこの仮説が必ずしも明確に書かれているわけではありません。その場合、研究者がどのような仮説を考えていたかについて論文の中から読み取ることが重要となります。このレポート課題でも、「①研究の目的」で明らかにした独立変数と従属変数との関係について、つまり、**独立変数が従属変数に及ぼす影響の方向**について読み取り明記してください。

③研究の方法

ここでは、大きく［A. 調査の手続き］と［B. 独立変数と従属変数とを測定するために用いられた尺度］についてまとめてください。以下、「観察法」「面接法」それぞれについて詳しく説明していきます。

「観察法」について

［A. 調査の手続きについて］

1）どのような人たちが観察の対象となっているか。また、その人数

2）観察の場所や状況、所要時間

3）観察方法（自然観察法か実験的観察法か）

4）観察の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている行動カテゴリーや基準。そして、その行動カテゴリーや基準の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容、そして、従属変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的内容を分けてまとめてください。

「面接法」について

[A. 調査の手続きについて]

1）どのような人たちが面接の対象となっているか。また、その人数

2）面接が行われた時期、所要時間

3）面接方法（構造化面接か非構造化面接か半構造化面接か）

4）面接の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている質問の具体的内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた質問内容と、従属変数を調べるために用いた質問内容を分けてまとめてください。

④あなたなら「面接法」「観察法」のうちどの方法を用いるか

選択した研究論文では、「観察法」「面接法」のいずれかの方法を用いて研究が行われています。「観察法」「面接法」にはそれぞれそれを用いる効用と限界があります。つまり、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」さらには「どのような仮説を確かめたいのか」などについて、得意な部分と不得意な部分がそれぞれあるのです。そして、研究計画を立てる際にはこのような各研究法の効用と限界についての理解に基づき、研究の方法を選択することが必要になります。

では、選択した研究論文と同じ目的や仮説のもとで研究計画を立てる場合、あなたなら「面接法」と「観察法」のうちどちらの方法を選択するでしょうか。ここではその方法と選択理由について述べてください。もちろん、研究論文と同じ方法を選択しても構いません。ただし、その選択理由として「選択した論文で用いられていた方法であるため」というのはやめてください。たとえば、「この研究は○○（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）であるため、××という特徴を持つ“面接法”（“観察法”）を用いるのが適切だと考える」といった形でまとめるようにしてください。さらに、「この研究は○○（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）であるため、△△という特徴を持つ“面接法”（“観察法”）はあまり適切ではないと考える」といった主張を付け加えても構いません。

科目修了試験

■評価基準

・問題設定の条件を満たしているか。

・的確な言葉を用いて、論理的に説明されているか。

・具体例を挙げてという設定に対し、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。

以上の観点によって評価を行う。

心理学研究法B

科目コード	FB4539

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR(講義)	3年以上	吉田　綾乃

※2017年度以前・2018年度以降に入学した方どちらも履修登録できます。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

私たちは、普段の会話において「あの人は社交的だ」、「自尊心が低い」などの表現を用いることがあります。“社交的”や“自尊心”は、それ自体は見ることも触ることもできない抽象的な観念、すなわち心理学的構成概念です。これまでに、心理学的構成概念を測定する心理尺度が数多く開発されてきました。心理尺度を開発するときには、測定したい心理現象を理論的構成概念として明確に定義し、それを反映する質問項目を設定するための一定の手続きが必要になります。そして、心理尺度の精度や適切性の指標となるのが「妥当性」と「信頼性」です。

この講義では、統計ソフトを用いてデータ処理や解析を行いながら、心理学的構成概念がどのように質問紙法によって実現されるかを体験します。また、心理尺度の構成概念妥当性と信頼性について統計的な検証を行います。これらを通して、心理学的研究方法のひとつである質問紙法に関する基礎的知識を習得し、質問紙法を用いた学術論文が読めるようになること、また、質問紙法による研究を実施できるようになることを目指します。

【スクーリングで学ぶ内容】

質問紙の作成から、実施、データ入力、データ処理、統計的なデータ解析までの一連の過程を学び、卒業研究等で心理尺度を用いた質問紙調査を行う場合の基礎的知識を習得します。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】

質問紙法を用いた論文を講読する際、研究者がどのような意図で文章を書いているか、統計を用いているかを読み取るために必要な基礎的用語や知識について学習します。

■到達目標

1）心理学的構成概念について説明できる。
2）質問紙法を用いた学術論文を読むための基本的用語について説明できる。
3）質問紙法を用いた学術論文で用いられることが多い統計的手法についてある程度説明できる。
4）仮説に基づいて質問項目を準備し、適切な方法で調査を行うことができる。
5）質問紙調査によって得られたデータを仮説に基づいて分析し、結果を報告することができる。

■教科書

浦上昌則・脇田貴文著『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方　改訂版』東京図書、2020年

（最近の教科書変更時期）2021年４月

（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、上記教科書は参考程度に使用します。2022年度までは、初版の所持でも支障が無いように配慮します。スクーリング用の資料を配付します。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50％＋スクーリング評価50％

■参考図書

スクーリングの時に配布する資料は、以下の２冊を主に参考にしています。

村田光二・山田一成編『シリーズ・心理学の技法　社会心理学研究の技法』福村出版、2000年

清水裕士・荘島宏二郎編『心理学のための統計学３　社会心理学のための統計学　心理尺度の構成と分析』誠信書房、2017年

方法論をより深く理解したい方へお勧め：

高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法　心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ、2015年

安藤清志・村田光二・沼崎誠編『補訂新版　社会心理学研究入門』東京大学出版会、2017年

村上宣寛著『心理尺度のつくり方』北大路書房、2006年

統計の入門書としてお勧め：

岩淵千明編『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年

川端一光・荘島宏二郎編『心理学のための統計学１　心理学のための統計学入門　ココロのデータ分析』誠信書房、2014年

スクーリング

■スクーリング受講条件

1）スクーリング申込締切日までに「心理学概論Ａ」「心理学概論Ｂ」「福祉心理学」「社会・集団・家族心理学Ａ（社会・集団心理学）」「心理学実験ⅠＡ」「心理学研究法Ａ」「心理学統計法」　７科目の単位修得。

2）「心理学実験ⅠＢ・ⅡＡ・ⅡＢ」のスクーリング受講済。

3）上記を除く福祉心理学科　専門必修科目、選択必修科目、専門選択科目Ａ群から３科目分すべてのレポート提出。

※2017年度以前入学者は１）「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅰ」「心理学統計法」６科目の単位修得済、２）「心理学実験Ⅱ」のスクーリング受講済、３）の条件は上記と同じとなります。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	質問紙調査法の概要の説明	心理学的構成概念の測定について学ぶ
2	質問紙の作成	研究仮説に基づいた調査項目の作成について学ぶ
3	質問紙の実施	質問紙調査の実施について学ぶ
4	データ入力・整理	データ入力と整理について学ぶ
5	データ処理・解析①	因子分析、信頼性分析などについて学ぶ
6	データ処理・解析②	相関分析などについて学ぶ
7	データ処理・解析③	回帰分析などについて学ぶ
8	統計的結果の解釈、まとめ	統計的結果の解釈について学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配布資料をもとに進めます。グループワークを行います。仮説に基づく質問項目の作成、実施、データ入力、データ処理、データ解析と解釈までの一連の過程を実践的に学びます。事前に質問紙法を用いた研究論文を講読することを求めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。教科書、講義資料の持ち込み可。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書ｐ.89以降に掲載されているサンプル論文のいずれかを必ず読んでください。その後、第１章～第８章を読んでおくこと。（学習時間の目安10時間程度）

事前に、教科書に掲載されている論文以外の質問紙調査を用いた研究論文を読んでおくとスクーリングの理解が深まります。（学習時間の目安 3 ～ 5 時間程度）

論文検索サイト：Google Scholar　https://scholar. google. co. jp/

J-STAGE　https://www. jstage. jst. go. jp/browse/-char/ja/

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の第 4 ～第 8 章までを復習してください。

期日（受講年度の 1 ／15）に間に合うようにレポート課題に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	論文を読む （0 章、ほか）	数値データをあつかった研究論文を読む。	第 0 章を読んだ後、 p. 89以降に掲載されているサンプル論文を読み、論文がどのような構成で書かれているのか確認してください。知らない言葉にマーカーを入れて読むと良いでしょう。
2	論文とは何か① （1 章1, 2）	研究と論文の関係と論文の構成を理解する。	研究には仮説生成型の研究と仮説検証型の２つの形式があることを理解しましょう。１回目に講読した論文の構成を確認してください。
3	論文とは何か② （1 章3, 4）	論文の表現や読み方について学ぶ。	論文ならではの表現を自身でも書くことができるようにしましょう。客観的かつ正確な表現の重要性を理解しましょう。また、将来、論文を批判的に読むことが出来るように、心理学や関連分野の知識も同時に深めるようにしてください。
4	研究における測定① （2 章 1）	研究における測定の役割を理解する。	観測変数と潜在変数の違いを理解しましょう。また、心理学では構成概念を扱っていること、それゆえに定義が重要であることを再確認してください。
5	研究における測定② （2 章 2）	心理測定とその方法を学ぶ。	質問紙で用いられる代表的な回答方法を学びましょう。質問紙法の主要なメリットとデメリットを理解しましょう。面接法や観察法の特徴と比較しながら確認すると、理解が深まります。
6	研究における測定③ （2 章3, 4）	心理測定で得られる数値データの種類を学ぶ。	４つの尺度水準それぞれの特徴を理解しましょう。また、得られたデータに対して、信頼性と妥当性を検証することの重要性を再確認してください。信頼性と妥当性の関連性についても説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
7	測定から統計へ① （3章1, 2, 3）	記述統計量について理解する。	論文には必ず記述統計量が記載されています。各数値の意味を再確認してください。特に、標準偏差と分散はしっかり復習してください。
8	測定から統計へ② （3章4）	統計的推測について理解する。	なぜ統計的推測や検定を行うのかを理解しましょう。また、統計的検定の流れを確認するとともに、帰無仮説、対立仮説、有意確率、有意水準などの基本的用語の意味を理解してください。
9	因子分析① （4章1．2．3 6章2．3）	サンプル論文1を読み、探索的因子分析について理解する。	心理尺度を用いた論文では、因子分析が頻繁に用いられています。因子分析の基本的な考え方についてしっかり理解するようにしましょう。
10	因子分析②, t検定 （5章1．2．3）	サンプル論文2を読み、確認的因子分析と、*t*検定について理解する。	サンプル論文2の*t*検定の結果の書き方を確認し、説明を読むと良いでしょう。探索的因子分析と、研究的因子分析の違いを理解することがポイントです。
11	1要因分散分析 （6章1．2．3）	サンプル論文3を読み、1要因分散分析について理解する。	サンプル論文3をしっかり読んでください。1要因分散分析は、*t*検定と同様に母集団における平均値の差を検討する方法ですが、同時に比較できる群の数が違います。それぞれの分析の相違点についてしっかり説明できるようにしましょう。
12	相関 （6章1．2．3）	サンプル論文3を読み、相関係数と偏相関係数について理解する。	相関は2つの変数間の関係を表現する言葉のひとつですが、“相関”という言葉にはさまざまな関係が含まれていることを理解してください。相関関係と偏相関関係の異同の理解も大切です。2変数間の関連の強さを視覚的にイメージできるようになると良いでしょう。
13	2要因分散分析 （7章1．2．3）	サンプル論文4を読み、2要因分散分析とχ^2検定について理解する。	サンプル論文4で用いられている2要因分散分析も頻繁に用いられる分析のひとつです。ポイントは主効果と交互作用を理解することです。交互作用には様々なパターンがあることを理解しましょう。
14	重回帰分析 （8章1．2．3）	サンプル論文5を読み、重回帰分析について学ぶ。	サンプル論文5では、相関分析の後に重回帰分析が行われています。なぜ「相関分析→重回帰分析」の順番で掲載されているのか、それぞれの分析の特徴を踏まえて理解してください。重回帰分析も調査系論文で非常に使用頻度が高い分析ですが、実施における留意点を理解する必要があります。留意点をよく読み、論文を批判的に読む際に役立てましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
15	まとめ	研究論文を再読し、復習を行う。	再度サンプル論文を読んでください。１回目にマーカーを付けた箇所を理解できているかどうか確認してください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	スクーリング時のデータ分析結果について報告書を作成してください。報告書の構成は、問題、方法、結果、考察、引用文献です。スクーリング時に配付した関連論文を読み、報告書に内容を反映させることが求められます。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

１単位めの課題は教科書の範囲内の学習で対応できるものになっています。教科書をよく読み、取り組んでください。２単位めの課題は、スクーリングにおけるデータ分析結果について、研究論文のレベルを目指した報告書を作成することを求めます。スクーリング時に２単位めの報告書作成のための関連資料を配付します。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

スクーリング時に行ったデータ分析の結果について報告書を作成し、期日（受講年度の１／15）までに提出することを課題とします。詳細はスクーリング時に指示しますが、以下の点について気を付けながら報告書を執筆してください。

表紙に、テーマ（ＡがＢに及ぼす影響、など）、グループ名、学籍番号、氏名を書いてください。報告書は【問題】、【方法】、【結果】、【考察】、【引用文献】の構成でまとめてください。

１段落１メッセージの基本を守り、段落構成を工夫してください。箇条書きは使用しないでください。

【問題】では、実施した質問紙調査の具体的目的を、スクーリング時に配布した先行研究の内容をレビューしながら論じてください。各自で調べた内容について加筆していただいてもかまいません。測定する心理学的構成概念の定義を、必ず出典とともに明記してください。仮説は問題の最後に記してください。

【方法】は過去形で論じてください。調査時期、調査対象者、測定項目、手続きについて明瞭に文章で示してください。調査対象者は男女の各人数、平均年齢、標準偏差を示してください。測定項目は、使用した既存尺度の出典を明記し、何件法かを示します。「全く当てはまらない(1)」など選択肢も具体的に記

してください。測定尺度の具体例も示しましょう。

【結果】も過去形で論じてください。因子分析、信頼性分析、相関分析、回帰分析（あるいは重回帰分析）の結果を正確に記してください。統計的分析によって得られた事実のみを示し、解釈は結果では示さないようにしましょう。図表を作成するように指示があった場合には、図表作成ルールに則り、記載してください。

【考察】では、まず始めに、研究目的を踏まえて仮説が支持、不支持であったのかを明記してください。その上で、なぜそのような結果が得られたのか客観的な考察を行ってください。自身の考察を裏付ける第三者の主張（論拠）が出典とともに示されていることが望ましいです。また、研究結果の一般化可能性、実施した研究の限界について多角的に論じてください。

【引用文献】は、文中に引用した文献について心理学分野の引用ルールに則り、正確に記してください。

■レポート評価の基準

2 単位めレポート課題の詳細な評価基準は、スクーリング時に配付します。

社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）2018～			科目コード	FC2540
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	1年以上	吉田　綾乃	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p. 109「社会心理学」（科目コード：FC2514）を参照してください。
※会場によりスクーリングを別教員（高口央先生）が担当します。

科目の概要

■科目の内容

社会心理学は、人間の社会的行動の法則性を明らかにする学問です。私たちの社会的行動には不可解な現象が数多く存在します。それらの行動は多くの要因の複雑な影響を受けています。社会心理学は様々なアイディアに基づいた精緻な実験や調査によって、その現実を取り出し、背後にあるメカニズムを明らかにしようと試みています。講義では、できるだけ多くの興味深い研究を具体的に紹介しつつ、私たちの持つ心のメカニズムについて考えます。そして人間の社会的行動について客観的に考察する態度を養うことを目的とします。

■到達目標

1）対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解し、説明できる。
2）人の態度および行動に関わる諸要因について理解し、説明できる。
3）集団および文化が個人に及ぼす影響について理解し、説明できる。

■教科書

池上知子・遠藤由美著『グラフィック　社会心理学　第2版』サイエンス社、2008年
（最近の教科書変更時期）2009年4月
（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50％＋スクーリング評価 or 科目修了試験50％

■参考図書

基礎編：初めて学ぶ人へ

吉田寿夫著『人についての思い込み　Ⅰ・Ⅱ』北大路書房、2002年

心理学ジュニアライブラリのシリーズの一冊であり、読みやすいでしょう。

「対人認知」に関する課題の参考になります。

岡本浩一著『社会心理学ショート・ショート』新曜社、1986年

トピック中心のわかりやすい内容になっています。

認知的不協和理論や態度変容に関する実験内容が詳細にまとめられています。

「態度変容」に関する課題の参考になります。

藤本忠明・東正訓著『ワークショップ　人間関係の心理学』ナカニシヤ出版、2004年

社会心理学の研究が人間関係の問題と関連づけて分かりやすく紹介されています。

Q&Aがあり、自分の理解度を評価することができます。

応用編①：テキストだけでは物足りない人へ

山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書、2001年

概念の正確な把握や知識の整理に有効です。辞書としても利用できます。

池田謙一・唐沢　穣・工藤恵理子・村本由紀子著『社会心理学』有斐閣、2010年

幅広いテーマを取り上げており、広く社会心理学の知識を深めたい方にお勧めします。

北村英哉・内田由紀子著『社会心理学概論』ナカニシヤ出版、2016年

「社会心理学のしっかりとした決定版の書籍を」というミッションのもとつくられた一冊です。

応用編②：社会心理学およびレポート課題に関連する知識を深めたい人へ

E. アロンソン著『ザ・ソーシャル・アニマル（第11版）ー人と世界を読み解く社会心理学への招待』サイエンス社、2014年

著名な社会心理学者による読み応えのある一冊です。

小坂井敏晶著『社会心理学講義』筑摩書房、2013年

フランスのパリ第八大学で教鞭をとる日本人社会心理学者によるテキストです。

T. ギロビッチ著『人間この信じやすきもの』新曜社、1993年

人間の認知の偏りがなぜ生じるのか、いかに克服するかを論理的に解説しています。

R. チャルディーニ著『影響力の武器　なぜ人は動かされるのか（第 2 版）』誠信書房、2007年

R. チャルディーニ・N. J. ゴールドスタインほか著『影響力の武器　実践編』誠信書房、2009年

態度形成や態度変容について幅広い視点から理解することができます。

S. アイエンガー著『選択の科学』文藝春秋、2010年

盲目の女性社会心理学者による「選択」に関する研究が面白くまとめられています。

R. バウマイスター・ J. ティアニー『WILLPOWER意志力の科学』インターシフト、2013年

影響力のある社会心理学者のひとりであるバウマイスターの研究がわかりやすくまとめられています。意志力について悩んだ事のある方にお勧めします。

スクーリング

▶仙台・オンデマンド開講分　　吉田　綾乃

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、社会心理学における研究アプローチの特徴を説明した後に、①対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程を理解するために、社会的認知や自己に関連する実証研究や理論を紹介します。次に、②人の態度および行動に関わる諸要因について理解するために、態度形成や態度変容に関する諸理論を具体的事例と関連付けながら紹介します。さらに、③集団および文化が個人に及ぼす影響について理解するために、社会的影響や集団過程に関する古典的研究から、文化心理学における新しい研究知見までを幅広く取り上げます。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	社会心理学とは 対人認知①	社会心理学研究の視点 ゲシュタルト理論、期待効果、ネガティビティ・バイアスなど
2	対人認知② 態度①	スキーマ、ステレオタイプ、偏見の自己制御モデルなど 認知的不協和理論、自己正当化、説得など
3	態度②	承諾を生むルール（返報性・一貫性）、プロパガンダなど
4	自己	自己認知、自己評価、自己と動機づけなど
5	対人行動	援助行動と攻撃行動など
6	集団と個人①	他者存在の影響、集団意思決定、同調など
7	集団と個人②	リーダーシップ、集団間差別など
8	文化と人間　まとめ	文化的自己観など　心理学の知識をいかすために
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料により講義を進めます。現実の出来事や自分自身のものの見方や行動を見直すきっかけになるような社会心理学の研究成果を紹介していきます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（論述式、教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書の第１部１章・２章・３章、第３部８章・10章を中心に読んできてください。

▶東京開講分　　高口　央

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	社会心理学とは	研究視点、研究方法
2	自己と対人認知	自己評価、印象形成
3	人間関係	関係の維持と崩壊、投資モデル
4	態度形成	認知的不協和理論、説得技法
5	社会的影響	社会的促進・抑制、社会的手抜き・補償
6	集団と個人①	機能論的リーダーシップ理論、コンティンジェンシーモデル、共有的リーダーシップ理論
7	集団と個人②	同調行動、社会的アイデンティティ理論、集団間差別
8	まとめ・質疑応答	文化的自己観など　心理学の知識をいかすために
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況30％＋スクーリング試験70％（持込可）。試験では、到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書の序章、第１部１章、第２部５章、６章、第３部９章、第１部３章、第３部10章を中心に読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

参考図書など、講義内容に関連する他の書籍資料も読むなど、講義内容から、さらに深く学びたいと思ったテーマについて、自分なりにも調べてみてください。

■参考図書

唐沢かおり編『朝倉心理学講座７　社会心理学』朝倉書店、2005年

池田謙一・唐沢穣・工藤恵理子・村本由紀子著『社会心理学』有斐閣、2010年　など

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	社会心理学とは(序章)	社会心理学の学問的特徴を理解し、社会心理学の研究アプローチの特色、その背景にある理論や人間観を理解する。 **キーワード**：相関的研究、実験的研究、実験者効果、「場」理論、素朴な科学者、認知的倹約家、動機づけられた戦術家　など	社会心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。社会心理学における人間観の変遷について理解しておくと、後の学びにおいて、研究者が提唱する理論やモデルが「なぜ」「どのように」変化したのかについての理解が容易になるでしょう。
2	対人認知（第１部１）	対人認知の心的過程について学ぶ。印象形成の古典的理論、対人記憶の主要な理論、対人認知のプロセスモデルの特徴を理解する。対人認知の歪みおよび対人認知の個人差が生じるメカニズムについて理解する。 **キーワード**：ゲシュタルト理論、ネガティビティ・バイアス、対人記憶のネットワークモデル、期待効果、アクセシビリティ効果、ステレオタイプ、２過程モデル、暗黙の人格理論、認知的複雑性　など	私たちが「ありのまま」に他者を見ることが如何に困難なことであるのかについて、先行研究を通して理解しましょう。そして、自分自身が持っている対人認知の「クセ」について考えてみましょう。
3	社会的推論①帰属（第１部２）	他者を含む社会的事象一般に対する推論プロセスの特徴について学ぶ。 **キーワード**：内的帰属、外的帰属、対応推論モデル、共変モデル、スキーマ、自動的特性推論、オートマティシティ、プライミング　など	自分自身の経験や具体的な社会的出来事を思い浮かべながら帰属過程の特徴について理解すると分かりやすいでしょう。私たちが日常的に行っている推論が自動的かつ直感的なプロセスによって支えられていることを理解することがポイントです。
4	社会的推論②バイアス（第１部２）	社会的推論におけるエラーとバイアスに関与している心理要因について学ぶ。推論の歪みによる誤った信念や知識の形成が生じるメカニズムについて理解する。 **キーワード**：ヒューリスティックス、基本的帰属のエラー、行為者ー観察者バイアス、セルフ・サービングバイアス、コントロール幻想、合意性バイアス、錯誤相関、自己中心性バイアス、仮説検証型判断　など	バイアスやヒューリスティックスがなぜ生じるのかについて、認知的要因と動機的要因に着目しながら理解するとよいでしょう。バイアスやヒューリスティックスを低減するためにはどうすればよいか自分なりに考えてみましょう。
5	態度（第１部３）	態度がどのように形成されるのかについて学ぶ。態度の強度や持続性、態度と行動との一貫性に及ぼす認知過程の影響について理解する。 **キーワード**：認知的一貫性理論、認知的均衡理論、認知的不協和理論、精緻化可能性モデル　など	「◯◯が好きだ」「××が嫌いだ」といった態度はどのようにして形成されるのでしょうか。説得効果はどのような要因から影響を受けているのでしょうか。誰もが日常生活の中で経験している「態度形成」と「態度変容」について認知的一貫性の観点から考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	説得的コミュニケーション（第1部3）	説得過程の規定要因について、メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因の観点から学び、態度変容の心的メカニズムについて理解する。 **キーワード**：メッセージの反復効果、リアクタンス、信憑性、スリーパー効果、予告、接種理論、自我関与、態度のアクセシビリティ理論　など	普段の生活のなかで行われている説得だけではなく、企業や政府、メディアなどが行っている説得事例についても考えてみましょう。現代社会ではどのような場面で説得が行われているでしょうか。個人間の説得だけではなく社会的な場面で行われている説得についても考えてみましょう。
7	感情（第1部4）	感情の生起過程および、情報処理アプローチの観点から感情が人の思考や判断、行動に及ぼす影響について理解する。 **キーワード**：シャクターの情動2要因説、認知－感情独立仮説、気分一致効果、感情ネットワークモデル、気分効果の非対称性、気分維持修復動機　など	近年、「感情」が私たちの思考や行動に大きな影響を及ぼしていることが明らかになってきました。主観的な「感情」経験について、感情が持つ機能と特徴を理解することを通して客観的に考えてみましょう。
8	自己認知（第2部5）	自己理解に社会的・文化的要因が及ぼす影響について学ぶ。自己認知の情報源、自分を把握するための主な様式、セルフ・スキーマが自他関連情報の処理に及ぼす影響について理解する。 **キーワード**：自己概念、自己知識、個人的アイデンティティ、社会的アイデンティティ、自己カテゴリー化理論、自己ステレオタイプ化、セルフ・スキーマ、自己呈示、自己概念の複雑性　など	私たちは誰もが「自分はこのような人間だ」という考えを持っています。自分自身に対する認知が「どのように」形成されたのか、どのような場合に変化するのかについて考えてみましょう。「自己」に対する認知が、自分だけではなく、他者とのコミュニケーション場面においても影響を及ぼしていることを理解することが重要です。
9	自己評価（第2部6）	自己評価について、自尊感情、社会的比較理論、自己評価維持モデル、自己評価における重要他者の影響、愛着の観点から学ぶ。自己評価が心の健康を左右するメカニズムについて理解する。 **キーワード**：自尊感情、ソシオメータ理論、顕在的自尊感情、潜在的自尊感情、自尊感情の功罪、社会的比較、自己評価維持モデル、重要他者、愛着、内的作業モデル　など	自己評価は自尊感情だけではなく対人コミュニケーションや心の健康とも密接に関わっています。自己評価が持つ様々な機能について学び、自己評価を適切なレベルに維持することの重要性について考えてみましょう。
10	自己と動機づけ（第2部7）	自己認知に関わる動機について学ぶ。自己認知が自己関連情報の選択、判断、記憶、評価に及ぼす影響について理解する。 **キーワード**：自己査定動機、自己確証動機、自己高揚動機、ポジティブ幻想、自己呈示、セルフ・ハンディキャッピング、自己制御　など	私たちは「自分について知りたい」「自分がよい人間だと思いたい」など様々な自己に関連する動機を持っています。自己関連動機がどのような行動と結びついているのか理解しましょう。また、社会生活における自己制御の重要性について考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	対人行動（第2部8）	自己意識が行動に及ぼす影響、援助行動および攻撃行動の生起メカニズム、社会的排斥がもたらす諸問題について学び、他者に対する行動を規定する要因について理解する。 **キーワード**：自己意識、私的自己意識、公的自己意識、社会的不安、没個人化、自己開示、返報性、援助行動、攻撃行動、社会的排斥　など	他者に対する好ましい行動や好ましくない行動は「なぜ」生じるのでしょうか。自己意識や社会的不安、没個人化などが他者に対する行動に及ぼす影響を理解し、好ましくない行動を抑制するための対策について考えてみましょう。
12	人間関係（第2部9）	人間関係の成立と維持、発展に関与する要因およびその背後にある原理について学ぶ。 **キーワード**：人格的特徴、身体的特徴、類似性－魅力仮説、熟知性、単純接触効果、近接性、報酬性、SVR理論、社会的交換理論、投資モデル、衡平モデル、互恵モデル、対人的葛藤、錯誤帰属、恋愛の色彩理論　など	人間関係を説明するために様々なモデルが提唱されています。各モデルが検討している人間関係の種類や進展度に注意しながら理解すると分かりやすいでしょう。また、恋愛関係、友人関係および勢力関係において重要となる要因の違いを理解しましょう。
13	集団と個人（第2部10）	集団が個人に及ぼす影響および個人が集団全体に及ぼす影響について学び、集団と個人の関係における相互規定性を理解する。 **キーワード**：社会的促進、社会的抑制、社会的手抜き、社会的補償、社会的インパクト理論、集団思考、集団極性化、集団規範、同調、少数派の影響、リーダーシップ、社会的ジレンマ、内集団バイアス、社会的アイデンティティ理論　など	集団のなかに入ると「なぜ」ひとりの時とは異なる行動が生じるのでしょうか。集団が個人に及ぼす影響の良い面と悪い面について考えてみましょう。また、個人が集団全体を動かすために重要となる要因について理解しましょう。
14	健康と幸福（第2部11）	人々の精神的健康や幸福に社会構造や心の社会性が及ぼす影響について学ぶ。 **キーワード**：心理的免疫システム、ストレス、コーピング、ソーシャル・サポート、親密関係の負の効用、反実思考　など	親密な対人関係はストレス源となることもあれば、ストレスに対処するための処方箋になることもあります。どのような場合に、対人関係が薬あるいは毒になるのかについて考えてみましょう。
15	文化と人間（第2部12）	文化と人間に対する社会心理学の考え方を学ぶ。文化に対するアプローチの仕方の違いを理解する。 **キーワード**：普遍主値、文化相対主義、文化心理学、文化的自己観、集団主義－個人主義、異文化適応	私たちを取り巻いている「文化」は知らず知らずのうちに私たちの思考パターンや行動に影響を与えています。文化がどのように人々の心的過程や行動に影響を及ぼしているのか、また人々の行動が文化に及ぼす影響について理解しましょう。そして、文化と人間との相互規定性について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	態度変容における説得の影響について、自分自身が経験した事例をあげながら説明しなさい。また、説得を防ぐための方法について自分の考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストを読む際には、その内容が日常生活のどのような場面について述べているのか、具体的に思い浮かべながら読んでください。レポート課題は、誰もが日常的に経験している、態度を決める、態度を変えるといった「態度形成・態度変容」に関するものです。自分の日々の経験を、社会心理学の理論や研究知見から捉えなおしてみてください。

レポート作成にあたっては、教科書だけに頼るのではなく、他の文献も参考にするようにしてください。また、自分自身の言葉で述べることが最も大切ですが、テキストの内容を理解した上でまとめていることがわかるように、テキストに紹介されている社会心理学的な用語を用いて、その現象が「なぜ」生じたと考えられるのか、ご自身の考えをまとめてください。

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

私たちは、「この映画が好きだ」、「この意見に賛成である」など、さまざまな対象に対して何らかの態度をもっています。しかしながら、このような態度は、常に変わらないわけではありません。これまでに周囲の人から説得され、自分の態度を変化させたことがある人は多いでしょう。このレポートでは、皆さんがこれまでに経験した「態度変容」について「説得」という側面から考えていただきます。

レポートを作成する際には、テキストの第 3 章：態度を参考にしてください。説得が成功するか否かは、**メッセージの要因、送り手の要因、状況要因、受け手の要因**によって左右されます。これまでに自分が経験した説得（説得する側・される側のどちらの経験でもよい）による態度変容が、どのような要因によってなぜ生じたのか、テキストに紹介されている、**メッセージの反復効果、恐怖喚起、リアクタンス、信憑性、スリーパー効果、自我関与、気分状態**などのキーワードを用いながら、客観的かつ論理的に考えてみてください。その他にも、**認知的不協和理論、精緻化可能性モデル**などの理論に基づいた考察もよいでしょう。また、今日でも報道が続いている振り込め詐欺など、悪質な説得を避けるためにはどうすればよいのか、**直接経験、予告、被説得性、接種理論**に関する記述などを参考に、ご自身の考えを述べてください。

科目修了試験

■評価基準

以下の項目を考慮しながら総合的に判断します。

1）出題意図の正しい理解

2）心理学的概念に対する正しい理解

3）解答内容の論理性と説得性

4）主張の論拠が示されているかどうか（引用あるいは参照された研究の適切性など）

社会心理学 ～2017

科目コード	FC2514

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	吉田　綾乃

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2018年度以降に入学した方は、p.100「社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」（科目コード：FC2540）を参照してください。
※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.100「社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）」（科目コード：FC2540）を参照してください。

■レポート課題

1 単位め	対人認知における歪みがなぜ生じるのか、自分自身が経験した事柄をあげながら説明しなさい。また、その克服方法について自分の考えを述べなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

テキストを読む際には、その内容が日常生活のどのような場面について述べているのか、具体的に思い浮かべながら読んでください。レポート課題は、誰もが日常的に経験している、他者を判断する、他者から判断されるという「対人認知」に関するものです。自分の日々の経験を、社会心理学の理論や研究知見から捉えなおしてみてください。

レポート作成にあたっては、教科書だけに頼るのではなく、他の文献も参考にするようにしてください。また、自分自身の言葉で述べることが最も大切ですが、テキストの内容を理解した上でまとめていることがわかるように、テキストに紹介されている社会心理学的な用語を用いて、その現象が「なぜ」生じたと考えられるのか、ご自身の考えをまとめてください。

1単位め アドバイス

私たちは、「あの人は冷たい人だ」と他者を判断することもありますが、逆に「あなたは冷たい人だ」と他者から判断されてしまうこともあります。このような他者の判断（対人認知）は、人が自分の中で「判断」した結果であり、「事実」とは異なっている可能性があります。皆さんも、周囲から誤解されていると感じたり、あるいは自分が他者を誤解していたことに気がついたことがあるのではないでしょうか。このレポートでは、皆さんがこれまでに経験した対人認知の歪みについて、社会心理学的な側面から考えていただきます。レポートを作成する際には、テキストの第1章：対人認知を参考にしてください。テキストに紹介されているように、対人認知の歪みは、期待効果、ステレオタイプ、暗黙の人格理論、ネガティビティ・バイアスなどによって引き起こされることが明らか

になっています。また、この課題はテキストの第 2 章：社会的推論も参考になります。たとえば、対人認知の歪みをもたらす要因として、スキーマ、錯誤相関、仮説確証型判断、仮説確証バイアスなどの影響を考えることができます。これまでに自分が経験した対人認知（判断する側・される側のどちらの経験でもよい）の歪みが、なぜ生じたと考えられるのか、テキストに紹介されているキーワードを用いながら、客観的かつ論理的に考えてみてください。そして、そのような対人認知の歪みを克服するためには、どうすればよいのか、認知的複雑性や、印象形成の 2 過程モデルなどの研究も参考にして、ご自身の考えを述べてください。

2単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

社会・集団・家族心理学B（家族心理学）2018～			科目コード	FC2541
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	1年以上	三谷　聖也	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p.117「家族心理学」（科目コード：FC2515）を参照してください。
※2021年度より担当教員が変更になります。教科書、レポート課題等に変更はありません。

科目の概要

■科目の内容

家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。

家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について扱っていきます。

■到達目標

1）システムとしての家族を説明することができる
2）家族が個人に及ぼす影響を説明することができる
3）家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる

■教科書

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学ー家族システムの発達と臨床的援助（第2版』）有斐閣、2019年

（最近の教科書変更時期）2020年4月

（スクーリング時の教科書）上記の教科書を持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

1）岡堂哲雄編『家族心理学入門（補訂版）』培風館、1999年

2）平木典子・中釜洋子著『家族の心理　家族への理解を深めるために（ライブラリ　実践のための心理学３）』サイエンス社、2006年

その他は教科書に参考提示してある文献をみてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、前半部で家族をシステムとして理解する視点を、後半部では事例を交えながら家族面接の方法を扱います。スクーリングを通じて家族を理解し、援助するための視点を習得してほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	家族システム	家族とは何か、家族心理学はどのような学問かを学ぶ
2	コミュニケーション	コミュニケーション理論の基礎を学ぶ
3	家族関係の査定	ジェノグラムの書き方、見立て方について学ぶ
4	家族面接の基本姿勢	家族面接の基本姿勢を学ぶ
5	家族面接の方法①	ブリーフセラピーを体験し、面接の手順を学ぶ
6	家族面接の方法②	ブリーフセラピーを体験し、面接の手順を学ぶ
7	事例検討	事例と対応のポイントを学ぶ
8	家族面接の方法③	コンプリメント、パラドックス、ユーモア
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、具体的な事例を含めながら講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験（100%：持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書の１章・２章・６章・８～10章・12章・14章を中心に読んできてください。

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■参考図書

若島孔文著　『ブリーフセラピー講義』金剛出版、2011年

若島孔文・長谷川啓三著　『新版よくわかる！短期療法ガイドブック』金剛出版、2018年

平木典子・中釜洋子共著　『家族の心理』サイエンス社、2006年

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	家族システム理論（第１章）	家族という事象をとらえるための基盤である、家族システム理論について理解する。 **キーワード**：社会構成主義、家族システム理論、階層性、円環的因果律、第一次変化と第二次変化	身の回りの家族を例にして、家族をシステムとしてみてください。家族をシステムとしてとらえることができると、２回目以降の学習内容がより深く理解できます。
2	家族を理解するための鍵概念（第２章）	家族という事象をとらえるための３つの鍵概念ー構造、機能、発達について理解する。 **キーワード**：構造、機能、発達、ジェノグラム、エコマップ	身の回りの家族を例にして、ジェノグラムとエコマップを描き、学習内容を整理してみましょう。
3	独身の若い成人期（第３章）	若い成人期の発達課題と危機について理解する。また、将来の家族形成に向けた予防的アプローチについて理解する。 **キーワード**：親密性、親密さへの恐怖、自己分化、情緒的遮断、親役割代行、配偶者選択、アサーション	家族という事象は、結婚する前の若い成人期、あるいはそれ以前からすでに始まっていると考えられます。三回目は、若い成人期のどのような側面が後の家族生活に影響するか、といった点について理解してください。
4	結婚による家族の成立期（第４章）	新しい家族生活のスタートとなる新婚期の家族の発達課題と危機について理解する。 **キーワード**：家族システムの結合、非合理的思い込み、カップルダンス	夫婦は家族の最も基本的かつ中心的なサブシステムです。夫婦が新婚期にどのような課題に直面するか予測できると、夫婦で課題と危機に対処することができます。４回目は、新婚期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	乳幼児を育てる段階 （第 5 章）	妊娠・出産・子育てによって生じる家族の発達課題と危機を理解する。 **キーワード**：伝統的性別役割観、仕事と家庭のバランス、拡大家族、親の機能、父親の育児参加	乳幼児を育てるなかで、夫婦関係は変化し、夫婦の役割は変更されます。夫婦が子育てに取組み、父親が子育てに積極的に関わることができるようになることが大切です。5 回目は、育児期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
6	小学生の子どもとその家族 （第 6 章）	小学生の子どもとその家族の発達課題と危機を理解する。 **キーワード**：エアポケット、発達の加速現象、三角関係、養育システムの再編成、成員の個性化、ギャング・エイジ	思春期の子どもは、発達・成長が著しく、学校など家族以外の場面のなかで精神的に成長します。6 回目は、学童期の子どもがいる家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
7	若者世代とその家族 （第 7 章）	青年が親離れする過程、親が青年を手放していく過程で生じる、家族の発達課題と危機について理解する。 **キーワード**：移行期、チャムシップ、ピア関係、自我同一性、	思春期・青年期に入った子どもは自立の準備を進めていきます。7 回目は、中年期の家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
8	老年期の家族 （第 8 章）	高齢期の家族が抱える発達課題と危機について理解する。 **キーワード**：人生の統合、多世代の関係性の再構築	高齢者やその家族は、ケアが必要な「受け身の存在」になりやすいです。このような中で、高齢者と家族がより自律的に活き活きと暮らすためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
9	家族への臨床的アプローチ （第 9 章）	家族療法の発展史、代表的な理論モデル、他のアプローチとの違い、代表的な技法について理解する。 **キーワード**：多世代家族療法、構造的家族療法、MRI家族療法、ミラノ派家族療法、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ジョイニング、多方向への肩入れ、リフレーミング	4 回目から 8 回目までの裏テーマになっていたのは「家族内のルールの変更」でした。家族療法の理論モデルはいずれも、家族内のルールの変更を支持し、家族が自律的に問題を解決することを援助するものです。9 回目は、個人を対象とする心理臨床と、家族を対象とする心理臨床の違いは何か、という観点から家族療法について理解してください。また、コラム⑨「家族療法の魅力」を読み、家族療法の特徴について理解を深めてください。
10	夫婦関係の危機と援助 （第10章）	夫婦関係の危機とカップル・セラピーについて理解する。 **キーワード**：カップル・セラピー、離婚のプロセスと発達課題、再婚家庭のプロセス、ステップファミリー	現代の家族のあり方は多様であり、離婚や再婚など人々が選択する家族の形はさまざまです。10回目は、離婚と再婚のプロセスについて特に整理してください。そのうえで、カップル・セラピーの留意点について、カップルとセラピストそれぞれの観点から理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	子育てをめぐる問題と援助 （第11章）	社会の守りの中での子育ての必要性について理解する。 **キーワード**：障害者・児、児童虐待、育児不安、親支援、親業トレーニング、家族再統合プログラム	いつの時代でも、地域や親族の支えがないと家族は子育てをすることができません。孤立した環境のなかで「育てにくい子ども」を育てている親だけでなく、多くの親は育児への不安とストレスを抱えながら子育てをしています。11回目は、親支援や子育て支援のプログラムを知り、その必要性について理解してください。
12	家族が経験するストレスと援助 （第13章）	災害、病気、子育てなど、家族が経験するストレスと援助について理解する。 **キーワード**：あいまいな喪失、グリーフ（悲嘆）、段階理論、ウェルビーイング、医療的家族療法、リジリアンス、多世代家族療法、ナラティヴ・アプローチ	問題を抱えない家族は存在しません。12回目は、自然災害、家族メンバーの喪失、一過性・慢性の病気への罹患、事件や事故への遭遇などを取り上げます。そして、どのような行動が家族メンバーの助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
13	家族の中のコミュニケーション （第14章）	家族療法のコミュニケーション学派の理論について理解する。また、DVと暴力のサイクルについて理解する。 **キーワード**：コミュニケーションの公理、ダブルバインド仮説、コミュニケーションの悪循環、解決志向アプローチ、家族神話、DV、暴力のサイクル、アサーション	セラピストのツールは、単純化すると言葉のみです。「言葉はもともと魔法である」といわれるように、セラピストは「言葉」により「変化」を作っていきます。13回目は、このような考えの基盤となる、コミュニケーションの５つの公理を理解してください。また、「解決しようとすることが問題を維持させる」というパラドックス（逆説）についても理解してください。身の回りの家族を例にすると、学習が深まります。
14	女性と家族 （第15章）	家庭内外にあるジェンダーの問題を扱い、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について理解する。 **キーワード**：ジェンダーのレンズ、ジェンダー・センシティブ・サイコセラピー	社会文化に敏感な視点をもった心理療法は、それ自体が単独で成立するものではなく、あらゆる心理療法に浸透するべき要素です。14回目は、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について、もっとも重要な事項はなにかを考察してください。その際、コラム⑭「心理療法に必然的に生じる“力関係”にどう取り組むか」を読み、理解を深めてください。
15	男性と家族 （第16章）	父親と夫をどう理解し援助するかについて理解する。 **キーワード**：パワーとコントロール、恐れと思い込み・信念	夫・父親をどのように理解し関わることがより効果的な援助につながるのだろうか。15回目は、父親や夫であることをめぐる葛藤と不安について、理解を深めてください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	コミュニケーションの 5 つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、 5 つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束（Bind）”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊りだすことは稀でしょう。このように、Aさんの行動は、無数にあるBさんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、Bさんの反応が無数にあるAさんの行動の選択肢を狭めることになります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えることができます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わす相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの 5 つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験では、家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて論述形式で出題します。教科書で学んだ内容とキーワードを自分なりに理解しているか、具体例を示しながら論述できているかという観点から評価します。

家族心理学 ～2017

科目コード	FC2515

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	三谷　聖也

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2018年度以降に入学した方は、p.111「社会・集団・家族心理学B（家族心理学）」（科目コード：FC2541）を参照してください。
※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.111「社会・集団・家族心理学B（家族心理学）」（科目コード：FC2541）を参照してください。
※2021年度より担当教員が変更になります。教科書、レポート課題等に変更はありません。

■レポート課題

1 単位め	コミュニケーションの５つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、５つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束（Bind）”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊りだすことは稀でしょう。このように、Aさんの行動は、無数にあるBさんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、Bさんの反応が無数にあるAさんの行動の選択肢を狭めることになります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えることができます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わす相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの５つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解

された内容をまとめるように心がけてください。

2単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

産業・組織心理学

科目コード	FC3542

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	山口奈緒美

※2018年度に「産業心理学」（科目コード：FC2523）から科目名が変更されました。これから学習される場合は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

産業・組織心理学はモノやサービスの生産や消費といった場面における人々の行動や心理過程を明らかにする学問で、研究内容は①「組織行動」、②「人事」、③「安全衛生」、④「消費者行動」の４つに大別されます。組織行動領域では、ワークモチベーションや意思決定、チームワークなどが、人事領域では採用や選抜の方法、キャリア発達支援、人事評価などが研究対象となっています。安全衛生領域では、ヒューマンエラーや安全工学、職務ストレスなどが、消費者行動領域では購買行動、広告効果、心理的会計などが研究対象となっています。これら４領域の研究を通して、組織全体が持続して目標を達成し、組織の中で働く人々が効率よく成果を収め、自己成長しながら、他の人と協働して、安全に働くことの実現を目指しています。また、わたしたちは、生産者として生産にかかわり、消費者として消費にかかわっています。これら双方の立場の観点から、今日の産業に携わる人々の心理を探ることも産業・組織心理学のねらいです。スクーリングでは上記①、③、④を、教科書やレポートでは②を学びます。

■到達目標

1）組織成員の心理について、ワーク・モチベーション、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる。
2）組織が組織成員に及ぼす影響を、集団意思決定や公正といった観点から説明できる。
3）産業場面における効率性と安全性の両立について、科学的管理理論やヒューマンエラーといった観点から説明できる。
4）職場における問題（キャリア形成を含む）に対して必要な心理的支援とその方法について説明できる。
5）消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる。

■教科書

高橋　浩・中嶋励子・渡邉祐子著『社会人のための産業・組織心理学入門』産業能率大学出版部、2013年
（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力のうち、とくに、「総合的な人間理解力」「集団理解に基づく対人調整力」「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

１単位めレポート評価10%＋２単位めレポート評価40%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

産業・組織心理学の入門書としては以下の５冊がおすすめです。

1）柳澤さおり・田原直美 編著『はじめて学ぶ 産業・組織心理学』白桃書房、2015年

産業・組織心理学を理解するために必須の用語や理論が網羅的に示されていて、全体像が把握しやすいです（それゆえ、各理論に対する説明はやや簡潔ですので、自分なりに掘り下げるべく学習が必要でしょう）。また、実際の企業における例や事例が新しくて豊富ですので、現実的な問題と知識を関連付けて考えやすいように工夫されています。

2）山口裕幸・髙橋潔・芳賀繁・竹村和久著『経営とワークライフに生かそう！産業・組織心理学』有斐閣アルマ、2006年

たいていの産業・組織心理学の本は４つの研究領域ごとに章立てが行われますが、この本は大学４年生が就職活動をして、職に就き、組織で働いていくというワークライフのプロセスを展望しながら構成されています。それゆえ、新社会人となってから経験することを時系列で学習することができるよう工夫されています。こちらも入門書ですので、専門用語や理論については更に深めて学習が必要です。

3）山口裕幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房、2007年

産業・組織心理学で扱われる用語集のような本です。初学者向けに各概念や理論が分かりやすく説明されています。

4）田中堅一郎編『産業・組織心理学エッセンシャルズ（改訂三版）』ナカニシヤ出版、2014年

こちらも産業・組織心理学についての網羅的な概論書です。この本の特徴は、ひとつの事柄に関する研究の流れが分かりやすく書かれている点です。モデルや用語の意味を理解するだけでなく、あるモデルが提示され、そのモデルに対するどのような批判が生じ、どのように改良されたモデルが提出されたか、という流れを知るのに良い本だと思います。

5）井上枝一郎 編著『心理学と産業社会とのかかわり』八千代出版、2013年

産業・組織心理学は心理学の知見を応用したものですが、この本は、心理学と産業社会にどのように役立っているのかが分かりやすい内容になっています。事例編が設けられており、実際の事例を取り上げて心理学的に解説している部分が興味深いです。

■事前に学習してほしい科目（任意）

2017年度以前入学者：「心理学概論」「社会心理学」

2018年度以降入学者：「心理学概論Ａ」「心理学概論Ｂ」「社会・集団・家族心理学Ａ（社会心理学）」

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	産業・組織心理学とは	産業・組織心理学の歴史と発展、４領域の説明
2	ワーク・モチベーション	ワーク・モチベーションの内容理論と過程理論、モチベーションを高める心理的支援
3	キャリア観の発達	キャリアに関する諸理論、キャリア形成に関する支援
4	ジョブ・ストレス	ストレスに関する諸理論、ストレスに関する支援
5	生産性と安全性の両立	科学的管理法、動作研究、ヒューマンエラー
6	集団の影響(1)	集団と生産性、集団と意思決定
7	集団の影響(2)	リーダーシップとチームワーク
8	消費者行動	消費者の購買意思決定と広告の効果
9	スクーリング試験	

※講義内容はやむをえない事情により変更することがあります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

また、在宅学習15のポイントのうち、１から７、14から15がスクーリング事前学習に該当します。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義で学んだ内容を現実生活に当てはめ、気になった事象について理論を用いて説明できるように、繰り返し取り組んでみてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	産業・組織心理学とは （第１章）	産業・組織心理学が誕生した経緯と発展過程、現在の産業・組織心理学が取り組んでいる４つの研究領域を理解する。 **キーワード**：ミュンスターベルクの３部門体系、組織行動、人事心理学、作業心理学、消費者行動	産業・組織心理学がどのような歴史社会的背景のもとに発展してきたのか、どのような社会的要求に応えてきたのかを整理してみましょう。そして、今日、どのようなことが研究されているのか、４つの領域を区別できるようにしましょう。
2	組織と個人 （第２章）	組織や組織成員への見方の変遷を知る。また、組織として機能するための条件を知る。 **キーワード**：組織の機械観と有機体観、経済人モデル、社会人モデル、自己実現人モデル、複雑人モデル、部門と階層	組織に対する見方や理解の仕方は、産業心理学の発展とともに変遷してきています。それと同時に、組織で働く人々に対する見方もまた変遷しています。どちらについても、どのような変遷をたどったのかを整理しましょう。また、組織を組織足らしめるにはどのような条件が必要なのかを押えておきましょう。
3	組織行動⑴： 職場集団と人間関係 （第３章）	個人が組織集団に与える影響と、組織集団が個人に与える影響の双方向性を理解する。 **キーワード**：集団発達、集団規範、集団凝集性、集団意思決定	職場集団がどのような特徴をもつのか、規範と凝集性という観点から理解しましょう。また、これらが人々の生産性にどう影響するのかもまとめましょう。最後に、集団であるが故に生じる、意思決定の特徴も整理して学んでください。 ※集団意思決定については、参考図書の４）第４章がとても参考になります。
4	組織行動⑵： ワーク・モチベーションの内容理論 （第４章１～２節）	なぜ人は働くのかということについて、動機づけの観点（特に内容理論）から理解する。 **キーワード**：内容理論、欲求階層理論、ERG理論、XY理論、達成動機、衛生要因と動機づけ要因	働く意欲は組織における人々の行動に大きな影響を与えます。なぜ人々は意欲を持って働くことができるのかについて、意欲の種類を明らかにした数々の理論をまとめて内容理論とよびます。どのような種類の意欲があるのかまとめましょう。
5	組織行動⑶： ワーク・モチベーションのプロセス理論 （第４章３～４節）	働く動機づけについて、過程理論を学ぶ。 **キーワード**：プロセス理論、公平理論、期待理論、目標設定理論	働く意欲の種類を明確にするだけではなく、それらがどのような状況的要因によって変化するのかを説明したものをプロセス理論とよびます。いくつかの理論が示されているので、それぞれの理論を理解しましょう。
6	組織行動⑷： 組織とコミュニケーション （第５章）	一般的なコミュニケーション理論を理解した上で、組織におけるコミュニケーショの類型と生産性への影響について学ぶ。 **キーワード**：コミュニケーションのタイプ、コミュニケーションスキル、コミュニケーション・ネットワーク・モデル	組織におけるコミュニケーションは、私的なコミュニケーションとは異なるいくつかのポイントがあります。それが、組織の第１目標である課題の達成に与える影響を整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	組織行動⑸： リーダーシップ （第 6 章）	好ましいリーダーシップとは何かについて学ぶ。 **キーワード**：特性アプローチ、行動アプローチ、状況適応アプローチ	リーダーシップに関する研究の流れを、特性アプローチ、行動アプローチ、状況適応アプローチの順に概観し、リーダーシップを説明するのに足りない要因を順次取り入れてきた経緯を理解しながら望ましいリーダーシップについて考えてみてください。
8	人事心理学⑴： 人事アセスメント （第 7 章）	人事評価における個人差の測定について、事前評価と事後評価を学ぶ。 **キーワード**：採用選考のアセスメント、人事交差のアセスメント、評価の信頼性と妥当性、評価エラー	採用選考や人事考査に用いられるツールの信頼性と妥当性について理解しましょう。同様に、評価者が犯しがちな評価時に生じるエラーもまとめましょう。
9	人事心理学⑵： 能力開発 （第 8 章）	従業員の能力開発について、その重要性と方法を学ぶ。 **キーワード**：職務遂行能力、能力開発、OJT、Off-JT	なぜ従業員の能力開発が必要なのか、どのような能力を開発する必要があるのか、どのように能力を開発するのか、３つの観点からまとめましょう。
10	人事心理学⑶： キャリア発達とその支援 （第 9 章）	キャリア発達とその支援の方法について学ぶ。 **キーワード**：キャリアの発達理論、キャリアサイクル、キャリアアンカー、六角形モデル、トランジッション論、キャリア・デベロップメント・プログラム	キャリアという語がもつ意味を理解し、勤務経験とともにキャリアがどのように発達していくのかについて説明した理論を整理してみましょう。また、キャリアを継続的に発達できるように組織が提供している内容についても理解しましょう。
11	人事心理学⑷： 産業・組織におけるカウンセリング （第10章）	産業・組織におけるカウンセリングの意義を学ぶ。 **キーワード**：カウンセリング、認知行動療法、論理療法、短期療法、カウンセリング・プロセス	カウンセリングが産業や組織にどのように役に立つのかについて理解しましょう。特に、人事労務管理や労働法規および従業員規則などの知識を深めることは、従業員を組織に復帰させるために必要な知識です。
12	作業心理学⑴： 仕事の能率と安全 （第11章）	作業能率と安全性をどのように両立すべきか、「働く人」を中心に据えたモデルを学ぶ。 **キーワード**：時間研究、動作研究、ヒューマンエラー	テイラーの科学的管理法によって徹底した効率化が行われましたが、それだけではエラーを回避することができません。人の基本的特性を知り、エラーを防ぐにはどうすればよいか理解しましょう。
13	作業心理学⑵： 職業性ストレスとメンタルヘルス （第12章）	ストレスに関する代表的な理論やモデルを知り、職業場面において特徴的なストレスモデルを学ぶ。 **キーワード**：汎適応症候群、ライフイベント研究、心理学的ストレスモデル、NIOSHの職業性ストレスモデル	安全に働くためにはストレス労働者のストレス負荷を減らすことが求められます。ストレスについての知識を深め、職場ではどのようなことがストレスとなり、またストレス反応を生じさせるのかを整理しましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
14	消費者行動(1)：消費者行動（第13章）	消費者行動のプロセスと主な影響要因について学ぶ。 **キーワード**：購買意志決定モデル、イノベーション普及モデル	消費者はどのように購買商品を決定しているのかについて、プロセスと個人内要因について整理しましょう。
15	消費者行動(2)：マーケティングリサーチ（第14章）	消費者のニーズや自社製品の評価、広告効果などを把握する研究法について学ぶ。 **キーワード**：定量調査、定性調査	どのような商品やサービスが消費者のニーズをとらえうるのか、販売促進計画をどう立てるかについて、科学的な検討が必要です。定量調査と定性調査について区別して理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	公平理論を参考にして、どのような制度であれば評価者や被評価者にとって満足感が高い人事考課制度になるのかを論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

職場やアルバイト先で、なぜこんなにがんばっているのに評価されないのだろうと感じたことはありませんか？このレポート課題では、よりよい人事考課を実現するために、どのような仕組みがあればよいのかを考えてみたいと思います。次の 3 つの観点からレポートを作成してください。第 1 に、現状ではどのような人事考課が行われているのかをまとめ、第 2 に、そこにどのような心理学的なエラーが生じるのかをまとめてください。そして、第 3 に、評価される側の公平感について理論を参考にしたうえでどのような人事考課制度が望ましいのか、ご自分の意見を述べてください。具体的な作成要領は以下に示します。

最初に、人事考課制度の仕組みについて説明してください。現在、どのような目的で、どのような項目が評価されているのかをまとめましょう。テキスト第 7 章第 3 節「人事考課制度の目的と仕組み」を参考にしてください。レポート全体の約 4 分の 1 が目安です。

次に、評価者が陥りがちな心理的な評価エラーにはどのようなものがあるかまとめましょう。詳しくはテキスト第 7 章第 4 節「人事考課制度の運用」を参照してください。この部分はレポート全体の約 4 分の 1 が目安です。

最後に、評価される側の公平感について、理論を参考にしたうえで、どのような人事考課制度が望ましいのか、自分の意見をまとめましょう。この部分がこのレポート最大の要点です。レポート全体の半分を

目安に書いてください。どのような人事考課制度であれば人々は「公平だ」と感じ、納得するのでしょうか。まずはAdamsの衡平理論について説明し、人々の基本的な公正感の仕組みを論じてください。衡平理論についてはテキスト80ページに説明がありますが、自分の貢献度と結果のバランスが、他者のそれとつりあうかどうかによって、人々は自分に対する処遇や評価が公正かどうかを判断するというものです。すなわち、隣人と比べ、自分のほうが不当に恵まれていないと感じると、人々は自分に対する評価や処遇に不公正感を抱くということです。ただし、このような不公正感は、「手続き的公正」という感覚を刺激することによって改善することが可能です。もし、自分にとって分の悪い評価が下ったとしても、その評価がもたらされたプロセスが適正で厳粛で参加可能型のものであれば、人々は納得し、受け入れることができます。それゆえ、組織は、このような適正で厳粛で参加可能型の人事考課プログラムを作成・運用する必要があります。具体的には、どのような手続きを導入すればよいでしょうか？例えば、そのひとつに被評価者が評価に関する疑義を訴えることができるという手続きがあります。なぜこのような制度があれば、人々は自分の評価に納得するのでしょうか？「こうした制度は、人々を・・・という気持ちにさせ、結果として公正感や納得を高める」というように、人々の心理プロセスに言及した説明を行ってください。さて、他には、どのような制度が必要でしょうか？それらひとつひとつの制度が人々の心にどのように働きかけ、結果として人々の公正感や納得を高めるのでしょうか？ご自分の考えを述べてください。

■レポート　評価基準

・現状の人事考課について明確に説明できているか
・公正理論について明確に説明できているか
・労働者の納得を導く人事考課について、公正理論にもとづいて説明できているか。その際、評価される側の心理プロセスを論じることができているか。

科目修了試験

■評価基準

複数の知識を関連付けて問いに答えることができているかどうかを問います。

産業心理学 〜2017

科目コード	FC2523

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR（講義）	1年以上	山口奈緒美

※2018年度から、科目名・科目コード・履修方法が「産業・組織心理学」（科目コード：FC3542、履修方法：RorSR）に変更されました。レポート課題も2課題に変更されています。

※これから履修登録される場合は、p.119「産業・組織心理学」を履修登録してください。

※2017年度に「産業心理学」を履修登録した方で、2018年3月までに単位未修得の場合は、2018年4月上旬に履修登録している科目名称が「産業・組織心理学」に変更されています。

※論述式レポートに合格していてスクーリングが未受講の方は、客観式レポート課題に解答してください。

※2017年度に単位修得した方は、科目名「産業心理学」のままです。

人間関係論

科目コード	FC2689

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	1年以上	山口奈緒美

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度は開講しません（次回開講予定は2022年度）。
※オンデマンド・スクーリングは2021・2022年度開講予です。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間関係は私たちにとって必要であり、また避ける事の出来ない問題でもあります。この人間関係について主に心理学の観点から理解し、日々の生活に役立てる方法を学んでもらえるよう講義を進める予定です。講義で扱ったトピックを自分の経験と照らし合わせながら理解してもらいたいと思います。

■到達目標

1）日常場面での人間関係について、理論的に理解できる。
2）自分自身の人間関係についての経験を理論的に説明できる。
3）対人葛藤場面での解決方法を学び、自分なりに応用する事ができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	人間関係の時系列的視点①	人間関係の始まり
2	人間関係の時系列的視点②	人間関係の維持
3	人間関係の時系列的視点③	人間関係の崩壊、対人葛藤の原因と解決
4	人とのかかわり①	受容と拒絶
5	人とのかかわり②	拒絶感受性
6	人とのかかわり③	ソーシャルサポート
7	人間関係にかかわる多様なバイアス	人間関係をゆがめるバイアス
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義はパワーポイントを用いて進めます。受講者には講義で用いるスライドにもとづいて作成された資料を配付します。

この資料は、受講者が適宜工夫して記入し、受講者オリジナルのノートとして作成しやすいように作ら

れています。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験（100％：配付資料と自筆のノートのみ持込可。図書類は持込不可）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

人間関係がどのように始まり、深まり、維持されているか、あるいは崩壊してしまうかについて、ご自分の人間関係を見直してみてください。また、自分が日頃、他者を受容したり拒絶したりしているかどうか、分析してみてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分の人間関係について考察する際、講義で紹介したさまざまな実験のように、どの事柄が人間関係に影響を及ぼしているか、あるいは及ぼしていないのか、明確に区別できるように現実の分析力を高めてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

藤森立男編著『人間関係の心理パースペクティブ』誠信書房、2010年
奥田秀宇著『人をひきつける心　対人魅力の社会心理学』サイエンス社、2008年
浦　光博著『排斥と受容の行動科学　社会と心が作り出す孤立』サイエンス社、2009年

発達心理学 2018〜

科目コード	FD3543

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	中村　　修

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p.136「生涯発達心理学」（科目コード：FD2502・FD2563、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「人が発達する」とは、何がどうなることを言うのでしょうか？　そして「人が発達する期間」はいつからいつまでなのでしょうか？　さらに「人を発達させる要因」はどのようなものなのでしょうか？　この科目では大きくこのような疑問に対して答えを探していくことになります。発達心理学は「生涯発達心理学」と呼称されることがありますが、この名称に示されるように、発達する期間は「生涯、一生の間」と考えるのが現在の通例です。では生涯という視点で人を理解するとはどのようなことでしょうか？「子ども」「大人」「高齢者」といった年齢区分ごとの理解に留まらず、「これまで・現在・これからのつながり」「積み重ね」を考えながら人を理解するということを考えてみましょう。

■到達目標

1）発達の過程の中で、認知機能・感情・自己・社会性・対人関係などの発達の諸側面がどのように変化していくか説明することができる。
2）幼児期、青年期、老年期といった発達の各時期の特徴を簡潔に説明することができる。
3）発達心理学で用いられる基本的な概念、用語を理解し、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して具体的に説明することができる。
4）発達障害等非定型発達についての基礎的な事項を説明できる。

■教科書

坂上裕子・山口智子・林創・中間玲子著『問いからはじめる発達心理学ー生涯にわたる育ちの科学』有斐閣、2014年

（最近の教科書変更時期）2017年4月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を必ず持参してください。旧教科書の方も旧教科書を必ずお持ちください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

1）平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅰ　ライフサイクル』ミネルヴァ書房、1994年　＊旧教科書

2）平山諭・鈴木隆男編著『発達心理学の基礎Ⅱ　機能の発達』ミネルヴァ書房、1994年

3）本郷一夫編『シートブック　発達心理学　保育・教育に活かす子どもの理解』建帛社、2007年

4）無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学（第2版）』ミネルヴァ書房、2009年

5）二宮克美・大野木裕明・宮沢秀次編『ガイドライン　生涯発達心理学（第2版）』ナカニシヤ出版、2012年

6）岡本祐子・深瀬裕子編著『エピソードでつかむ生涯発達心理学』ミネルヴァ書房、2013年

7）高橋一公・中川佳子編著『生涯発達心理学15講』北大路書房、2014年

8）鈴木忠・飯牟礼悦子・滝口のぞみ著『生涯発達心理学　認知・対人関係・自己から読み解く』有斐閣、2016年

9）開一夫・斎藤慈子編著『ベーシック発達心理学』東京大学出版会、2018年

10）林創編著『発達心理学　公認心理師スタンダードテキストシリーズ12』ミネルヴァ書房、2019年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

発達という概念はつかみやすいようでとらえづらいかもしれません。スクーリングでは、発達という概念のそもそもの部分の説明と、生涯を区分した発達期ごとの説明を行っていきますが、区分してあると言っても一人の人間が生涯にわたって発達していくという「つながり」はあるわけです。前後の時期のつながりもあれば「積み重なっていくもの」もあるでしょう。せっかくのスクーリングの機会ですから、教科書のページ通りではなくあちこち行ったり来たりしながら講義することで、「区分しつつ、つなげて理解する」という背反したことを目指していきます。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	発達するとはどういうことか、何が発達をもたらすのか	発達とはどういうことを意味するのかについて、昔の発達心理学と現在の生涯発達心理学での考え方の違いを明確にする。また、発達の要因として遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。
2	乳幼児期①：乳児ー養育者間コミュニケションと愛着の発達	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解を行う。特に愛着の発達について、愛着形成の過程及び愛着の個人差について理解する。
3	乳幼児期②：認知機能の発達	代表的な発達理論の１つであるピアジェの発達理論に基づいて、特に幼児期の認知発達について理解する。
4	青年期の発達：自己認知とアイデンティティ	自己の発達について、エリクソン及びマーシャの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。
5	成人期：キャリア発達	特にキャリア発達という観点からの成人期の発達を理解する。特に、①アイデンティティの再体制化とは何か、②世代性とは何かを理解する。
6	老年期：サクセスフル・エイジングとは	老年期における認知機能の変化及び補償、パーソナリティの発達、サクセスフル・エイジングの条件について理解する。
7	発達のつまずき	発達障害とその臨床・支援について概略的な理解を行う。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングの講義内容や講義の進め方はここに記載のものと異なります。申込時に『With』でご確認ください。

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書をしながら進めます。具体的な事例を提示する際にはDVDを用います。

■スクーリング　評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配布資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

スクーリング講義内容として示した９回は、基本的に教科書の章単位でまとまりが作られています（複数章にまたがる場合があります）。どの回がどの章なのか事前に対応させる作業を行い、それぞれの回のキーワードをチェックしておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか①（序章、１章―２）	生涯発達はどういうことと考えられているか **キーワード**：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか②（１章―３、４、５）	発達は何によってもたらされるか **キーワード**：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、ブロンフェンブレナー、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論（３章―１）	ピアジェの発達理論について理解する **キーワード**：ピアジェ、シェマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の１つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
4	乳児期①：アタッチメントの発達（４章―３、４）	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差 について理解する。
5	幼児期①：言葉と表象（５章―１、２、３）	言葉の発達の基盤についての理解 **キーワード**：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
6	幼児期②：自己の発達（６章―１、２、３、４）	自己の発達の理解、特に自己の芽生えについて **キーワード**：自己感覚、自己、主体、客体、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論（７章―１、２）	社会性の発達の理解、特に他者の意図の理解について **キーワード**：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③共感性の発達について理解する。
8	児童期①：子どもと学校（８章―１）	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化という観点から **キーワード**：前操作期、自己中心性（中心化）、保存課題、３つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
9	青年期の発達①：自己認知（9章―1、2）	青年期の発達の理解、特に青年期初期の自己理解の変化という観点から **キーワード**：第二次性徴、思春期スパート、自己理解、自我体験、時間的展望、青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達②：友人関係（9章―3、4）	青年期の発達の理解、特に同年代他者との関係から **キーワード**：友人関係、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達（10章―1、2）	青年期の発達の理解、特にアイデンティティの形成という観点から **キーワード**：エリクソン、アイデンティティ、モラトリアム、マーシャ、アイデンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステイタス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人期中期から後期①：世代性、職業・キャリア発達（11章―1、2）	成人期中期以降の発達についての理解、特にキャリア発達の観点から **キーワード**：世代性、アイデンティティ再体制化、メンタリング	成人期中期以降の発達的変化について、 ①アイデンティティの再体制化とは何か ②世代性とは何か を理解する。
13	老年期①：老いの意味と認知機能の変化（12章―1、2）	老年期の発達の理解、特に認知機能について **キーワード**：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達的変化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
14	発達のつまずき①（13章―1、2）	発達のつまずき、特に発達障害の理解 **キーワード**：発達障害、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症（学習障害）、個別支援、環境調整、二次障害	①発達のつまずきとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し、基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
15	1回目から14回目までの振り返り	生涯にわたる発達的変化のまとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者―子相互作用」の重要性についてまとめよ。その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という 2 つの側面からまとめること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書 1 つをとってもある事柄が説明されている箇所は 1 か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

この課題は「 4 章」「 5 章」が中心となりますが、「 2 章 3 」「13章 3 」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、ボウルヴィが提唱したアタッチメント概念の説明が中心になります。それに加えて、「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己」「養育者と子の安定した関係をベースにして広がる対人関係」「養育者－子の不安定な関係が生み出す問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。また、ボウルヴィの考えだけでなく、エリクソンが乳児期の心理社会的危機として設定した「基本的信頼感対不信」を説明に取り入れて発達の最初期の養育者－子相互作用の重要性を強調するのも 1 つの手です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「 5 章 2 」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者―子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者―子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

■レポート　評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読

んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

1）科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。

2）教科書の内容をしっかり理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。

3）学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。

生涯発達心理学 ～2017

科目コード	FD2502・FD2563

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR（講義）	1年以上	中村　修

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2017年度より担当教員が変更になりました。教科書、レポート課題等もすべて変更されています。
※2018年度以降に入学した方は、p.129「発達心理学」（科目コード：FD3543、2単位、履修方法：RorSR）を参照してください。
※本科目を履修登録する方も、下記記載の「レポート学習」「科目修了試験」以外の項目は、p.129「発達心理学」（科目コード：FD3543）を参照してください。
※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位1単位（8コマ）に変更されました。
科目コード　FD2502　2018年までのスクーリング受講者（スクーリング単位2単位）
FD2563　上記以外の方（スクーリング単位1単位）

レポート学習

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	発達するとはどういうことか①（序章、1章―2）	生涯発達はどういうことと考えられているか **キーワード**：バルテス、エリクソン、生涯発達、獲得と喪失、多次元性、多方向性、発達の可塑性	発達とは何か、現在の「生涯発達心理学」では発達をどのように考えているかを理解する。
2	発達するとはどういうことか②（1章―3、4、5）	発達は何によってもたらされるか **キーワード**：遺伝的要因、環境的要因、相互作用、ブロンフェンブレナー、生態学的システム	①発達の要因として、遺伝と環境及びそれらの相互作用について理解する。 ②環境要因の下位区分について理解する。
3	ピアジェの発達理論（3章―1）	ピアジェの発達理論について理解する **キーワード**：ピアジェ、シェマ、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期	代表的な発達理論の1つであるピアジェの発達理論について、 ①基本的な用語を理解する。 ②設定された発達段階の特徴について理解する。
4	乳児期①：アタッチメントの発達（4章―3、4）	アタッチメントの発達の理解 アタッチメント、分離不安、安全基地、ストレンジ・シチュエーション、気質、基本的信頼感	アタッチメントの発達について、 ①アタッチメントとは何か ②アタッチメントの発達の流れ ③アタッチメントの個人差 について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	幼児期①：言葉と表象 （5章―1、2、3）	言葉の発達の基盤についての理解 **キーワード**：表象、ごっこ遊び、喃語、共同注視、初語、統語、外言、内言	①ことばの発達のプロセスについて理解する。 ②言葉が発達するためには何が必要となるのか理解する。 ③言葉の発達と思考の発達の関係を理解する。
6	幼児期②：自己の発達 （6章―1、2、3、4）	自己の発達の理解、特に自己の芽生えについて **キーワード**：自己感覚、自己、主体、客体、第一次反抗期、自己主張期、概念的自己	①自己の芽生えとはどういうことか理解する。 ②自己にもさまざまな側面があることを理解する。 ③第一次反抗期が生じる理由について理解する。
7	幼児期③：社会性の発達と心の理論 （7章―1、2）	社会性の発達の理解、特に他者の意図の理解について **キーワード**：心の理論、誤信念課題、うそ、道徳的判断、コールバーグ、共感性、向社会的行動、実行機能	①心の理論とはどういうことか理解する。 ②道徳的判断の発達について理解する。 ③共感性の発達について理解する。
8	児童期①：子どもと学校 （8章―1）	児童期の認知機能の発達、特に脱中心化という観点から **キーワード**：前操作期、自己中心性（中心化）、保存課題、3つ山課題、脱中心化、具体的操作期	①ピアジェ理論に基づき、児童期の思考の発達の特徴について理解する。 ②自己中心性及び脱中心化について理解する。
9	青年期の発達①：自己認知 （9章―1、2）	青年期の発達の理解、特に青年期初期の自己理解の変化という観点から **キーワード**：第二次性徴、思春期スパート、自己理解、自我体験、時間的展望、青年期の自己中心性	①青年期における身体的変化の特徴について理解する。 ②自己に対する視点の持ち方と自己否定的感情の高まりについて理解する。
10	青年期の発達②：友人関係 （9章―3、4）	青年期の発達の理解、特に同年代他者との関係から **キーワード**：友人関係、関係性攻撃、恋愛	①友人関係の発達について理解する。 ②友人関係が自己理解、自己形成にどのように影響するか理解する。
11	青年期から成人期へ①：アイデンティティの発達 （10章―1、2）	青年期の発達の理解、特にアイデンティティの形成という観点から **キーワード**：エリクソン、アイデンティティ、モラトリアム、マーシャ、アイデンティティ地位	①エリクソンの言説に基づき、アイデンティティとか何かを理解する。 ②マーシャの「アイデンティティ・ステイタス論」に基づき、アイデンティティの形成プロセスについて理解する。 ③成人期以降のアイデンティティの変化について理解する。
12	成人期中期から後期①：世代性、職業・キャリア発達 （11章―1、2）	成人期中期以降の発達についての理解、特にキャリア発達の観点から **キーワード**：世代性、アイデンティティ再体制化、メンタリング	成人期中期以降の発達的変化について、 ①アイデンティティの再体制化とは何か ②世代性とは何か を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	老年期①：老いの意味と認知機能の変化 （12章―１、２）	老年期の発達の理解、特に認知機能について **キーワード**：エイジズム、流動性知能、結晶性知能、超高齢期、補償、最適化、知恵	①エイジズムとはどういうことか理解する。 ②知能の発達的変化について理解する。 ③認知機能の補償とは何か理解する。
14	発達のつまずき① （13章―１、２）	発達のつまずき、特に発達障害の理解 **キーワード**：発達障害、自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症（学習障害）、個別支援、環境調整、二次障害	①発達のつまずきとは何かについて理解する。 ②発達障害について理解し、基礎的な理解を図る。 ③発達障害の臨床・支援について理解する。
15	１回目から14回目までの振り返り	生涯にわたる発達的変化のまとめ	①幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ②幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「認知機能」「自己」「愛着」「社会性」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。
16	発達するとはどういうことか③ （１章―１）	発達とはどういうことと考えられてきたか **キーワード**：発達観、発達のゴール上昇的変化	①発達とはどういうことかを理解するうえで、昔の発達心理学における発達の考え方を理解する。 ②昔の発達心理学における発達の考え方と現在の生涯発達心理学での発達の考え方の相違点を明確にする。
17	胎児期 （２章）	胎児の特徴を学ぶ **キーワード**：五感の発達、胎児運動、出生前診断	①母親の胎内にいる間に胎児にはどのようなことができるようになっているのか理解する。 ②胎児にとっての主たる環境要因となる母親に生じる変化について理解する。
18	乳児期② （３章―２、３）	認知機能の観点からの乳児期の発達の理解 **キーワード**：目と手の協応、選択注視法、馴化―脱馴化法、対象の永続性、社会性	①ピアジェによる感覚運動期の説明に基づいて乳児期の発達を理解する。 ②乳児に対して用いられる心理学研究法を理解する。
19	乳児期③：乳児―養育者間コミュニケーション （４章―１、２）	対人関係の観点からの乳児期の発達の理解 **キーワード**：ベビースキーマ、生理的微笑、社会的微笑	乳児の対人関係形成の基盤について理解する。
20	幼児期④：遊びの発達 （５章―４）	遊びの発達についての理解 **キーワード**：機能遊び、象徴遊び、並行遊び、連合遊び、協同遊び	①ことばの発達と遊びの発達の共通の基盤を理解する。 ②遊びの発達の流れ、遊びの変遷を理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
21	幼児期⑤：社会性の発達、仲間関係 （7章―3）	社会性の発達、特に同年代関係について **キーワード**：ギャング・グループ、社会的比較、ねたみ	仲間（同年代他者）との関係の中でみられる社会性の発達を理解する。
22	幼児期⑥：自己制御の発達 （6章―5）	自己の発達の理解、特に自己制御について **キーワード**：自己制御、自己主張、自己抑制、文化差、しつけ、発達期待	①自己制御の発達について理解する。 ②自己制御の個人差とそれに影響する要因について理解する。
23	児童期②：認知機能の発達 （8章―2、3、4）	児童期の認知機能の発達、特にメタ認知という観点から **キーワード**：短期記憶、長期記憶、ワーキングメモリ、動機づけ、メタ認知	①記憶の仕組みについて理解する。 ②動機づけの種類について理解する。 ③メタ認知とは何か理解する。
24	青年期の発達③：親子関係 （9章―5）	青年期の発達の理解、特に異年代との関係から **キーワード**：心理的離乳、脱衛星化、自立、対立的関係、分離と統合	青年期における親子関係の変化について、 ①心理的離乳という概念 ②親子関係の変化を「対立的」とのみ捉えてよいか、よくない場合にはどのようなとらえ方が可能なのかを理解する。
25	青年期から成人期へ②：キャリアの選択 （10章―3）	成人期前期の発達の理解、特にキャリアという観点から **キーワード**：やりたいことへのこだわり、キャリア、主体的形成	キャリア形成という観点から「青年期から成人期への移行」について理解する。
26	成人期初期 （10章―4、5）	成人期前期の発達の理解、特に家庭生活という観点から **キーワード**：晩婚化、非婚化、ライフコース、性役割観、ライフイベント	ライフコースの選択と見直しという観点から成人期前期の発達、及びその時代的変遷について理解する。
27	成人期中期から後期②：親として、子としての発達 （11章―3、4、5）	成人期中期以降の発達、特に親役割の変化という観点から **キーワード**：養護性、親の成長、子どもの自立、夫婦関係の見直し、子育て不安、介護、ジェネレイショナル・ケア、親役割	成人期中期以降の発達的変化について、 ①親であり配偶者であり子どもでもある自己の変化 ②子どもと配偶者と親との関係の変化を理解する。
28	老年期②：パーソナリティの発達、サクセスフル・エイジング （12章―3、4）	老年期の発達の理解、特に「人生の統合」という観点から **キーワード**：ライフレビュー、老年的超越、サクセスフル・エイジング、ソーシャルネットワーク、コンボイ、死生観	①老年期のパーソナリティの発達について理解する。 ②エリクソンの言う「統合対絶望」という心理社会的危機について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
29	発達のつまずき② （13 章 3、4、5）	発達のつまずき、ある発達期に特徴的なつまずきの理解 **キーワード**：リスク要因、プロテクト要因、不登校、ひきこもり、反社会的障害、摂食障害、喪失、認知症、生活環境、可塑性	①発達期のそれぞれに特有のつまずきについて理解する。 ②発達の可塑性について理解する。
30	16回目から29回目までのふり返り	生涯にわたる発達的変化のまとめ	①１回目から15回目で学んだ発達の各時期、発達の諸側面の内容と16回目から29回目までの内容を結び付けておく。 ②幼児期、青年期等の時期ごとの特徴を他の時期と比べて明確に説明できるようにしておく。 ③幼児期、青年期等などの時期ごとではなく、「対人関係」「同年代関係」「異年代関係」といった発達の諸側面が生涯という大きな流れの中でどう変わっていくのか整理する。

■レポート課題

※本科目の論述式レポートは、それぞれ別の提出台紙に貼り付けて提出してください（２冊必要）。

1 単位め	乳児期から幼児期の発達における「養育者―子相互作用」の重要性についてまとめよ。その際、少なくとも「愛着の発達」「言語の発達」という２つの側面からまとめること。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
3 単位め	発達とはどういうことか。発達に関する心理学が昔の「発達心理学」から現在の「生涯発達心理学」へと変わっていった経緯を踏まえつつ、現在の生涯発達心理学では発達をどう考えているか説明しなさい。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

レポートを書き始める前に、教科書や参考書の該当する箇所をよく読んで理解しておくということが第一に重要です。課題に取り組む前に、少なくとも教科書については精読し、内容をつかんでおいてください。教科書及び参考書の中から必要な部分がどこかを考え、課題にそって構成を組み立てるという作業が必要です。教科書１つをとってもある事柄が説明されている箇所は１か所とは限りません。複数の説明を見比べて、それらの共通点または相違点はどうなるのかを考えてみると、「説明の抜書き」ではない「自分のオリジナルの説明」となるでしょう。そのためには、全体として何を書くかというストーリーを最初に描いておくことも大切です。

1単位めアドバイス

この課題は「４章」「５章」が中心となりますが、「２章３」「13章３」なども踏まえる必要があります。「愛着の発達」については、ボウルヴィが提唱したアタッチメント概念の説明が中心になります。それに加えて、「乳児と養育者の関係形成の端緒」「関わりの中で乳児に芽生える自己」「養育者と子の安定した関係をベースにして広がる対人関係」「養育者－子の不安定な関係が生み出す問題」など、多岐にわたる事柄を含めることのできる課題です。また、ボウルヴィの考えだけでなく、エリクソンが乳児期の心理社会的危機として設定した「基本的信頼感対不信」を説明に取り入れて発達の最初期の養育者－子相互作用の重要性を強調するのも１つの手です。まずは中心となる部分をしっかりとまとめたうえで、関連する部分についても触れてください。「言語の発達」については、「５章２」から言語発達の基盤として特に養育者がどのような役割を果たすのかについて説明してください。言語発達と関わる様々な側面の中で「養育者―子相互作用」という課題テーマに関わる部分をうまくまとめることができるかがポイントとなります。

なお、課題にて「母子相互作用」と書かずに「養育者―子相互作用」と書いてある意味をよく考えていただければと思います。

旧教科書の方は、「５章Ⅱ」における社会性・情緒面の発達的変化」が中心となりますが、「３章Ⅲ」「４章Ⅱ」「９章Ⅲ」なども踏まえる必要があります。

3単位めアドバイス

この課題は教科書の「１章」が中心となりますが、「序章」「12章２」なども踏まえる必要があります。

この課題では、発達についての考え方の変遷をふまえて、発達とはどのようなことなのかを説明することが求められています。科目名でもある「生涯発達心理学」ですが、人間の発達についての心理学が生まれた最初からこの名称だったのではなく、当初は「発達心理学」という「生涯」がつかない名称でした。そして「発達心理学」から「生涯発達心理学」へという名称の変化は、単に「生涯」をつけたかつけないかということにとどまらず、そもそも「発達とは何か、発達とはどのようなものか」という考え方が変わったのです。このことを踏まえて、過去に言われていた発達の定義はどういうものか、その定義にはどのような問題点があったのかといった点を整理しながら、現在の生涯発達心理学で用いられている発達の定義・捉え方へと展開していくことが望ましい形式となるでしょう。

なお、教科書にも定義がありますが、他の文献も参照して、自分のしっくりくる説明を探してみましょう。また、いわゆる国語辞典に載っている「発達」の字義・定義と、心理学でいう（心理学辞典・事典に載っている）「発達」の定義を比べてみるのも「発達とはどういうことか、の考え方の違い」に気づくきっかけになるかもしれません。

旧教科書の方は、「序章１」「１章Ⅱ、Ⅳ」を中心に、教科書以外から「バルテス」という生涯発達心理学者の発達の定義・とらえ方について調べて、レポートをまとめてください。

2･4単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

■レポート　評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として、「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を一部抜粋してそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

1）科目修了試験は、教科書全般にわたって出題されます。

2）教科書の内容をしっかり理解していれば書ける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。

3）学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。

児童青年心理学

科目コード	FD2516・FD2527

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	半澤　利一

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

※今後は会場スクーリングの開講予定はありません。オンデマンド・スクーリング開講は2022年度までの予定です。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位１単位（８コマ）に変更されました。

※科目コード　FD2516　2017年までのスクーリング受講者（スクーリング単位２単位）
　　FD2527　上記以外の方（スクーリング単位１単位）

科目の概要

■科目の内容

児童青年心理学は、人間の児童期と青年期における発達の姿と特徴、発達にかかわる要因の分析やそのメカニズム等を明らかにすることを中心におく発達心理学の一分野です。児童は狭義には学童期をさしますが、広義には、人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの青年にいたる前の発達期をすべて包めます。そして、学童期に続く青年期にある個人の心理・行動を研究するのが青年心理学です。

児童期・青年期の示す種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、そのような発達をもたらす要因や条件の分析、発達の制御や発達過程を明確にするための理論の構築と検証、そして理論の適用へと児童青年心理学の課題は進展してきています。

それらを解明するためには、単に児童や青年を対象とする心理学だけではなく、心理学の他の領域―家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学―などとも、ますます密接に関係をもつ必要性がでてきています。児童・青年の理解とその行動科学のために、基礎的な知識と理論を学んで欲しいと思います。

■到達目標

１）児童期と青年期について、他の発達時期の相違点を領域別に説明できる。

２）児童期を学校生活の低学年（１－２年生)、中学年（３－４年生)、高学年（５－６年生）に分け、それぞれの特徴を比較して説明できる。

３）今日の社会における児童期や青年期の特徴や問題点、発達のつまずきや節目について説明できる。

４）アイデンティティの形成プロセスや意義を理解し、４つのステイタスのそれぞれの特徴を比較説明できる。

5）概念形成や思考作用に必須となる言語習得の意義について説明できる。
6）感情が分化して発達し、自己の行動や対人関係に及ぼす影響について説明できる。

■教科書

1）心理科学研究会編『小学生の生活とこころの発達』福村出版、2009年（1・2単位め）
2）菊池武剋監修　沼山博編集『トピックス 思春期・青年期と向き合う人のための心理学』中央法規出版、2004年（3・4単位め）

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

1）心理科学研究会編『心理科学への招待』有斐閣、2004年
2）J. コールマン・L. ヘンドリー著　白井利明ほか訳『青年期の本質』ミネルヴァ書房、2003年
3）浦上昌則・三宅章介・横山明子著『就職活動をはじめる前に読む本』北大路書房、2004年
4）遠藤由美著『青年の心理　ゆれ動く時代を生きる』サイエンス社、2000年
5）斉藤誠一編『青年期の人間関係』培風館、1996年
6）白井利明・都筑学・森陽子著『やさしい青年心理学』有斐閣、2002年
7）白井利明著『大人へのなりかた――青年心理学の視点から』新日本出版社、2003年
8）徳田安俊著『青年心理学入門――発達の課題とその理解』川島書店、1982年

＊生涯発達心理学の教科書・参考文献も「使える」はずです。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

児童期は、他の発達時期に比べて比較的安定した時期と見られているが、小1プロブレム、9・10歳の壁と言われるつまずき、ギャングエイジに代表される友達関係の変容、発達加速現象など、知らなければならないことが多い。また、青年期を理解するために、アイデンティティという概念やキャリア形成という捉え方が特に重要となる。自分の児童期を振り返りながら学び、その後の人生を形づくる青年期の意義についても理解を深めてもらいたい。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	児童期に至るまで	愛着と感情及び言葉の発達
2	児童期とは	児童期の発達的特徴
3	低学年と中学年	各段階の発達的特徴と教育課題
4	高学年と思春期	各段階の発達的特徴と教育課題
5	子どもらしさを捉える	子どもを取り巻く社会とその変化
6	青年期とは	青年期の発達的特徴と教育課題
7	アイデンティティ	アイデンティティとキャリア形成
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を使用し、適宜ビデオ教材も活用して講義を進めます。教科書も参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験（100%：持込は自筆ノートのみ可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書１）の第２部と第３部、教科書２）の第１章と第４章を読んでおいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント（児童心理学＝教科書１）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	児童期とは① （教科書１） 第１部第１章）	児童期という発達期の位置づけについて理解する。 **キーワード**：学校文化への参入、授業における学習、発達課題としての勤勉性	児童期は、発達段階の中でどのような特徴を持っているのでしょうか？ 学校生活が始まり、次第に親から離れ、学校を中心とした勉強に打ち込み、また交友関係の広がりもみられ、人格を形成していきます。小学生の生活を理解するために、子どもたちを取り巻く社会環境と自然環境の中で、子どもたちの見せる柔軟さ・潜在力はどんな風に発揮されるのか考えてみましょう。
2	児童期とは② （第１部第２章）	幼児期から児童期・思春期へと連続的な時間の流れの中で経験する非連続な発達の節目について理解する **キーワード**：子どもを取り巻く生態学的環境、客観的・科学的認識、防衛機制	幼児期と青年期の間の児童期は、罹病率が低く、子ども同士で遊ぶことができ、比較的安定した時期と言われてきました。しかし、現実には発達段階の移行期におけるさまざまな問題を乗り越えていかなければなりません。その鍵と言えるのが、子どもの発達が、縦と横の”つながり”の中で見守られ、支えられ、促進されることで充実していくことが必要であることを理解してください。
3	１年生－２年生① （第２部第１章1.1・２）	幼児期から児童期への移行は、発達プロセスとしてどのように特徴づけられるのかについて、説明できるようにする。 **キーワード**：幼児の認知発達段階、自己中心性、前操作期、	小学校入学は、日課、活動スタイルなどがそれまでの就学前の幼稚園・保育所と大きく異なり、小学校入学は、異質な文化システムへの参入といえます。ここでは、移行期の教育上の留意点を知るために、幼児期の発達について理解してください。
4	１年生－２年生② （第２部第１章1.3・４）	「小１プロブレム」と幼保小連携・接続の問題を理解する。 **キーワード**：書きことば、２次的言語の獲得、科学的思考への移行期	幼児期から児童期へ、幼稚園・保育所から小学校への移行期の発達的理解、遊びという活動の捉えなおし、安心できる人間関係づくりが「小１プロブレム」を乗り越えるために大切なことであることを理解し、説明できるようにしてください。
5	１年生－２年生③ （第２部第１章２・３・４）	低学年の学級の荒れへの対策とそこで必要な見方について理解し、適切な関わりができるようにする。児童期の自然に対する認識の変容を理解する。 **キーワード**：７歳の壁、素朴生物学の変化、小１プロブレム、学級集団作り、自己の客観視	小学校低学年の学級の荒れへの対策を考えるとき、原因追求は適切でない場合が少なくありません。どうしたらうまく関係をつなげられることができるか考えることが必要です。小学校と就学前教育、教師と子ども、子ども同士、教師と保護者や地域をつなぐことが、荒れへの対策としてまず重要であることを理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	3年生－4年生①（第2部第2章1）	知的好奇心旺盛で、友達仲間同士で世界を広げてゆく活力のあふれる中学年の子どもの特徴を説明できるようになる。 **キーワード**：仲間関係の発達、ギャングエイジ、規範意識	児童期において重要なことは、仲間関係の形成です。仲間関係が本格的に作られるのは、小学4年生以降のことです。こうした他者との関係を築く資質や能力に基づく人格発達の側面を理解してください。
7	3年生－4年生②（第2部第2章2・3）	9、10歳の節が児童期一般に関わる発達過程であると考え、ことば、思考、人格の3つの側面からその特徴を理解する。 **キーワード**：知的リアリズム、視覚的リアリズム、落ちこぼれ、望ましい集団活動に必要な5つの心	9、10歳の節は、聴覚障害児における学力形成上の困難さを示す「9歳の峠」という呼称が起源です。状況依存的な言語に起因する発達上の困難、学力形成を支える思考の問題、つまり現象の背後に潜む過程に分け入る思考の問題、おとなから一定程度自立して自分の頭で考えて行動し、結果について責任を引き受ける、これが児童期の人格形成の課題です。9、10歳の節について、理解を深めてください。
8	5年生－6年生①（第2部第3章1）	児童期の後期に位置する思春期について、理解する。 **キーワード**：第2次性徴、発達加速現象、マージナルマン、青年期の自己意識、自己肯定感、社会的視点取得能力	「まだ子ども」であると同時に、「もう大人」として扱われることも多くなる思春期。一般的には、児童期の後期に位置づけられるとともに、身体的には第2次性徴を迎えて思春期に入っていくという、不安定な移行期です。社会化と個性化の狭間で、展開されるこの時期の子どもの特徴を理解し説明できるようになってください。
9	5年生－6年生②（第2部第3章2）	高学年は思春期の入り口です。児童期から青年期への過度期は、「発達の危機」を抱え込んだ年齢として説明されることもあります。 **キーワード**：形式的操作期、科学的思考の育成	この時期は、人々のまなざしに映った自己像や自分が体験したことを経験したことの振り返り、推量的なメタ認知が可能となり、他者や環境といった「外的な評価に対する敏感性」が反映されやすい時期です。この時期の特徴を自己意識から説明できるようになってください。
10	中学生への移行（第2部第3章4）	小学6年生にとって、慣れ親しんだ小学校生活から、中学校という新しい学校環境へと移行する際に不安はつきまとう。子どもたちの移行期の意識の変化を理解し、説明できる。 **キーワード**：小学校を卒業すること、中1プロブレム	小学校から中学校への学校移行。中学校への進学に際して「～したい」という具体的な期待感を強く持つと同時に、その裏返しとして「うまくやっていけるか」という不安感も同時に強く感じるでしょう。小学生より中学生の方が、将来への希望を抱かなくなるのは、自分や自分の周囲の世界について客観的、現実的に眺めることができるようになる時期であるから、発達的変化をこのような将来展望から考えてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	子どもらしさを捉える① （第 3 部第 1 章 3 ）	文化と人間発達との関係を探る。 **キーワード**：社会的認識	人間の学習・発達の仕組みには、優れた観察と模倣の能力を持つ子どもと、それをうまく活用してコミュニティの活動に導く年長者とが、互いに影響し合って構造化していくという基本過程が見えてきます。現代の日本社会にこうした基本過程が十分に機能する環境があるか、大人と子供の活動が分離されないことが文化的発達には重要であることを理解してください。
12	子どもらしさを捉える② （第 3 部第 3 章）	社会生活の基礎となる生活リズムの形成過程について説明できるようになる。 **キーワード**：サーカディアンリズム、ノンレム睡眠、レム睡眠、睡眠教育	子どもを取り巻く環境が夜型化してます。子どもの心身の発達の理解において、基礎的で重要な問題の一つは、子どもが生物学的な存在から社会的存在へと質的に変容する過程です。睡眠と生活リズムを考慮した睡眠教育の普及について説明できるようにしてください。
13	個性の理解と発達支援① （第 3 部第 1 章 2 ）	子どもの臨床的問題へのアセスメントと介入効果について理解し、実施できるようになる。 **キーワード**：情緒障害、児童期の行為障害	発達とはその展開の内部に正負両面をあわせもちつつ進行する矛盾に満ちた過程であると認識することが必要です。発達が内包する矛盾に関するもう一つの視点は、通常＜良い＞と思われる能力はいつも＜良い＞行為として現れるわけではありません。他者の内面を理解することは、健常児か障がい児かを問わず社会化には重要な要素であることを理解してください。
14	個性の理解と発達支援② （第 1 部第 2 章 1 、コラム 6 ）	通常、発達障害のある子どもたちの発達上の困難さを通して、子ども達の個性の幅を理解する **キーワード**：自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムという概念は、これまでの発達障害も健常児も一直線状の量的問題で捉えようとしたものです。子どもの発達支援には、子どもの理解が前提として行われる必要から、子どもの個性についていろいろな側面から把握することができるようになってください。
15	子どもの権利としての子どもらしさ （第 3 部第 5 章 1 ）	子どもの権利としての子どもらしさについて理解を深め、子どもの権利を守る大人の役割について、説明できる。 **キーワード**：人権、子どもの権利、支援と教育	子どもにとっては、労働から解放され、学校に通い学習することが制度化されたこと、遊び等の子ども文化が生まれたことなどが現代の「児童期」を特徴づけています。しかし、禁止されたり強制される行動もあります。子どもは大人を乗り越えていく存在でもあります。このように子どもらしさの歴史的社会的性格と 2 面性とをふまえながら、子どもらしさの発達的意義について理解してください。

■在宅学習15のポイント（青年心理学＝教科書２）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	青年期とは① （教科書２） １章１・４）	青年期という発達期の位置づけについて理解する。 **キーワード**：思春期、通過儀礼、モラトリアム、ライフイベント	他の発達期と青年期はどのような点で異なるのでしょう？ 特に青年期の前後の時期との「境目」をどう考えておけばよいのでしょうか？ まずは「青年期」という時期を大づかみにでも理解してください。
2	青年期とは② （１章２・３）	青年期の身体的・生理的側面について理解する。 **キーワード**：発達加速現象、生活習慣、第二次性徴	青年期ならではの身体的特徴、変化の特徴を踏まえたうえで、「身体の変化」が「こころの変化」と関連していることを理解してください。
3	青年期とは③ （１章５、４章１）	発達課題という概念を理解し、特に青年期の発達課題を明確にする。 **キーワード**：発達課題、進路選択	社会は青年期に相当する年齢の人間に対して何を求めているのでしょうか。社会がこの時期に対して何を課題とし設定するのか、何を達成した上で次の時期へと進んでいってほしいと考えているのかということは、「青年期の前後の時期との項目」について考える１回目のテーマとも関連しています。
4	青年期とは④ （１章７、５章１）	親子関係の変化から青年期の特徴を理解すると共に、「疾風怒涛」と表現される青年期の意味づけの是非について考える。 **キーワード**：心理的離乳、個性化、疾風怒涛、第二次反抗期	「反抗期」という言葉から青年期は「荒れる時期」と連想する向きもあるかもしれませんが、果たしてそうなのでしょうか？「荒れなければ青年期ではない」かのような言説は正しいのでしょうか？
5	アイデンティティ形成① （１章８・６）	エリクソンの提唱した「青年期の心理的危機」としての「アイデンティティ」概念と、マーシャの提唱した「アイデンティティ・ステイタス論」を理解する。 **キーワード**：自己概念、アイデンティティ、アイデンティティ・ステイタス	この回は特に重要です。青年期に対する代表的な言説としての「アイデンティティ」について十分に理解してください。また、自己概念というものが人間にとってどのように重要なのかということもここで理解してください。
6	アイデンティティ形成② （１章９、２章７）	自己のありよう、自己の捉え方が以下に心身の健康に影響するか理解する。 **キーワード**：自己評価、社会的比較、原因帰属	５回目「自己概念の重要性」の続きとなる部分です。アイデンティティには「自己の一貫性、統合性」が大きな要素となります。自己の捉え方という問題は、どのようなアイデンティティが形成されるかということへとつながっていきます。ボディイメージという事項は７回目へとつながる要素です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	アイデンティティ形成③ （3章3、2章8）	摂食障害を例に、自己の捉え方と心身の健康状態の関連を理解する。 **キーワード**：摂食障害、メディア、メディア・リテラシー	青年期（の女性）に特に問題になりやすい摂食障害という問題に、自己概念という観点からはどのような説明ができるのかという点がポイントです。また、メディアの問題をとりあげることで、次回以降の事項である「青年期をとりまく他者、社会」の問題へとつながっていきます。
8	青年と社会との関係①（1章10、2章4）	青年期の友人関係、同年代関係の特徴を理解する。 **キーワード**：ギャング・エイジ、重要な他者、アイデンティティのための恋愛	4回目に「親子関係の変化」を取り上げましたが、では「親から離れた」後に誰とどういう対人関係を築いていくのか、その対人関係はアイデンティティの形成にどのように影響するのかといった点について理解してください。
9	青年と社会との関係②（2章1・3）	メールというコミュニケーションツールに焦点を当てた説明から、友人関係の維持・（再）構築の意義を考える。 **キーワード**：移行、（環境）適応、（対人関係の）希薄化	青年期では何度も環境移行が行われます。環境が変わり人間関係も変わる中で「環境適応の基盤のための人間関係」をどう築いていくのか、という点が1つのポイントです。次に、青年の対人関係が希薄化しているとの言説もありますが果たしてそうなのか、コミュニケーションツールという観点から考えてみてください。
10	青年と社会との関係③（3章4、5章6）	非行という現象に対して、特に「青年と社会の関係」に着目して説明を行っている理論の概要を理解する。 **キーワード**：学習、社会的絆、準備性	「非行」とはそもそもどんな現象なのか、なぜ非行を行うのかということについて「社会」という要因を重視した理論を学ぶことにより、8回目と9回目に学んだ「青年と社会との関係」の理解を深めてください。
11	青年と社会との関係④（3章5・6）	青年期に生じやすい問題行動を理解すると共に、問題をどのように捉えるかという視点を理解する。 **キーワード**：反社会的行動、非社会的行動、アンビバレント	7回目から10回目まで「裏テーマ」となっていたのが「青年期の問題行動」でした。それらの回で理解したことを改めて「問題行動」として整理し直し、併せて「対応」の際の留意点について理解してください。
12	青年期のキャリア発達① （4章4・8）	キャリア概念を理解し、キャリア発達の中での青年期の位置づけを理解する。 **キーワード**：ライフキャリア、役割間葛藤、（選択の）プロセス	この回も特に重要となります。3回目に「発達課題としての職業選択」を取り上げましたが、ここから最終回までは「キャリア選択」に焦点をあてて青年期及びアイデンティティ形成への理解を深めます。そのための基盤としてここで正しく「D. E. スーパーによるキャリアに関する言説」を理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	青年期のキャリア発達② （4章5・9）	キャリア選択に必要な自己理解及び職業理解に関する青年期の特徴を理解する。 **キーワード**：マッチング、職業適合性、パーソナリティ・タイプ、職業認知	学校段階を終え社会人になるということは「青年期の終わり」を特徴づける重要な事項となります。次の進路を選ぶ際には自分及び社会を理解して選択の材料とすることが必要になりますが、これらの理解に関する問題点を理解してください。
14	青年期のキャリア発達③ （4章6・7）	「青年期を終える時点の問題」ではなく「青年期を通じての一貫した課題」としてのキャリア・職業選択のありようを理解する。 **キーワード**：（選択の）プロセス、意思決定、調査的決定	13回目に「選択の材料としての理解」をポイントとしましたが、理解した材料をどう扱うのか、どうやって材料を集めるのかということも大きなポイントとなります。青年期を通じてその課題に取り組み続けることの必要性を理解してください。
15	青年期のキャリア発達④ （4章10・12）	キャリア形成・選択のつまづきとその対応を理解する。 **キーワード**：自分探し、モラトリアム、やりたいこと志向、自己実現	必ずしも「フリーターは問題ある青年」ということではありませんが、12回目から14回目までの内容について「つまづきを示して」フリーターとなっている場合もあります。どんな点で選択プロセスが滞ってしまうのか、ある種のフリーター像を例に考えてみてください。

■レポート課題

※本科目の論述式レポートは、それぞれ別の提出台紙に貼り付けて提出してください（2冊必要）。

1単位め	児童期における知的機能の発達の特徴を述べなさい。
2単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
3単位め	**【説明型レポート】** 次の①～③の概念を、それぞれ400字以上600字以内で説明しなさい。 ①心理的離乳　②自己概念と自己評価　③モラトリアム
4単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

各課題について、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で、理解された内容をまとめるように心がけてください。その際、自分が大人になっていく道筋を振り返り、手がかりとするのもいいでしょう。経験科学である心理学を学ぶことは、自分を含めて周囲の人や出来事を科学化することでもあります。

1単位め
アドバイス

心身の急激な発達や発育が見られる乳幼児期に比べ、児童期は比較的安定した時期だと言われます。心身がゆるやかに成長する中でも、知的操作は自己中心性を脱して具体的操作段階へ、さらには形式的操作段階へと移行します。その過程で何をどう学び、どう発達して行くのか、ピアジェの理論を軸にして具体的に考えてください。

3単位め
アドバイス

単に辞書的な定義を書くだけではなく、用語解説としてわかりやすくなるように気をつけてください。①〜③とも、テキストの該当部分のみではなく、他の事項も参照し、さらに参考文献などからも情報を取り入れて自分の言葉で記載してください。

2・4単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

記号選択の設問においては正しい記号が選択されている場合のみ正答としています。

記述問題においては「①課題で問うている内容の理解」「②問いの形式に応じた解答の記述」という2点が評価ポイントであり、記述量はあくまで副次的な評価ポイントです（つまり、課題に直接関連しないことが多く述べられていたとしても評価されません）。

老年心理学A 2018〜

科目コード	FD2544

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	吉川　悠貴

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p.163「老年心理学」（科目コード：FD2517、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。
※2021年度より、スクーリングが8コマになります。

科目の概要

■科目の内容

これまで老年期（高齢期）は一般的に否定的なイメージでとらえられてきました。しかし人間を生涯発達する存在として考えると、老年期は発達の最終段階にあたる時期となります。人間は加齢に伴ってさまざまな身体的変化や心理学的な変化を示しますが、それが実際にはどのように起こってくるのかを系統的に学習していくのがこの科目のねらいです。具体的には、老化の基本的考え方や知能に代表される精神機能の変化、老年期のパーソナリティと適応、対人関係、死の問題などについて、心理学的な理解を深めていくことがこの科目の大きな目的です。

スクーリングでは、最新の統計資料等も用いながら、上記の内容を具体的に考えていきます。

レポート学習では、知識としての基本事項を確認した上で、実生活に即して理解します。

■到達目標

1）高齢期のとらえ方や高齢者を取り巻く現状について、基本的な事項を説明できる。
2）高齢期に生じる変化や高齢者の心理について、実生活に照らして解説できる。
3）言語習得や感情理論、感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を、加齢との関係を含めて理解する。
4）高齢者の心理を理解するための要点について、自分の意見を述べることができる。

■教科書

加藤伸司編『介護福祉士養成テキストブック10　発達と老化の理解』ミネルヴァ書房、2010年
（スクーリング時の教科書）上記教科書は、参考程度に使用します。

■履修登録条件

この科目は、「老年心理学B」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40％＋スクーリング評価or科目修了試験60％の按分で評価を行う。

■参考図書

1）内田伸子編著『誕生から死までのウェルビーイング　老いと死から人間の発達を考える』金子書房、2006年
2）松田修編著『最新老年心理学』ワールドプランニング、2018年
3）佐藤眞一・権藤恭之編著『よくわかる高齢者心理学』ミネルヴァ書房、2016年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	加齢の考え方と高齢期の捉え方	加齢と高齢期を捉えるための諸概念と現状
2	加齢と身体的変化	加齢に伴って生じる身体やその機能の変化と心理
3	情報処理機能の変化	加齢と感覚・知覚・認知諸機能の変化
4	記憶機能とその変化	加齢と記憶機能の変化
5	知能とその変化	加齢と知能、言語機能等の変化と研究方法
6	高齢期における適応Ⅰ	高齢期の適応と生涯発達及び環境変化等の影響要因
7	高齢期における適応Ⅱ	高齢期の適応とパーソナリティ
8	人生の最終段階	高齢期と死の問題及び現代的課題
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書は参考程度に使用しますが、教科書の第１章の概要を把握しておくとよいでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、高齢期の捉え方や高齢者の心理について、各自事前に考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人間の成長と発達① 発達のさまざまな理論（第1章）	「発達」とは何か、どのようにとらえられるものかについて学ぶ。また人間の発達を理解するための基礎的な理論にはどのようなものがあるかを理解する。 **キーワード**：発達、相互作用説、生涯発達心理学、発達段階、発達課題	とかく誕生から成人までの時期がイメージされやすい「発達」という概念について、「生涯発達」という視点を踏まえて基本的なとらえ方や基礎的な理論を理解しましょう。自身や近親者などのこれまでの歴史を振り返りながら考えると理解の助けになります。
2	人間の成長と発達② 乳幼児期・児童期（第1章）	乳幼児期、児童期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 **キーワード**：乳幼児期、児童期、言語、発達課題	各時期において生じる様々な変化について、概要を理解しましょう。特に、言語発達をはじめとする諸機能の発達や、心理社会的な側面からとらえてみましょう。
3	人間の成長と発達③ 青年期から成人期（第1章）	青年期、成人期のそれぞれについて、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 **キーワード**：青年期、成人期、自我、適応	青年期・成人期それぞれの理解に加えて、青年期から成人期への移行までを含めた、人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また、心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
4	人間の成長と発達④ 成人期から高齢期（第1章）	成人期から高齢期について、人生のなかでどのような位置を占めているかを理解する。またそれぞれの時期において、どのような発達の様相がみられるかを理解する。 **キーワード**：成人期、高齢期、受容、適応	特に高齢期については、成人期からの移行を含めた、人間の一生の中での位置づけを考えてみましょう。また、心理的な適応の過程や影響要因について具体的に考えてみましょう。
5	加齢に伴うからだの変化の特徴① 老化と加齢に伴う生理的変化（第2章）	「加齢」と「老化」の違い、及び老化に関する主要な仮説について理解する。その上で、加齢に伴って生じる生理的変化の概要を学ぶ。 **キーワード**：加齢、老化、生理的変化	生涯発達の観点を持った上で、「老化」がどのようにとらえられるか考えてみましょう。また、加齢に伴って生じやすい変化を概要として総体的に理解しましょう。
6	加齢に伴うからだの変化の特徴② 身体に生じやすい変化（第2章）	身体の部位や器官（骨・関節、筋力、循環器、呼吸器、内分泌系、消化器、泌尿器、神経系、感覚器）ごとに、具体的な加齢変化や生じやすい疾患、生活への影響について理解する。 **キーワード**：加齢変化、疾患、生活への影響	加齢に伴って身体に生じやすくなる変化について、なるべく具体的に理解していきましょう。また、個々の生活行為から高齢期全体の過ごし方まで含めて、生活（人生）への影響についても考えましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	加齢に伴うこころの変化の特徴① 感覚・知覚、注意・反応（第3章）	感覚・知覚、及び注意・反応における加齢変化の実際を学ぶ。またそれらの変化が高齢期の生活にどのような影響を与えうるか理解する。 **キーワード**：感覚、知覚、注意、反応	人間の生活行為を支える感覚・知覚、及び注意・反応について、具体的にどのような変化が生じ、日常生活に影響を与えうるかについて考えましょう。高齢期を的確に理解し、必要な配慮を行うにはどうしたらよいか、という視点を持つとよいでしょう。
8	加齢に伴うこころの変化の特徴② 記憶（第3章）	記憶機能の概要について学ぶ。その上で、加齢変化や生活への影響がどのように生じているか理解する。 **キーワード**：記憶、知能	まず、記憶機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で、加齢変化の実際を、従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。
9	加齢に伴うこころの変化の特徴③ 知能（第3章）	知的機能の概要について学ぶ。その上で、加齢変化や生活への影響がどのように生じているか理解する。 **キーワード**：記憶、知能	まず、知的機能そのものについて概要を理解しましょう。その上で、加齢変化の実際を、従来の通説やイメージと比較しながら考えていきましょう。
10	加齢に伴うこころの変化の特徴④ 感情、パーソナリティ（第3章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化について概要を理解する（感情喚起の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を含む）。 **キーワード**：感情、性格、人格（パーソナリティ）	高齢期におけるこころの変化について、感情や性格、パーソナリティの観点から理解しましょう。
11	加齢に伴うこころの変化の特徴⑤ こころの健康、適応（第3章）	高齢期における感情や人格（パーソナリティ）の変化を踏まえて、こころの健康・心理的適応の観点から、変化や影響を与える要因について学ぶ。 **キーワード**：精神的健康、葛藤、適応	高齢期におけるこころの変化について、個人差を踏まえて理解しましょう。また、適応（心理的な意味での健康）に影響を与える要因について、具体的な内容と影響のしかたを考えましょう。
12	高齢期の発達と成熟① 生涯発達の考え方（第4章）	生涯発達の視点による高齢期の理解について、より詳しく学ぶ。 **キーワード**：生涯発達、発達段階	生涯発達心理学の考え方、及びその中での高齢期という発達段階の位置づけについて整理しましょう。またその上で、「高齢期」が人生の中でどのように位置づけられるか、改めて考えてみましょう。
13	高齢期の発達と成熟② 生涯発達と高齢者をとりまく環境（第4章）	生涯発達の視点を踏まえて、高齢期に生じる社会的な関係の変化やそれらに関係する喪失体験等について学ぶ。 **キーワード**：生涯発達、役割、関係、喪失体験	高齢期に生じやすい家庭・職業生活、あるいは地域生活における変化、殊に対人関係やその中での役割の変化について考えていきましょう。またそれらが高齢者の心理にどのように影響しうるか、具体的に想定してみましょう。
14	高齢期の発達と成熟③ 高齢期における適応1（第1・4章）	老いの受容、サクセスフルエイジングの考え方を中心に、高齢期の適応について概要を学ぶ。 **キーワード**：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティビティ、生活史、適応	老いの受容や、サクセスフルエイジング、プロダクティブエイジングの考え方について理解しましょう。特に、「あるべき論」と心理的過程の違いを考えながら整理してみましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	高齢期の発達と成熟④ 高齢期における適応２（第１・４章）	老いの受容、サクセスフルエイジング、生活史、セクシャリティなどの観点から、高齢期の適応について総合的に学ぶ。 **キーワード**：老性自覚、サクセスフルエイジング、プロダクティビティ、生活史、適応	「発達と老化の理解」のまとめとして、高齢期の適応について総合的に理解するよう努めましょう。適応が困難な場合やセクシャリティなど、普段触れにくい視点を含めて考えられるとよいでしょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのように捉えられるかについて、「生涯発達」および「心理的な適応」の観点から、これまで示されてきた考え方を整理した上であなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

教科書第１章第１節・第６節、第２章第１節、第３章第５節・第６節、及び第４章を中心に読み、高齢期が人間の生涯の中でどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際、「生涯発達」や心理過程としての「適応」という観点から教科書等で示されている考え方を整理した上で、自分の考えを述べるようにしてください。「適応」については、サクセスフルエイジング等の考え方をよく検討してください。具体的な例や現代社会の状況等を示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということを意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかもしくは両方を求めており、これらが記述されているかどうかが評価の基準となる。

老年心理学B 2018～			科目コード	FD2545
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	1年以上	吉川　悠貴	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、ｐ.163「老年心理学」（科目コード：FD2517、４単位、履修方法：RorSR）も参照してください。
※2021年度より、スクーリングが８コマになります。

科目の概要

■科目の内容

わが国では、認知症の人の増加に伴い、認知症の人の生活をどのように支えていくのかということが、社会の大きな課題となっています。その一方で、認知症という病気や認知症の人の心理、適切なケアのあり方等については、未だ十分な理解に至っていないのが現状です。本科目では、これらの問題について、特に心理学的な観点を中心に、系統的に学習していくことをねらいとしています。具体的には、認知症を取り巻く現代社会の状況や制度・施策、認知症という病気や症状に関する基礎的な知識を得た上で、認知症の人の心理や心理に影響する要因を理解したケアのあり方等を考えていきます。また、認知症の人を介護する家族等の心理についても理解していきます。具体的な課題として、虐待や権利擁護等の問題についても考えます。

■到達目標

１）認知症を取り巻く現状、認知症という病気やその症状について、基本的な事項を説明できる。
２）認知症の人の心理や心理に影響する要因について、具体的に解説できる。
３）認知症に関係する言語や感情の仕組みのほか、感情が行動に及ぼす影響を理解する。
４）認知症の人や介護する家族等の心理を理解した上でのケアのあり方について、自分の意見を述べることができる。

■教科書

本間昭編『介護福祉士養成テキストブック11　認知症の理解　第２版』ミネルヴァ書房、2013年（第２版でなくても可）

（最近の教科書変更時期）2013年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は、参考程度に使用します。

■履修登録条件

この科目は、「老年心理学Ａ」と同時に履修登録が必要です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40％＋スクーリング評価or科目修了試験60％の按分で評価を行う。

■参考図書

1）日本認知症ケア学会編『改訂４版・認知症ケアの基礎（認知症ケア標準テキスト）』ワールドプランニング、2016年

2）加藤伸司著『認知症になるとなぜ「不可解な行動」をとるのか（増補新版）』河出書房新社、2016年

3）佐藤眞一著『認知症の人の心の中はどうなっているのか？』光文社新書、2018年

スクーリング

■スクーリング受講にあたっての留意事項

「老年心理学A」のスクーリングを受講してから、本科目を受講することを推奨します。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	認知症の基礎知識Ⅰ	認知症を取り巻く現状、捉え方や制度・施策の変遷
2	認知症の基礎知識Ⅱ	軽度認知障害、予防を含む概念・知見の理解
3	認知症の基礎知識Ⅲ	認知症の原因疾患、及び症状の理解と評価
4	認知症の心理とケアⅠ	中核症状と本人の心理、及びケアの原則
5	認知症の心理とケアⅡ	行動・心理症状と本人の心理、及びアセスメント
6	認知症の心理とケアⅢ	本人及び専門職の心理を踏まえた権利擁護
7	介護者の心理と支援	介護者の心理と危機、及び支援のあり方
8	関連課題	セルフ・ネグレクト、意思決定支援等の関連課題
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

試験は、論述形式で行います。単に講義資料や教科書からの抜粋を行うのではなく、実生活に即した講義内容の咀嚼と、考察を行うことが求められます（教科書・配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書は参考程度に使用しますが、教科書の第１章の概要を把握しておくとよいでしょう。

また、興味を持った報道や身近な事例などから、認知症を取り巻く現状や認知症の人の心理について、各自事前に考えておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	認知症の基礎知識① （第１章）	認知症、及び認知症の人を取り巻く現状について、概要を理解する）。 **キーワード**：認知症、歴史、対策	わが国における高齢者ケア・認知症ケアの歴史を踏まえて、現状を理解していきましょう。また、認知症とはどのような病気であるか、自分のこれまでのイメージと照らし合わせながら整理してみましょう。
2	認知症の基礎知識② （第１章）	認知症の定義や症状、アセスメント等の基本的な事項について学ぶ。 **キーワード**：認知症、定義、原因疾患、症状、アセスメント	認知症の基本的な理解として、定義や症状の概要、アセスメント領域について理解しましょう。
3	認知症の基礎知識③ （第１章）	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ（主に原因疾患について）。 **キーワード**：病態、原因疾患、若年性認知症	認知症の原因疾患を中心に、病態・症状を整理しましょう。変性疾患、血管性以外については、暗記するというよりは、分類の構造を理解するようにしましょう。また、若年性認知症についても理解しましょう。
4	認知症の基礎知識④ （第１章）	認知症の病態・症状について詳細を理解する。また発症機序、危険因子、治療について概要を学ぶ（主に治療・予防について）。 **キーワード**：病態、発症機序、危険因子（予防因子）、軽度認知障害	発症機序や危険因子（予防因子）等について理解した上で、予防や治療として現在どのような対応が行われているか考えていきましょう。薬物療法以外の治療的対応、発症以前の予防という視点も含められるとよいでしょう。
5	認知症ケアの基本 （第２章）	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、及び基本的なケアの方向性を学ぶ。 **キーワード**：認知症ケア、コミュニケーション	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と基本的なケアについて、枠組みを把握しましょう。また、具体的な声掛けや配慮等の対応場面を想定しながら考えましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	認知症ケアの基本 （第 2 章）	認知症の人へのケアにおける原則的な考え方、方向性を踏まえて、その実現のために必要な、認知症の人や症状の理解のしかたについても学ぶ。 **キーワード**：認知症ケア、アセスメント、生活援助	認知症の人へ適切なケアを行うために必要な、ケアの原則と方向性を踏まえて、アセスメントや生活支援の内容を具体的に考えていきましょう。
7	認知症ケアに関する行政施策 （第 3 章）	わが国の認知症施策について、今後の動向を含めて理解する。 **キーワード**：認知症施策、オレンジプラン、新オレンジプラン	認知症施策の流れや概要をつかみましょう。なお、オレンジプランは内容を更新して「新オレンジプラン」として再整理されていますので、厚生労働省ウェブサイト等から情報を補足することをお奨めします。
8	認知症の人とのコミュニケーション （第 4 章）	認知症の人とのコミュニケーションについて、基礎的な事項を理解する。 **キーワード**：コミュニケーション	認知症の人とのコミュニケーションについて、どのような姿勢で臨むべきか考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
9	認知症ケアにおけるチームケア （第 5 章）	チームケアの考え方や実際について理解する。 **キーワード**：チームケア	チームケアのプロセスや実際について、認知症ケアにおける必要性を考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
10	居住環境と地域 （第 5 章）	認知症の人にとっての居住環境、及び地域におけるサポート体制の重要性を、地域包括ケアの観点から理解する。 **キーワード**：環境、地域包括ケア、コミュニティ	認知症の人の、在宅での具体的な生活を想定して、居住環境や地域という観点からのサポートのあり方について、本人の心理を踏まえて考えてみましょう。
11	認知症ケアにおけるリスクマネジメント （第 5 章）	認知症ケアにおけるリスクマネジメントについて、基本的な事項と必要性・方向性を理解する。 **キーワード**：リスク、リスクマネジメント、身体拘束、高齢者虐待	認知症ケアという特性を踏まえて、リスクマネジメントの考え方を理解しましょう。また、関係する大きな問題として、虐待や身体拘束の問題についても理解しましょう。
12	家族への支援① （第 6 章）	認知症の人を介護する家族の心理や支援について、基本的な事項を理解する。 **キーワード**：家族、受容、家族支援	認知症の人を家族として介護する、という状況について、家族の心理過程を考えながら、教科書の内容を整理していきましょう。
13	家族への支援② （第 6 章、及び第 5 章 3 ― 4 ）	家族支援における社会資源の活用について、地域包括ケア、虐待防止の観点を含めて理解する。 **キーワード**：社会資源、地域包括ケア、高齢者虐待	家族支援という観点から、制度利用（フォーマル資源の利用）からインフォーマルな資源の利用まで、社会資源の活用方法や効果を考えてみましょう。またそのことの地域包括ケアや高齢者虐待防止としての意味についても考えてみましょう。
14	権利擁護① （第 7 章）	認知症の人の人権擁護について、制度の概要を学ぶ。 **キーワード**：権利擁護、成年後見、日常生活自立支援事業	権利侵害の実態やリスクマネジメントの考え方を理解した上で、権利擁護を行うための制度について理解していきましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	権利擁護② （第 7 章）	認知症の人の権利侵害被害として、高齢者虐待の問題について理解を深める。 **キーワード**：高齢者虐待、高齢者虐待防止法	認知症の人が虐待等の権利侵害を受けやすい状況や、受けた場合の支援のあり方等を考えながら教科書の内容をみていきましょう。第 5 章、第 6 章も適宜振り返りながら進めるとよいでしょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	認知症の症状について、中核症状と行動・心理症状という観点から整理した上で、症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

教科書の第 1 章第 2 節・第 3 節・第 6 節を中心によく読み、第 2 章なども参考にしながらまとめてください。単に症状や影響要因を列記するのではなく、中核症状と行動・心理症状（周辺症状）という区分を理解した上で、影響しうる要因がどのように作用し、どのように症状があらわれるのかを説明してください。特に、中核症状がある状態から、どのようにして行動・心理症状があらわれるのか、という観点や、本人の心理的なプロセスを重視してください。具体的な例などを示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということを意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解・説明ができているかが評価の前提となるが、試験問題によって、具体的な説明もしくは解答者自身の考察のいずれかもしくは両方を求めており、これらが記述されているかどうかが評価の基準となる。

老年心理学 ～2017

科目コード	FD2517

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	吉川　悠貴

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※「老年心理学A」「老年心理学B」の 2 科目の内容を学ぶため、下記記載の「■講義内容」「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、 p. 153「老年心理学A」（科目コード：FD2544、 2 単位、履修方法：RorSR）と p. 158「老年心理学B」（科目コード：FD2545、 2 単位、履修方法：RorSR）の 2 科目をあわせて参照してください。

※2021年度より、「老年心理学A・B」のスクーリングを16コマ受講する必要があります。スクーリング試験も 2 回行います。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	加齢の考え方と高齢期の捉え方	加齢と高齢期を捉えるための諸概念と現状
2	加齢と身体的変化	加齢に伴って生じる身体やその機能の変化と心理
3	情報処理機能の変化	加齢と感覚・知覚・認知諸機能の変化
4	記憶機能とその変化	加齢と記憶機能の変化
5	知能とその変化	加齢と知能、言語機能等の変化と研究方法
6	高齢期における適応Ⅰ	高齢期の適応と生涯発達及び環境変化等の影響要因
7	高齢期における適応Ⅱ	高齢期の適応とパーソナリティ
8	人生の最終段階	高齢期と死の問題及び現代的課題
9	スクーリング試験	
10	認知症の基礎知識Ⅰ	認知症を取り巻く現状、捉え方や制度・施策の変遷
11	認知症の基礎知識Ⅱ	軽度認知障害、予防を含む概念・知見の理解
12	認知症の基礎知識Ⅲ	認知症の原因疾患、及び症状の理解と評価
13	認知症の心理とケアⅠ	中核症状と本人の心理、及びケアの原則
14	認知症の心理とケアⅡ	行動・心理症状と本人の心理、及びアセスメント
15	認知症の心理とケアⅢ	本人及び専門職の心理を踏まえた権利擁護

回数	テーマ	内　容
16	介護者の心理と支援	介護者の心理と危機、及び支援のあり方
17	関連課題	セルフ・ネグレクト、意思決定支援等の関連課題
18	スクーリング試験	

レポート学習

■レポート課題

1 単位め	高齢期（老年期）と呼ばれる時期がどのように捉えられるかについて、「生涯発達」および「心理的な適応」の観点から、これまで示されてきた考え方を整理した上であなたの考えを述べなさい。
2 単位め	認知症の症状について、中核症状と行動・心理症状という観点から整理した上で、症状の出現に影響する要因について具体的に示しなさい。
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2017年度以前履修登録者） 2018年４月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題での提出は2019年９月で締め切りました。ただし、『レポート課題集2017』記載の４単位めの論述式課題に合格した方は、２単位めの課題は『レポート課題集2017』の課題で提出してください。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書第１章第１節・第６節、第２章第１節、第３章第５節・第６節、及び第４章を中心に読み、高齢期が人間の生涯の中でどのように位置づけられるかについてまとめていきます。その際、「生涯発達」や心理過程としての「適応」という観点から教科書等で示されている考え方を整理した上で、自分の考えを述べるようにしてください。「適応」については、サクセスフルエイジング等の考え方をよく検討してください。具体的な例や現代社会の状況等を示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということを意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

2単位め アドバイス

教科書の第１章第２節・第３節・第６節を中心によく読み、第２章なども参考にしながらまとめてください。単に症状や影響要因を列記するのではなく、中核症状と行動・心理症状（周辺症状）という区分を理解した上で、影響しうる要因がどのように作用し、どのように

症状があらわれるのかを説明してください。特に、中核症状がある状態から、どのようにして行動・心理症状があらわれるのか、という観点や、本人の心理的なプロセスを重視してください。具体的な例などを示しながら説明できると、なおよいでしょう。

なお、レポート課題全般にいえることですが、単に教科書を要約するだけではなく、それをどのような構成でまとめるか、さらにそれを踏まえて自分の考えをどのように述べていくか、ということを意識して作成してください。教科書の内容をまとめただけ、自分の意見を述べただけ、のどちらの場合も、レポートとしては十分とはいえません。また、レポートの最後に参考にした（引用した）文献を一覧にして掲載し、レポート本文中の引用箇所に文献番号を記載してください。

3・4単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド上で解答することも可能です。

発達臨床心理学

科目コード	FD3546

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	2年以上	平川　昌宏

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度の開講後は2023年度開講予定です。

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では発達的観点に立って人を理解し支援するために大切となる考えや知見について述べていきます。さらに、主に発達障害児や乳幼児期の子ども、加えてこのような子どもに関わる人たちに対する支援について述べていきます。スクーリングを通して以下の内容について理解を深めてください。

1）発達支援の特徴と基本的な考え方
2）発達理解や支援において理解が必要となる発達のプロセスやメカニズムの特徴
3）様々な発達障害の特徴と発達の道のりで直面する生きづらさ
4）発達障害児へのかかわりと発達支援の方法
5）育児における諸問題（育児不安や虐待など）の特徴や発生のメカニズム、対応の基本
6）「気になる」子の保育、そして、その子が属するクラス運営などの困難さと支援の方法

■到達目標

1）発達臨床心理学や発達支援の特徴について説明できる。
2）発達理解や支援の際に理解が必要となる発達のプロセスやメカニズムの特徴を説明できる。
3）2）の視点から人やその人が直面している問題を見ることができる。
4）発達障害の特徴と直面する生きづらさ、関わりや発達支援の基本について説明できる。
5）乳幼児期の子どもの発達に関連する諸問題とその支援について説明することができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	発達臨床心理学と発達支援	発達臨床心理学とは、発達支援とは
2	発達支援における基本的な考え 1	時間軸の中で発達をとらえる
3	発達支援における基本的な考え 2	環境との関係性の中で発達をとらえる
4	発達障害の理解と支援 1	ASD、LD、ADHDなど主な発達障害の特徴と直面する生きづらさ
5	発達障害の理解と支援 2	発達障害児への支援の基本
6	育児における諸問題の理解と支援 1	親としての発達と育児支援
7	育児における諸問題の理解と支援 2	乳幼児虐待の理解と対応

回数	テーマ	内　容
8	保育の場における「気になる」子の理解と支援	「気になる」子の保育の困難さと保育の在り方
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、途中具体的な事例や関連する参考図書を紹介しながら講義を進めます。

■スクーリング評価の基準

スクーリング試験100%（持込可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。また、発達障害や育児などに関連するニュースなどを探し、考察するようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義で紹介した事例を振り返り、その事例について皆さんならどのように考えるか、どのように支援していくかを考えまとめてください。また、事前課題で考え、考察した内容について、あらためて学習内容を参考にしながら考察するようにしてください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」を身につけてほしい。

■参考図書

遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子著『乳幼児のこころ－子育ち・子育ての発達心理学』有斐閣、2011年

教育・学校心理学Ａ（教育心理学）2018～			科目コード	FE2547
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR（講義）	1年以上	白井　秀明	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、ｐ.175「教育心理学」（科目コード：FE2513）を履修登録してください。科目の内容は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学」の中で最も有名な研究のひとつに、エビングハウスが行った記憶の研究があります。「人はなぜ忘れるのか？」という発想で、記憶や忘却のメカニズムをはじめて科学的に研究したからです。一方、「教育心理学」では、「どうしたら忘れなくなるか？」という発想をします。この発想の違い、つまり“学ぶ人の味方になって考える”ことが、教育心理学的に考えるということです。子どもであれ大人であれ何かを学ぶ人は、まちがったりつまずいたりすることもある、それはきっと本人なりの理由があるにちがいない、その“言いぶん”にじっくり耳を傾けてその対策を考える、というわけです。

本科目で使用する教科書には、算数や国語などの具体的な教え方ではなく、“学ぶ人の味方”という考え方や発想を生んだ研究が数多く紹介されています。ご自分の「教育」「学習」「発達」などに対する考えとつきあわせると同時に、「ほほう、こういう考えや研究は学ぶ人の味方になっているな」などと、ご自分の日常生活、仕事等の体験の中で生じる問題解決方法の“ヒント探し”をしながら読み進めていただければ、と思います。

■到達目標

1）人間の子どもが成長・発達していくことにとって「教育」が不可欠であることについて、具体例を挙げて説明することができる。
2）「教育と発達の関係」について、２つの大きく異なる考え方を学び、どちらが“学ぶ人（子ども）の味方”になる考え方なのか、自分なりの理由を持って説明することができる。
3）「学ぶ」というプロセスが「わかる」と「わからなくなる」の繰り返しであること、「つまずき」を学びのスタートにすることによって「学ぶ楽しさ」が生み出されること等の意味について、具体例を挙げて説明することができる。
4）学校などで行われる授業も含めて、ある目的を持った活動を続けていくためには、「自己評価」が大切であることを、自分の仕事や生活の中にある目的的活動を例に説明することができる。

■教科書

永野重史編著『教育心理学―思想と研究』放送大学教育振興会、1997年

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは教科書に沿った進め方はしません。配付資料やビデオを使って進めます。教科書を持参して授業中に自分で線を引く、書き込むなどは自由になさってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40％＋スクーリング評価or科目修了試験60％の配分で総合的に評価します。

■参考図書

園田富雄監修・著　山崎史郎編著『新版教育心理学ルック・アラウンド――わかりたいあなたのための教育心理学』ブレーン出版、1992年

教育心理学の主な領域の内容が網羅されています。初学者が、教育心理学の全体的な骨格を知るには適書だと思います。

宇野忍編『授業に学び授業を創る教育心理学　第２版』中央法規出版、2002年

題名からわかるように、授業実践の実例を豊富に取り上げながら教育心理学の諸問題について書かれてあります。と同時に、学習者の味方になって授業を創っていこうという姿勢が貫かれている、とも言えるでしょう。教員志望の方にはぜひともお読みいただきたい一冊です。

永野重史著『教育心理学通論――人間の本性と教育』放送大学教育振興会、2001年

教育心理学の再入門のために書かれた本です。「教育」「学習」「発達」などに関するご自分の考えをさらに整理する目的でお読みいただけたら、と思います。

スクーリング

■スクーリングで学んで欲しいこと

「教育」について再考する心理学的な視点を学んで欲しいと思います。そのためには、「教える」「学ぶ」という普段何気なく使っていることばの意味について、各自が自分で再吟味する必要があります。そこで、授業の目標を「到達目標」に掲げる４点に絞ります。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	「教育」ってなんだろう？	①「人間らしさ」とは何か　②人間には、「少年」「少女」という「教育の時代」がある ③人間は、集団で生活する「社会的動物」である
2	「教育」をうばうとヒトはどうなるのか？	①「社会的隔離児　FとGの事例」から学ぶ ②「社会的隔離児　アヴェロンの野生児」から学ぶ ③これらの事例からわかること
3	「教育」ってなんだろう？　リターンズ	①学校外教育と学校教育の違い　②学校外教育の重要性　③再び学校教育の意味を問い直す
4	教育と発達の関係	①発達って？　②発達は何によってもたらされるのか？　③２つの対照的な発達観　③-１ J. ピアジェの発達段階説　③-２ J. ピアジェの発達段階説の特徴　③-３ J. ピアジェの「発達段階説」の呪縛から解き放たれるために　③-４ L. S. ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」　③-５ 発達の最近接領域が子どもによって違うのはなぜか
5	ヴィゴツキーとピアジェの「教育と発達の関係」の比較	①ヴィゴツキーの「教育観」とは　②ピアジェの発達段階という考え方の弱点　③ヴィゴツキーから教育を捉え直す
6	「教える」とは…その根底にある態度・考え方	①学習者の「つまずき」を理解する　②「子どもの味方になる」とは　③学習者のつまずきを支援するには？　④学習意欲の正体？　学習意欲を引き出すには　④-１外発的動機づけを利用する　④-２内発的動機づけを利用する
7	教育評価について	①今の自分の考えを書いてみよう！　②目的的活動と評価活動について　③再び「評価」とは　④授業の改善と調整のための教育評価　⑤教師が収集すべき情報について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

自作の（書き込むための余白を多めにとった）プリント教材と資料、さらにビデオ教材を使いながら授業を進めます。スクーリングの中で２つのレポート課題のエッセンスもお話しします。

■スクーリング　評価基準

スクーリング最終授業で授業の要点の振り返りと試験を行います。スクーリング評価の基準は、最終授業で行われる試験100％で評価します。スクーリングの内容から２題。「授業の感想」も書いてもらいます。授業での学びが日頃の仕事や生活のこととどのように結びつけられるようになったのかを自身の授業の自己評価として知りたいからです（持ち込み不可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書『教育心理学－思想と研究』の第１章から第８章を中心に一読してきてください。わかるところもあるし、わからないところもたくさんあるな、と思ってもらえれば結構です。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	教育心理学とは何か（第１章）	教育心理学は、考えることのみに頼りがちな哲学とは異なる方法で人間にアプローチする学問であることを知る。また、誕生当初の主立った研究の概要から、教育や社会に役に立つ体系的な知識を求めて教育心理学がスタートしたことを知る。	教育心理学は、一般心理学とは異なり“２つの応用”という側面を持った心理学だと書いてあります。その意味について、誕生当初の諸研究を、社会や教育に役立つ知識を得るためにどういう方法で研究し、実際そういう知識が得られたのか、という視点から再検討してください。
2	心理学者の考え方のスタイルと教育観（第２章）	クロンバック（L. J. Cronbach）が提唱した心理学についての３つの考え方の違いを知る。また、エルカインド（D. Elkind）の２つの教育観の違いを知る。それらにより、教育心理学は「よい教育とは」という価値から離れることはできないことについて考える。	人間観（人間とはどういう存在か）、研究観（研究にとって何が大切か）によって、心理学を大きく３つにわけています。大きく２つにわけた教育観は、それらの３つのどの考えに強く影響されているのかについて整理してください。さらに、ご自分の考え方がどれに近いのか考えてみると楽しくなります。
3	行動主義の学習心理学とその応用（第３章）	２種の条件付けの違いについて具体例を挙げて説明する。また、行動主義の技法の応用の実際を知り、メリットとデメリットについて考える。特に、プログラム学習と「応答的な環境」の相違点について説明できる。	２種類の条件付けの違いは、もとになる反応が「受動的か、積極的か」です。さらに、「できる」を少しずつ積み重ねていくことがプログラム学習の特徴ですが、「応答的な環境」は、賞を期待したり罰を避けることによって行動を形成する学習ではありません。大切なことですので、両者の異同についてじっくりと考察してください。
4	学習の認知理論（第４章）	「認知主義の学習」は、第３章の「少しずつ行動を変化させる」という「行動主義の学習」とは何が異なるのか説明できる。人間や人間に近い動物は、部分をみる、機械的に記憶する、試行錯誤（行き当たりばったり）するなどよりも、心のなかにある仕組みを使ってうまく行動できることを知る。	「見る」という感覚から情報を入力するとだけ捉えがちなことが、心の仕組みを使って「考える」とそれほど明確に区別がつかないことに気がついて欲しいです。今まで出会ったことのない「問題」を解決するのも同じことですね。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	発達の心理学①発達の考え方の変遷 （第 5 章）	ピアジェ（Piaget,J. ）が想定している「認知構造の発達段階」について、普遍性の高い理論をつくろうとしたことからくる特色や問題点を説明できる。また、さまざまな観点から検討課題が残されていることについて知る。	子供は大人とは違った見方、考え方をすることを示したことが、ピアジェの最大の貢献です。しかし、人間の発達を考える上で検討課題も多々残したことも事実です。それぞれ具体的に説明できるようになって欲しいです。
6	発達の心理学②新しい発達の考え方 （第 6 章）	ヴィゴツキー（Vygotsky,L. S. ）が想定した人間の発達についての考え方について知り、人間がつくり出してきた文化、社会そして教育と人間の子供が発達する過程が、どういう関係にあるのか説明できる。特に、ピアジェの考え方とどこが異なるのか自分なりに説明できる。	ヴィゴツキーの発達理論は、教育（文化、言語、等の獲得）が発達をつくるという考えです。発達段階に合わせて（丁度いい段階に来るまで待って）教育をする、というピアジェの考え方とは大きく異なりますね。
7	動機づけの心理学 （第 7 章）	動機づけの考えの基になった「ホメオスタシス」という生理的なメカニズムについて知る。また、そこから考え出された「社会的強化」という動機づけによって説明できる行動もあるが、「好奇心」や「達成動機」など他の心の働きによっておきる行動の方が多いことを、それら用語の意味と共に具体的に説明できる。	「ホメオスタシス」という生理的な平衡状態を保つメカニズムを手本にした「社会的強化」では、人間の心の中にある「やってみよう」「おもしろい」「楽しい」を説明しようとしても、上手くいかないことに気づいてください。どうしても、「好奇心」や「達成動機」等の他の心の働きに言及しないと説明できない行動があるのです。
8	自主性と意欲 （第 8 章）	「自己原因性」という言葉の意味について理解を深める。その上で、達成行動における 2 種類の目標と行動の特徴と 2 種類の知能観について、対比的かつ具体的に説明できる。	人間は誰かに言われてする（やめる）ことが生来的に嫌いなのであり、本来は自分の行動の原因主体であることを望んでいる、という考えに対する理解を深めてください。他者に対する自分の行動の振り返りの視点になります。
9	人間観と教育① （第 9 章）	３つの人間観があることを知り、その上で時代や社会の構造の変化と、その時代に求められた人間観の変化に対応関係があることについて説明できる。	「いくつもの教育心理学がある」というのがこの教科書の立場です。それら「いくつも」の違いが出てくる根本にあるのが「人間観の違い」です。①では行動主義的な人間観について注目して、教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。
10	人間観と教育② （第10章）	３つの人間観があることを知り、各自が持つ人間観が異なることによって、知識、学習、動機づけ、学習環境、教育評価、教師といった教育に登場するキーワードに対する意味づけが異なっていることについて意識でき、その違いを対比的に説明できる。	②では、認知主義、状況主義の人間観から見た場合の教育に対する考え方の違いについて整理をしてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
11	教育評価とは何か（第11章）	教育評価には大きな２つの目的があることを知る。また、手段としての教育測定について測定結果を表現する２つの準拠方法の違いについて説明できる。	形成的評価、総括的評価、あるいは相対的評価、絶対的評価など、意味の曖昧な用語が教育の中で使われているのが現状です。ここで言う２つの準拠方法の違いや評価の利用計画、評価方法、評価主体、評価結果を利用する人等の違いによって、それらを整理できるようになって欲しいです。
12	記憶の心理学と教育（第12章）	無意味綴りを用いた記憶のメカニズム（第１章pp. 16-18参照）や記憶過程のモデルを「研究」しただけでは、私たちが日常使っている言葉や経験したことを使って考えるための記憶研究にはならないことを知る。	教育に役立つ記憶の研究には、普段私たちがする「考える」「推論する」「創造する」などの心の働きと切り離した「記憶のみ」の研究では不十分であることに気づいて欲しいです。
13	知能と創造性（第13章）	「知能」は多面的、多角的に捉える必要があることを知る。知能テストについて実施目的や結果の使われ方が歴史的に変わってきたことを知る。創造性についても、さまざまなとらえ方があることを知る。	「知能」や「創造性」という言葉で表そうとしている心の働きは、まだまだ心理学の中で共通した考え方はありません。両者を区別することも賛否両論です。対象となる課題分野やその人が育ってきた文化などに影響を受けない「知的な能力」を測るテストなどそう簡単にはつくれないことに気づいて欲しいです。
14	道徳性の心理学と教育（第14章）	「道徳性」という心の働きの質的な変化としての発達や変化を起こすための経験や環境の与え方（広い意味での教育）などについて、どのような研究がなされてきたかを知る。	「道徳性」を、きまりにしたがう、先生や親のいうことにしたがうなど、広い意味で「考える」という心の働きと切り離して捉えることはできないことに気づいて欲しいです。
15	教育方法の分析（第15章）	発見学習をめぐる議論から、２つの異なる「方法」による「学習」の成果を比べるという研究だけでは、教え方の善し悪しを判断するのは難しいことを知る。学習に影響を与える４つの要因について知る。	教育について議論するには「学習の方法」だけでは十分でなく、何を学習したのか、どんな学習をしたのか、といった「学習の内容」についても考えていく必要があるということに気づいて欲しいです。

■レポート課題

※ワープロ・パソコン印字での提出も可能としていますが、みなさんとのレポートのやりとりは「授業」に相当すると考えています。みなさんの「表情」を読み取ることが少しでも可能な「手書きレポート」を読むことができなくなるのはとても残念なので、できる限り手書きにて作成していただくことを強く希望します。

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	ヴィゴツキーの「発達の最近接領域説」は、どんなところが“学ぶ人の味方”になっている考え方か。ピアジェの「発達段階説」と対比させて説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

レポートを書くにあたって、教科書だけに頼るのでなく、教科書や文末に紹介されている参考文献などからの“輸入”は大歓迎です（“輸入元”はレポートに明記してください）。“わかること”と“わからなくなること”が交互に繰り返される、それが何かを学ぶ筋道だと考えるからです。

ポイントは、「発達」に対する「教育」の役割を、両者がどう考えているかです。もちろん、ここでいう教育とは、学校教育だけでなく、社会的・文化的経験などを含めたもっと広い意味での教育活動のことです。間違いやつまずきを示す、いいかえると、発達が滞っている人に対して教育活動を受動的・消極的にとらえているのはどちらでしょうか。能動的・積極的にとらえているのはどちらでしょうか。まず、「教育」と「発達」の関係に対する両者の考え方の違いを対比的に示して欲しいのです。そして、両者の「教育」と「発達」の関係に対する考え方とご自分の考えとつきあわせた結果、自分は「教育」「発達」についてどう考えるか（考えられるようになったか）も、ぜひお書きいただきたいと思います。

科目修了試験

■評価基準

・問題によって設定されたこと（異同点を延べよ、違いを明確にせよ等）について、的確な言葉を使って論理的に説明されているか。

・具体例を挙げて、となっている設問には、①読み手にわかるように、②的確な具体例を挙げてあるのか。

教育心理学 ～2017

科目コード	FE2513

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	白井　秀明

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p. 168「教育・学校心理学A（教育心理学）」（科目コード：FE2547）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、科目の内容はp. 168「教育・学校心理学A（教育心理学）」（科目コード：FE2547）を参照してください。

教育・学校心理学Ｂ（学校心理学）			科目コード	FE3548
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	2年以上	中村　恵子	

※2019年度から、2017年度以前・2018年度以降に入学した方どちらも履修登録できる科目になりました。
※2017年度以前に入学した方で、「特講・福祉心理学４（スクール・カウンセリング）」の2017・2018年度単位修得者（中村恵子先生の講義を受講した方）は、本科目のスクーリングは受講できません（履修方法：Rでのみ単位修得可）。

科目の概要

■科目の内容

教育臨床での専門職は、いまや教師だけでなくスクールカウンセラー、支援員、相談員、スクールソーシャルワーカーと多様化し、そのチーム支援が求められる時代になりました。本科目では、教育現場において生じる問題およびその背景を理解し、子どもの適応支援の方法について学びます。スクーリングでは、事例を用いて学校不適応によって生じる問題と、その適応支援の方法論を学びます。レポート学習では、教科書を読んで適応支援の方法と課題についての学びを深めます。

【教員等の実務経験による指導内容】

教育委員会の内側でカウンセラーを担っていた実務経験をいかし、教育臨床での問題について、子ども、家庭、学校環境および援助環境の多面的観点から読み解きます。授業では、蓄積された事例を活用し、実践的な問題理解と解決方法を学びます。

■到達目標

１）教育現場において生じる問題を説明できる。
２）教育現場において生じる問題の背景を説明できる。
３）学校適応条件を説明できる
４）学校不適応の子ども支援の方法を説明できる。

■教科書

中村恵子編著『学校カウンセリング―問題解決のための校内支援体制とフォーミュレーション　第３版』ナカニシヤ出版、2021年

（最近の教科書変更時期）2021年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書は必ず持参してください。2022年度までは、第２版を所持していても支障が無いように配慮します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

教育臨床では、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価or科目修了試験60%

■参考図書

田上不二夫著『不登校の子どもへのつながりあう登校支援: 対人関係ゲームを用いたシステムズ・アプローチ』金子書房、2017年

水野治久・石隈利紀他著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房、2013年

田上不二夫著『実践 グループカウンセリング―子どもが育ちあう学級集団づくり』金子書房、2010年

小林正幸著『事例に学ぶ不登校の子への援助の実際』金子書房、2004年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	教育現場において生じる問題とその背景	不登校の増加と長期化およびその課題
2	集団社会化と学校適応	集団社会化理論と集団適応のプロセス
3	教育臨床に有効な集団援助技法	対人関係ゲームの理論と演習
4	学校適応に求められる要因	学校適応の条件
5	発達障害の理解と課題	知的水準、自閉スペクトラム症、ADHD
6	学校不適応の理解	不登校事例の問題分析
7	学校不適応への援助方法	不登校事例の介入計画作成
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

・パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

・授業では事例を提示し、グループでのディスカッションを中心に読み解きます。

■スクーリング　評価基準

・とくに学校適応条件についての理解を問います（教科書・配付資料持込可）。

・授業への参加態度30％＋スクーリング試験70％（論述式）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：３～10時間）

教科書の１章～３章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

※教科書の参照ページは第２版のものです。第３版では異なる可能性があります。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	学校カウンセリングの役割	ｐ．１～３　学校カウンセリングの目的は子どもの学校適応上の問題解決にある	個別支援と集団支援の　両方が求められる
2	チームでの協働支援	ｐ．３～６　チームで解決をはかる児童生徒支援システム	共通理解が必要な専門用語を学ぶ
3	教師とスクールカウンセラーのコラボレーション	ｐ．６～９　集団支援の専門家＝教師 個別支援の専門家＝カウンセラー	教師とスクールカウンセラーの専門性を生かす
4	校内支援体制と教育コラボレーション	ｐ．９～12　児童生徒支援システム	システム理論
5	教育コラボレーションによる再登校支援(1)	ｐ．12～17　チーム支援の実際	保護者・生徒・集団へのチーム支援
6	学校適応の条件	ｐ．35～36　学校生活を支える適応条件	学校環境と家庭環境
7	学校適応のための発達課題	ｐ．36～38　学齢期までの発達課題	対人関係の発達
8	価値のトライアングルと　学校適応	ｐ．38～40　価値観のバランス	価値観の偏り
9	学校環境への適応システム	ｐ．40～42　学校環境と家庭環境のはざまでバランスをとろうとする子ども	個人と環境の相互影響
10	学校環境と問題解決システム	ｐ．42～45　不登校生徒への再登校支援	学校適応条件
11	学校不適応をつくる問題システム	ｐ．45～46　問題システムの構成要因	子ども・学校環境・家庭環境の相互影響
12	問題解決フォーミュレーション	ｐ．46～51　学校環境と家庭環境それぞれのフォーミュレーション	当事者支援と支援者支援
13	教育コラボレーションの意義	ｐ．53～54　コラボレーションの極意	教育コラボレーション

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	教育コラボレーションによる再登校支援(2)	p. 54〜57　チーム支援の実際	保護者・生徒・集団へのチーム支援
15	教育コラボレーションの役割と効果	p. 58〜59　チーム支援の条件	チーム支援の役割

■レポート課題

※教科書の参照ページは第 2 版のものです。第 3 版では異なる可能性があります。

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	教科書 p. 12〜17の事例から、チーム支援に必要な条件を論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

※教科書の参照ページは第 2 版のものです。第 3 版では異なる可能性があります。

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

(1)　書き方について

レポートは、以下の順序で最初に結論を述べてください。

1）結論　チーム支援に必要な条件として以下のことがあげられる（箇条書き）

2）本論　箇条書き条件の説明

3）総括　これらの条件を用いることの意義と効果

4）事例についての感想

1）〜 3）までが小論文形式のレポートの書き方です。論文の価値は、論点の正確さと論理の明瞭さにおかれます。ここに個人の意見や感想を交えてはいけません。論文では、必ず文献（本や論文）を読み、そこにどのように書かれていたから、このようなことが考えられると、根拠を示してそこから導かれる結論を述べることが求められます。また、直感による個人的な意見や感想を交えず、複数の文献による根拠から結論を導くことを「論じる」といいます。この論理の客観性と明瞭性が論文の価値の決め手になるのです。文献ではなく直感のおもしろさによる個人の意見や感想に価値がおかれるものは、随筆と呼ばれ、論文とは本質的に異なります。このレポートでは、 4）で感想を求めておりますので、ご自身の意見や感想はこの欄にまとめて記述してください。解釈がおもしろいほど論理の展開もおもしろくなるはずなのです。

論文では、客観性と明瞭性を高めるために、できるだけ箇条書きでまとめることをお勧めします。箇条書きでの結論を導く場合は、通常 3 項目程度にまとめます。 5 項目を超えると、箇条書きでまとめるまで

もなく冗長で焦点が絞られないものになってしまいがちだからです。仮に 4 項目以上の条件を考えた場合は、さらにその項目を 3 項目以内に整理統合し、本文で条件の内容を説明してください。ただし、文献からの引用の場合は、読者の解釈で勝手に整理統合するわけにいきませんから、文献を明示してそのまま引用してください。引用では、たとえば中村（2011）は、…（本文の引用）…もしくは、…（本文の引用）…（中村、2011）などと出典を明示し、巻末に引用文献を、本の場合①著者②出版年③タイトル④出版社の順で、論文の場合①著者②出版年③タイトル④研究誌名⑤巻号⑥掲載ページの順でお書きください。教科書の本文と巻末の引用文献をご覧いただけると、書き方が理解できるのではないかと思います。また、文献からの引用をそっくり結論に持ち込むのは、論じていることになりませんから、必ずそれを参考にして 3 項目以内に結論としてまとめ、その論拠として文献の内容を示してください。

次に、本文では、その条件とはどのような内容なのか、なぜそれが必要と考えたのか、そこにはどのような意味があるのかを説明してください。また、もしそれを用いなかった場合は、どのようなことになるのか、用いた場合はどのような効果が期待できるのかを説明し、論拠を示してください。この内容の豊かさが論文の質的価値をつくります。

そして、最後に意味と役割について説明して総括してください。

⑵　内容について

テーマである「チーム支援」は、教科書 9 ～12ページに「教育コラボレーション」としてまとめられています。

コラボレーションとは、異なる立場の専門家が、対等な立場で同じ目標や問題解決に向けて共同作業を行うことをいいます。学校カウンセリングの目的は、学校に不適応を起こしている子どもの適応支援にあります。学校適応とは、相談室や保健室など個別支援に対する適応ではなく、学級での集団に対する適応のことを指します。そのため、不適応状態にある子どもの適応支援をするためには、まず不適応によって傷ついている子どもに対する個別の立ち直り支援が必要です。そして、子どもの状態が回復したら学級復帰のための支援を行うことで完結されます。しかし、子どもが適応感を得られないまま我慢させて学級に復帰させる事態は避けなければいけません。さらに子どもの傷を深くするからです。

それでは、子どもの適応支援として何をすればよいのでしょう。そのためには、個別支援の専門家であるスクールカウンセラーと、集団支援の専門家である担任教師とのコラボレーションが必要です。また、コラボレーションのためには、教師とスクールカウンセラーを結びつけるコーディネーター役割も重要です。そこで、以下を参考に異なる立場の専門職について理解し、教職員がチームを組み協働で支援することの意味と役割を論じてほしいのです。

①担任の専門性　　59～61ページ
②コーディネーターの専門性　　63～66ページ
③スクールカウンセラーの専門性　　67～69ページ

また、コラボレーションの意義と極意については53～54ページを参考にしてください。

⑶　レポートを書こうとしてもやる気がわかないとき

空腹のときは、脳に栄養がいきわたらないせいかやる気が起きません。しかし、逆に満腹のときもなぜ

かやる気が起きません。また、脳に栄養を与えるとやる気がわくような気になることも稀にあります。受験生は、脳に栄養を与えるためにあめやチョコレートやブドウ糖をポケットにしのばせると効果的だと才色兼備のほまれ高い某高学歴女優がテレビで語ってくれました。筆者の経験では、チョコレートはないとやる気がわきません。芋けんぴとおせんべいも必須です。それに睡魔との闘いになるので、コーヒーも不可欠です。そして、ここまでやったら寝ても良いというゴールの設定もないとイヤになってしまいます。そして、ゴールまでできたら苦悶の心身をアルコールで潤し、よく寝て明日の苦戦に備えましょう。

これを読むと、健全な読者ほど「病んでいる」と思われるかもしれません。論文は、美容と健康と社交の大敵だとしみじみ思います。なぜ、こんなつらくてかなしい論文を書く道を好き好んで選んでしまっているのでしょう。しかし、きっとそれが研究者に与えられた宿命なのです。皆様も、レポートに苦しむほど、よりリアルに研究者のつらさ苦しさを実感していただけることと思います。皆様の善戦を心からお祈りしております。

科目修了試験

■評価基準

・評価の観点は、理解の正確さです。

・教科書や解説文を良く読んで対策してください。

障害者・障害児心理学

科目コード	FE3549

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	2年以上	大関　信隆

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、身体障害や知的障害、精神障害などの障害を持ちながら生活をしている人々の心理・行動面に関する理解を深めることが目的です。それぞれの障害像はどのようなものなのか、それにより引き起こされる心理・行動的諸問題はなにか、どのような社会的課題があり、どのような支援が可能なのかについて、学びを深められればと思います。

教科書やレポート学習で主に学ぶ内容としては、障害に対する基本的な考え方や一般的なメカニズム、心理社会的課題などに関する基礎的事項が含まれます。スクーリングで主に学ぶ内容としては、各種障害の状態像や、心理社会的支援に関する内容などが含まれます。

■到達目標

1）身体障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。
2）知的障害や発達障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。
3）精神障害に関する障害像や心理行動的特徴について説明できる。
4）障害を捉えるモデルを説明でき、その受容過程について考察できる。
5）精神疾患や発達の障害に対する心理社会的な援助方略について説明できる。

■教科書

田中農夫男・木村進　編著『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2009年

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは上記教科書は部分的に使用します。基本はレジュメが中心になります。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるために、特に「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発

見・解決力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを活かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50％＋スクーリング評価or科目終了試験50％

■参考図書

1）小此木啓吾・大野裕・深津千賀子編『心の臨床家のための精神医学ハンドブック』創元社、2004年
2）齋藤万比古編『発達障害が引き起こす二次障害へのケアとサポート』学研、2009年
3）滝川一廣著『子どものための精神医学』医学書院、2017年
4）APA著、滝沢龍訳『精神疾患・メンタルヘルスガイドブック　DSM-5から生活指針まで』医学書院、2016年
5）田中農夫男・木村進編『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』福村出版、2009年
6）上島国利監『最新図解　やさしくわかる精神医学』ナツメ社、2017年
7）横田圭司・千田若菜・岡田智著『発達障害における精神科的な問題　境界知能から最重度知的障害の91ケースを通して』日本文化科学社、2011年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、下記の科目の単位を修得していること。

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」

2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「生涯発達心理学」

■スクーリングで学んでほしいこと

精神や発達の障害というのは、人によってはなかなかイメージし難いものです。スクーリングでは、各種障害の状態像について映像資料なども活用しながら理解を深めていければと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	障害という現象の捉え方	生物・心理・社会モデルと障害の受容について学ぶ
2	身体障害と心理・行動	身体障害に関する心理・行動的特徴や関わり方の基本について学ぶ
3	知的・発達障害と心理・行動	知的障害や発達障害に関する心理・行動的特徴や関わり方の基本について学ぶ
4	精神障害と心理・行動①	主に統合失調症やうつ病に関する心理・行動的特徴や関わり方の基本について学ぶ

回数	テーマ	内　容
5	精神障害と心理・行動②	主に人格障害などに関する心理・行動的特徴や関わり方の基本について学ぶ
6	医療場面で出会う障害と対応	医療場面で出会う可能性のある仮想ケースを用いながら、援助方略について検討する。
7	教育場面で出会う障害と対応	教育場面で出会う可能性のある仮想ケースを用いながら、援助方略について検討する。
8	まとめと質疑応答	全体総括
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

レジュメとスライドを用いながら講義をします。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%

講義で用いたレジュメの中から出題します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

発達心理学と臨床心理学の講義内容について、他者に伝達講習ができる程度に復習してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	障害の意味を考える（序章２）	障害と言う言葉の意味と変遷をWHOの考え方なども手掛かりにしながら学ぶ。 キーワード：ICF、ICIDH、機能障害、能力障害	障害という現象は、ある部分は変えようのない現象であり、またある部分は相対的な現象です。これらを柔軟に捉える事がよりよい支援の土台になります。
2	視覚・聴覚障害の心理（１～２章）	感覚の障害が引き起こす心的体験を理解する。 キーワード：触覚、聴覚、点字、手話・口話	感覚は私たちの生活を下から支える、縁の下の力持ちみたいな存在です。その感覚機能が十分に働かない状況で、私たちの心的世界はどのような影響を受けるのか考えてみましょう。
3	言語障害の心理（３章）	言語の障害が引き起こす心的体験を理解する。 キーワード：表象符号、失語症、構音障害	言語は非常に抽象的な存在です。そして抽象化する能力は私たちの知的機能と非常に密接に関連しています。その言語機能が十分に働かない状況における心的世界の姿を学びましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
4	病弱・肢体不自由の心理（4～5章）	病弱や肢体不自由の障害が引き起こす心的体験を理解する キーワード：内部障害、病弱、運動障害、自己意識	身体的機能が十分に働かない場合、私たちは行動に多くの制限を受けます。それは心的な成長にとっても大きな影響を与えます。それらの関係性について考察しましょう。
5	知的障害の心理（6章）	知的能力の障害が引き起こす心的体験を理解する。 キーワード：知能、知能検査、注意記憶、学習、語用論	知的能力は私たちの行動の非常に多くの部分と関連する、いわば要のような機能です。知的機能が十分に働かない場合、様々な行動に適応上の問題が生じます。知的機能の遅れとはどういうことなのか、何故それが行動形成にとって重要なのかを理解しましょう。
6	発達障害の心理① ASDについて（9章）	自閉症スペクトラム障害（ASD）の行動特性について理解する。 キーワード：レオ・カナー、ハンス・アスペルガー、心の理論	ASDは発達障害の中でも特に対応の難しい、そして幼児期から児童期にかけての心理臨床で多く見られる障害です。自閉症を取り巻く考え方は症状への理解が深まると共に変化していますので、ASDに関する正しい理解を、その歴史的変遷とともに学びましょう。
7	発達障害の心理②その他の発達障害について（7～8章）	注意欠如多動症（ADHD）や極限性学習症（LD）など、その他の発達障害について、その行動特性について理解する。 キーワード：ADHD、LD、薬物療法、通級学級	ADHDは行動抑制に問題が生じる発達障害です。またLDは学習の一部分に特化した困難さを抱える障害です。これらは児童期の学校生活において不適応を生じさせやすいものです。ADHDは医学的な対応方法も提供されているところですが、現実にはそれだけでは対応が困難です。それらの現実を想像しながら学んでいきましょう。
8	精神障害の心理（10章）	統合失調症やうつ病といった精神障害について、その特性を理解する。 キーワード：精神保健福祉法、統合失調症、気分障害、精神科リハビリテーション、復職支援プログラム	思春期や青年期は、精神症状の好発年齢です。なかでも統合失調症や気分障害（うつ病）は2大精神疾患として知られており、支援をする際は正しい理解が求められます。各々の病態や治療アプローチについて学んでいきましょう。
9	障害者への支援①家族・家庭支援（11～12章）	障害の受容過程や家族支援の必要性・意義について理解する。 キーワード：家族機能、性別役割分業、家族システム論、悲嘆のプロセス	障害への支援は、患者本人へのアプローチだけでなく、家庭や家族という集団に対する働きかけが、時に非常に重要になってきます。家族という小さな社会の中で起こる力動を理解して、システムという視点で病理を捉え支援する方略を知りましょう。
10	障害者への支援②心理療法（14章）	心理アセスメントや心理療法の基本原則や方法について理解する。 キーワード：心理アセスメント、心理療法、デイケア	発達や精神の病理と向き合う場合、単に「対応方法」を知るだけでは相手に適した関わりを提供できません。相手の状況を正確に理解し、適切な援助を行う為に、心理アセスメントや心理療法の基本を学んでいきましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	障害者への支援 ③生活の質 （16章）	障害への対応としてQOLがいかに重要なのかを理解する。 キーワード：QOL、ADL、EBM、欲求段階説	障害と共に生きる場合、生活の質という視点が特に大切になります。生活の質とは何か、どのような側面を考慮する必要があるのか、生活の質を捉えるとは何か、などについて理解を深めましょう。
12	障害者への支援 ④就労支援 （17章）	就労支援に関するいくつかのアプローチについて理解する。 キーワード：障害者の雇用の促進等に関する法律、ジョブコーチ、一般就労、福祉就労、応用行動分析	障害の有無にかかわらず、就労は私たちが社会の一員として生活していく上で、とても重要な役割を担っています。障害を持ちながら就労をすることについて、その制度やサポート方略について学びましょう。
13	幼年期の障害 （18章）	幼年期に見られやすい障害について整理する。 キーワード：発達障害、児童虐待、トラウマ	幼児期は発達の土台を作る大切な時期です。この時期に生じる可能性のある障害を再考し、それらが心的成長にどのような影響を与えるのか、考察しましょう。
14	特別支援教育 （19章）	児童期の発達支援として重要になる特別支援教育について理解する。 キーワード：特別支援教育、通級	特別支援という言葉は昨今、だいぶ社会的な認知度が高まってきました。小中学校のみならず、幼稚園や保育所、高等学校でも特別支援の考え方が求められます。その基本的な考え方や仕組みについて理解しましょう。
15	老年期の問題 （20〜22章）	老年期に見られる行動上の問題を理解する。 キーワード：適応、認知症、介護	高齢化社会が進む中、老年期の心理行動上の問題とそれへの対処は重要な社会的課題です。老年期のそれら特徴について、概観しましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	認知のエラーや対人関係上の疎通が悪くなる障害として自閉症スペクトラム障害と統合失調症がある。この二つの障害はどのような部分が類似して、どのような部分が異なっているであろうか。それぞれの症状の基準、病理モデルについて整理した後、両者を対比させながら論じなさい。加えて、治癒に関するアプローチについても対比しながら論じなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

発達や精神の症状は、表面に現れる行動のみではその本質が見えてこないものが多々あります。ここでは、症状の根底にある病理のメカニズムについて意識を向けながら学んでください。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

自閉症スペクトラム障害（ASD）は幼児期から見られる障害として、また統合失調症は特に思春期以降に顕著になりやすい障害として、いずれも心理臨床にとって非常に重要な障害の二軸です。そしてそれらの障害は表面的に似ている部分が見られます。歴史を振り返っても、ASDはかつて「小児分裂病」と呼ばれていた時期がありましたし、統合失調症をSchizophrenieと名付けたブロイラーによる症状の記述の中には「自閉」という言葉があるくらいです。ですが現在、両者は異なった症状として記述されています。この二つの障害について考察を深めてください。

まず各々の症状の基準について、正しく整理しましょう。DSMやICDといった診断基準に関して述べている書籍が役に立ちます。ここで大切なのは、単に基準を列挙する事に留まらないことです。列挙しただけでは自分の言葉として理解することができないはずです。それが表す内容を他人に伝えられるレベルまで理解してから記述してみてください。その後、それらの症状がなぜ生じるのか、という病理の「モデル」について調べてみてください。病理モデルとはその症状が発生するに至るメカニズムを整理したものです。二つの障害のモデルを対比してみましょう。そして、各々の具体的な行動例を列挙してみると、類似点と相違点が見えてきます。なぜ類似するのか、でもなぜ病態として異なるものだと定義されているのか、などについて考察してみてください。それぞれを単独で説明するのでは十分ではありません。両方を同じテーブルの上で比較することが大切です。加えて治療アプローチですが、行動的に似た部分のある二つの症状なのになぜアプローチが異なるのか、についても考察してみてください。

■レポート　評価基準

・それぞれの診断基準について、正しく論述できているか
・それぞれの症状について、その病理モデルを述べられているか
・具体的な行動像を列挙し、それを対比できているか
・治療アプローチの異同について、お互いに関連づけながらその理由を含めて考察できているか

科目修了試験

■評価基準

1）身体障害、知的障害、発達障害、精神障害について、それぞれ代表的な障害について診断の基準や行動像を説明できるか。
2）それぞれの障害が、日常生活の様々な場面でどのような困りごとを経験するかについて説明できるか。
3）それぞれの障害について、基本メカニズムを理解した上での関わり方や援助の方法について説明できるか。

感情・人格心理学 2018～

科目コード	FF3550

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	2年以上	武村　尊生

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p. 194「人格心理学」（科目コード：FF2511・FF2528、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

人のこころは十人十色、千差万別とも言われています。確かに、一人として同じ人間はおらず、それぞれ「その人らしさ」を持っています。その人特有のものの見方や捉え方、感じ方、行動などは、人格特徴、性格傾向、パーソナリティとも呼ばれています。これらを学問的に解明するために、長年たくさんの研究が行われてきました。また、ある状況に出くわした際、そこに生じる感情や行動も人によって異なります。その違いにも、各個人の人格が深くかかわっているといってよいでしょう。

感情・人格心理学では、人格理解の基礎となる認知と感情と行動の関係、心理学における人格の概念、人格の発達や変化、人格に関する様々な理論（類型論、特性論）などを学びます。

この科目で学ぶ内容には、応用心理学分野はもちろんのこと、精神医学や行動科学などの近接領域の様々な科目の基礎となるものが多く含まれています。今後、さらなる勉強を進めるためにも、本科目で扱う内容を理解し、知識を身につけてください。

■到達目標

1）感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。
2）感情が行動に及ぼす影響について概説できる。
3）人格の概念及び形成過程について説明できる。
4）人格の類型、特性等について概説できる。

■教科書（教科書2）は「福祉心理学」と共通）

1）岡田斉編『社会福祉士シリーズ2　心理学理論と心理的支援　第3版』（第9章の1・2、第3章など）弘文堂、2018年（第3版でなくても可）
2）小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年

（最近の教科書変更時期）2019年4月
※教科書2）は「福祉心理学」で配本のため、この科目では教科書1）のみ配本いたします。

（スクーリング時の教科書）

上記教科書１）『心理学理論と心理的支援』は必ず所持ください。

■履修登録条件

この科目は「福祉心理学」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50％＋スクーリング評価 or 科目修了試験50％

■参考図書

加藤孝義著『パーソナリティ心理学―自分を知る・他者を知る』新曜社、2001年

河合隼雄著・河合俊雄編『ユング心理学入門』岩波現代文庫、2009年

前田重治著『続　図説臨床精神分析学』誠信書房、1994年

諸富祥彦著『カール・ロジャーズ入門　－自分が“自分”になるということ』コスモス・ライブラリー、1997年

諸富祥彦著『自己成長の心理学―人間性／トランスパーソナル心理学入門』コスモス・ライブラリー、2009年

A. H. マズロー著　小口忠彦訳『人間性の心理学―モチベーションとパーソナリティ』（改訂新版）産業能率大学出版部、1987年

A. H. マズロー著・小口忠彦訳『完全なる人間―魂のめざすもの』（第２版）誠信書房、1998年

大渕憲一・堀毛一也編『パーソナリティと対人行動』誠信書房、1996年

小川捷之・詫摩武俊・三好暁光編『パーソナリティ』（臨床心理学大系第２巻）金子書房、1990年（自我・自己、人格の障害について詳しい）

M. セリグマン著　山村宜子訳『オプティミストはなぜ成功するか―ポジティブ心理学の父が教える楽観主義の身につけ方』（新装版）パンローリング、2013年

瀧本孝雄著『性格のタイプ―自己と他者を知るための11のタイプ論』サイエンス社、2000年

詫摩武俊監修『性格心理学ハンドブック』福村出版、1998年

詫摩武俊・瀧本 孝雄・鈴木乙史・松井豊共著『性格心理学への招待―自分を知り他者を理解するために』（改訂版）サイエンス社、2003年

丹野義彦著『性格の心理―ビッグファイブと臨床からみたパーソナリティ』サイエンス社、2003年

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子著『グラフィック性格心理学』サイエンス社、2005年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学は、個人や集団の理解、行動の予測、適応や成長の援助などを目的としています。とりわけ、人格心理学は、その人らしさをどう理解するのか、そしてその人の行動をどの程度予測することができるのか、その人らしさの強みを活かし、弱みを補って適応や成長を図るにはどうしたらよいのかが問われているでしょう。また、そのためにさまざまな見方や理論が展開されています。そのような問題意識をもって学んでほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	人格・性格・気質とは	心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違い、研究の課題と臨床における応用について学ぶ。
2	クレッチマーのタイプ論、ユングのタイプ論	タイプ論の基本的な考え方、利点と欠点について学ぶ。代表的なタイプ論として、クレッチマーの類型論とユングの類型論を取り上げて、その考え方と応用について学ぶ。
3	タイプA・C、アイゼンクのタイプ論	人格と健康の関連として、タイプAとタイプC、アイゼンクのタイプ論について学ぶ。
4	キャッテルとアイゼンクの特性論、特性5因子モデル	特性論の基本的な考え方、利点と欠点について学ぶ。代表的な特性論として、キャッテルとアイゼンクの特性論、特性5因子モデルを取り上げ、その考え方と応用について学ぶ。
5	状況論・相互作用論	ミッシェルによる状況論と「人―状況論争（一貫性論争）」と、その後の展開、特に相互作用論について学ぶ。人の行動に影響を及ぼしている状況の力やナラティブ（物語）についても学ぶ。
6	フロイトの力動論	代表的な力動的構造論として、フロイトの精神分析理論を取り上げ、その考え方と応用について学ぶ。
7	アドラー心理学、ユング心理学、アサジョーリの精神統合理論	無意識について、フロイトとは異なる視点からとらえたフロイトの弟子たちの考え方とその応用について学ぶ。
8	総括と質疑応答	これまでの人格理論について総括し、補足する。質疑応答を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。途中、人格理解のためのワークも行います。教科書と視聴覚教材も適宜使用します。

■スクーリング　評価基準

試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います（持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

教科書１）の第３章と教科書２）の第３部第２章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	人格の定義	心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違いについて学ぶ。	日常生活で用いている「人格」の意味と心理学で用いている「人格」の意味の違いについて考えてみましょう。
2	感情に関する理論及び感情喚起の機序	感情に関する理論（ジェームズ＝ランゲ説、キャノン＝バード説、シャクターの理論など）、感情がどのようにして喚起されるのかについて学ぶ。	「悲しいから泣く」「泣くから悲しい」「笑顔を見ると幸せな気持ちになる」。日常生活での経験に照らし合わせて、考えてみましょう。
3	感情が行動に及ぼす影響	感情（抑うつ、怒り、高ぶりなど）が行動に及ぼす影響について学ぶ。	抑うつではやる気が出ず、怒りから事故や事件になることもあります。日常生活での経験に照らし合わせて、考えてみましょう。
4	類型論	類型論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、クレッチマーの類型論とシェルドンによる研究、ユングの類型論、その他の類型論について学ぶ。	クレッチマーの着想は臨床経験から、ユングの着想はフロイトとアドラーの見方の違いがどこからくるのかと考える中で生まれました。理論が生まれた背景のエピソードにも目を向けるとよいでしょう。 自分自身の類型について考えてみましょう。
5	特性論	特性論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、キャッテルとアイゼンクの研究、特性５因子モデルについて学ぶ。	人格特性はオルポートによって提唱されました。オルポートはフロイトのもとを訪れ、失望したことから、新たな理論が作られました。特性論は因子分析という統計的手法によって発展し、今日盛んとなっている質問紙法の人格検査をもたらしました。
6	状況論と相互作用論	ミッシェルによる状況論と「人－状況論争（一貫性論争）」と、その後の展開、特に相互作用論について理解する。	ミッシェルは、平和部隊としてナイジェリアに派遣される若者達の派遣後の適応などをロールシャッハ・テストや特性質問紙人格検査によって予測しましたが、結果は思わしくありませんでした。そのことから、人格の定義そのものに疑問を投げかけました。
7	力動的構造論	力動的構造論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、レヴィンの場の理論、フロイトの精神分析理論、ユング心理学、アドラー心理学、アサジョーリによる精神統合理論について学ぶ。	力動とは、２つの力のぶつかり合いを意味します。そこで、まず、その人が心の中でどのような葛藤をいだいているのか、考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	交流分析理論	交流分析における自我状態の構造分析、脚本分析（禁止令とドライバー）、交流パターン分析、ゲーム分析、ストローク理論、基本的構え、時間の構造化などについて学ぶ。	交流分析では、自律的な人間をめざし、そのためには「気づき」「自発性」「親密性」の要素を高めることが必要と考えています。交流分析によって、気づき、自発性、親密性がどのように高められるのかを考えてみましょう。
9	人間性心理学	代表的な理論として、マズローの欲求階層説と自己実現論、ロジャーズの自己理論について学ぶ。	人間性心理学が生まれた背景にも目を向けながら学ぶとよいでしょう。そして、自分自身の欲求の段階、経験と自己概念の不一致について考えてみましょう。
10	学習論、認知論	恐怖症、攻撃行動、無気力、社会的行動が学習によるという見方について学ぶ。認知の個人差が課題解決や社会的感受性、不安や抑うつと関連していることを学ぶ。	自らの認知や行動について自己観察し、認知や行動の変容が生じやすいような工夫を考えてみましょう。
11	自我・自己	自我・自己の概念と分類、自我・自己の形成、自我・自己の機能、自我の強さ（成熟度）について、学ぶ。	自分という意識が行動にどのように影響しているか、自己観察してみましょう。「これでいいんだ」「これも成長のための経験、学ぶ機会」と自己受容してみましょう。
12	自己実現	自己実現・自己超越のとらえ方、自己実現の成長過程、自己実現の留意点について学ぶ。	歴史上の人物や有名人の自己実現について考えてみましょう。 吉田松陰は「私心さえ除き去るならば、進むもよし退くもよし、出るもよし出ざるもよし」といいました。私心について考えてみましょう。
13	人格の形成・発達と変化	人格の形成における遺伝的要因、個体内要因、環境的要因、主体的要因について学ぶ。人格の変化と役割性格の変化について学ぶ。	リンカーンは「40歳を過ぎたら、自分の顔に責任を持たなくてはならない」といいましたが、人格も生涯発達することが可能です。 自らの人格形成について考えてみましょう。
14	人格の障害・病理	葛藤と欲求不満、防衛機制について学ぶ。パーソナリティ障害について、症状やタイプの違いについて学ぶ。	問題行動の背後にある葛藤や欲求不満について考えてみましょう。 パーソナリティ障害はパーソナリティの偏りを意味します。タイプごとに歴史上の人物や有名人を考えてみましょう。
15	人格と健康との関連	タイプAとタイプC、H因子とD因子、うつ病親和性性格、ハーディネスとレジリエンシーについて学ぶ。	人格とストレスが相まって健康に影響を及ぼすことが知られています。心疾患になりやすい人、癌になりやすい人、うつ病になりやすい人、ストレスに強い人、ストレスに打ちひしがれても回復する人について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

テキスト１）の第３章の２のD（力動的構造からみる）と第11章の１のA（精神分析と分析心理学）あるいは第11章の１のE（交流分析）をよく読んで取り組んでください。さらに、テキストだけではなく、各自でいろいろ調べて考察してください（テキスト以外に少なくとも２冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください）。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもあります。心理的不適応の具体例については、身近な人や社会的な事件、臨床的な事例などを取り上げて理解を試みてください。そしてテキストなどを参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのように援助していったら心理的適応を促すことになるかについても考えてみてください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解が一番のポイントになる。また、キーワードの記載、記述の分量（１問あたり400〜1, 200字程度）も評価の対象となる。

人格心理学 ～2017

科目コード	FF2511・FF2528

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR（講義）	1年以上	武村　尊生

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、ｐ.188「感情・人格心理学」（科目コード：FF3550、２単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、ｐ.188「感情・人格心理学」（科目コード：FF3550）を参照してください。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位１単位（８コマ）に変更されました。

※科目コード　FF2511　2017年までのスクーリング受講者（スクーリング単位２単位）
　　FF2528　上記以外の方（スクーリング単位１単位）

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
3 単位め	力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。
4 単位め	人格諸理論の視点から自己分析を試みて、その感想とコメントを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

人格の研究方法として、伝記・日誌法、フィールドワーク、実験法、自然観察法、面接法、観察法（客観的評価法）、尺度・質問紙法、投影法などがあります。人格について理解を深める際も、単に知識として学ぶだけでなく、人格の研究法を参考に実際の日常生活場面での人格にアプローチして考えていくことが望まれます。その際、認知と感情と行動の関係及び他人の性格に対する私たちのとらえ方の癖や歪み（寛大化傾向、中心化傾向、接誤差、対比誤差、年功誤差、ハロー効果、論理的誤謬、傾性帰属傾向など）についてよく知っておくことが大切です。前者については、テキスト１）の第９章の１のAの情動の障害及び２の情動を、後者についてはテキスト１）の第５章の１のBの［１］の⑴帰属と⑵印象形成も参照してください。また、あいまいな状況では、評価者の善悪の価値・期待・願い・恐れ・不安なども無意識に投影されて理解されがちです。

テキスト１）の第３章の２では、人格のさまざまなとらえ方について述べてありますので、よく読ん

で、その背後にある人間観の違いについても考えてみてください。

レポートの作成にあたっては、テキストなどをよく読んで、その内容をよく理解してください。その際、① 知識の理解、②具体的な場面での理解、③テキストの執筆者の見方や意図の理解、④家庭・仕事・教育・ 臨床などの場面での応用を心がけるとよいでしょう。また、知識の理解に際しても、心理学的な見方や考え方に目を向け、理論や学説が生まれた経緯や背景も考えながら読み進めるとよいでしょう。さらに、テ キストだけでなく、各自でいろいろ調べて深めてください（3単位め課題については、テキ スト以外に少なくとも2冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください)。

※以下、このアドバイス欄であげたテキストの章立てで指示のないものは教科書1）のものです。

1・2単位め アドバイス

教科書1）2）をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位め アドバイス

テキスト1）の第3章の2のD（力動的構造からみる）と第11章の1のA（精神分析と分析心理学）あるいは第11章の1のE（交流分析）をよく読んで取り組んでください。さらに、テキストだけではなく、各自でいろいろ調べて考察してください（テキスト以外に少なくとも2冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください)。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもあります。心理的不適応の具体例については、身近な人や社会的な事件、臨床的な事例などを取り上げて理解を試みてください。そしてテキストなどを参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのように援助していったら心理的適応を促すことになるかについても考えてみてください。

4単位め アドバイス

人間の目は前についていて外を向いています。ある人は、このことから、自分を振り返り、自分の内に目を向ける人は少ないといいます。また、ソクラテスは「汝自身を知れ」といい、己の無知さをまず知ることを説きました。他方、インドには、ソクラテスを訪ねた修行者が「あなたの哲学は何か」と問うたところ、ソクラテスは「自分自身を知ること」と答えたので、その修行者は「人間の本質を知らずして自分自身を知るなんて不可能」と思い、早々に帰ってきたという話が伝わっているそうです。それほど自分自身を知ることは難しいものです。

自分自身を知ることが難しい理由を心理学的にみた場合に、防衛機制と自我関与の働きがあります（加藤、2001)。自己分析に際して、防衛機制が働くと、知的に理解することで無意識に自分の感情に直面することを避けたり、○○だから仕方がないとあきらめたりするようになります。また、自我関与が働くと、自分のことだけを考えて、相手がどんな気持ちでいるかをなかなか考えられなくなったり、考えても自分の都合のいいように考えてしまったりします。そうすると、自分の感情（葛藤する感情や隠れた動機など）を見つめること、相手の気持ちに目を向け、相手の気持ちにそって考えることで自己分析の幅も広がるでしょう。

自己分析を行う際には、まずテーマをしぼります。最近イヤなこと、恥ずかしかったこと、癪に障ったこと、ガックリきたこと、あわてたことなどを思い出して、焦点をしぼって、そのときの自分の気持ちや

動機について分析を行います（加藤、2001）。また、相手や周囲がどんな気持ちでいたか、自分の言動によってどんな気持ちになったかを考えます。

次に人格諸理論の視点から自己分析を行います。テキストの第３章だけでなく、第11章も読むと役立つと思います。以下に要点を述べますので、参考にしてください。

⑴　類型論：自分の類型について知るとともに、相手の類型の良さを生かせる状況作りを図ったかどうか、相手の類型の短所を補うように助けたかどうかを振り返ります。

⑵　特性論：自分の特性や相手の特性の病理的特徴を一般的特徴に言いかえてみます（たとえば、「臆病な人」は「とても控えめな人」というと印象が変わる）。そして、その特性を認め、その特性を十分に出せる状況や新たな行動の付加を考えてみます（たとえば、立食パーティでは大いに控えめにしていいので、周囲をよく観察してコップや料理の皿が空になっている人にはそっとビールをついだり料理を届けたりするなど）。

⑶　力動的構造論：精神分析理論によれば、現実生活での外傷的体験やストレスを振り返るとともにそれ以前（主に子どもの頃）に性愛的（愛情・依存）欲求や攻撃欲求などで葛藤し、抑圧してこなかったかどうかを振り返り、抑圧してきた欲求を社会的に認められる形で満たす方法を考えます。ユング心理学によれば、症状や問題行動を無意識の補償作用や個性化の過程としてとらえ直し、生き方を変えていきます。個人心理学によれば、問題行動を通して自分は本当には何を望んでいるのか（行動の目的）を振り返り、問題行動以外で目的を達するやり方を考えます。交流分析理論（ｐ.40、ｐ.186〜189）によれば、自我状態をとらえ、高い自我状態での行動に偏っていないかどうかを振り返り、低い自我状態を高めるようにします。また、自分が繰り返しやすいゲームのパターンや人生脚本に気づき、ゲームからの脱却や再決断を行います。

⑷　学習理論：自分の問題行動について先行する手がかり刺激や強化について振り返ります。そして、段階的に目標行動に向かうことや目標行動の誘導の工夫（マークをつける、自己会話（「落ち着け」など）をするなど）、社会的スキルの訓練、役割遂行や自己選択による自己効力感の向上、セルフ・モニタリング（自ら毎日測定記録をつける）などを図ります。

⑸　人間性心理学：自己概念を振り返り、経験していること（自分の感情や欲求など）に目を向けるようにします。

⑹　認知論：認知スタイルや認知の歪みについて振り返り、別の考え方や取り組みを図ります。

なお、第３章末のジェネリックポイントの人生の意味の探究や自分についての物語、第11章の１のＤの［３］のソリューション・トークも、新たな視点や問題行動と偽解決の悪循環パターンから抜け出すヒントを与えてくれるので、参照してください。

レポートでは、複数の人格理論の視点を取りあげて考察してください。

心理的アセスメントⅠ

2018～	科目コード	FF3553

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	渡部　純夫

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p. 203「心理アセスメント」（科目コード：FF2519）を参照してください。
※この科目の仙台会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度の開講後は2023年度開講予定です。
※オンデマンド・スクーリングは毎年開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

悩みを抱えているクライエントに心理的援助を行おうとするとき、クライエントを多面的、総合的、全人的な角度からとらえることが必要になります。そのためには、クライエントの生育歴やパーソナリティ、環境などの情報を科学的にとらえ、客観的に評価・査定することが重要です。この評価・査定の方法がアセスメントです。心理アセスメントでは、特に「面接法」「観察法」「検査法」よりクライエントへの接近を試みることになります。そのとき大事なことは、クライエントの気持ちに寄り添いながら癒しの心を忘れないことです。心理アセスメントでは、これらのことを押さえた評価・査定の学習を行うことになります。

■到達目標

1）心理面における正常・異常の違いについて説明できる。
2）心理アセスメントの3本柱である「面接法」「観察法」「検査法」について具体的に論じることができる。
3）アセスメントにおいて、倫理面を十分に配慮した報告書を書き、報告することができる。

■教科書

日本健康心理学会編『健康心理アセスメント概論』実務教育出版、2002年
（スクーリング時の教科書）教科書は参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験40%

■参考図書

鈴木睦夫著『TATの世界』誠信書房、1997年
鈴木睦夫著『TATパーソナリティ』誠信書房、2000年
成瀬悟策著『動作療法』誠信書房、2000年
村瀬嘉代子著『心理療法のかんどころ』金剛出版、1998年
片口安史著『改訂　新・心理診断法』金子書房、1987年
河合隼雄著『心理療法序説』岩波書店、1992年
岡堂哲雄著『心理テスト』講談社現代新書、1994年
藤掛明著『描画テスト・描画療法入門』金剛出版、1999年
岡堂哲雄編集『心理査定プラクティス』（現代のエスプリ別冊）至文堂、1998年
C・コッホ著『バウム・テスト』日本文化科学社、1970年
野島一彦編著『臨床心理学への招待』ミネルヴァ書房、1995年
下山晴彦・松澤広和編『実践心理アセスメント』日本評論社、2008年
村上宣寛・村上千恵子著『臨床心理アセスメントハンドブック［改訂版］』北大路書房、2008年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

「心理アセスメント」では、臨床心理学的視点から、対象となるクライエントをどのようなことに注意を払って捉えていくのかを話していきます。そのためには、「正常と異常」の捉え方や、心理学モデルからの見立て、さらには言語的・非言語的な面からの評価をどうすればよいか、身につける必要があります。講義では、日ごろの人との接し方を思い起こしながら、学んでほしいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	正常と異常の判断方法	平均的規準、病理的規準、価値的規準、民俗的規準、発達的規準
2	心理臨床家の視点	身体と心理、問題の捉え方、社会的視点、病理の捉え方
3	アセスメント①	面接法のポイント
4	アセスメント②	観察法のポイント
5	アセスメント③	検査法のポイント
6	アセスメントと見立て	問題の心理的テーマのほり下げ方

回数	テーマ	内　容
7	アセスメントと目標	短期目標・長期目標
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

資料は用いずに、アセスメントの考え方をわかりやすく伝えていきたいと思います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%：持込不可）

試験では、アセスメントの基本について問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

「面接法」「観察法」「検査法」についての内容を、教科書を中心に調べ、自分が他人を評価するときの特徴についてまとめてきてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	アセスメントの意義と役割 （第１章）	健康心理アセスメントとは、アセスメントの意義と役割 **キーワード**：情報性、弁別性、刺激性・治療性、科学性・客観性　など	アセスメントのもっとも重要なポイントとアセスメントとは何かを理解する。その上で、４つの意義と役割について学ぶ。
2	アセスメントのターゲット① （第２章）	健康心理学の目標と活動分野・活動領域とアセスメント **キーワード**：健康科学、心理学、生物心理社会的視点、生涯発達心理学的視点	アセスメントを行うための視点について、領域ごとに必要な条件を理解し、深く洞察する。
3	アセスメントのターゲット② （第２章）	医療・職場場面におけるアセスメントターゲットの概略、女性の健康心理学 **キーワード**：医療、職場、女性	実際の場面におけるアセスメントの事例を踏まえ、社会生活における他の場面への応用についても考えてみること。
4	アセスメントの方法 （第３章）	面接法、観察法、質問紙法、検査法、心理生理学的測定、調査 **キーワード**：構造化面接、行動観察、知能検査・適性検査、人格検査	アセスメントの方法で重要な「面接法」「観察法」「検査法」等について理解する。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
5	アセスメント法の必要条件 （第 4 章）	信頼性、妥当性、基準（標準化）、実用性（費用対効果） **キーワード**：内容的妥当性、構成概念妥当性	アセスメントを行うにあたって「信頼性」「妥当性」の必要な条件を理解し、深く洞察する。
6	アセスメントの留意点 （第 5 章）	心理アセスメントの展開と健康心理学、選択およびバッテリー構成上の留意点、実施上の留意点、採点上の留意点、解釈・評価・診断上の留意点 **キーワード**：生活習慣の健康、一般性など	「アセスメント」を行うにあたって、実際的な留意点について深く理解する。
7	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用① （第 6 章）	パーソナリティ、健康度・健康観 **キーワード**：直接的アセスメント、間接的アセスメント　など	「アセスメント」において、人間の全体性を意味する「パーソナリティ」とのつながりについて深く理解する。
8	「パーソナリティ」のアセスメントの種類と活用② （第 6 章）	QOL、タイプA **キーワード**：QOL、タイプA行動パターン、虚血性心疾患	「生活の質」や「人生の質」について、「アセスメント」をどのように活用するか学び、日本人の性格特性である「タイプA」との関係も考える。
9	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用① （第 7 章）	ストレッサー、ストレスコーピング、バーンアウト **キーワード**：セリエ、ラザルス、ストレッサーなど	「ストレス」に伴う関連要素について、その意味や使い方について考える。
10	「ストレスと情動」のアセスメントの種類と活用② （第 7 章）	不安・怒り・神経症傾向、気分（抑うつ、など） 「痛み」の測定 **キーワード**：神経症、気分障害、痛み	「ストレス」と連動して問題化する、「不安や怒り」「抑うつ」「痛み」などについて理解する。
11	「生活態度･習慣」のアセスメントの種類と活用① （第 8 章）	ライフスタイル,食行動 **キーワード**：生活習慣、食行動	人間の「ライフスタイル」や「食行動」をどのようにアセスメントするか考える。
12	「生活態度・習慣」のアセスメントの種類と活用② （第 8 章）	リスク行動 **キーワード**：リスク要因、リスク行動	日常生活を営むにあたって「リスク」をどのように考え、どうかかわるかについて、「アセスメント」するための方法について考える。
13	「社会関係」のアセスメントの種類と活用① （第 9 章）	ソーシャル・サポート、人間関係 **キーワード**：ソーシャル・サポート、介入、愛情	「ストレス」軽減のために有効である、「ソーシャル・サポート」「人間関係」の「アセスメント」について学ぶ。
14	「社会関係」のアセスメントの種類と活用② （第 9 章）	社会的スキル **キーワード**：不適応、社会性、自我	「社会適応」するためのスキルをどのように見つけることができるかについて「アセスメント」のあり方について学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	アセスメントにおける倫理的諸問題(第10章)	問題と課題 **キーワード**：倫理違反、問題点	「アセスメント」を行うにあたって、「倫理的配慮」が必要になる。「アセスメント」と「倫理」の関係について深く学ぶ。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	クライエントを多面的・総合的・全人的にとらえようとしたとき、心理アセスメントにおける「面接法」「観察法」「検査法」を的確に活用し、クライエントの人格像が見えるように整理しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

クライエントの心理を理解するためには、どのようなアセスメントの方法を身につけておかなければならないかをまず学習していきます。心理アセスメントというと、どうしても心理テストに偏りがちなのですが、ここでは「面接法」「観察法」「検査法」の 3 つの方法について学習を深めていき、総合的なクライエント理解を考えていきます。心理テストによるアセスメント（＝検査法）も重要なのですが、「面接法」「観察法」「検査法」はそれぞれ独自の特徴を持っています。その特徴をよくつかみながら、上手に組み合わせて使いこなすことにより、より効果的なアセスメントが可能になります。

また、アセスメントで特に注意を払わなければならないことの一つに、クライエントのパーソナリティの問題をあげることができます。パーソナリティを読み解き理解していくためには、パーソナリティとは何かをまず知らなくてはなりません。その上で、自分なりの考え方をしっかりと身につけていくことが重要になります。パーソナリティの理解は、「面接法」「観察法」でも行われるわけですが、より客観性を求めていくと「検査法」である心理テストに行き当たります。そこで、興味を持った心理テストを取り上げ、自分なりに調べてみることにより、心理テストのいろいろな特徴について理解を深めてもらいたいと思います。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

⑴　テキスト『健康心理アセスメント概論』の第 1 章・第 2 章・第 3 章をよく読み、アセスメントとは何なのか。その必要性と意義について幅広い観点から学習してください。自分の中のイメージをふくらますことができたら、アセスメントの方法に進んでください。

⑵　アセスメントの方法にはいくつかのものがありますが、特に「面接法」「観察法」「検査法」の理解を深めてください。「検査法」と関係の深いものに「質問紙法」「心理生理学的測定」があります、あわせ

て学ばれると「検査法」に関しての理解が広がると思われます。

⑶　それらを、実際的な場面を想定しながら自分なりにまとめていくことにより心理アセスメントの方法が自分なりに理解できてくると思います。それを、整理しレポートにまとめてください。

科目修了試験

■評価基準

1）アセスメントの意義を体系的に理解しているか。

2）心理テストの内容を学習しているか。

3）アセスメントの応用ができるか。

4）現代社会の心理的問題の背景に対し自分の考えを持っているか。

5）対象としてのクライエントが見えているか。

心理アセスメント ～2017

科目コード	FF2519

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	1年以上	渡部　純夫

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※2018年度以降に入学した方は、p.197「心理的アセスメントⅠ」（科目コード：FF3553）を参照してください。
※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、p.197「心理的アセスメントⅠ」（科目コード：FF3553）を参照してください。
※この科目の仙台会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度の開講後は2023年度開講予定です。
※オンデマンド・スクーリングは毎年開講予定です。

■レポート課題

1単位め	クライエントを多面的・総合的・全人的にとらえようとしたとき、心理アセスメントにおける「面接法」「観察法」「検査法」を的確に活用し、クライエントの人格像が見えるように整理しなさい。
2単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

クライエントの心理を理解するためには、どのようなアセスメントの方法を身につけておかなければならないかをまず学習していきます。心理アセスメントというと、どうしても心理テストに偏りがちなのですが、ここでは「面接法」「観察法」「検査法」の3つの方法について学習を深めていき、総合的なクライエント理解を考えていきます。心理テストによるアセスメント（＝検査法）も重要なのですが、「面接法」「観察法」「検査法」はそれぞれ独自の特徴を持っています。その特徴をよくつかみながら、上手に組み合わせて使いこなすことにより、より効果的なアセスメントが可能になります。

また、アセスメントで特に注意を払わなければならないことの一つに、クライエントのパーソナリティの問題をあげることができます。パーソナリティを読み解き理解していくためには、パーソナリティとは何かをまず知らなくてはなりません。その上で、自分なりの考え方をしっかりと身につけていくことが重要になります。パーソナリティの理解は、「面接法」「観察法」でも行われるわけですが、より客観性を求めていくと「検査法」である心理テストに行き当たります。そこで、興味を持った心理テストを取り上げ、自分なりに調べてみることにより、心理テストのいろいろな特徴について理解を深めてもらいたいと思います。

1単位め
アドバイス

⑴　テキスト『健康心理アセスメント概論』の第１章・第２章・第３章をよく読み、アセスメントとは何なのか。その必要性と意義について幅広い観点から学習してください。自分の中のイメージをふくらますことができたら、アセスメントの方法に進んでください。

⑵　アセスメントの方法にはいくつかのものがありますが、特に「面接法」「観察法」「検査法」の理解を深めてください。「検査法」と関係の深いものに「質問紙法」「心理生理学的測定」があります、あわせて学ばれると「検査法」に関しての理解が広がると思われます。

⑶　それらを、実際的な場面を想定しながら自分なりにまとめていくことにより心理アセスメントの方法が自分なりに理解できてくると思います。それを、整理しレポートにまとめてください。

2単位め
アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

心理的アセスメントⅡ

科目コード	FE4556

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	SR（講義）	3年以上	大関　信隆

※2017年度以前・2018年度以降に入学した方どちらも履修登録できます。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

心理学的に人を援助するためには、対象者が示す行動を多面的に捉え、理解し、そこから関わりの方略を見出すことが必要になります。そのために心理学では対象者の内面をより深く、かつ客観的に捉えるツールを開発しています。「心理的アセスメントⅠ」（「心理アセスメント」）ではアセスメントに用いられる種々の方法、面接法や観察法、検査法などを学びました。本講義ではこの中から特に心理検査という手法にフォーカスを当てて、アセスメントの手法をより深く学習してみたいと思います。

教科書やレポート学習で主に学ぶ内容としては、検査法に関する基本的な考え方や、検査結果で用いられる数値や統計処理に関する基礎事項などが含まれます。スクーリングで主に学ぶ内容としては、実際の検査の用いられ方や報告書の書き方（報告書がどういうものなのか）などが含まれます。

■到達目標

1）検査法を用いたアセスメントの流れについて略説できる。
2）「人格検査」「知能検査」それぞれの特徴について具体的に説明できる。
3）対象者に合わせた検査の選択を行う必要性について説明できる。
4）適切な検査報告書がどういうものなのか説明できる。

■教科書（「心理学実験ⅠAB・ⅡAB・Ⅰ・Ⅱ」などと共通）

高野陽太郎・岡　隆編『心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし　補訂版』有斐閣アルマ、2017年（補訂版でなくても可）

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは上記教科書は部分的に使用します。基本はレジュメが中心になります。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるために、特に「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「心理学の学びを活かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価50%

■参考図書

1）青木省三・宮岡等・福田正人監『こころの科学Vol. 184　治療に活かす心理アセスメント』日本評論社、2015年

2）C. J. ゴールデン著『高次脳機能検査の解釈過程―知能、感覚ー運動、空間、言語、学力、遂行、記憶、注意』共同医書出版社、2004年

3）E. O. リヒテンバーガー・N. マザー・N. L. カウフマン・A. S. カウフマン著『エッセンシャルズ心理アセスメントレポートの書き方』日本文化科学社、2008年

4）L. フェルナンデス著『樹木画テストの読みかた―性格理解と解釈』金剛出版、2006年

5）日本臨床MMPI研究会　監『わかりやすいMMPI活用ハンドブック―施行から臨床応用まで』金剛出版、2011年

6）津川律子・篠竹利和著『シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査』誠心書房、2010年

7）上野一彦・松田修・小林玄・木下智子著『日本版WISC-IVによる発達障害のアセスメント　-代表的な指標パターンの解釈と事例紹介』日本文化科学社、2015年

8）氏原寛・亀口憲治・馬場禮子・岡堂哲雄・西村洲衛男・松島恭子著『心理査定実践ハンドブック』創元社、2006年

スクーリング

■スクーリング受講条件

⑴　スクーリング申込締切日までに、下記の科目の単位を修得していること。

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理的アセスメントⅠ」「心理学実験ⅠA」「心理学研究法A」

2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「生涯発達心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「心理学実験Ⅰ」「心理学研究法Ⅰ」

⑵　スクーリング申込締切日までに、卒業要件単位90単位以上を修得していること。

⑶　スクーリング事前学習をきちんと行ってくること。

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、心理アセスメントの方法としてどのような検査があるのか、それらから何がわかるのか、それらをどのように使いながら心理士は実際の臨床現場で検査を用いているのか、について少しでも理解が深まればと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	心理臨床で検査を使う時	特に医療領域において心理検査がどのように用いられるのかについて概略を学ぶ
2	発達検査・知能検査とは	発達検査や知能検査の実際について学ぶ
3	人格検査とは	人格検査の実際について学ぶ
4	投映法とは何か	心理学独特の検査である投映法について学ぶ
5	ケースに応じた検査の選択 1	幼児・児童期の心理的諸問題をアセスメントする際に用いるテストバッテリーを考察する
6	ケースに応じた検査の選択 2	青年期以降の心理的諸問題をアセスメントする際に用いるテストバッテリーを考察する
7	ケースレポートの書き方	心理検査を行った際の報告書について学ぶ
8	まとめと質疑応答	全体総括
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

レジュメとスライドを用いながら講義をします。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%

下記をポイントに、講義で用いたレジュメの中から出題します。

1）発達検査や知能検査が捉えようとしている精神機能が何かを理解しているか。

2）様々ある人格検査の中から代表的なものをイメージし説明できるか。

3）対象者の状況に合わせた検査の選択について考えることができるか。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

「心理的アセスメントⅠ」または「心理アセスメント」の講義内容について、他者に伝達講習ができる程度に復習してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	検査の科学性①（p. 236）	娯楽としての心理テストとツールとしての心理検査	心理学で用いている検査というツールが、一般的な「心理テスト」と異なっていることに気づく
2	検査の科学性②（p. 236）	解釈の根拠と妥当性	正しい解釈を行うために必要な、「妥当性」という考え方を知る

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	妥当性と信頼性①（p. 240）	仮説検証としての妥当性検証	妥当性を検証することの複雑さについて知る
4	妥当性と信頼性②（p. 240）	妥当性の収束的証拠と弁別的証拠	妥当性に求められる要件について知る
5	妥当性と信頼性③（p. 240）	得点の一貫性としての信頼性	検査の信頼性という考え方について知る
6	検査得点の解釈と標準化①（p. 244）	職業興味検査を用いた解釈例	具体的な検査の解釈例を知る
7	検査得点の解釈と標準化②（p. 244）	基準と基準集団	解釈における基準集団の意義を知る
8	検査得点の解釈と標準化③（p. 244）	パーセンタイル順位	パーセンタイル順位という値がどのような性質の数値なのかを知る
9	検査得点の解釈と標準化④（p. 244）	標準得点	標準得点という値がどのような性質の数値なのかを知る
10	検査得点の解釈と標準化⑤（p. 244）	パーセンタイルと標準得点の関係性	統計的に見たパーセンタイルと標準得点との関係性を知る
11	検査得点の解釈と標準化⑥（p. 244）	検査の標準化	検査における標準化の重要性について知る
12	検査法に関する研究①（p. 250）	検査の開発研究	検査を開発する意義を知る
13	検査法に関する研究②（p. 250）	検査得点の統計的理論	検査において統計がどのように関係してくるのかを知る
14	検査法に関する研究③（p. 250）	相関の希薄化	検査における信頼性の高さの重要性を相関という観点から知る
15	検査法に関する研究④（p. 250）	項目反応理論	検査を作成する際に考慮する反応項目理論について知る

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

■アドバイス

この科目では、心理検査を語る以前に、心理学が人間をどのように捉えようとしているのか、その基本的なスタンスをどこまで理解できているのかが重要になります。心理学とはなにか、心理学は人間理解にどのように貢献しようとしているのか、人間という種はそもそも他の種と比較してどこが異なりどこが同じなのか、などといった、少々広い人間観、心理学観が前提としてあると思います。この上に、検査を使って人を理解するという行為が成り立っています。そのあたりに思いを馳せながら学習してください。

教科書をよく読み、別紙の『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

ライフサイクルと福祉心理学

科目コード	FF2522

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	1年以上	渡部　純夫

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度は開講しません（次回開講予定は2022年度）。
※オンデマンド・スクーリングは毎年開講予定です。

■スクーリング受講にあたっての留意事項

事前に「福祉心理学」のスクーリングを受講するか、またはレポートを提出してから受講されることをお奨めします。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間は、生まれてから死ぬまでのライフサイクルにおいて、家族の変容に伴い様々な悩みや問題と遭遇していきます。問題の意味を自己成長というキーワードをもとに考えつつ、その対応をどうしていくのがよいかについて、福祉心理学の視点から掘り下げていきます。自分自身の生き様や家族のことを考えながら学んでいただきたいと思います。。

■到達目標

1）エリクソン心理社会的発達の8段階が正確に説明できる。
2）家族関係の変化に伴って起こる問題や課題を、具体的に解説できる。
3）家族関係の変化に伴って起こる問題や課題に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	家族における発達的視点からの人格形成を理解する	エリクソンの心理社会的発達の8段階の特徴と意味について発達プロセスの時間軸をもとに学ぶ。
2	家族と福祉を結ぶもの	家族の中で起こる問題のメカニズムと、なぜ福祉的援助が必要かについて学ぶ。
3	親子関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	親子関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
4	夫婦関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	夫婦関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
5	兄弟姉妹関係に見る問題と福祉心理学的アプローチ	兄弟姉妹関係における問題や課題に対して、福祉心理学的アプローチをどう行うかを学ぶ。
6	乳幼児の問題と福祉心理学的アプローチ	虐待や児童の福祉について学ぶ

回数	テーマ	内　容
7	児童の問題と福祉心理学的アプローチ	いじめ・不登校などの問題について学ぶ。
8	思春期・青年期の問題と福祉心理学的アプローチ	自立と大人になることなどの問題について学ぶ
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

重要な点は板書しますが、口頭にて説明を行っていきます。

自分で大事だと思われる点はノートにまとめてください。

可能であればロールプレイを入れます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（ノートのみ持込可）。試験では、特に到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

佐藤泰正・中山哲志・桐原宏行編著『福祉心理学総説』田研出版、2011年

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書第３章、第４章、第５章、第10章を読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容からさらに深く学びたいと思ったことに対して、調べてみてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■参考図書

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年

中山哲志・稲谷ふみ枝・深谷昌志編『福祉心理学の世界』ナカニシヤ出版、2018年

今城周造編著『福祉の時代の心理学』ぎょうせい、2014年

石隅利紀・藤生英行・田中輝美編『生涯発達の中のカウンセリングⅡ　子どもと学校を援助するカウンセリング』サイエンス社、2013年

小俣和義編著『こころのケアの基本』北樹出版、2013年

臨床心理学概論 I

2018〜	科目コード	FF3552

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	清水　めぐみ

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p. 220「臨床心理学」（科目コード：FF3503・FF3546、4単位、履修方法：RorSR）を参照してください。
※会場によりスクーリングを別教員（横山知行先生・小山智子先生）が担当いたします。

科目の概要

■科目の内容

臨床心理学（clinical psychology）の「臨床」という語は、ギリシャ語の「寝台（クリネー）」から生じた語といわれています。かの時代に僧侶らが、死を目前にして苦しむ者に手を差し伸べ、魂の世話をしたことに由来すると見る人もいます。魂の世話（卑近なことばでいえば心のケア）が必要なのは、何も死を目前にしている人たちだけではないと現代では考えられています。人はだれもが、苦しみを抱え、ときに抱えきれずに立ちつくすことがあるものです。そのようなときに、その人が自分らしい未知を歩き出すために心理学的な援助を提供するという実践的な目的を持っているのが臨床心理学です。まずは、臨床心理学が何であるのかを概観してみましょう。この段階で、現在に至る臨床心理学の成り立ちを俯瞰して、臨床心理学の成り立ちについて学びます。

ところで、では心理学的な援助はどのように提供することができるでしょうか。どんな人にどんな援助が適切かを見極めることも必要です。とすると、相手について理解しようとすることが不可欠ですから、次に、そのための「臨床心理アセスメント」について学びます。そして、19世紀以降発展してきた臨床心理学の理論を学ぶことで、心理学的な援助の礎となる考え方を概観します。これらを通じて、自分自身を理解しようとする姿勢を培い、自分の心を通じて他者を理解していこうとすることについて理解を深めていきます。

■到達目標

1）臨床心理学の成り立ちについて、説明することができる。
2）臨床心理学の代表的な理論を説明することができる。

■教科書

杉江　征・青木佐奈枝編『スタンダード　臨床心理学』サイエンス社、2015年
（最近の教科書変更時期） 2017年4月
（スクーリング時の教科書） 上記教科書は必ず持参してください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価30%＋スクーリング評価or科目修了試験70%

■参考図書

1）伊藤良子編著『臨床心理学ー全体的存在として人間を理解する』ミネルヴァ書房、2009年
2）カーン著（妙木浩之監訳）『ベイシック・フロイト』岩崎学術出版社、2017年
3）沼　初枝著『臨床心理アセスメントの基礎』ナカニシヤ出版、2010年

■受講上の注意

臨床心理学は心理学の応用分野の科目です。心理学の基礎的な理論を十分に消化してから受講してください。

スクーリング

▶仙台開講分　　清水めぐみ

■スクーリング受講にあたっての留意事項

当科目のスクーリングは、受講申込締切日までに、「福祉心理学」「心理学概論Ａ・Ｂ」などの基礎的な科目のスクーリングを受講（またはレポートを提出）してからの受講をお奨めいたします。

■スクーリングで学んでほしいこと

心理臨床の実践では、他者と場を共有することであらゆる感覚を駆使し、そこで伝達されるものが重視されます。スクーリングでは、あらゆる感覚を駆使して臨床心理学のさまざまな方法論や理論を学ぶことはもちろんのこと、自分の心を通じて他者を理解しようすることがどのようなことであるのか体得するための糸口をつかむ機会としていただきたいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	臨床心理学とは	臨床心理学の歴史、特色、実践領域
2	臨床心理学の柱１―心理療法	心理療法（心理カウンセリング）
3	臨床心理学の柱２―アセスメント	臨床心理アセスメント
4	代表的な理論１―精神分析・力動論	精神分析を中心とした力動論
5	精神力動的な発達理論	精神分析理論に基づく発達論

回数	テーマ	内　容
6	代表的な理論 2 ―行動論・認知論	学習理論などに基づく行動論・認知論
7	代表的な理論 3 ―人間性心理療法	来訪者中心療法の理論と発展
8	臨床心理学の論理	援助専門家の「力」と「善意」の功罪
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。また、教科書を参照します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング初日に試験問題を提示します。講義で得たことを消化して自分のことばで記述することを評価します。（持込不可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

教科書を概読し、講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを思い描いてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

スクーリング受講後速やかにレポート学習に取り組んでください。

▶新潟開講分　　横山知行・小山智子

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	臨床心理学とは	イントロダクション、心理職の国家資格
2	無意識という公理系	精神分析学概説、分析心理学
3	現象学という観点	人間性心理学
4	行動と心	行動理論、認知・行動理論
5	医療領域における心理支援	医療領域での心理臨床の実際
6	教育・子育て領域における心理支援	児童・思春期に生じやすい心理的困難とその支援
7	青年期・成人期・老年期の心理臨床	青年期・成人期・老年期に生じやすい心理的困難とその支援
8	まとめと補足	心理臨床の多様性
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

教科書とあわせて、パワーポイントや配付資料を使用し、講義を進める。公刊された事例や映像資料なども用いる。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況50％＋スクーリング試験50％（自筆ノートと配付資料のみ持込可）。

試験では到達目標に記載された内容について問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

受講にあたり、事前に教科書に目を通してきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

受講後速やかにレポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	臨床心理学とは（第１章　１・１、１・２）	臨床心理学とは何であるのか。成り立ちと展開から概観し、理解する。	臨床心理学とはどのような学問であるのかを理解する。
2	臨床心理学の研究法（第１章　１・３、１・４）	臨床心理学の研究法・方法論と臨床心理学に包含される心理学について知り、理解する。	臨床心理学の基盤にある方法論を理解する。
3	臨床心理アセスメント（第２章）	臨床心理アセスメントの方法と視点を概観し、理解する。	臨床心理アセスメントとはどのような営為であるのかを理解する。
4	心理検査法（第３章）	臨床心理アセスメントのうち特に心理検査法について概観し、その使用に際しての留意点も含めて理解する。	心理検査法の成り立ち、種類、使用に際しての注意点を把握する。
5	精神分析・力動論（フロイト）（第４章）	力動的な観点から心を理解するための概念について概観し、理解する。	フロイトに先んじる思想、フロイトの理論、フロイト後の展開を把握する。
6	行動論・認知論（第５章）	いわゆる心理学的な理論から展開した、行動の変容のための理論と方法を概観し、理解する。	学習理論から認知療法への展開を理解し、さまざまな方法の背景にある理論を把握する。
7	人間性心理療法・来談者中心療法（第６章）	来談者中心療法の成り立ちとその人間観と理論を概観し、その後の展開も含めて理解する。	来談者中心療法について知り、その方法を学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	催眠とそこから生まれた療法（第７章）	心理療法の源流としての催眠について概観し、催眠から発展した方法を知り、理解する。	催眠の歴史と展開について、歴史的な視点から学ぶ。
9	多様な心理療法（第８章）	第５回から第８回までで触れられなかった心理療法のいくつかについて学び、理解する。	対人関係をキーワードとして、多様な心理療法について知る。
10	教育・子育て領域における心理支援（第９章）	教育・子育ての領域における心理支援について、その領域の特徴を踏まえた方法を知り、理解する。	心理支援における周辺環境との関わりの視点を持ち、支援の特徴を知る。
11	医療領域における心理支援（第10章）	医療領域における心理支援の実際について知り、その活動内容を概観し理解する。	チームにおける専門家としての位置づけと技能、チームワークについて知る。
12	産業・司法領域における心理支援（第11章）	産業領域、司法領域それぞれの心理支援の実際について知り、この領域における臨床心理学の役割について理解する。	他職種との連携における心理支援の課題について考え、心理支援活動の倫理について理解する。
13	臨床心理領域の知識と活用（第12章）	臨床心理学に関連する学際領域のいくつかを知る。特に、倫理について考え、理解する。	臨床心理学に関わる法律のいくつかの事項を知り、特に倫理面について把握する。
14	まとめ① 臨床心理学とライフサイクル	臨床心理アセスメントと心理療法のつながりを知り、理解する。	臨床心理アセスメントと心理療法の基盤をなす人間理解の理論とのつながりを理解する。
15	まとめ② 心理臨床の実践領域	各実践領域に共通する課題と問題点を挙げ、心理臨床における留意点を理解する。	実際の心理支援における姿勢を理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	会議を「はじめます」と言うべきところを「おわります」と言ってしまった場面を想定し、精神分析の第一局所論に基づき「意識」と「無意識」の二語を使用し、加えてここで作用している防衛機制についても言及しつつ、このような言い間違いが生じた心の動きを説明してください。さらに、会議中に眠気に襲われた場面を想定し、精神分析の第二局所論（構造論）に基づき「自我」「エス」「超自我」のそれぞれの動きを説明し、この状況に折り合いがつくまでの過程を記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

出典の明示なく教科書からの抜粋を記述しているものは、剽窃とみなされ、評価の対象になりません。引用する際には、ルールに則って記述し、必ず出典を明示してください。

まず、教科書全体にひととおり目をとおし、次いでレポート作成に必要と考えられる部分をよく読んでください。一つのレポート作成に教科書の複数の部分が関連しますので、全体を概観することが重要にな

ります。「自分の」レポートを作成するために、教科書以外の複数の文献にあたって、教科書の記述を確認したり、新たな視点や考え方を得た上で、課題で求められている点をもらさずに、自分のことばで記述してください。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

精神分析の理論は、日常生活で垣間見られるさまざまなエピソードに反映されている人の心の動きを説明するのに有用です。そんなつもりではないのにやってしまったことを説明するために、第一局所論の観点を、そうするのは好ましくないことをしたくて仕方がないときの対処を説明するために、第二局所論の観点を用いて、それぞれ心にどのような動きが生じ、どのような過程を経ていくのかを記述しましょう。

■レポート　評価基準

複数の文献にあたって、自分のことばでまとめられたレポートを評価します。教科書以外の文献を参照していない場合や引用や要約の出典が明示されていない場合は再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

臨床心理学を学んだことを通じて、学ぶ前に思い描いていたものとは異なる、実践にあたっての新たな視点や考え方が獲得されているかが問われます。教科書に記載されている学術用語を適宜用いて、正確に論述できているかという観点から評価します。

臨床心理学概論Ⅱ

2018～	科目コード	FF4555

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R	3年以上	清水　めぐみ

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※この科目は、レポート提出にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

心理臨床において培われてきた代表的な理論の成り立ちと特徴を理解することが、心理臨床の実際や心理療法（心理学的支援法）や心理的アセスメントといった臨床心理学に基づく実践における必須の基盤となります。臨床心理学概論Ⅱでは、臨床心理学概論Ⅰで概観した臨床心理学の大枠を踏まえたうえで、代表的な理論をより詳細に学び、各理論の特徴を、その成立の経緯や他の理論との比較から把握していきます。

■到達目標

1）臨床心理学の成り立ちをその歴史を踏まえて説明できる。
2）臨床心理学の代表的な理論のいくつかについて、その特徴を他の理論との比較しながら説明できる。
3）心理臨床の実践の具体例において、理論を基盤とした対象者についての理解（仮説）を記述できる。

■教科書

野島一彦・繁桝算男　監修『公認心理師の基礎と実践３　臨床心理学概論』遠見書房、2018年

■履修登録条件

この科目は、レポート提出条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50％＋科目修了試験50％

■参考図書

妙木浩之『初回面接入門』岩崎学術出版社、2010年
河合俊雄編著『ユング派心理療法』ミネルヴァ書房、2013年
伊藤絵美『認知療法・認知行動療法カウンセリング』星和書店、2005年
岡昌之ら編著『心理療法交差点２』新曜社、2016年
田中千穂子『プレイセラピーへの手引き』日本評論社、2011年

レポート学習

■在宅学習８のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	臨床心理学の成り立ち	日本および世界の臨床心理学の歴史を概観し、臨床心理学とはどのようなものかを把握する。	19世紀、世界大戦、心理学的支援法、心理アセスメント
2	精神分析	今日に至る精神分析の流れと意義を概観する。	無意識、自由連想
3	分析心理学	精神分析から派生したユングの考え方とその今日における展開を概観する。	自己関係、物語、イメージ
4	行動論・認知論	歴史を概観し、代表的な理論と技法を概観する。	行動療法、認知療法
5	ヒューマニスティック・アプローチ	人間性心理学の歴史と人間観とそれに基づく心理療法を概観する。	クライエント中心療法、フォーカシング
6	グループ、コミュニティ	グループやコミュニティへのアプローチを概観する。	集団精神療法、スクールカウンセラー
7	非言語的アプローチ	遊戯療法、箱庭療法などの非言語的アプローチを概観する。	象徴、描画
8	その他のアプローチ	システミック・アプローチ、ナラティヴ・アプローチ、統合的アプローチを概観する。	システム、社会構成主義、折衷

■レポート課題

※レポート提出条件

⑴　「心理学概論Ａ」、「心理学概論Ｂ」、「福祉心理学」、「発達心理学」、「臨床心理学概論Ｉ」、「心理的アセスメントＩ」、「心理学研究法Ａ」、計７科目の単位修得

⑵　卒業要件単位90単位以上修得していること

1 単位め	まず、臨床心理学の歴史を、心理療法（心理学的支援法）の流れに焦点を当てて概説してください。その上で、「学校の先生が怖い」と訴えて登校を渋る小学校２年生女児Ａさんの心のありようを「自己関係」の点から説明し、このＡさんと比較して教科書158〜165ページに記載されている事例の特徴を「自己関係」「融合」「主体」の語を用いて説明してください。また、Ａさんの心理療法（心理学的支援法）について、①精神分析、②行動論・認知論の立場からそれぞれの目標と方法を述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

科目を通じてさまざまな臨床心理学の基礎理論を学んでいきますが、いわゆる３大心理療法をその成立と展開の歴史にそって、それぞれの特徴や異同をしっかり把握しましょう。心理学的支援法（心理療法）では自分を振り返ってみることが前提となりますが、分析心理学的アプローチで説明されている「自己関係」の点から「怖い」という訴えについて、どのように考えられるのかを検討しましょう。その際に、教科書158〜165ページに掲載されている事例の「自己関係」や「主体」のあり方と比較することで「怖い」と訴えられる在りようの特徴が把握しやすくなるでしょう。最後に、「怖い」という訴えにもとづいて、Ａさんの現状をアセスメントして、Ａさんの心理療法の開始時点での目標と方法を、精神分析の理論に基づいて、さらに行動論・認知論の立場に拠って、それぞれに記述しましょう。

■レポート　評価基準

評価は、⑴課題に提示されている点に沿ってレポートが作成されていること、⑵複数の文献を参照して自分の見解を述べていること、⑶適切な書式で、箇条書きではなく文章で記してあること、の点から行います。

⑴引用の明示がなく、剽窃や盗用を行っているとみなされるもの、⑵教科書の抜粋を行っているだけで他の文献を参照していないもの、は評価の対象とせず再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

出題されているポイントをもれなく記述しているか、それに加えて自分の見解を述べているか、の２点から評価します。誤字脱字や不適切な記述は減点の対象となります。

臨床心理学 ～2017

科目コード	FF3503・FF3564

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR（講義）	2年以上	清水　めぐみ

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、ｐ.211「臨床心理学概論Ⅰ」（科目コード：FF3552、２単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、ｐ.211「臨床心理学概論Ⅰ」（科目コード：FF3552）を参照してください。

※2019年度のスクーリングより、スクーリング単位１単位（８コマ）に変更されました。

※科目コード　FF3503　2018年までのスクーリング受講者（スクーリング単位２単位）
　　FF3564　上記以外の方（スクーリング単位１単位）

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	臨床心理学とは（第１章　１・１、１・２）	臨床心理学とは何であるのか。成り立ちと展開から概観し、理解する。	臨床心理学とはどのような学問であるのかを理解する。
2	臨床心理学の研究法（第１章　１・３、１・４）	臨床心理学の研究法・方法論と臨床心理学に包含される心理学について知り、理解する。	臨床心理学の基盤にある方法論を理解する。
3	臨床心理アセスメント（第２章）	臨床心理アセスメントの方法と視点を概観し、理解する。	臨床心理アセスメントとはどのような営為であるのかを理解する。
4	心理検査法（第３章）	臨床心理アセスメントのうち特に心理検査法について概観し、その使用に際しての留意点も含めて理解する。	心理検査法の成り立ち、種類、使用に際しての注意点を把握する。
5	精神分析・力動論（フロイト）（第４章）	力動的な観点から心を理解するための概念について概観し、理解する。	フロイトに先んじる思想、フロイトの理論、フロイト後の展開を把握する。
6	行動論・認知論（第５章）	いわゆる心理学的な理論から展開した、行動の変容のための理論と方法を概観し、理解する。	学習理論から認知療法への展開を理解し、さまざまな方法の背景にある理論を把握する。
7	人間性心理療法・来談者中心療法（第６章）	来談者中心療法の成り立ちとその人間観と理論を概観し、その後の展開も含めて理解する。	来談者中心療法について知り、その方法を学ぶ。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
8	催眠とそこから生まれた療法（第７章）	心理療法の源流としての催眠について概観し、催眠から発展した方法を知り、理解する。	催眠の歴史と展開について、歴史的な視点から学ぶ。
9	多様な心理療法（第８章）	第５回から第８回までで触れられなかった心理療法のいくつかについて学び、理解する。	対人関係をキーワードとして、多様な心理療法について知る。
10	教育・子育て領域における心理支援（第９章）	教育・子育ての領域における心理支援について、その領域の特徴を踏まえた方法を知り、理解する。	心理支援における周辺環境との関わりの視点を持ち、支援の特徴を知る。
11	医療領域における心理支援（第10章）	医療領域における心理支援の実際について知り、その活動内容を概観し理解する。	チームにおける専門家としての位置づけと技能、チームワークについて知る。
12	産業・司法領域における心理支援（第11章）	産業領域、司法領域それぞれの心理支援の実際について知り、この領域における臨床心理学の役割について理解する。	他職種との連携における心理支援の課題について考え、心理支援活動の倫理について理解する。
13	臨床心理領域の知識と活用（第12章）	臨床心理学に関連する学際領域のいくつかを知る。特に、倫理について考え、理解する。	臨床心理学に関わる法律のいくつかの事項を知り、特に倫理面について把握する。
14	まとめ① 臨床心理学とライフサイクル	臨床心理アセスメントと心理療法のつながりを知り、理解する。	臨床心理アセスメントと心理療法の基盤をなす人間理解の理論とのつながりを理解する。
15	まとめ② 心理臨床の実践領域	各実践領域に共通する課題と問題点を挙げ、心理臨床における留意点を理解する。	実際の心理支援における姿勢を理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
3 単位め	「（心理的）アセスメント」とは何であるかを記述したうえで、その主たる３つの方法を挙げ、それぞれについて説明してください。また、医療領域における心理アセスメントにおいて、心理検査が使われる状況をひとつ想定し、その際に使用する心理検査を心理アセスメントの目的に合わせて選択し、それを選択した理由を述べよ。
4 単位め	会議を「はじめます」と言うべきところを「おわります」と言ってしまった場面を想定し、精神分析の第一局所論に基づき「意識」と「無意識」の二語を使用し、加えてここで作用している防衛機制についても言及しつつ、このような言い間違いが生じた心の動きを説明してください。さらに、会議中に眠気に襲われた場面を想定し、精神分析の第二局所論（構造論）に基づき「自我」「エス」「超自我」のそれぞれの動きを説明し、この状況に折り合いがつくまでの過程を記述してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

出典の明示なく教科書からの抜粋を記述しているものは、剽窃とみなされ、評価の対象になりません。引用する際には、ルールに則って記述し、必ず出典を明示してください。

まず、教科書全体にひととおり目をとおし、次いでレポート作成に必要と考えられる部分をよく読んでください。一つのレポート作成に教科書の複数の部分が関連しますので、全体を概観することが重要になります。「自分の」レポートを作成するために、教科書以外の複数の文献にあたって、教科書の記述を確認したり、新たな視点や考え方を得た上で、課題で求められている点をもらさずに、自分のことばで記述してください。

1・2単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位めアドバイス

心理アセスメントについて、全体像を把握します。さらに医療領域における心理アセスメントについて、具体例を想定し、特に心理検査の必要な場面について考えます。心理検査の選択にあたっては、各心理検査の特徴を踏まえて、心理アセスメントの目的に合うかを考慮することになります。実際の心理アセスメントにおける心理検査の選択にあたっては、心理検査のどのような特徴からそれを選択したのかだけではなく、クライエントの状態や状況なども考慮する必要があります。

4単位めアドバイス

精神分析の理論は、日常生活で垣間見られるさまざまなエピソードに反映されている人の心の動きを説明するのに有用です。そんなつもりではないのにやってしまったことを説明するために、第一局所論の観点を、そうするのは好ましくないことをしたくて仕方がないときの対処を説明するために、第二局所論の観点を用いて、それぞれ心にどのような動きが生じ、どのような過程を経ていくのかを記述しましょう。

■レポート　評価基準

複数の文献にあたって、自分のことばでまとめられたレポートを評価します。教科書以外の文献を参照していない場合や引用や要約の出典が明示されていない場合は再提出を求めます。

科目修了試験

■評価基準

臨床心理学を学んだことを通じて、学ぶ前に思い描いていたものとは異なる、実践にあたっての新たな視点や考え方が獲得されているかが問われます。教科書に記載されている学術用語を適宜用いて、正確に論述できているかという観点から評価します。

心理学的支援法Ⅰ

2018～	科目コード	FF3554

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	日笠　真理子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2020年度より、スクーリングが 8 コマになりました。
※スクーリングを別教員（重宗祥子先生）が担当します。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

「心理支援」「心理学的支援法」という言葉は、我が国の心理学の専門用語としては比較的新しいものです。従来は臨床心理学などに基づく心理学的な支援・援助は、多くが「カウンセリング」「心理療法」と呼ばれてきました。国家資格としての公認心理師が法的に位置づけられ、2018年 4 月より養成カリキュラムがスタートしました。その中で、心理学に固有の、カウンセリング・心理療法・他の支援方法を包含する新しい用語として名称化されたものが、「心理支援」「心理学的支援法」です。

心理的な問題で苦しむ人々を支援したり、その人固有の豊かな生き方を模索することを支えたりする“こころの専門家”になるための土台となるのが、この「心理学的支援法」という科目です。

日常生活の中で友人や家族の悩みの相談に乗ることはよくあることでしょう。心理学的支援法はそれと何がちがうのでしょうか。この科目では、心理学的支援法とは一体何なのか、というところから、歴史、様々な理論と方法、実際行われる作業までを広く学びます。たとえるなら世界地図を見るようなものです。五感と想像力を働かせて、面白さや意味深さを感じ取ってください。その中で上の問いへの答えが実感できるはずです。この科目は、その先の一つ一つの国を訪れるための入り口なのです。

■到達目標

1）代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。
2）訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。
3）良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べることができる。
4）プライバシーへの配慮について説明することができる。
5）心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について解説できる。

■教科書（「心理学的支援法Ⅱ」と共通）

末武康弘『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。また、配付資料を使用しますが、主に

以下の参考書籍から資料を作成しますので、さらに学習を進めたい方にはご一読をお勧めします。

参考書籍　セーラ・フェルス・アッシャー著『精神力動的サイコセラピーテクニック入門』岩崎学術出版社、2018年

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価or科目修了試験60%

■参考図書

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編『心理療法ハンドブック』創元社、2005年

鑪幹八郎・名島潤慈編著『心理臨床家の手引（第４版）』誠信書房、2018年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「臨床心理学概論Ⅰ」４科目のレポート提出済であること。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	心理学的支援の概要①	歴史と現代の心理学的支援
2	心理学的支援の概要②	領域と方法、支援の基礎となるもの
3	精神分析／精神力動論	無意識の発見とこころのシステム
4	精神分析の概要	精神分析の基本概念と実践
5	精神力動的サイコセラピー	精神力動的理解を基本とした心理面接
6	現代社会と精神力動的心理支援①	精神力動的人間理解ーアセスメント・フォーミュレーション
7	現代社会と精神力動的心理支援②	様々な領域での支援にどのように活かすか

回数	テーマ	内　容
8	日常生活と精神力動的人間理解	支援を行う自分自身について、日常生活の中で理解を深める
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配布資料を中心に講義を進めます。教科書は参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します（自筆のノートのみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

講義内容について関心をもっていること、学びたいことを各自考えて来てください。

（「心理学的支援法Ⅰ」または2019年度以降に「心理療法」を履修登録の方）

教科書の第１～５章、第８章、第11章を必ず読んできてください。

（2018年度以前に「心理療法」を履修登録の方）

教科書の第１章、第２章（とくに１の力動論的立場と２のパーソナリティの成長論）、第３章、第４章、第６章、第12章、第13章、第14章を必ず読んできてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学的支援法への誘い（第１章）	心理支援や心理学的支援法が求められるようになった背景と、心理支援・心理学的支援法とは何かを学ぶ。	心理学的支援法の概要を理解する。
2	心理学的支援法の特質（第２章２-１）	日常会話や相談と異なる心理学的支援法の特質を学ぶ。 心理学的支援法と他の専門的な対人的支援法との異同について学ぶ。	心理学的支援法の特質を理解する。
3	心理学的支援法の効果と限界（第２章２-２・３）	心理学的支援法にどのような効果があり、どのような限界があるのかを学ぶ。	心理学的支援法の効果と限界を理解する。
4	心理学的支援法の対象①（第３章３－１～３-２⑵）	心理学的支援法が対象とする心理的問題の背景や成因を学ぶ。 幼児期・児童期・思春期・青年期にみられる特徴的な心理的問題について学ぶ。	心理学的支援法が対象とする心理的問題についての概要を知り、幼児期から青年期に特徴的な心理的問題について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
5	心理学的支援法の対象② （第３章３-２⑶～３-３）	成人期・高齢期にみられる特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について学ぶ。	成人期と高齢期に特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について理解する。
6	心理学的支援法の発展① （第４章４-１）	心理学的支援法としての心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングはどのような歴史的背景から生まれ、発展してきたのかを学ぶ。	心理療法とカウンセリングの生まれた歴史的背景と発展について理解する。
7	心理学的支援法の発展② （第４章４-２）	心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングが合流して発展していく歴史的展開について学ぶ。 心理療法とカウンセリングの共通点と相違点について学ぶ。	心理療法とカウンセリングの異同を知り、両者の合流と歴史的展開について理解する。
8	心理学的支援法のさまざまな理論と方法① （第５章５-１・２）	心理学的支援法としてのカウンセリング／心理療法の海外と日本における第４章で扱った時期以降の現在までの発展について学ぶ。心理学的支援法の主要なパラダイムにはどのようなものがあるかを概観する。	海外・日本でのカウンセリング／心理療法の現在までの発展を理解し、心理学的支援法の４つの主要な立場を知る。
9	心理学的支援法のさまざまな理論と方法② （第５章５-３）	心理学的支援法の４つの主要なパラダイム、それぞれの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を学ぶ。	心理学的支援法の４つの主要なパラダイムの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を知る。
10	心理学的支援法の主要理論① （第10章10-１）	４つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、家族療法とブリーフセラピーについて学ぶ。（３つの主要な理論は心理学的支援法Ⅱの学習内容となっている。テキスト第６～９章）	家族療法とブリーフセラピーについて理解する。
11	心理学的支援法の主要理論② （第10章10-２・３）	４つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなクリエイティブセラピー（表現・芸術療法）と現代的で統合的な諸理論について学ぶ。	さまざまな表現・芸術療法と、現代的・統合的な理論である交流分析、対人関係療法、動機づけ面接などについて理解する。
12	心理学的支援法の主要理論③ （第10章10-４・５）	４つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなエスノセラピー（民族文化療法）と、折衷的・統合的・多元的アプローチについて学ぶ。	日本独自の心理療法である森田療法・内観療法について理解する。また特定の理論・方法に拘らない実践方法について理解する。
13	心理学的支援法のプロセスと実際① （第11章11-１⑴A、⑵、11-２⑴）	心理学的支援法のプロセスについて総合的な観点から学ぶ。（主要な３つの理論的立場（パーソンセンタードセラピー、精神力動的セラピー、認知行動療法）によるプロセスの捉え方は心理学的支援法Ⅱで扱う。第11章　11-１⑴B,C,D） 心理支援の初期の段階における実際と留意点について学ぶ。	心理学的支援法の全体的なプロセスと、初期段階における実際的作業及び留意点について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
14	心理学的支援法の実際 （第11章11-２）	心理支援の探求・展開・終結の三段階における実際と留意点について学ぶ。	心理支援の初期段階以降の終結までの三段階での実際的作業及び留意点について理解する。
15	心理学的支援法をさらに学ぶために （第12章）	専門的な理論と方法を修得するために、今後どのように心理学的支援法の知識的学習を深め、体験学習とトレーニングを積み重ねていけばよいかについて学ぶ。	心理学的支援法の修得のための、今後の具体的な学び方を理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	心理学的支援法の実際について、以下を盛り込んで1,800～2,000字以内（ワープロの場合もスペースを含む。40字、46行以上50行以内）でまとめなさい。字数が守られていないと採点対象となりません（再提出となります）。 ①効果と限界 ②総合的観点から見たプロセスの４段階のそれぞれにおける実際的作業と留意点 ③①と②をまとめる中で、あなたにとって特に印象に残ったことや考えたこと。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2019年度以前履修登録者） 2020年４月よりレポート課題の２単位めが一部変更になりました。『レポート課題集2019』記載の課題でも2021年９月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

また、教科書巻末の用語集をよく読んでください。各章の末尾の理解度確認テストで８問以上正解できるようにしてから、客観式レポート課題に解答してください。

2単位めアドバイス

テキストをよく読み、重要なポイントを逃さずに要点をまとめてください。

頭で理解しようとするだけでなく、実際に自分が心理支援を行っているところや受けているところをイメージしながら、自らの血肉となるような理解を目指してください。

科目修了試験

■評価基準

用語と内容を正しく理解し、記述していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全体的な説明の両方が的確に関連付けられ、記述されていることが評価されます。

心理学的支援法Ⅱ

2018〜	科目コード	FF3557

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	2年以上	秋田　恭子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2020年度より、スクーリングが８コマになりました。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

心理療法は、今から100年前に誕生し、発展してきた学問領域です。他の科学と比べると若い学問領域でありますが、急速に理論と実践が発展してきています。それは、物が豊かになった現代社会において緊急課題となっている親子関係、対人関係、自分らしい生き方など、いわば「心のあり方」に関する事柄にこの学問領域が応えているからでしょう。

人間の心は、複雑に機能しつつもある程度のまとまりをもって機能しています。現代のような複雑な社会において、人間が人間らしく生きていこうとするといろいろな要因により心が充分に機能しなくなることがあります。心理療法とは、深刻な悩み、症状（身体症状も含めて）、問題行動、人格機能等を心理的側面から援助する学問です。人間が複雑な心の働きをするため、その接近法である心理療法も多種多様となります。

2019年の春には公認心理師の資格を取得した人たちが誕生します。公認心理師の科目名としては、従来の「心理療法」の科目名が「心理学的支援法」になります。そこで、心理学的支援法Ⅱでは、３つの代表的な心理療法を学習することを目的とします。

■到達目標

1）代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界を説明することができる。
2）訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。
3）良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べることができる。
4）プライバシーへの配慮について説明することができる。
5）心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援について解説できる。

■教科書「心理学的支援法Ⅰ」と共通のため、この科目での教科書配本はありません）

末武康弘『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年
（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「集団理解に基づく対人調整力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%＋スクーリング評価or科目修了試験60%

■参 考 図 書

（第６章・第７章）

ヴィクトル・フランクル著　赤坂桃子訳『ロゴセラピーのエッセンス』新教出版社、2016年

畠瀬稔著『エンカウンターグループと心理的成長』創元社、1990年

倉戸ヨシヤ『ゲシュタルト療法―その理論と心理臨床例　（二十一世紀カウンセリング叢書）』駿河台出版社、2011年

村瀬孝雄著『フォーカシング事始め―こころとからだにきく方法』金子書房、1996年

村瀬孝雄・阿世賀浩一郎「体験過程とフォーカシング」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編著『臨床心理学大系８　心理療法２』金子書房、1999年

村山正治著「エンカウンターグループ」上里一郎・鑪幹八郎・前田重治著『臨床心理学大系８　心理療法２』金子書房、1999年

ロジャース、C. R. 著　畠瀬稔・畠瀬直子訳『エンカウンターグループ』創元社、1982年

佐治守夫・飯喜一郎編『ロジャーズクライエント中心療法』有斐閣、1988年

末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『カウンセリングと心理療法』（ロジャース主要著作①巻）岩崎学術出版社、2005年

末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『クライエント中心療法』（ロジャース主要著作②巻）岩崎学術出版社、2005年

末武康弘・保坂亨・諸富祥彦訳『ロジャースが語る自己実現の道』（ロジャース主要著作③巻）岩崎学術出版社、2005年

（第８章）

＜フロイト＞

土居健郎著『新訂　方法としての面接』医学書院、1992年

福本修監訳『フロイトを読む－年代順に紐解くフロイト著作』岩崎学術出版社、2013年

前田重治編『カウンセリング入門』有斐閣選書、1986年

妙木浩之著『フロイト入門』ちくま新書、2000年

妙木浩之著『初回面接入門』岩崎学術出版社、2010年

M. カーン著、妙木浩之監訳、秋田恭子・清水めぐみ訳『ベイシック・フロイトー21世紀に活かす精神分析の思考ー』岩崎学術出版社、2017年

＜ユング＞

河合隼雄著『ユング心理学入門』培風館、1967年

河合隼雄著『箱庭療法入門』誠信書房、1969年

河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房、1970年

鈴木晶著『フロイトからユング』日本放送出版協会、1999年

＜アドラー＞

岸見一郎著『アドラー心理学入門』KKベストセラーズ、1999年

野田俊作著『アドラー心理学を語る１～４』創元社、2017年

＜新フロイト派＞

E. フロム著　鈴木晶訳『愛するということ』紀伊国屋書店、1991年

K. ホーナイ著　霜田静志訳『自己分析』誠信書房、1981年

H. S. サリヴァン著　中井久夫共訳『精神医学的面接』みすず書房、1986年

＜その他＞

W. R. D. フェバーン著　相田信男・栗原和彦訳『対象関係論の源流―フェアバーン主要論文集』

『メラニークライン著作集１～７巻』誠信書房

丸田俊彦著　『コフート理論とその周辺―自己心理学をめぐって』岩崎学術出版社、1991年

M. リカーマン著　飛谷渉訳『新釈　メラニークライン』岩崎学術出版社、2014年

舘　直彦著『ウィニコットを学ぶ』岩崎学術出版社、2013年

『ウィニコット著作集１～８巻　別冊２巻　書簡集』岩崎学術出版社

（第９章）

藤山直樹・伊藤絵美著『認知行動療法と精神分析が出会ったら―こころの臨床達人対談』岩崎学術出版社、2016年

伊藤絵美著『ケアする人も楽になる　認知行動療法入門　BOOK１』医学書院、2011年

大野裕著『こころが晴れるノート：うつと不安の認知療法自習帳』創元社、2003年

山上敏子著『方法としての行動療法入門』金剛出版、2007年

（その他）

窪内節子・吉武光世共著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館、2003年

村上伸治著『現場から考える精神療法ーうつ、統合失調症、そして発達障害』日本評論社、2017年

M. F. ソロモンほか著、妙木浩之・飯島典子監訳『短期力動療法入門』金剛出版、2014年

S. F. アッシャー著、岡野憲一郎監訳・重宗祥子訳『精神力動的サイコセラピー入門』岩崎学術出版社、2018年

H. ピンスカー著　秋田恭子他訳『サポーティヴ・サイコセラピー入門』岩崎学術出版社、1997年

P. ペリー著　鈴木龍監訳『まんがサイコセラピーのお話』金剛出版、2013年

瀧本孝雄著『カウンセリングへの招待』サイエンス社、2006年

氏原寛・成田義弘共編『臨床心理学①カウンセリングと精神療法』［心理治療］培風館、1999年

上里一郎・鑪幹八郎・前田重治編『臨床心理学大系７　　心理療法１』金子書房、1990年
吉田弘道著『心理相談と子育て支援に役立つ　親面接入門』福村出版、2013年

スクーリング

■スクーリング受講条件

1）スクーリング申込締切日までに「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「臨床心理学概論Ⅰ」４科目のレポート提出済であること。
2）事前（同時期も可）に「心理学的支援法Ⅰ」のスクーリングを受講していること。

■スクーリングで学んでほしいこと

様々な心理療法があり、それぞれの理論的背景、アプローチの違いを習得してほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	心理療法の概要と実際①	クライエント中心療法・フォーカシング・エンカウンター、ビデオ学習
2	心理療法の概要と実際②	カール・ロジャースの面接、ビデオ学習
3	心理療法の概要と実際③	認知行動療法、ビデオ学習
4	心理療法の概要と実際④	心理学的支援法のプロセスと実際
5	心理療法の概要と実際⑤	箱庭療法・内観療法・森田療法、ビデオ学習
6	心理療法の概要と実際⑥	プレイセラピー、ビデオ学習、ブリーフセラピー
7	心理療法の概要と実際⑦	アウトリーチ・危機介入と心のケア
8	心理療法の概要と実際⑧	心理教育およびレポートについて
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付レジュメを用いて講義を進めます。それぞれの療法の場面のビデオをみます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（自筆ノートのみ持込可）。
テストには、スクーリング中に見ていただくカール・ロジャースの面接場面のビデオについての出題が含まれます。そこには、到達目標にある、クライエント中心療法の特徴を捉えた上で、自分自身の見解をどれぐらい論述できるかについて問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書には目を通してきてほしい。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章1	心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピーセラピーはどのようなものかを学ぶ。パーソンセンタードセラピーの歴史的発展についてその概要を学ぶ。	心理療法の歴史の中でパーソンセンタードセラピーの位置づけについて理解する。
2	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章2(1)(2)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ①。	パーソンセンタードセラピーの自己理論と支援理論について理解する。
3	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章2(3)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ②。	パーソンセンタードセラピーのプロセスについて理解する。
4	心理学的支援法の主要理論（その1）第6章3	パーソンセンタードセラピーの方法を学ぶ。	非支持的応答や一致とプレゼンスについて理解する。
5	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章1	パーソンセンタードセラピーの発展的方法を学ぶ。パーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどういうものかを学ぶ。	エンカウンターグループおよびパーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどういうものかについて理解する。
6	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章2	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ①。	体験過程の理論、フォーカシングについて理解する。
7	心理学的支援法の主要理論（その2）第7章2(4)	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ②。	体験的セラピー、エモーションフォーカストセラピー、プリセラピーにいついて理解する。
8	心理学的支援法の主要理論（その2） 3	パーソンセンタードセラピー以外の主要なヒューマニスティックセラピーを学ぶ。	ゲシュタルトセラピー、現存在分析、ロゴセラピーについて理解する。
9	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(1)(2)	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものかを学ぶ。	精神分析および精神力動的なセラピーとは何か、精神分析の基本的な理論（局所論・力動論・エネルギー経済論）を理解する。
10	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(1)(2)	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものかを学ぶ。	精神分析の基本的な理論（発達論・構造論・防衛機制論）を理解する。
11	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(3)	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ①。	自我心理学、対象関係論を理解する。
12	心理学的支援法の主要理論（その3）第8章1(4)	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ②。	ユングの分析心理学、アドラーの個人心理学、新フロイト派について理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章1	認知行動療法とはどのようなものであり、どのように発展してきたのかを学ぶ。	認知行動療法とは何か、その歴史を理解する。
14	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章2	認知行動療法の主要な理論を学ぶ。	行動療法の理論、認知的アプローチの理論を理解する。
15	心理学的支援法の主要理論（その4）第9章3	認知行動療法の主要な方法を学ぶ。	レスポンデント条件づけに基づく方法、オペラント条件づけに基づく方法、応用的な諸方法を理解する。

■レポート課題

1単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2単位め	心理学的支援法のうち、精神力動的セラピー、パーソンセンタードセラピーと認知行動療法の3つの療法のそれぞれについて、主な理論と方法について2000字程度でまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

また、教科書巻末の用語集をよく読んでください。各章の末尾の理解度確認テストで8問以上正解できるようにしてから、客観式レポート課題に解答してください。

教科書でわからないところは参考文献を読み、理解を深めてください。

2単位めアドバイス

心理療法の3つの代表的な療法です。様々なテキストでとりあげられています。それらも参考にしながら、とくに参考図書でとりあげられている本をよく読んでください。また余裕があれば原著の翻訳を読んで書いてください。そして、それぞれの療法の違いを明確に書いてください。

科目修了試験

■評価基準

用語と内容を正しく理解し、記述していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全体的な説明の両方が的確に関連付けられ、記述されていることが評価されます。

心理療法 〜2017

科目コード	FF3520

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR（講義）	2年以上	秋田　恭子

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※「心理学的支援法Ⅰ」「心理学的支援法Ⅱ」の2科目の内容を学ぶため、下記記載の「■教科書」「■「卒業までに身につけてほしい力」との関連」「■参考図書」「■講義内容」「レポート学習」「科目修了試験」以外の項目は、p.223「心理学的支援法Ⅰ」（科目コード：FF3554、2単位、履修方法：RorSR）とp.228「心理学的支援法Ⅱ」（科目コード：FF3557、2単位、履修方法：RorSR）の2科目をあわせて参照してください。

※「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」のスクーリングを16コマ受講する必要があります。スクーリング試験も2回行います。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

※スクーリングの一部を別教員（重宗祥子先生）が担当します。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■教科書

末武康弘『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年

（最新の教科書変更時期） 2019年4月

（スクーリング時の教科書）

旧教科書を所持している場合でも受講に支障がないようレジュメを配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」「根拠に基づく情報発信力」「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

「心理的支援法Ⅰ」p.224、「心理的支援法Ⅱ」p.229〜231参照。

スクーリング

■スクーリング受講条件

「心理療法」のスクーリングは、受講申込締切日までに、「心理学概論」「人格心理学」「臨床心理学」「心理アセスメント」「カウンセリングⅠ・Ⅱ」「カウンセリング演習Ⅰ・Ⅱ」のなかから4科目程度以上学習を終えていること（学習を終えているとは、たとえばSR履修ならば、スクーリング受講済＋レポート提出済、R履修ならばレポート提出済＋科目修了試験受験済にしておくことが望ましい）。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	心理学的支援の概要①	歴史と現代の心理学的支援
2	心理学的支援の概要②	領域と方法、支援の基礎となるもの
3	精神分析／精神力動論	無意識の発見とこころのシステム
4	精神分析の概要	精神分析の基本概念と実践
5	精神力動的サイコセラピー	精神力動的理解を基本とした心理面接
6	現代社会と精神力動的心理支援①	精神力動的人間理解ーアセスメント・フォーミュレーション
7	現代社会と精神力動的心理支援②	様々な領域での支援にどのように活かすか
8	日常生活と精神力動的人間理解	支援を行う自分自身について、日常生活の中で理解を深める
9	スクーリング試験	
10	心理療法の概要と実際①	クライエント中心療法・フォーカシング・エンカウンター、ビデオ学習
11	心理療法の概要と実際②	カール・ロジャースの面接、ビデオ学習
12	心理療法の概要と実際③	認知行動療法、ビデオ学習
13	心理療法の概要と実際④	心理学的支援法のプロセスと実際
14	心理療法の概要と実際⑤	箱庭療法・内観療法・森田療法、ビデオ学習
15	心理療法の概要と実際⑥	プレイセラピー、ビデオ学習、ブリーフセラピー
16	心理療法の概要と実際⑦	アウトリーチ・危機介入と心のケア
17	心理療法の概要と実際⑧	心理教育およびレポートについて
18	スクーリング試験	

レポート学習

■在宅学習30のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	心理学的支援法への誘い（第１章）	心理支援や心理学的支援法が求められるようになった背景と、心理支援・心理学的支援法とは何かを学ぶ。	心理学的支援法の概要を理解する。
2	心理学的支援法の特質（第２章２-１）	日常会話や相談と異なる心理学的支援法の特質を学ぶ。 心理学的支援法と他の専門的な対人的支援法との異同について学ぶ。	心理学的支援法の特質を理解する。
3	心理学的支援法の効果と限界（第２章２-２・３）	心理学的支援法にどのような効果があり、どのような限界があるのかを学ぶ。	心理学的支援法の効果と限界を理解する。
4	心理学的支援法の対象①（第３章３-１～３-２⑵）	心理学的支援法が対象とする心理的問題の背景や成因を学ぶ。 幼児期・児童期・思春期・青年期にみられる特徴的な心理的問題について学ぶ。	心理学的支援法が対象とする心理的問題についての概要を知り、幼児期から青年期に特徴的な心理的問題について理解する。
5	心理学的支援法の対象②（第３章３-２⑶～３-３）	成人期・高齢期にみられる特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について学ぶ。	成人期と高齢期に特徴的な心理的問題とその他の心理的問題について理解する。
6	心理学的支援法の発展①（第４章４-１）	心理学的支援法としての心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングはどのような歴史的背景から生まれ、発展してきたのかを学ぶ。	心理療法とカウンセリングの生まれた歴史的背景と発展について理解する。
7	心理学的支援法の発展②（第４章４-２）	心理療法（サイコセラピー）とカウンセリングが合流して発展していく歴史的展開について学ぶ。心理療法とカウンセリングの共通点と相違点について学ぶ。	心理療法とカウンセリングの異同を知り、両者の合流と歴史的展開について理解する。
8	心理学的支援法のさまざまな理論と方法①（第５章５-１・２）	心理学的支援法としてのカウンセリング／心理療法の海外と日本における第４章で扱った時期以降の現在までの発展について学ぶ。心理学的支援法の主要なパラダイムにはどのようなものがあるかを概観する。	海外・日本でのカウンセリング／心理療法の現在までの発展を理解し、心理学的支援法の４つの主要な立場を知る。
9	心理学的支援法のさまざまな理論と方法②（第５章５-３）	心理学的支援法の４つの主要なパラダイム、それぞれの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を学ぶ。	心理学的支援法の４つの主要なパラダイムの特徴と、それぞれに含まれる理論・方法・提唱者を知る。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	心理学的支援法の主要理論① （第10章10-１）	４つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、家族療法とブリーフセラピーについて学ぶ。（３つの主要な理論は心理学的支援法Ⅱの学習内容となっている。テキスト第６～９章）	家族療法とブリーフセラピーについて理解する。
11	心理学的支援法の主要理論② （第10章10-２・３）	４つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなクリエイティブセラピー（表現・芸術療法）と現代的で統合的な諸理論について学ぶ。	さまざまな表現・芸術療法と、現代的・統合的な理論である交流分析、対人関係療法、動機づけ面接などについて理解する。
12	心理学的支援法の主要理論③ （第10章10-４・５）	４つの主要な理論の一つ「その他の理論・方法」のうち、さまざまなエスノセラピー（民族文化療法）と、折衷的・統合的・多元的アプローチについて学ぶ。	日本独自の心理療法である森田療法・内観療法について理解する。また特定の理論・方法に拘らない実践方法について理解する。
13	心理学的支援法のプロセスと実際①（第11章11-１(1)A、(2)、11-２(1)）	心理学的支援法のプロセスについて総合的な観点から学ぶ。（主要な３つの理論的立場（パーソンセンタードセラピー、精神力動的セラピー、認知行動療法）によるプロセスの捉え方は心理学的支援法Ⅱで扱う。第11章　11-１(1)B,C,D） 心理支援の初期の段階における実際と留意点について学ぶ。	心理学的支援法の全体的なプロセスと、初期段階における実際的作業及び留意点について理解する。
14	心理学的支援法の実際（第11章11-２）	心理支援の探求・展開・終結の三段階における実際と留意点について学ぶ。	心理支援の初期段階以降の終結までの三段階での実際的作業及び留意点について理解する。
15	心理学的支援法をさらに学ぶために（第12章）	専門的な理論と方法を修得するために、今後どのように心理学的支援法の知識的学習を深め、体験学習とトレーニングを積み重ねていけばよいかについて学ぶ。	心理学的支援法の修得のための、今後の具体的な学び方を理解する。
16	心理学的支援法の主要理論（その１）第６章１	心理学的支援法の基礎としてのパーソンセンタードセラピーセラピーはどのようなものかを学ぶ。パーソンセンタードセラピーの歴史的発展についてその概要を学ぶ。	心理療法の歴史の中でパーソンセンタードセラピーの位置づけについて理解する。
17	心理学的支援法の主要理論（その１）第６章２(1)(2)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ①。	パーソンセンタードセラピーの自己理論と支援理論について理解する。
18	心理学的支援法の主要理論（その１）第６章２(3)	パーソンセンタードセラピーの主要な理論を学ぶ②。	パーソンセンタードセラピーのプロセスについて理解する。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
19	心理学的支援法の主要理論（その１）第６章３	パーソンセンタードセラピーの方法を学ぶ。	非支持的応答や一致とプレゼンスについて理解する。
20	心理学的支援法の主要理論（その２）第７章１	パーソンセンタードセラピーの発展的方法を学ぶ。パーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどういうものかを学ぶ。	エンカウンターグループおよびパーソンセンタードアプローチ（PCA）とはどういうものかについて理解する。
21	心理学的支援法の主要理論（その２）第７章２	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ①。	体験過程の理論、フォーカシングについて理解する。
22	心理学的支援法の主要理論（その２）第７章２⑷	ロジャース以後のパーソンセンタードの主要な発展を学ぶ②。	体験的セラピー、エモーションフォーカストセラピー、プリセラピーにいついて理解する。
23	心理学的支援法の主要理論（その２） ３	パーソンセンタードセラピー以外の主要なヒューマニスティックセラピーを学ぶ。	ゲシュタルトセラピー、現存在分析、ロゴセラピーについて理解する。
24	心理学的支援法の主要理論（その３）第８章１⑴⑵	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものかを学ぶ。	精神分析および精神力動的なセラピーとは何か、精神分析の基本的な理論（局所論・力動論・エネルギー経済論）を理解する。
25	心理学的支援法の主要理論（その３）第８章１⑴⑵	精神分析およびそこから発展してきた精神力動的な理論とはどのようなものかを学ぶ。	精神分析の基本的な理論（発達論・構造論・防衛機制論）を理解する。
26	心理学的支援法の主要理論（その３）第８章１⑶	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ①。	自我心理学、対象関係論を理解する。
27	心理学的支援法の主要理論（その３）第８章１⑷	精神分析から発展した精神力動的な理論を学ぶ②。	ユングの分析心理学、アドラーの個人心理学、新フロイト派について理解する。
28	心理学的支援法の主要理論（その４）第９章１	認知行動療法とはどのようなものであり、どのように発展してきたのかを学ぶ。	認知行動療法とは何か、その歴史を理解する。
29	心理学的支援法の主要理論（その４）第９章２	認知行動療法の主要な理論を学ぶ。	行動療法の理論、認知的アプローチの理論を理解する。
30	心理学的支援法の主要理論（その４）第９章３	認知行動療法の主要な方法を学ぶ。	レスポンデント条件づけに基づく方法、オペラント条件づけに基づく方法、応用的な諸方法を理解する。

■レポート課題

１単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。

2 単位め	第 6 章より第 9 章までーフロイトによる精神分析と認知行動療法とパーソンセンタードセラピーの中から 1 つ選んでください。あなたが選んだ療法について明記した上で以下のことを必ず盛り込んでまとめてください。 1. その心理療法が確立された背景 2. その心理療法を創始した人 3. その心理療法の心や症状の捉え方などその心理療法の特徴 4. その心理療法の方法、特にカウンセラー（あるいはセラピスト）のあり方 5. 現在、その心理療法はどのように発展し、どのような症状や場面などで主につかわれているのか 6. あなたのその心理療法についての見解
3 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
4 単位め	第10章を中心に第 2 章・第 3 章も参照しながら取り組んでください――次の文章は、ある事例の要約です。この文章を読み、下記の課題をレポートしなさい。 （※レポート用紙の課題記載欄は、下 2 行の課題の記載のみでよい。） ある両親が、中 2 の子どもの不登校のことで来談された。家族は、祖父母、両親、長女、長男、次女、次男（本人）である。父親は、一流企業の役員をしているが、祖父に頭が上がらず、家計は祖父母が管理している。そのためか、嫁姑の関係は悪い。本人は、末っ子のこともあり、家族から溺愛されて育ってきた。不登校になるまでひとりで留守番することができなかった。また、 2 階の自分の部屋にひとりで行かれなかったので、家族の誰かがその都度ついて行った。祖父母も両親も社会的地位や名誉には敏感で、上の兄弟は一流の学校を卒業し、一流の企業に就職をしている。本人は、小学校の時も不登校気味であったが、家庭教師をつけたこともあり、一流の中学校に入学したが、不登校に陥った。現在の本人は、テレビゲームを中心に昼夜逆転した生活をしており、家族とのかかわりを回避している。時々気に入らないことがあると両親に暴力を振るい始めているが、風呂にも入らず、無気力な生活を送っている。祖父母は、こうなったのも両親の育て方が悪いからだと非難しているが、夫婦でそのことについての話し合いはない。他の兄弟も本人のことに触れないようにしている。祖父母と両親の共通点は、本人が今の中学校を卒業して、有名高校に入学することを願っていることだ。 **課題**　発達的カウンセリングの視点も考慮に入れて、どのように家族療法をおこなっていったらよいか、論述しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2018年度以前履修登録者）2019年 4 月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2018』記載の課題での提出は2020年 9 月で締め切りました。

■アドバイス

ここで使用している教科書は、「心理療法」を初めて学ぶ人を前提に選択しました。本書では、代表的な心理療法を取り扱っていますが、各心理療法を創始した創始者の生育歴や時代背景をとりあげ、読む側にとっては、それぞれの心理療法の形成過程と特徴について理解を深めることを容易にしています。教科書は、レポートを書く前提としての基礎的知識を習得する本として位置づけています。入門的で平易な文章でありますが、それぞれの文章には深い意味が込められています。この点を学んでもらいたくレポート課題を課しています。したがって、教科書のみでは、各レポート課題をまとめにくい点が多々あります。教科書の基礎的知識をもとに各レポート課題の中から興味ある課題を選択し、下記にとりあげた参考書等を読み砕き、レポートを作成してください。また、心理療法に興味をもったなら各参考書に載っている本・文献や各自が見つけた本等を読み進めてください。

引用・参考文献が、テキストだけのものは、必ず再提出にしています。テキスト以外に利用した本を最低１冊以上はあげてください。

なお、**レポートは、教科書、参考書、インターネット情報等の「抜粋」や「切り張り」や「内容の要約」、「あらすじの説明」ではなく、教科書と参考書等を熟読し、それを学習者自身の創意にもとづいて理論的に組み立て、作成**してください。また、心理療法という科目の性質上、個人的体験談等を書きたくなりますが、提出されたレポートは成績をつけるものですので、個人的経験談等は評価の対象にはなりません。あくまでも心理療法という学問についてレポートをしてください。

1・3単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

フロイトによる精神分析、パーソンセンタードセラピー、認知行動療法は、代表的な心理療法です。

現在たくさんある心理療法はこの３つの心理療法から発展していきましたので、これらの心理療法を深く知ることは心理療法を理解する上で大切です（ただし認知行動療法はほかの２つのものとは歴史が違いますので、認知行動療法を選んだ場合にはそのことにも触れてください）。１から６の項目を必ずいれて論述してください。項目ごとの記述ではなく、６項目に必ず触れてください。１つでも欠けた場合には再提出とします。

4単位めアドバイス

ひとつの事例を今まで学習してきた心理療法の知識をもとに考察してもらう課題です。

「発達的カウンセリング」についてですが、この事例は、中学２年の男子です。中学２年という年代は一般的には、どんな年代でしょうか？　心の状態、親との問題、人との関係など、子どもから大人になる時期です。このことは、すでに様々な研究者が指摘しているので、それを参考にして、具体的な研究者の理論をあげながら（理論をくわしく紹介する必要はない）、まずはその年代の発達的特徴を捉えてください。その上で、その特徴と比較して、この事例の中学生はどうでしょうか？
例えば、「ひとりで留守番できない」「ひとりでは自分の部屋に行けない」など他にもこの中学生の状況について書かれた部分はありますが、そのことと一般的中学生の状態と比較してこの事例の中学生はどんな成長を遂げており、あるいは遂げていないでしょうか？　その視点を織り交ぜてこの事例を考察してください。これが、発達的カウンセリングの視点ということになります。

また、このような家族に心理的援助をしていく場合、ファミリー・カウンセリングの視点がカウンセラーに求められます。なお、ファミリー・カウンセリングは、その名称からただ「家族」に行うカウンセリングと理解しがちですが、今日では「家族療法」の名称が一般的です。家族療法にもいろいろな立場があります。その中で興味ある家族療法（ファミリー・カウンセリング）の視点から、この面接のあとの面接でこの家族にどのようにアプローチしていくか論述してください。なお、今回は両親が来談したが、この後の面接に関してはどの家族メンバーを面接に呼ぶかなども考察してみてください。

上記の２つの視点を織り交ぜて、この事例を考察してください。

なお、発達心理学の一般的説明と家族療法の一般的説明で事例を考察するのは、事例に則した考察というより「一般的説明」の要約に陥ります。たとえばエリクソン理論の内容を細々と要約して紹介する必要はないので、あくまでこの事例に即して考えてください。

現段階で得られている情報をもとに、①中学 2 年の男の子の発達心理学の視点からのアセスメント、②この家族のかかえていると思われる問題、③　①と②をふまえた上でこの家族に適切とおもわれる家族療法の選択を行い、その家族療法の具体的な技法をあげながら、どのようなアプローチが良いかを記述する、④そのアプローチを行う上での留意点や問題点を最後にまとめる、という流れで論じてください。

科目修了試験

■評価基準

教科書を何回も読み専門用語の説明が出来るようにしてください。その際には、自分で一度は書いてみることをおすすめします。

心理療法各論 〜2017

科目コード	FF3521

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R	2年以上	日笠真理子

履修方法：R　レポート提出後、科目修了試験の申込み・受験を忘れずに行ってください。
※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。
※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（新規履修登録はできません）。

科目の概要

■科目の内容

カウンセリングにおいて、理論とは、困難に直面した人を理解したいと思ったときに道しるべとなるものであり、技法とは、援助したいと思ったときに道具になってくれるものです。現在よく知られている理論だけでも相当な数があり、それぞれに異なる人間観・治療観・技法を持っています。カウンセラーは、これら多くの理論・技法について、広く知っている必要があります。一つの理論では、到底理解、対応しきれないのが、生身の人間だからです。同時に、これら多くの理論・技法の中から、自分の臨床実践の背骨となる特定の理論を選び、深く学ぶことも大切です。

この科目では、「臨床心理学」「心理療法」など他の科目ではくわしくとりあげられなかった「特性因子理論」、「認知行動療法」、「精神分析療法（交流分析、ゲシュタルト療法）」、「人間学的アプローチ」、「家族療法」、その他の療法を学んでいただこうと思います（精神分析療法については、他の科目で詳しく取り上げられているので、省略し、交流分析とゲシュタルト療法についてのみ取り上げます）。多種多様な理論・技法の特徴を学びながら、自分のバックボーンとなる理論や使いこなせる技法を見つけていってください。

■到達目標

1）心理療法の主要な諸理論（特性因子理論、認知行動療法、交流分析、ゲシュタルト療法、人間学的アプローチ、家族療法、その他の療法）について解説することができる。
2）心理療法の主要な諸理論について具体例を記述することができる。
3）産業カウンセラーとして、主要な諸理論と技法をどのように活用するかを述べることができる。

■教科書

日本産業カウンセラー協会編『産業カウンセリング（産業カウンセラー養成講座テキスト）』日本産業カウンセラー協会、2013年　第５章「カウンセリングの諸理論」
※「カウンセリングⅠ」の2018年度以前履修登録者で、上記書籍が配本されている方は、この科目での教科書配本はありませんが、専用レポートを配付しています。

■履修登録条件

この科目は「カウンセリングⅠ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。

「心理療法」「臨床心理学」の単位修得後、学習することが望ましいものです。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50％＋科目修了試験50％

■参考図書

《辞典・事典》

国分康孝編『カウンセリング辞典』誠信書房、1990年

※具体的な例が添えてあり、説明が分かりやすいです。最初に目次つきの領域別項目一覧が載っていて、辞典でありながら、体系的に学習するのにも役立ちます。

氏原寛・小川捷之・東山紘久・村瀬孝雄・山中康裕編『心理臨床大事典』培風館、1992年

※各項目がかなり詳しく説明されています。また、それぞれの項目の最後に参考文献が載せてあるため、更に知識を深めたいときにも役立ちます。

日本産業カウンセリング学会監修『産業カウンセリング辞典』金子書房、2008年

※各項目に参考文献が載せてあります。

《書籍》

乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕編『心理療法ハンドブック』創元社、2005年

レポート学習

■在宅学習８のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	カウンセリング理論の歴史的位置づけ（第５章５－１）	カウンセリング理論の５系統と、その歴史的位置づけについて理解する。	数多くあるカウンセリング理論は大きく５系統に分類されます。指示的なものから人間学的なものに順番に並べ、年代順に整理し、カウンセリング理論の全体像を理解しましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
2	特性因子理論―カウンセリングの夜明け（第５章５－２）	カウンセリングの始まりが20世紀初頭の心理アセスメントを活用した職業指導運動であったことを理解する。	特性因子理論では、パーソナリティは人間の特徴を表すいくつかの特性と因子の組合せによって成り立っている考えられています。心理検査により職業適性を調べ職業指導を行うという指示的な面接がカウンセリングの始まりでした。
3	認知行動療法①（第５章５－３－１～５）	行動療法の基礎となっている２つの学習理論（古典的条件づけ・オペラント条件づけ）と社会的学習理論について理解する。	行動療法では、学習理論を応用させた技法が用いられています。古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習理論を応用した技法とその具体例を考えてみましょう。
4	認知行動療法②（第５章５－３－６～８）	論理療法と認知療法について理解する。これらが行動療法と理論統合し、認知行動療法へ発展したことを理解する。	論理療法や認知療法で、どのように「起きている事実の受け止め方」の歪みを修正するのか具体的に考えてみましょう。
5	交流分析・ゲシュタルト療法（第５章５－４－２～３）	交流分析とゲシュタルト療法について理解する。	交流分析の中の４つの分析方法とゲシュタルト療法の技法について、自分の例を実際に当てはめながら考えてみると理解しやすいでしょう。
6	人間学的アプローチ（第５章５－５）	実存主義的カウンセリングや実存分析（ロゴセラピー）について理解する。	実存主義的カウンセリングや実存分析の考え方を自分が真に持つことができるとどのような気持ちになるか、逆に持てないとどのような気持ちになるのかイメージしてみましょう。
7	家族療法（第５章５－６）	家族療法、短期療法、ナラティブセラピーについて理解する。	個人に注目する療法と家族システムに注目する療法の違いを具体例を思い浮かべて考えてみると理解しやすいでしょう。
8	その他のカウンセリング理論（第５章５－７）	現実療法、森田療法、内観療法について理解する。	森田療法と内観療法は日本で創始された独自の心理療法です。それぞれの考え方と実施方法について知りましょう。森田療法の「あるがまま」を大切にするとはどういうことか自分の例をあてはめて考えてみましょう。

■レポート課題

履修登録時に配付された専用レポート用紙に記載の問題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書以外の参考文献を併せて読むと、教科書の内容が理解しやすくなります。「急がば回れ」で是非読んでみてください。

その際、自分自身のこと（悩み・ストレス・家族関係・学校や職場の人間関係・性格・ものの考え方・

過去の経験など）を当てはめ、実際にその療法を受けるところを想像してみてください。そうすることで、血の通った理解になります。それぞれの理論は、カウンセラーと来談者という生身の人間同士の出会いの中から生まれ、育ち、そして、それに共感する大勢の人たちによって今日まで引き継がれているのだということを忘れないでください。

参考図書以外にも多くの文献が出版されています。将来の実践のために、興味を惹かれたものから、どんどん学習を深めていってください。

科目修了試験

■評価基準

内容を正しく理解していること。また、具体例を求められている問題では、具体例と全般的な説明の両方が的確に記述されていることが、評価されます。

心理学的支援法Ⅲ

2018～

科目コード	FF4558

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	R	3年以上	秋田　恭子

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※この科目は、レポート提出にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

「心理学概論Ａ」「心理学概論Ｂ」「福祉心理学」「発達心理学」「心理学実験ⅠＡ」「社会・集団・家族心理学Ａ（社会・集団心理学）」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理的アセスメントⅠ」「心理学的支援法Ⅰ」「心理学的支援法Ⅱ」10科目の知識を生かし、事例をアセスメントできその上でそれぞれのクライエントにとってどのような「アプローチが望ましいかの感覚を身につける。

■到達目標

1）代表的な心理療法並びにカウンセリングの概念、意義、適応及び限界を述べることができる。
2）プライバシーへの配慮について説明できる。
3）良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を述べることができる。

■教科書（「心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ」と共通）

末武康弘『心理学的支援法―カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年

■履修登録条件

この科目は、レポート提出条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録する方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価40%+科目修了試験60%

■参考図書

レポート提出条件の10科目で挙げられている参考図書を参照してください。

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	第 8 章 心理学的主要理論 （その 3 ）	精神分析と精神力動的セラピー（フロイトの理論およびその後の精神分析の自我心理学・対象関係論）	すべての心理療法始まりは、フロイトからです。フロイトの理論を中心にその後精神分析理論を学ぶ。
2	第 8 章 心理学的主要理論 （その 3 ）	ユング分析心理学・アドラーの個人心理学・新フロイト派 精神力動的セラピーの主要な方法	フロイトから離れた人たちの理論および精神力動的セラピーの基本的原則・方法を学ぶ。
3	第 9 章 心理学的主要理論 （その 1 ）	認知行動療法	認知行動療法アプローチの仕方を学ぶ。
4	第 6 章 心理学的主要理論 （その 1 ）	パーソンセンターセラピー	パーソンドセンターセラピーの理論及び方法を学ぶ。
5	第 7 章 心理学的主要理論 （その 2 ）	パーソンセンターセラピーの発展的方法とヒューマニスティックセラピー	エンカウンターグループおよびロジャース以後のパーソンセンターを学ぶ。
6	第10章 心理学的主要理論 （その 2 ）	3 つの心理学的支援法以外の方法	家族療法・ブルーフセラピー・表現芸術療法・交流分析・対人関係療法を学ぶ。
7	第11章 心理学的支援法のプロセスと実際	心理学的支援法のプロセス・心理学的支援法の実際と留意点①	インテーク・ケースフォーミュレーションを学ぶ。
8	第11章　心理学的支援法のプロセスと実際	心理学的支援法の実際と留意点②	家族関係者への支援・アウトリーチ・心理教育を学ぶ。

■レポート課題

※レポート提出条件

⑴ 「心理学概論Ａ」、「心理学概論Ｂ」、「福祉心理学」、「発達心理学」、「心理学実験ⅠＡ」、「社会・集団・家族心理学Ａ（社会・集団心理学）」、「臨床心理学概論Ⅰ」、「心理的アセスメントⅠ」、「心理学的支援法Ⅰ」、「心理学的支援法Ⅱ」、計10科目の単位修得

⑵ 卒業要件単位90単位以上修得していること

1 単位め	Ａさんは、30歳の会社員の男性です。家族は、会社員の父、専業主婦の母、本人、弟２人です。Ａさんは、小さいころから泣かない、だれにでもついていくような明るい子供でした。そして、兄弟からも親から頼りにされていました。野球が大好きでお父さんとよく球場に行っていました。学校の成績は優秀で、先生からの評判も良い生徒でした。ただ、小学校４年生の時に父親と進学のことで意見が合わず、一時不登校になりました。その際に担任から勧められたが、スクールカウンセラーの所には親子共々来室したいという希望はなかったです。父親とはその後何となく疎遠になりました。中学は両親の希望もあり、中高一貫の男子校の進学校に進み、部活はバスケットボール部に所属し、主将も務めました。高校では生徒会長にもなりました。希望の大学に入学し、父親と同じような一流企業に入社しましたが、28歳の時に役職についていた父親が突然亡くなりました。その時は涙も見せずに落ち込んでいる母に代わり葬式を仕切り、立派な葬儀となりました。また、最近結婚が決まり、母親と同居するかそれとも新婚夫婦２人で住むかということで少し困っていました。会社では本人は苦手とする上司でしたが、上司からは信頼もあつくプロジェクトリーダーを任されることになりました。このプロジェクトに成功すれば昇進の道が約束されているとのことでした。その矢先に、会社に行く電車の中で心臓が締め付けられるような痛みを感じて、どうしても会社に行けなくなりました。そこでしばらく自宅で療養することになりました。総合病院の内科に受診しましたが心臓の検査結果に異常はなく、内科医からは精神科を勧められました。同じ病院の精神科では、不安に対する薬の処方をされましたが、不安となることについては、なかなか特定できず、医師より病院内の心理士を紹介されてきました。なお、薬の処方もあるので先の精神科医はこのまま主治医としてかかわっていくことになっています。 Ａさんの上記の情報からＡさんについて、心理士の立場からアセスメントしてください。その際に、まずは、概括的情報からのアセスメントをおこない、つぎに、①から③の観点＜①認知行動的観点②精神力動的観点③パーソンセンタード／ヒューマニスティックな観点＞のうちの１つを選んでその観点からアセスメントしてください。どの観点からのものかを必ず書いてください。その観点からの面接において、どのように進めていき、またどのような留意点が必要かを述べてください。また、心理検査を行うとしたら何を知るためにどんな検査を行うのかも書いてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書のｐ.155〜157の実践への示唆11.１を参考にケースフォーミュレーションを行ってください。最初に、概括的情報からアセスメントをしたうえで、それぞれの療法のアセスメントの観点の違いを理解したうえで選んだ観点からアセスメントをしてください。最後に、どのようなことを留意して面接を進めていくのか心理検査は具体的に何をするのかを述べてください。もう少し細かく述べますと、まずは、概括的情報として、このクライエントの年齢から考えての発達課題となることは何でしょうか。来室経路ついてはどう考えますか。生育歴からどんなことが推察されますか。家族との関係はどうでしょうか。そのほかの人との関係はどうでしょうか。次に、それぞれの観点からアセスメントしてください。その際に、その観点の中で何を特に重視するかを明確にして、最後に援助の目標をどのあたりに設定するかを決めてください。このことはクライエントとの合意によりますがひとまずは考えてみてください。また、面接を進めていくうちになにか気を付けておく必要なことはあるでしょうか。その点も考えて書いてください。もし心理検査をこの人にするとしたらどんな検査を何のためにしたらよいかも具体的に書いてください。

以上の観点をまんべんなく書いていただいたことでレポートを評価します。

科目修了試験

■評価基準

教科書の第11章をよく読んで臨んでください。

司法・犯罪心理学

科目コード	FF3551

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR（講義）	2年以上	半澤　利一

※2018年度に「犯罪非行心理学」（科目コード：FF3524）から科目名が変更されました。これから学習される場合は、本科目を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

司法・犯罪心理学（「犯罪非行心理学」から科目名変更）は応用心理学の一領域です。ドラマや映画で描かれるような「犯罪プロファイリング」も捜査心理学という犯罪心理学の一分野の方法ですが、基本的には、なぜ人は犯罪をするのか、どのようにすれば犯罪をくり返さないようになるのか、そして犯罪の発生を減らし、犯罪に遭わないようにするためには何が必要なのかを現実的に考えるために、近接した学問領域の知見を援用して統合的に考察する学問であると言えます。「犯罪」と「非行」という使い分けは、成人による犯罪と未成年者の非行について法律で異なった扱いをすることや、発達段階の違いから、反社会的行動の性質や立ち直りに影響する要因などさまざまに異なる側面があることを意味します。また、犯罪と非行は刑事司法が司りますが、この科目ではさらに民事司法の中で、離婚や子どもの親権をめぐる争いなど家庭内紛争の理解と融和を目指す、家庭裁判所における家事事件の扱いを学びます。

【教員等の実務経験による指導内容】

長年、家庭裁判所調査官として非行少年の調査や家庭内紛争の調整に取り組んだ経験を生かし、犯罪・非行とは何か、どう理解して処遇して行くのかを実務家の視点で解説し、犯罪・非行の時代的推移や現代型非行の特徴、捜査や裁判、処遇を担う機関の機能や連携、被害者心理、さらには家庭内紛争についての理解を深めさせる。

■到達目標

1）犯罪や非行という行動化の心理・社会的メカニズムを説明できる。
2）再犯を抑制して社会適応を促すさまざまな処遇方法を述べることができる。
3）離婚や子をめぐる争いなどの家庭内紛争について説明できる。

■教科書

河野荘子・岡本英夫 編著『コンパクト司法・犯罪心理学ー初歩から卒論・修論作成のヒントまでー』北大路書房、2020年

（最近の教科書変更時期）2021年４月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。2022年度までは、旧教科書『コンパク

ト犯罪心理学』の参照でも支障が無いように配慮します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価50%

■参考図書

1）司法・犯罪心理学概論

細江達郎著　『図解雑学 犯罪心理学』ナツメ社、2001年（図解入りで分かりやすい。初心者向け。）

原田隆之著　『入門 犯罪心理学』（ちくま新書）筑摩書房、2015年（包括的な内容がコンパクトにまとめられており読みやすい。）

大渕憲一著　『犯罪心理学―犯罪の原因をどこに求めるのか』（心理学の世界 専門編）培風館、2006年（さまざまな概念や理論について広く詳しく紹介されているが、やや難解で読み応えがある。）

廣井亮一著　『司法臨床入門（第２版）：家裁調査官のアプローチ』日本評論社、2012年

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年

2）司法・犯罪心理学各論

越智啓太著　『Progress & Application 犯罪心理学』サイエンス社、2012年（捜査心理学、防犯心理学、犯罪種別ごとの心理などが紹介されている。）

生島浩・村松励編著　『非行臨床の実践』金剛出版、1998年（非行臨床についての実務家のノウハウが満載。）

生島浩著　『悩みを抱えられない少年たち』日本評論社、1999年（非行少年の心理について洞察が鋭い。）

藤岡淳子著　『非行少年の加害と被害―非行心理臨床の現場から』、2001年（非行臨床についての考察が深い。）

小西聖子著　『犯罪被害者の心の傷』白水社、2006年（被害者の理解と支援についての名著。）

廣井亮一編　『家裁調査官が見た現代の非行と家族～司法臨床の現場から』創元社、2015年

■参考サイト

①「令和元年度版犯罪白書」の第２編／第２章／第１節／１（下のURL参照）「第２章 少年非行の動向」＞「第１節 少年による刑法犯」＞「１ 検挙人員」http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/66/nfm/n66_2_2_2_1_1.html
その他、公的機関による犯罪関連の統計には「矯正統計」「少年矯正統計」「保護統計」「警察白書」などがあります。また、青少年をめぐる問題について「子供・若者白書（旧：青少年白書）」なども参照されます。

②YouTube「MOJ channel（法務省チャンネル）」心のリレー・第 2 部『保護観察官の仕事』
https://www. youtube. com/watch?v=tizdroA 7 rW 8
③YouTube「MOJ channel（法務省チャンネル）」更生保護紹介動画「更生保護～立ち直りを支える地域のチカラ～」
https://www. youtube. com/watch?v= 3 LihVMdoOzQ
④「犯罪被害者の方々へ」（「法務省」HP＞「法務省の概要」＞「組織案内」>「特別の機関」）
http://www. moj. go. jp/keiji 1 /keiji_keiji11. html
⑤全国の「被害者支援センター」一覧（「公益社団法人全国被害者支援ネットワーク」HPから）
http://www. nnvs. org/shien/list/
※「公益社団法人みやぎ被害者支援センター」
http://www. miyagivsc. jp/index. html

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	犯罪心理学とは何か	犯罪をどう捉えるか、少年非行の動向とその原因
2	犯罪の原因と法	犯罪社会学と法律学における捉え方
3	非行臨床について	少年事件の審理、司法的機能と福祉・教育的機能
4	施設内処遇と社会内処遇	保護観察や少年院について
5	非行少年と家族を理解する	非行少年の心性と家族の特徴
6	家事事件とは何か	家庭内紛争の理解と対応
7	被害者の心理と支援	トラウマティック・ストレスとその対応
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に板書をしながら講義を進めます。教科書や参考図書『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』『司法臨床入門（第 2 版）：家裁調査官のアプローチ』および動画教材も参考程度に利用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（教科書・配布資料・ノート可）。試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の２章・４章・５章を復習し、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	犯罪心理学とは①（第１章第１節）	犯罪非行心理学の研究対象は「犯罪」と「非行」であり、それぞれをどう定義して考える学問なのか、またどういう研究領域があるのかを理解する。	犯罪心理学とは何をどのように研究して行くのかを理解します。特殊な事件を解明するスリリングな活動ではなく、事実や現象についてデータを元にして分析し、法律学や社会学などの知見をも参照して、改善策を考える学問であることが分かります。
2	犯罪心理学とは②（第１章第２節）	犯罪心理学のさまざまな調査法の一つに犯罪データを利用する方法がある。教科書では限定的な意味での「犯罪データ」（公的記録）について説明されるが、国の機関が毎年発表する「白書」はインターネット上での閲覧も可能である。実際の犯罪データを見てその読み方を体験する。	一般の立場で犯罪者や非行少年を直接研究対象とすることはできませんが、公表されている「犯罪統計」を使えば、その推移や動向などが分かります。ここでは、インターネットで閲覧できる「令和元年版犯罪白書」（参考サイト①）の「少年による刑法犯・１検挙人員」を利用します。参考図書などを手がかりに、その変動の原因を探ってみましょう。
3	犯罪の原因①（第２章第１節、第２節）	犯罪の原因を解明する理論を学ぶ。社会的要因と生物的要因のレベルで犯罪の形成を見る。	自分の体験や過去の事件報道についての知識を手がかりに、個人を取り巻く社会が反社会的行動の形成にどう影響するかについて考えましょう。また生物学的要因は、教科書に記載されているものの他、先天的な心身の特徴や障害、疾患が影響することもあります。参考文献などで調べてみましょう。
4	犯罪の原因②（第２章第３節）	セルフコントロール、敵意帰属バイアスなどが心理的要因であることを知る。	狭義の犯罪心理学の中心的なテーマで、犯罪者や非行少年のパーソナリティ特性を知る部分です。それぞれが犯罪に至った要因は様々でも、ある程度共通する特性や傾向が窺えることもあります。参考文献などを手がかりにして、他にどんな心理的要因があるかを調べましょう。
5	犯罪の原因③（第２章第４節）	犯罪や非行の形成には、家庭環境や学校適応、友人関係などが関わることを理解する。	性格形成や生活態度に大きな影響を与える、一番身近な社会的要因を捉えます。いずれも犯罪や非行の一因となると同時に、更生に向かう時にも影響を及ぼします。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
6	犯罪の捜査① （第３章第１節）	社会的な視点で犯罪を見いだすプロファイリングには、FBI方式、リバプール方式、地理的プロファイリングなどの手法があることを理解する。	犯罪捜査に寄与する心理学的な方法を学びます。犯罪行動の痕跡から、いかに犯罪者を効率的・効果的に探り当てるかを心理学的に捉えます。
7	犯罪の捜査② （第３章第２節、第３節）	虚偽検出や目撃証言の吟味は、犯罪を構成する事実を個人から見い出すことであることを理解する。	捜査段階では、犯罪者の生理的反応や言語的反応をどう捉え、どう扱うのかを理解しましょう。
8	非行少年の心理・社会的アセスメント① （第３章第４節）	少年鑑別所は、非行少年の資質鑑別（資質面の精査）を行う専門機関であり、法務技官（矯正心理職）が主に面接や心理検査を行い、法務教官が観護しながら行動観察を行うことを理解する。	少年鑑別所は、家庭裁判所が受理した少年事件の審理中に少年を収容して心身の鑑別（収容審判鑑別）をする機関です。ここでは資質鑑別と呼ばれる、専門的な心理アセスメントについて、その視点や方法を学びましょう。また、非行少年の心理特性についても具体的に理解し、それらがどう非行につながるのかを考えてみましょう。
9	非行少年の心理・社会的アセスメント② （Column１、３、４）	発達障害は非行の主因ではないが、発達障害を抱えた子どもへの周囲の不適切な関わりが非行を生み出すと言っても過言ではない。非行化の社会的要因について考えたい。	非行少年の審理においては、複数の専門職が関与します。少年鑑別所の法務技官が詳しい心理アセスメントを行い、家庭裁判所調査官が心理的な形成要因に関わる社会的な要因を捉えます。専門職の仕事を通して非行の心理・社会的要因をよく考えてみましょう。
10	犯罪からの立ち直り① （第４章第１節１.～４.第２節１.）	「立ち直り」とはどのような状態を指すのか、何が必要で、どうしたら良いのか、周囲は何をしたら良いのかを考える。	前項で学んだ心理アセスメントは、それのみで終結するのではなく、立ち直りを援助するための情報として活用されます。立ち直りの考え方や方法について、過去の研究や理論から探りましょう。
11	犯罪からの立ち直り② （第４章第２節２.）	非行・犯罪臨床の特徴の一つである施設内処遇について学ぶ。他の臨床領域では見られない、強制力を伴う、長い期間身柄を拘束する処遇となるが、ここでさまざまな教育プログラムや方法を執ることで、非行性や犯罪性の進んだ人々には有効な処遇となることを知る。	成人向けの刑事施設や非行少年を収容する少年院は、刑事裁判中に被疑者を収容する拘置所や家裁の審理中に少年を収容する少年鑑別所とは異なる、処遇の専門機関です。ここでどのような処遇が行われるのか、具体的に学びましょう。
12	犯罪からの立ち直り③ （第４章第２節３.Column５、６、７、８）	非行・犯罪臨床においては、アセスメントや処遇が一つの機関で完結することはない。施設での処遇が行われた後も、社会内処遇（対象者を住居に住まわせ、学校や職場に復帰させて指導をすること。）が続くが、その中心となるのが保護観察所の行う保護観察である。	保護観察官は具体的にどのような仕事をしているのか、また地域はどのように支援できるのかをYouTubeの「法務省チャンネル」の紹介ビデオ（参考サイト②、③）から学んでください。併せて、テキストのColumnから少年鑑別所の地域援助活動や児童相談所の業務における非行・犯罪予防や再犯防止に向けた活動の意義を考えます。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	被害者の心理①（第５章第１節１.～２.）	2005年に「犯罪被害者等基本法」が施行された。犯罪者に対する刑事手続の中での被害者への対応や支援の詳しくは参考サイト④を参照する。教科書には被害者が事件直後に呈する特徴的な心理状態や深刻化した状態などについて解説されているが、それがどのようなものなのかを理解する。	事件や事故が毎日のように報道されますが、その陰には痛ましい心を抱えた被害者やその家族がいます。取り返しのつかない事態に遭った被害者や遺族は特別な心理状態からなかなか回復できないものです。その心理を理解し、支援の基本を学びましょう。
14	被害者の心理②（第５章第１節３.～５.）	被害者の心理的ケアの基本は「まずは被害者に寄り添うこと」に尽きる。他に薬物療法や長時間曝露療法について紹介されているが、被害者は過敏な状態にあるのであくまで基本を守る。被害者の心理と支援について参考図書などから詳しく理解する。	各都道府県に開設されている「被害者支援センター」は参考サイト⑤で一覧できます。センターが他にどのような業務を行うのかもを調べましょう。また「全国被害者支援ネットワーク」のホームページでは、被害者支援の歴史やさまざまな関係機関による取り組みが紹介されていますので参考にしましょう。
15	防犯について（第５章第２節）	環境犯罪学の主な理論である、割れ窓理論、犯罪パターン理論を理解し、防犯意識を高める。	犯罪者の行動傾向や犯罪を誘発しやすい状況などについて知ることで、防犯対策についての知識を得ましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	非行少年とされる未成年者はどのような性質を持った若者なのかについてまとめ、また再び非行や犯罪を起こすことなく正業に就いて自活させるために、周囲はどのような働きかけをすれば良いのかについてあなたの考えを述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

さまざまな角度から非行を捉え直して考えるためには、まず課題を読み解くための手がかりとなる理論や概念を教科書などから探しましょう。それを読み込んであなたの言葉に翻訳して枠組みを自分のものとし、自分なりに情報を整理して自分の言葉で表現してください。参考図書やホームページなどを積極的に参照することを推奨しますが、それらを丸写ししたり、コピー＆ペーストした情報の切り貼りでは学習効果は望めません。理解した内容をあくまで自分の言葉で論理的に構成するように心がけてください。

一般に、非行少年には反抗的な態度や感情統制の悪さ、気まぐれで継続性のない態度などが認められる

ことから、周囲が偏見を強めたり対人的な距離を置いたりします。本人なりに、まじめにやろう、周囲の人々とうまくやっていこうと実は思っていても、なかなかうまくいかない「生きづらさ」を抱えているものです。そういう本人のつらさや努力を、偏りのないまなざしで肯定的に見守るのが非行臨床の第一歩と言えるでしょう。どんな人間でも、自分を理解してくれて温かい言葉を掛けてくれる人には敵意を向けないものです。しかし、対人的な不信感や劣等感が強い人間はなかなか心を開こうとせず、不信の目や怒りを向けてくるかも知れません。それを受け止めながら、なおも肯定的な関心を向け続け、問い掛けます。そして、生きづらさを抱え続けた結果である反社会的行動に至った本人なりの道筋を聴いていくことが大切です。そこから非行少年の理解が始まるのです。教科書に書かれた非行少年の性格的な特徴やそれと関わる社会的要因（家庭環境、交友関係、学校等）の特徴などを手がかりにして、自分なりにモデルケースを想定し、更生のための社会的な支援のポイントなども含めてまとめてください。

犯罪非行心理学 〜2017

科目コード	FF3524

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR（講義）	2年以上	半澤　利一

※2018年度から、科目名・科目コードが「司法・犯罪心理学」（科目コード：FF3551）に変更されました。レポート課題も 2 課題に変更されています。

※これから履修登録される場合は、p. 250「司法・犯罪心理学」を履修登録してください。

※2017年度に「犯罪非行心理学」を履修登録した方で、2018年 3 月までに単位未修得の場合は、「司法・犯罪心理学」に変更されています。

※2017年度に単位修得した方は、科目名「犯罪非行心理学」のままです。

災害・防災心理学

科目コード	FF3565

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	2年以上	柴田　理瑛・平泉　　拓

※この科目はオンデマンド・スクーリングのみ開講いたします。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

災害と防災にまつわる心理学の様々な領域についての基本的な理論や考え方に関する知識を学び、総合的な人間理解力、批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力、多様な人々への共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力、自己理解に基づくセルフコントロール力といった要素の基礎を修得していただきたいと考えています。

■到達目標

1）災害発生後の人間心理・行動について説明できる。

2）災害発生後の対応に関する基礎的シミュレーション能力を習得する。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	定義と準備	心理学において災害とはどのように定義されているかについて学ぶ
2	セルフケア	災害時のセルフケアと援助要請行動について学ぶ
3	心身反応①	災害時のストレス反応
4	心身反応②	心的外傷後ストレス障害と記憶について学ぶ
5	災害時の支援概論	サイコロジカル・ファーストエイドについて学ぶ
6	災害時における対象別の支援	災害時の子どもの心身反応と対応について学ぶ
7	災害時における対象別の支援	災害とコミュニティについて学ぶ
8	まとめと質疑応答	対象別の支援のあり方を中心に振り返り、質疑応答を行う
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配布資料をもとにパワーポイントを使用し、途中ビデオ視聴やグループワークを行います。

授業の性質上、災害や喪失体験等が扱われる。したがって、第 3 回講義ではストレスとの付き合い方

（セルフケア）を学習したうえで、各回の内容を学習する形式を採る。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（持込すべて不可）

試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義内容の関心をもったテーマについて、自分なりに学びたいことを調べてください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■参考図書

授業のなかで興味・関心をもった内容や疑問点については、下記の参考書を読んで理解を深めることができます（教科書ではありません）。

『不測の衝撃』金剛出版、2014年

『震災心理社会支援ガイドブック』金子書房、2013年

『大震災からのこころの回復』新曜社、2015年

『災害の襲うとき』みすず書房、2016年

『災害と子どものこころ（集英社新書）』集英社、2012年

『災害とトラウマ』みすず書房、1999年

『災害の心理：隣に待ち構えている災害とあなたはどう付き合うか』創元社、2006年

健康・医療心理学

科目コード	FF4559

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	3年以上	中村　修・菊池　陽子

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

健康を支援する取り組みにおいては「不健康状態の解消」だけが目標になるのではなく、近年では「今ある健康を維持する」あるいは「ますます健康になる」という目標が重視されてきている。本講義では「健康である者はなぜ健康なのか」という問いのもと、心理学の新たな分野である健康心理学の知見とその活用について詳述していく。また、健康を支援する実際の現場での心理学の立場から指摘される課題と支援について、医療・保健現場・災害時支援の領域ごとに整理する。

■到達目標

1）健康心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる。
2）ストレスと心身の疾病の関係を説明できる。
3）自己のライフスタイルの形成・修正に習得した理論／概念を役立てることができる。
4）医療現場・保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援を説明できる。
5）災害時等に必要な心理支援を説明できる。

■教科書

宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）『健康・医療心理学』医歯薬出版、2018年
（スクーリング時の教科書）上記教科書を必ず持参ください。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理学の立場からの健康問題へのアプローチの仕方を理解することにより、特に「総合的な人間理解力」「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「自己理解に基づく自己コントロール力」を身に付けてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

1）島井哲志・長田久雄・小玉正博（編）『健康・医療心理学入門』有斐閣アルマ、2020年
2）森和代（監修）、石川利江・松田与理子（編著）『ライフコースの健康心理学』晃洋書房、2017年
3）羽鳥健司（編著）『臨床健康心理学』（保健と健康の心理学　標準テキスト　第4巻）ナカニシア出版、2017年
4）岸太一・藤野秀美（編著）『健康・医療心理学』（保健と健康の心理学　標準テキスト　第6巻）ナカニシア出版、2017年
5）大竹恵子（編著）『保健と健康の心理学』（保健と健康の心理学　標準テキスト　第1巻）ナカニシア出版、2016年
6）斎藤環『人間にとって健康とは何か』PHP新書、2016年
7）島井哲志『「やめられない」心理学―不健康な習慣はなぜ心地よいのか』集英社新書、2008年

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、下記の科目の単位を修得していること。
2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」
2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」

■スクーリングで学んでほしいこと

健康心理学と医療心理学について扱うこの授業では扱う内容がかなり多くなってしまうのですが、スクーリングでは健康心理学領域の「ストレス」の問題を中心に扱っていきます。「ストレスとは何か、ストレスに立ち向かうには何が必要か」を理解して周囲の人の支援に活用できるようにするだけでなく、何より受講生が自分自身のストレスの問題、健康の問題に対してきちんと取り組めるようになってもらいたいと思います。なお、講義テーマと内容には医療心理学の事柄が表立って出ていませんが、講義の中で適宜扱っていく予定です。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	健康心理学とは、医療心理学とは	特に臨床心理学と対比させながら、健康心理学と医療心理学の特徴を明確化する。
2	健康行動を説明するモデル	人を健康行動へと後押しする際に注意すべき要因について理解する。

回数	テーマ	内　容
3	ストレスマネジメント①： ストレスとは何か	ストレス概念について、特にトランスアクショナル・モデルについて理解する。
4	ストレスマネジメント②： リラクゼーション	心身相関という考え方、リラクゼーション法について理解する。
5	ストレスマネジメント③： 認知面への介入	認知面での「歪み」がもたらす問題とその修正の仕方について理解する。
6	健康・医療学の実際①： 産業保健	産業領域における心理的・精神的も問題と、それに対して必要となる心理支援について理解する。
7	健康・医療学の実際②： 災害支援	災害時に必要とされる心理支援について理解する。あわせて他職種が「チーム」を組む必要性について理解する。
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

配付資料と教科書をもとに、板書しながら進めます。具体的な事例を提示する際にはDVDを用います。

■スクーリング　評価基準

特に到達目標記載内容についての理解を問います。スクーリング中に学んだことを活用して答えなければならない問題を出題します（ノート、教科書、配付資料持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

スクーリング講義内容として示した内容は、教科書の単独の章が必ずしも対応するとは限りません。主に１章から３章が中心のように見えても、１章から３章で用いられている概念がその後の章で繰り返し用いられ、様々な場面での問題や必要となる支援を説明しています。教科書の全体に目を通して、どんな概念が繰り返し用いられているのかよく確認しておいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	健康心理学とは （１章）	健康とは、健康心理学とは何か キーワード：WHOによる定義、健康増進、健康日本21、死因の変化、第一次予防、第二次予防、第三次予防、ライフスタイル改善、アドヒアランス	健康とは何かをWHOの定義に基づいて理解した上で、健康心理学の特徴を臨床心理学や行動科学との対比で理解する。健康増進及び予防が重要視されるようになった背景を理解し、予防にも対象者の状態に応じて３種類ありそれぞれに応じたかかわりが必要であることを学ぶ。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
2	健康心理学及び医療心理学におけるアセスメント（2章1、6章1）	アセスメントという点で健康心理学と医療心理学はどう違うか キーワード：面接、行動観察、知能検査、心理検査、テストバッテリー	教科書にて説明される医療心理学のアセスメント法は臨床心理学のアセスメント法とほぼ同じと言ってよい。その医療心理学のアセスメント法と対比させながら健康心理学に特徴的なアセスメント法を理解する。
3	健康心理学におけるアセスメントと支援：健康行動モデル（2章2, 3）	健康行動を説明するモデル キーワード：生物・心理・社会モデル、計画的行動理論、自己効力感、トランスセオレティカルモデル	人が健康行動を進んでしようとする場合、しない場合にはどのような要因が働いているのか、どのような支援をすれば人を健康の方向へと後押しすることができるのか、そのポイントを学ぶ。
4	ストレスマネジメント①：ストレスとは何か（3章1）	ストレス概念を理解する キーワード：ストレッサー、ライフイベント、トランスアクショナル・モデル、一次評価、二次評価、コーピング	ストレスを理解するうえでの基本的な用語を理解した上で、現代の代表的なストレス理論であるトランスアクショナル・モデル（ストレス相互作用モデル）について理解する。
5	ストレスマネジメント②：認知的評価への介入（3章2）	認知に着目したストレスマネジメント法を理解する。 キーワード：認知的評価、論理療法、認知療法、不合理信念、ポジティブ思考	ストレスマネジメントの方法として、特に認知の歪みや偏った思考の修正を目指した方法を理解する。
6	ストレスマネジメント③：ストレッサーとの関係調整、リラクゼーション法（3章3の2）から5)、4章2の1）と2))	ストレッサーとの関係調整を目的とした方法、リラクゼーションを目的とした方法を理解する。 キーワード：アサーション、エクスポージャー、リラクゼーション、漸進的筋弛緩法、自律訓練法	ストレスマネジメントの方法として、心身の弛緩を目的とした方法や社会的関係から受け取るサポートに着目した方法を理解する。
7	ストレスマネジメント④：その他の方法（3章3の6）と7)、4章2の3))	様々なストレスマネジメント法を理解する キーワード：ソーシャルサポート、ACT	ストレスマネジメントの方法として、心身の弛緩を目的とした方法や社会的関係から受け取るサポートに着目した方法を理解する。
8	医療心理学とは（5章、6章2）	医療心理学とは何か、医療における心理職の役割とは何か キーワード：臨床心理学、チーム、個別支援、集団（グループ）支援、診断、DSM、ライフステージ	医療現場の中で働く心理専門職の位置づけについて、臨床心理学の歴史をもとに理解する。そして医療現場の中での心理職の専門性とはどのようなところにあるのか理解する。
9	医療心理学の実際①：精神科、児童精神科（7章）、地域保健活動（13章）	精神疾患及びその心理支援地域での支援 キーワード：精神科医療、ICD-10、DSM-5、主な疾患とその特徴、児童精神科、コンサルテーションリエゾン、地域保健活動、保健センター・デイケア	代表的な精神疾患やアセスメント法は他の科目でも触れる機会も多いかもしれない。ここでは特にコンサルテーションリエゾンの考え方、地域で暮らす精神保健サービスの対象者への支援についてよく学んでほしい。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
10	医療心理学の実際②：心療内科（9章）	心身症とは何か、ストレス概念と関連付けて理解する。 キーワード：心理社会的因子、心身相関、アレキシサイミア、過剰適応、生物・心理・社会モデル（バイオ・サイコ・ソーシャルモデル）	ストレス、特に心理社会的要因が身体的な疾患へとつながることを理解する。その上で心療内科での心理支援について理解する。
11	医療心理学の実際③：緩和医療（11章）、院内独立型心理室（8章）	緩和医療とは何か キーワード：QOL、全人的苦痛、精神心理的苦痛、死の受容、	緩和医療についてその特徴、歴史や課題を理解し、さらにその関連として院内独立型心理室について理解する。
12	医療心理学の実際④：産業保健（12章）	労働者の健康保持・増進を支援するには キーワード：ストレス関連疾患、労働安全衛生法、4つのケア、職業性ストレスモデル、ストレスチェック制度	産業保健について重視されるようになった社会的背景を理解し、その上で「4つのケア」及び職業性ストレスモデルに基づく産業領域ならではの支援について理解する。
13	医療心理学の実際⑤：小児保健、母子保健（11章）	小児医療領域における心理学的問題、周産期に必要な心理支援について理解する キーワード：発達障害、発達の遅れ、認知機能検査、きょうだいへの配慮、遺伝カウンセリング、産後うつ、母子保健事業	「子どもが産まれ、育っていく」過程での親子双方における心理的問題と心理的支援について理解する。
14	医療心理学の実際⑥：災害時支援（14章）	災害時に必要とされる支援とは何か キーワード：ASD、PTSD,サイコロジカルファーストエイド（PFA）	災害時の人の心の動き及びサポートニーズ（の時間経過に伴う変化）を理解し、その上で必要とされる心理的支援について理解する。
15	健康医療心理学の実際⑦：他職種協働と医療連携（15章、8章、13章、4章2の4）	チームで支援するとは、アドヒアランス キーワード：チーム医療、他職種協働	これまでの学びの中で繰り返しでてきた「チーム医療」について、どうして「チーム」が強調されるようになったのか、なぜ多職種が協働することが求められるのかについて理解する。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	ラザルスの提唱したストレスのトランスアクショナル・モデルに関して、以下の①から③について答えよ。 ①「認知的評価」とは何か ②「コーピング（対処）」とは何か ③効果的にストレスに対処するにはどうすればいいか、何に気を付ければいいか ＊特に③では「認知的評価」と「コーピング」という2つの概念も必ず説明に含めること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

まずはストレスのトランスアクショナル・モデルについて理解してください。このモデルは、ストレスに関する研究を行ったり、ストレスという観点からの心理的支援を検討したりする際に、必要となる必須の知識です。まずはモデルをきちんと理解しましょう。その理解を反映するのが①「認知的評価とは何か」、②「コーピング（対処）とは何か」に対する回答となります。なお、認知的評価はさらに「一次（的）評価」「二次（的）評価」と区分されるのでその両方を欠かさず説明に含めるようにしてください。

モデルを理解したら、それを使って「どのようにストレスに対処するのが効果的なのか」について考えてみて下さい。ただし、「ストレスには〇〇すればいい」という唯一無二の方法を考え出すことを求めているのではありません。トランスアクショナル・モデルの考え方にたつと、「〇〇な場合には△△な対処をするのがいい」「ストレスに強くなるには××な部分を□□するのがいい」といった「原理原則」のようなものが見えてくるはずです。どんな方針でストレスの問題に立ち向かうといいのか、「認知的評価」及び「コーピング」という概念も説明に織り込みながら説明してください。

なお、ラザルスの提唱したトランスアクショナル・モデルは書籍や文献によっては「ストレス相互作用論」「ストレス関係論」など様々に異なる名称が用いられている場合があります。皆さんが手にする資料での「表記・訳語の違い」に惑わされずに、説明されている内容が同じものを積極的に探して理解を豊かにするとよいでしょう。もちろん、引用文献・参考文献の用い方のルールもきちんと守ってレポートに活用することをお忘れなく。

最後に、書き方として、①、②、③を小見出しとしてつけて、３つに分けて書くようにしてください。

■レポート　評価基準

内容の評価以前に、レポートの書き方の問題として「引用文献の用い方」について十分注意してください。『学習の手引き』の「レポート学習」に記載している「『引用』と『要約』のルール」の欄をよく読んで、「どこからどこまでが何からの引用なのか」がはっきりと分かるように書いてください。この点がうやむやであったり明らかな間違いがあったりするレポートは再提出としています。なお「教科書に書いてある文章を、一部の言葉を削除して、あとはそのまま書く」のは「自分なりの要約」ではなく「引用」となります。

科目修了試験

■評価基準

１）科目修了試験は教科書全般にわたって出題されます。

２）教科書の内容をしっかり理解できていればかける問題です。教科書の中で、重要な意味をもつ言葉

（キーワード）が正確に説明できているかが大きな採点のポイントになります。キーワードをよく確認しておきましょう。

3）学んだ概念・キーワードについて、自分及び周りにいる人々の姿・行動から事例として適切なものを選択して解答におりこむことができると評価が高まります。

カウンセリングⅠ

科目コード	FG2682

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	1年以上	渡部　純夫・末冨　美貴

※「カウンセリングⅠ・Ⅱ」の履修の順序の指定はありません。Ⅰ・Ⅱのいずれを先に受けていただいても結構です。

■スクーリングで学んでほしいこと

速いスピードで変化する私たちの周りの環境や想像を超える出来事に適応していかなければならず、ますます、カウンセリングの必要性は重要視されています。

様々な援助活動を行う上で、必要なカウンセリングの専門的な理論と方法についての基礎を学んでいただきます。

カウンセリングの意味や特徴、自己理解の仕方を学び、援助者としての基礎を理論的理解から自分自身を振り返ることができることを目指します。

■到達目標

1）カウンセリングの定義や特質を理解し、カウンセリングのベースになるものを説明できる。

2）カウンセリングの効果を理解し、援助する際の留意事項を説明できる。

3）来談者中心療法の理論を理解し、人間観を身につける。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	カウンセリングの基本①	カウンセリングの歴史
2	カウンセリングの基本②	傾聴の意義と技法
3	カウンセリングの基本③	カウンセリングの意義
4	カウンセリングの基本④	カウンセリングのプロセス
5	カウンセリングの基本⑤	カウンセリングの効果
6	来談者中心療法と人間性心理学①	来談者中心療法の理論
7	来談者中心療法と人間性心理学②	来談者中心療法の方法
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。途中、グループワークを行い理解を深めてい

ただきます。

■スクーリング　評価基準

授業への参加態度　20%　＋　スクーリング試験　80%（配付物・自筆ノート持込可）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教育、福祉、産業、司法など様々な現場において行われるカウンセリングでは、なぜ「傾聴」が重要なのか？　自分なりに調べてまとめてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

講義のポイントである「傾聴」の意義と技法を理解してください。

自己理解を深めていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、を身につけてほしい。

■参考図書

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年

小俣和義編著『こころのケアの基本』北樹出版、2013年

カウンセリングⅡ

科目コード	FG2683

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	1年以上	中村　恵子

■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの目的は、問題解決にあります。カウンセラーは、質問とあいづちによって面接の流れをコントロールし、問題解決をマネジメントします。本講義では、基本的なあいづち技法と問題の本質にフォーカスする問題焦点化技法を学び、面接援助の土台づくりを目指します。

■到達目標

1）基本的あいづち技法を会話に活用できる。
2）問題に対する焦点の当て方を説明できる。
3）カウンセリングの意義と役割を説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	カウンセリングの基本的技法	あいづち技法と接近技法
2	精神分析の誕生	フロイトと精神分析
3	行動主義心理学の誕生	パブロフから発展しした行動療法
4	認知行動療法の誕生	認知療法の誕生と行動療法との出会い
5	人間主義心理学の誕生	来談者中心療法・ゲシュタルト・セラピー
6	認知行動療法の実際①	問題行動の背景にある認知の歪み
7	認知行動療法の実際②	自動思考の解除と誤学習の修正
8	認知行動療法の実際③	不安の拮抗制止と環境調整
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

講義と演習を中心にグループで学習を進めます。

■スクーリング　評価基準

授業への参加態度30%　＋　スクーリング試験70%（持込可、論述式）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で提示される参考図書を学習してください。

■卒業までに身につけてほしい力との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

カウンセリング演習Ⅰ

科目コード	FG3695

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S(演習)	2年以上	末冨　美貴ほか

※2017年４月より社会福祉学科学生も卒業要件単位に算入できる科目になりました。
※上記にともない、科目コードを「FG3695」に変更しました。ただし、福祉心理学科で2016年度までの単位修得者は昨年度までの科目コード「FG3685」のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

自分自身が人を援助する際に自分はどのような人間で、どのように人と接しているのか、自分の価値観や考え方に偏りはないかなどを、自分自身と他者のフィードバックにより気付いていく体験学習を行います。また、カウンセリングの基本とされる「傾聴」の姿勢と技術を実践的演習とグループワークにより体感し、表現できることができるよう練習を課します。

■到達目標

1）カウンセラーの基本的態度について体験的に理解を深め、相手に伝わる態度を修得する。
2）傾聴基本的技法を体得し、適切に活用できる。
3）自分の態度、聴き方の特徴についてロールプレイ、グループワーク等でフィードバックしながら、気づき、またそれを認めていくことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	体験過程学習①	自己理解ワーク
2	体験過程学習②	グループワーク
3	体験過程学習③	傾聴基本的技法の演習
4	体験過程学習④	グループワーク
5	体験過程学習⑤	基本的態度と技法の応用演習
6	体験過程学習⑥	グループワーク
7	カウンセリングプロセスの理解	ＤＶＤ視聴等
8	質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

ロールプレイを行いながら、グループでの体験過程学習を行います。またグループメンバーでフィード

バックを行いカウンセリングの基本的な学習を行います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加態度　20%　＋　スクーリング試験　80%（配布物・自筆ノート持込可）

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

傾聴の基本的態度について、自分なりにまとめてきてください。

「カウンセリングⅠ」スクーリングを受講していることが望ましい。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

傾聴の基本的態度を理解し技法に頼らず他者とのコミュニケーションで活かしていってください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版）』八千代出版、2019年

カウンセリング演習Ⅱ

科目コード	FG3696

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（演習）	2年以上	菊住　　彰

※2017年４月より社会福祉学科学生も卒業要件単位に算入できる科目になりました。
※上記にともない、科目コードを「FG3696」に変更しました。ただし、福祉心理学科で2016年度までの単位修得者は昨年度までの科目コード「FG3686」のままです。

■スクーリングで学んでほしいこと

カウンセリングの実践や応用について、体験的に理解していくことを目的とした授業です。１対１での傾聴の姿勢を身につけるだけでなく、逐語記録を使った対話分析などを行い、より適切な応答を細かく検討していきます。伝統的な個人面接に加え、臨床現場で行われているサポートネットワーキング、コンサルテーション、危機介入、システムズアプローチなどの援助方法も学習します。ただし、こうした理論の習得だけではなく、グループワークによって非言語のコミュニケーションスキルを磨くトレーニングをしたり、ロールプレイを批評しあったりといった、かなり実践力に比重を置いた授業になると考えてご参加ください。

■到達目標

1）カウンセリングの基本的な技法を使って、クライエントの感情を表す言葉を引き出せる。
2）非言語のコミュニケーションスキルを駆使して、クライエントとの信頼関係を築ける。
3）自分の感情や価値観に縛られずに、クライエントの言葉を受けとめながら聴ける。
4）クライエント個人だけではなく、その人の暮らす環境にも視野を広げ、サポートの資源を探し出せる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	カウンセリングの姿勢①	クライエントに向き合う心構えの再考
2	カウンセリングの姿勢②	クライエントに向き合う態度の再考
3	カウンセリング技術の応用	さらに心を開いてもらうために
4	事例場面から学ぶ	映像教材と逐語録から検討
5	ロールプレイ①	基本的なやりとりを駆使する演習
6	ロールプレイ②	実際的な場面設定での演習
7	カウンセリングの視点	何を目標に取り組むか
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

座学だけではなく、実際の面接の場面を映像で見ながら検討したり、参加者どうしでロールプレイを行ったりして、実践的な内容となります。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（論述式。持込すべて可）

試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

■スクーリング時の教科書

福島脩美著『カウンセリング演習』金子書房, 1997年

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

教科書は読んできてください。授業ではそれを前提に、実際のクライエントとかかわる場面を想定した練習に比重をおきます。

本講義は原則的に「カウンセリングⅠ」または「カウンセリングⅡ」のスクーリングを受講されるなど、カウンセリングの基礎知識をお持ちの方を対象としています。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で学んだことを、実際の生活に少しずつでも取り入れる努力を続けてください。繰り返し行って、意識せずに実行できるくらいになれば、本来の免許皆伝です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

知覚・認知心理学 2018〜

科目コード	FH3560

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	柴田　理瑛

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、 p. 280「認知心理学」（科目コード：FH3510・FH3530、 4 単位、履修方法：RorSR）を参照してください。
※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度は開講しません（次回開講予定は2022年度）。
※オンデマンド・スクーリングは2021・2022年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

この科目では、生体が外界にある対象を知覚し、その対象が何かを判断したり解釈したりする過程や仕組みについて学びます。各テーマの代表的な研究だけでなく、応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して認知心理学についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■到達目標

1）人の感覚・知覚等の機序及び障害について理解し、説明できる。
2）人の認知・思考等の機序及び障害ついて理解し、説明できる。
3）認知の基本的な仕組みについて理解する。
4）代表的な実験結果について図表をもとに読み解くことができる。

■教科書

箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋著 『認知心理学（New Liberal Arts Selection)』 有斐閣、2010年

（最近の教科書変更時期）2018年 4 月

（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

・スーザン・ノーレン・ホークセマ、バーバラ・フレデリックソン、ジェフ・ロフタス、クリステル・ルッツ編、内田一成監訳 『ヒルガードの心理学（第16版）』 金剛出版、2015年
・道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学著 『認知心理学―知のアーキテクチャを探る 新版』 有斐閣、2011年
・乾敏郎・吉川左紀子・川口潤編 『よくわかる認知科学（やわらかアカデミズム・わかるシリーズ）』ミネルヴァ書房、2010年

スクーリング

■講義内容

回数	テーマ	内 容
1	視知覚と認知	視覚系の基本構造に触れながら、視覚の基本属性とその知覚と認知について学ぶ。
2	恒常性と順応	環境の変化によらずに知覚を一定に保つための働きについて学ぶ。
3	パターン認知	図の識別に関する仕組みと働きを学ぶ。
4	注意	情報の選択に関する仕組みと働きを学ぶ。
5	視覚的注意	視覚的探索に関する注意の仕組みと働きを学ぶ。
6	感情と認知	感情と認知に関する代表的な理論を学ぶ。
7	社会的認知	社会的認知に関する代表的な理論を学ぶ。
8	まとめと質疑応答	これまでの内容の総括と質疑応答を行う。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング 評価基準

スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述できるかについて問う予定です（教科書・配付資料・自筆資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

教科書の 1 ・ 2 ・ 4 ・12・13・16章は読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20〜25時間）

教科書の１・２・４・12・13・16章を復習してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	１章：認知心理学の歴史とテーマ	認知心理学の歴史とテーマについて概観する。	認知心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	２章：視覚認知	視知覚とその認知について学ぶ。	視覚系の基本的な構造や仕組みを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
3	４章：注意	情報を選択する働き（注意）について学ぶ。	注意の基本的な働きや、神経基盤について理解し、特色を説明できるようにしましょう。
4	５章：ワーキングメモリ	情報の格納と操作に関するワーキングメモリについて学ぶ。	記憶の構造や代表的な記憶モデルを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
5	６章：長期記憶	長期記憶について学ぶ。	長期記憶の構造や仕組みを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
6	７章：日常認知	日常認知について学ぶ。	日常認知について、自伝的記憶などの主なトピックを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
7	８章：カテゴリー化	カテゴリー化について学ぶ。	カテゴリー化の働きと代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
8	９章：知識の表象と構造	知識の心の中の表現（表象）とその構造について学ぶ。	知識の表象と構造について代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
9	11章：問題解決と推論	問題解決と推論について学ぶ。	知性と思考の多様性について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
10	12章：判断と意思決定	判断と意思決定について学ぶ。	選択や判断の歪みについて、代表的な理論を理解し特色を説明できるようにしましょう。
11	13章：認知と感情	認知と感情について学ぶ。	喜怒哀楽はどのように認知されるのかについて、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
12	14章：認知進化と脳	認知進化と脳について学ぶ。	ヒトの認知はどのように形成されてきたかについて、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
13	15章：認知発達	認知発達について学ぶ。	子どもが感じる世界や知る世界について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
14	16章：社会的認知	社会的認知について学ぶ。	他者の理解や認知について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
15	18章：メディア情報と社会認識	メディア情報と社会認識について学ぶ。	メディア効果論の展開について、代表的な理論を理解し、特色を説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	注意とカクテルパーティ効果について説明し、代表的な実験結果に触れながら初期選択説と後期選択説の違いを説明すること。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

この教科書には図表がたくさん使用されています。心理学では、図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められますので、図表にもきちんと目を通してください。

論述式レポート課題では一つの文章を長くしすぎないように注意してください。長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

2 単位めのレポートでは、特に教科書の 4 章がレポート課題に関係します。また、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、 2 単位めのレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

まずは、第 4 章 1 節を読み、認知心理学で言う注意についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う注意とは〜のことである」が良いでしょう。さらに、「今回のレポートでは注意のいくつかの機能のうち、情報の選択に関する機能について考察する」という文

言を入れてください。次に、段落を変えて、第 4 章 2 節のカクテルパーティ効果の説明を始めてください。書き出しは「カクテルパーティ効果とは〜のことである」という表現が良いと思います。カクテルパーティ効果の日常における具体例が挿入してあると尚良いです。次に、段落を変えて、チェリーの実験やブロードベントの実験についてまとめましょう。次に、段落を変えて、モレイの実験についてまとめましょう。最後に、段落を変えて、初期選択説と後期選択説についてまとめ、違いを考察しましょう。

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

認知心理学 〜2017

科目コード	FH3510・FH3530

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR（講義）	2年以上	柴田　理瑛

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学したは、ｐ.275「知覚・認知心理学」（科目コード：FH3560、２単位、履修方法：RorSR）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、下記記載の「■レポート課題」「■アドバイス」以外の項目は、ｐ.275「知覚・認知心理学」（科目コード：FH3560）を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度は開講しません（次回開講予定は2022年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2021・2022年度開講予定です。

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。

※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位１単位（８コマ）に変更されました。

※科目コード　FH3510　2017年までのスクーリング受講者（スクーリング単位２単位）
　　FH3530　上記以外の方（スクーリング単位１単位）

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
3 単位め	注意とカクテルパーティ効果について説明し、代表的な実験結果に触れながら初期選択説と後期選択説の違いを説明すること。
4 単位め	期待効用理論とその限界について述べ、プロスペクト理論とフレーミング効果について具体例を挙げながら考察しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

教科書では、図表がたくさん使用されています。文章だけではなく、図表を通した研究内容や実験結果の理解にも努めましょう。論述式レポートをまとめる際、一文が長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

３・４単位目のレポートでは、特に教科書の４章、12章がレポート課題に関係します。また、いくつか

の専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、２単位目のレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1・2単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

3単位めアドバイス

まずは、第４章１節を読み、認知心理学で言う注意についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う注意とは～のことである」が良いでしょう。さらに、「今回のレポートでは注意のいくつかの機能のうち、情報の選択に関する機能について考察する」という文言を入れてください。次に、段落を変えて、第４章２節のカクテルパーティ効果の説明を始めてください。書き出しは「カクテルパーティ効果とは～のことである」という表現が良いと思います。カクテルパーティ効果の日常における具体例が挿入してあると尚良いです。次に、段落を変えて、チェリーの実験やブロードベントの実験についてまとめましょう。次に、段落を変えて、モレイの実験についてまとめましょう。最後に、段落を変えて、初期選択説と後期選択説についてまとめ、違いを考察しましょう。

4単位めアドバイス

まずは、第12章１節を読み、認知心理学で言う意思決定についてまとめてください。書き出しは、「認知心理学で言う意思決定とは～のことである」が良いでしょう。その後、いくつかの意思決定研究のアプローチについてまとめます。次に、段落を変え、期待効用理論の説明と限界を述べます。期待効用理論の限界については、第12章１節の期待効用理論の侵犯の部分をまとめてください。次に、段落を変えて、第４章２節のプロスペクト理論の説明を始めてください。書き出しは「プロスペクト理論とは～のことである」という表現が良いと思います。次に、段落を変えて、フレーミング効果についてまとめましょう。プロスペクト理論とフレーミング効果の段落では、それぞれに関連する日常の具体例が挿入してあると良いです。最後に、段落を変えて、本レポートを通して分かったことをまとめましょう。

学習・言語心理学 2018〜

科目コード	FH3561

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	2年以上	柴田　理瑛

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、p. 287「学習心理学」（科目コード：FH3512）を履修登録してください。科目の内容は、本科目を参照してください。
※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度の開講後は2023年度開講予定です。
※オンデマンド・スクーリングは2021・2022年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

心理学において、「学習」は、「経験による行動の変化、あるいは行動の可能性の変化」と定義されています。学習心理学は、このような経験による行動の変容を対象とする研究領域です。学習心理学の研究には、主として動物を対象として行われた条件付けの研究と、人間の記憶に関する研究、人間の言語に関する研究の３つの流れがありました。この３つの流れを学ぶことを通じて、私たちの行動がどのような要因の影響を受けるのかを包括的に理解すること、そして学習心理学の応用的成果に関しても理解を深めることが本科目の主な目的です。

■到達目標

１）人の行動が変化する過程について理解し、説明できる。
２）言語の習得における機序について理解し、説明できる。
３）学習心理学の代表的な研究について内容を説明できる。

■教科書

山内光哉・春木豊著『グラフィック学習心理学―行動と認知』サイエンス社、2001年
（最近の教科書変更時期）2018年４月
（スクーリング時の教科書）スクーリングにあたって、上記教科書は使用しません。資料を配付します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価or科目修了試験50%

■参考図書

篠原彰一著『学習心理学への招待―学習・記憶のしくみを探る（新心理学ライブラリ）』サイエンス社、2008年

森敏昭・岡直樹・中條和光著『学習心理学（心理学の世界　基礎編２）』培風館、2011年

スーザン・ノーレン・ホークセマ、バーバラ・フレデリックソン、ジェフ・ロフタス、クリステル・ルッツ、内田一成（翻訳）　『ヒルガードの心理学（第16版）』金剛出版、2015年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

この講義では、生体が自己の経験を通して行動を変容させていく過程や仕組みについて学びます。初めに、生体が特定の環境に曝されることによって誘発される学習と、生体が環境に働きかけることで誘発される学習について学び、次に記憶の構造や様々な技能の獲得について学んでいきます。各テーマの代表的な研究だけでなく応用的な研究についても解説していきますので、本講義を通して学習についての総合的な理解を深めて欲しいと考えています。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	古典的条件づけ	条件刺激、条件反射、パブロフの犬について
2	オペラント条件付け	スキナー箱、強化、強化スケジュールについて
3	条件づけの制約	刷り込み、生物学的制約について
4	技能学習	運動、認知、知覚技能の習熟について
5	記憶	多重貯蔵庫モデル、ワーキングメモリについて
6	記憶の変化	１セントコイン実験や事後情報効果について
7	言語の習得	外言と内言の習得機序について
8	まとめ	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリングで学んだ内容を踏まえたうえで、試験テーマに沿って自分自身の見解をどれだけ論述でき

るかについて問う予定です（教科書・配付資料・自筆資料のみ持込可）。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書の１・２・３・６・７・８章は読んできてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

教科書の１・２・３・６・７・８章は読み直してください。また、レポート学習に取り組んでください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	序章： 行動と認知の学習	学習心理学の歴史とテーマについて概観する。	学習心理学と他領域の研究視点の違いを理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	１章： 古典的条件付けの基礎①	古典的条件付けについて学ぶ。	古典的条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
3	１章： 古典的条件付けの基礎②	古典的条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	古典的条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
4	２章： オペラント条件付けの基礎①	オペラント条件付けについて学ぶ。	オペラント条件付けが起こる過程を理解し、説明できるようにしましょう。
5	２章： オペラント条件付けの基礎②	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去について学ぶ。	オペラント条件付けによる行動の獲得と消去の特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
6	３章： 技能学習①	技能学習の基礎について学ぶ。	技能学習における学習曲線や結果の知識について理解し、説明できるようにしましょう。
7	３章： 技能学習②	技能学習における転移について学ぶ。	技能学習における転移について理解し、説明できるようにしましょう。
8	４章： 社会的学習①	社会的学習における模倣学習について学ぶ。	社会的学習における模倣学習について理解し、説明できるようにしましょう。
9	４章： 社会的学習②	社会的学習における観察学習について学ぶ。	社会的学習における観察学習について理解し、説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	5章：問題解決と推理①	問題解決と推理について学ぶ。	問題解決における特徴や推理の発達的変化を理解し、説明できるようにしましょう。
11	5章：問題解決と推理②	創造性と熟達者の境地について学ぶ。	創造性と熟達者の境地に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
12	6章：概念過程と言語獲得①	概念の形成と言語の獲得について学ぶ。	概念の構造や言語の獲得に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
13	6章：概念過程と言語獲得②	言語と思考、言葉と脳について学ぶ。	言語と思考の関連について、ピアジェやヴィゴツキーらの理論を理解し、説明できるようにしましょう。
14	7章：記憶と忘却	記憶と忘却について学ぶ。	記憶と忘却に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。
15	8章：有意味材料の記憶と表象	有意味材料の記憶と記憶の表象について学ぶ。	有意味材料の記憶と記憶の表象に関する特徴を理解し、説明できるようにしましょう。

■レポート課題

1単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2単位め	持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法を具体的に述べなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

特に教科書の7章がレポート課題に関係します。この教科書には図表がたくさん使用されています。心理学では、図表を通して研究内容や実験結果を理解することが求められますので、図表にもきちんと目を通してください。レポート課題では一つの文章を長くしすぎないように注意してください。長いと思ったら、一度句点（。）で文章を切って下さい。それから、むやみに改行しないでください。改行のポイントは後述のとおりです。本文における全角文字は明朝体、半角の英数字はCenturyでお願いします。これらの基本的事項が守られていない場合には、内容が優れていたとしても再提出にします。

2単位めのレポートでは、いくつかの専門用語について説明が求められています。たくさんの情報をある一定量にまとめて分かりやすく表現することは、心理学を学ぶ上で非常に重要なスキルです。そのため、2単位めのレポートを評価するときは、指定字数（1000字以上2000字以内）で、課題にそった記述が、簡潔かつ適切になされているかについて評価します。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

まずは、第７章１節を読み、学習心理学における記憶について、記憶の３つの過程に触れながらまとめてください。書き出しは、「学習心理学で言う記憶とは〜のことである」が良いでしょう。次に第７章４節の記憶の二過程説（多重貯蔵庫モデル）の説明を始めてください。書き出しは「記憶の二過程説とは〜のことである」という表現が良いと思います。さらに、「今回のレポートでは持ち込み不可の試験に合格したいときに、効果的に記憶力を高める方法と忘却を防ぐ方法について考察する」という文言を入れてください。

次に、段落を変えて、記憶の３つの過程や二過程説に関連づけながら記憶力を高める方法について論述してください。次に、段落を変えて、第７章９節を参考に、忘却の仕組みについてまとめ、忘却を防ぐ方法について論述しましょう。最後に、段落を変えて、本レポートにおけるあなた自身の結論を述べて終了となります。

科目修了試験

■評価基準

試験のテーマに沿って、教科書で学んだ内容から関連のあるキーワードを自分なりに選択し、論述できているかという観点から評価します。

学習心理学 ～2017

科目コード	FH3512

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR(講義)	2年以上	柴田　理瑛

※2017年度以前に入学した方が対象の科目です。2018年度以降に入学した方は履修登録できません。

※2018年度以降に入学した方は、p. 282「学習・言語心理学」（科目コード：FH3561）を参照してください。

※本科目を履修登録する方も、科目の内容はp. 282「学習・言語心理学」（科目コード：FH3561）を参照してください。

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度の開講後は2023年度開講予定です。

※オンデマンド・スクーリングは2021・2022年度開講予定です。

神経・生理心理学

科目コード	FJ3562

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	R or SR（講義）	2年以上	河地　庸介

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

人間は、外界の事物、自分や他者の状態など多種多様な情報を受け取り、行動を選択し、外界に働きかけながら生活しています。この生活を支えているのは感覚・知覚・注意・記憶・感情・言語・運動といった「こころ」の様々な機能、さらにはそれらの機能を実現させている脳・身体です。本科目では、種々の心的機能を関連する脳内メカニズムの観点から理解することを主として進めていきます。

具体的な内容としては、１）種々の心的機能を支える脳構造・機能と結びつけて説明することができること、２）心と脳の関係性がいかなる研究法・臨床例等によって明らかにされてきたかを説明することができること、３）心と脳の関係について現在までの研究で言えることと、言えないことの区別ができること、に焦点をあててお話しします。

【スクーリングで学ぶ内容】脳の３次元画像を含む多くの画像資料をみながら、心と脳の関係について学びます。

【教科書・レポート学習で学ぶ内容】心を実現する脳構造・機能についての基礎的な知識について学習します。

■到達目標

１）脳神経系の構造および機能を説明できる。

２）知覚・記憶・感情等の働きに対応する生理学的反応とその仕組みを説明できる。

３）高次脳機能障害の諸症状とその仕組みを説明できる。

４）種々の情報メディアで取りあげられる心理学や脳科学を理解・評価できる。

■教科書

（配本する教科書）

岡田隆・廣中直行・宮森孝史著『生理心理学　第２版』サイエンス社、2015年

（スクーリング時の教科書）上記教科書は参考程度に使用します。

（インターネット上の事典）

脳科学辞典編集委員会編『脳科学辞典』日本神経科学学会、2019年

（https://bsd. neuroinf. jp/wiki/%E８%84%B３%E７%A７%91%E５%AD%A６%E８%BE%９E%E

5 %85%B 8 :%E 7 %B 4 %A 2 %E 5 %BC%95）

＊教科書および参考図書のみでは内容的に不十分なことがありますので、随時Web検索をして理解を深めてください。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60％＋スクーリング評価or科目修了試験40％

■参考図書

1）坂田省吾・山田冨美雄編『生理心理学と精神生理学　第Ⅰ巻　基礎』北大路書房、2017年

2）藤永保監修『最新　心理学事典』平凡社、2013年

■事前に学習してほしい科目

本講義では脳の構造・機能に関連する話が大半を占めるため、知覚認知心理学や心理学概論で扱うテーマを詳細に振り返ることはしません。したがって、下記の科目は事前に受講するようにしてください。

2018年度以降入学者：「知覚･認知心理学」「心理学概論A・B」

2017年度以前入学者：「認知心理学」「心理学概論」

スクーリング

■スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、下記の科目の単位を修得していること。

2018年度以降入学者：「心理学概論A」「心理学概論B」「福祉心理学」「発達心理学」

2017年度以前入学者：「心理学概論」「福祉心理学」「生涯発達心理学」

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	神経・生理心理学とは何か	様々な心理学の中で神経・生理心理学とは何をする学問なのかについて、歴史を概観しながら学びます。

回数	テーマ	内　容
2	脳の機能・構造について	その活動が神経・生理心理学の測定対象の１つとなる脳機能・構造について学びます。
3	ニューロン・シナプス・神経伝達物質について	脳をはじめとした神経系における情報伝達の仕組みについて学びます。
4	神経・生理心理学および脳科学における測定法	神経・生理心理学および脳科学で用いる測定法について学びます。
5	覚醒・睡眠	覚醒・睡眠に伴う生理的な反応や関連する脳情報処理について学びます。
6	感覚・知覚機能とその障害	視覚を中心とした感覚・知覚の脳情報処理について学びます。
7	記憶機能とその障害	記憶に関わる脳情報処理および機能障害について学びます。
8	情動機能とその障害	情動に関わる脳情報処理および機能障害について学びます。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を用いて講義を行います。教科書は参考程度に使用します。可能な限り、各回の冒頭にて学生の疑問に関する説明・解説を行います。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。なお、講義資料は持込み可とします。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

高校生物における「神経系」関連項目についての復習をお勧めします。また、脳の構造について概観しておくと受講をより円滑に進められるものと思います。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

本科目は他の心理学科目に比べると、生理学・解剖学・生物学に関わる聞きなれない専門用語が多く出てきます。学んだ内容および専門用語について、何も見ずに説明できるようになるまで、念入りに復習してください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	神経心理学と生理心理学（教科書　0章、参考図書1）1章1節）	神経心理学と生理心理学の歴史・脳機能局在論について学びます。	神経心理学の歴史を学ぶ中で、脳機能局在の考え方を説明できるようにしましょう。
2	脳の構造と機能1（教科書　1章、参考図書1）2章2節）	大脳皮質や大脳辺縁系の構造・機能について学びます。	脳内の種々の部位の立体的な位置関係をつかみながら、各脳部位に主として対応するとされている脳機能について学習を進めてください。
3	脳の構造と機能2（教科書　1章、参考図書1）2章2節）	大脳基底核や脳幹の構造・機能について学びます。	複雑な脳部位各々の立体的な位置関係をつかみながら、各脳部位に主として対応するとされている脳機能について学習を進めてください。
4	脳と末梢神経系（参考図書1）2章2節）	体性神経系（運動・感覚神経）・自律神経系（交感神経・副交感神経）について学びます	交感神経系、または副交感神経系の活動が優位になるときの各器官の変化、これら2つの神経系と大脳基底核や脳幹の関係に着目して学習を進めてください。
5	脳と心の測定法（教科書　11章　p240-245、参考図書1）9章、10章）	脳波、ERP、fMRIなどに加えて、心電図・心拍・発汗・眼球運動について学びます。	生体のどの器官のどのような反応を測定しているかを説明できるようにしましょう。
6	脳内の情報伝達（教科書　2章）	ニューロン、シナプス、神経伝達物質について学びます。	脳情報処理系を広く理解する基礎となる神経細胞内での情報の伝導・神経細胞間の情報の伝達を説明できるようにしましょう。
7	覚醒・睡眠（教科書　10章）	脳波による睡眠段階、概日リズム、脳幹網様体賦活系等について学びます。	覚醒・睡眠にかかわる脳波の変化等の生理心理学的な知見を学び、さらに覚醒・睡眠を制御する脳幹網様体賦活系や視床下部等の脳内メカニズムについて学習を進めてください。
8	視覚1（教科書　3章　p48-51）	錐体細胞・桿体細胞・受容野・側抑制について学びます。	眼球に差し込む光はいかにして受容され、電気信号に変換されるのかを説明できるようにしましょう。
9	視覚2（教科書　3章　p52-57）	眼球から脳に至る情報処理経路・初期視覚野・ハイパーカラム・背側経路・腹側経路について学びます。	眼球に差し込む光がいかにして電気信号に変換され、脳へと届けられ、知覚が生まれるのかを説明できるようにしましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	聴覚 （教科書　3章　p58-59）	鼓膜、耳小骨、蝸牛、聴覚野、ピッチについて学びます。	空気などの振動による鼓膜の振動が電気信号に変換され、脳へと届けられ、音の知覚が生まれる過程を説明できるようにしましょう。
11	記憶 （教科書　4章）	記憶の種類、健忘症、海馬、長期増強について学びます。	記憶の種類と健忘症の関係、海馬を中心とした記憶の脳情報処理などに焦点をあてて理解を進めましょう。
12	言語 （教科書　9章　p186-189、参考図書２）p151-153）	言語産出・言語理解・ブローカ野・ウェルニッケ野について学びます。	言語処理に関わる脳機能ネットワークの概略をつかむこと目標に学習を進めます。
13	情動 （教科書　6章　p112-117）	情動とは何か、生理的反応、扁桃体、眼窩前頭前野、情動障害について学びます。	情動機能を実現する脳部位の観点から意思決定の障害等について理解を深めていきます。
14	運動 （参考図書２）p38-39）	運動野、小脳、内部モデルについて学びます。	いかにして滑らかな運動が生み出されているかを心理学的に記述する内部モデルと関連する脳部位の概略をつかむことを目標に学習を進めます。
15	心の病気 （教科書　8章、12章）	精神疾患や発達障害と関連があるとされる脳部位について学ぶとともに、現在の研究の限界について学びます。	種々の精神疾患や発達障害が脳機能障害とみなされるようになった経緯を学びながら、現在の研究でわかっていることと、そうでないことを明確にすることを目標に学習を進めます。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	次の①、②について記述してください。 ①Broca, P. P. やWernicke, C. の研究に触れながら、脳機能局在論について説明しなさい。 ②海馬を損傷した場合に日々の生活がどのようなものになるかを想像して答えなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

現在のところ一般的といえるような神経・生理心理学の教科書がないため、当該科目の全体像をつかむのがやや難しい状況です。ですので、在宅学習15のポイントの「学びのポイント」において、各テーマを学習する際に意識すべき話の流れを記述しておきました。この話の流れを見失わないように注意しながら、指定した教科書・参考書で関連する箇所を見つけて学習を進めてください。また、適宜インターネット上の資料ではありますが、日本神経科学学会の監督下にあり、内容的に信頼できる『脳科学辞典』等で関連用語を調べるのも有効です。

また、本科目は新しい専門用語が多数あり、生理学、解剖学等をはじめとした関連学問領域も多いので、随時十分に復習をしながら学習を進めていって頂ければと思います。

1単位めアドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位めアドバイス

①については神経心理学が確立されるに至った経緯を概観することで説明することができます。ですが、教科書や参考図書だけではうまく経緯を追えない場合等は、インターネット上の教科書である『脳科学辞典』で「機能局在」等をキーワードに検索をかけて理解を深めるとよいでしょう。

②については、まず海馬という脳部位が主にどういった心的機能を担う部位であるのかを述べることが大切です。その上で生じうる健忘症について考えを進めて記述していくとよいでしょう。その際、インターネット上の教科書である『脳科学辞典』で「健忘症候群」「前向性健忘」「逆向性健忘」を参考にするとより深く書き込めるでしょう。

■レポート　評価基準

評価基準は以下の通りです。①設問を振り返りながら、設問で扱う専門用語・関連用語の定義が明確になされているか。②正確に習得した知識に基づいて、「なぜそう言えるのか」を第三者が理解できるような形で、すなわち論理的に述べることができているか（問題への解答）。

科目修了試験

■評価基準

評価の基準は、講義内容を正確に理解できているか否かです。そのため、科目修了試験の対策として講義資料をしっかりと読み、疑問点等を極力残さないようにすることに尽きます。

福祉心理学演習

科目コード	FP5571

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR（演習）	4年以上	中村　恵子

※担当教員によって演習の内容がまったく異なります。『With』の案内に従い、希望教員のスクーリング予備登録・受講申込みをしてください。

※2020年度以降は、中村先生と山口先生の演習を、１年に１クラスのみ、交互に開講する予定です。2021年度は山口先生の演習です。

※いずれか１名の教員の演習しか受講できません。

※社会福祉学科の方は履修登録・受講できません。

※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

担当教員	内　容	ページ
中村恵子先生	職場の問題解決演習・グループスーパービジョン	p. 294〜298
山口奈緒美先生	文献講読（社会心理学領域）	p. 299〜303

科目の概要

■科目の内容

目標達成的な相談支援を提供するためには、支援者のケース・フォーミュレーションの作成力が問われます。ケース・フォーミュレーションとは問題解決の公式化のことで、①支援目標、②アセスメント（問題分析：問題の悪循環についての要因および構造の明確化）、③支援方針から成り立ちます。支援者が描くケース・フォーミュレーションが明瞭で的確であるほど問題解決は効率的に図られ、逆にその内容が曖昧で的外れであるほど問題解決が遠のきます。

そこで、本演習では事例を用いてグループスーパービジョンを行い、スーパーバイザーとともに事例を読み解き、ケース・フォーミュレーションを作成します。

そのため、受講生に事例の提供を募集します。事例提供者は、スーパーバイザーとともに支援プロセスにおける課題を整理し、自分の事例についてのケース・フォーミュレーションを作成することができます。

なお、本演習の特徴はリアルな事例検討にあります。事例はプライバシーを守るため、加工して抽象化させますが、受講生には授業内守秘の厳守を前提にした参加が求められます。

■到達目標

１）事例を読み解き、何が問題を悪循環させているのか説明することができる。

2）問題解決のための支援目標を設定することができる。
3）問題解決のためのアクションプランを策定できる。
4）策定されたアクションプランに対するリスクを説明できる。

■教科書

特に使用しません。

■履修登録条件

この科目は、受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です（中村恵子先生の演習を受講する場合は「人間関係論」の履修登録は不要）。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価80％＋スクーリング評価20％（事例提供者には評価を加点します）

■参考図書

下山晴彦編『認知行動療法を学ぶ』金剛出版、2011年
坂野雄二『60のケースから学ぶ認知行動療法』北大路書房、2012年

スクーリング

■スクーリング受講条件

1）受講希望者は2022年 6 月30日までに履修登録をし、「福祉心理学演習」予備登録をメールで行ってください（10月生の方は予備登録の段階では 3 年次でも大丈夫で履修登録も不要です）。
予備登録は下記のことを記載してメール　uc@tfu-mail. tfu. ac. jp へ送信してください。
①「福祉心理学演習」2022年度受講希望　②学籍番号　③氏名
2）「TFUオンデマンド」https://web. netrecorder. jp/tfu/　が利用できる環境にあること。
3）スクーリング申込締切日までに、90単位以上の単位修得をしていること。
4）スクーリング申込締切日までに、 1 単位めレポートを提出していること
5）スクーリング申込締切日までに、下記の学習をしていること。

科目名	履修方法	単位修得	レポート提出	スクーリング受講
心理学概論A・B	RorSR	○		

科目名	履修方法	単位修得	レポート提出	スクーリング受講
福祉心理学	RorSR	○		
社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）	RorSR	○		
教育・学校心理学B（学校心理学）または カウンセリングⅡまたは 特講・福祉心理学17（認知行動療法）	RorSR S	○		
心理学実験ⅠA・ⅠB	SR	○		
心理学実験ⅡA・ⅡB	SR			○
心理学研究法A	RorSR		○	

※2017年度入学者は「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」「人間関係論」「教育・学校心理学B（学校心理学）またはカウンセリングⅡまたは特講・福祉心理学４（スクール・カウンセリング）または特講・福祉心理学17（認知行動療法）」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ」となります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	事例研究の方法	事例研究の進め方、書き方
2	問題構造の理解	問題の同定と悪循環の構造
3	行動の理解	どのような刺激がどのような反応を誘発しているのか
4	認知の理解	問題はどのように解釈されているのか
5	環境の理解	問題は環境にどのように影響されているのか
6	介入目標の設定	各事例での問題解決とはどのようなことだろうか
7	介入計画の策定	介入方略の検討
8	介入リスクの検討	介入によるバランスの崩れやリスクの検討

■講義の進め方

自分の事例に対するスーパービジョンを希望の方は、事前（スクーリング申込締切日まで）に事例レポートを提出していただき、その中からグループスーパービジョンで検討する事例を選抜します。事例提供者には、事例の説明をしていただき、それに対する質疑応答で演習が進行します。

一連の流れの中で、スーパーバイザー（中村恵子）が事例の読み取りと併せてケース・フォーミュレーションの作成について解説します。

■スクーリング　評価基準

演習への積極的参加、質問や発言を評価します。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 〜10時間）

事例検討に際し、問題解決に求められるものはどんなことなのか自分なりに学びたいことを考え、整理しておいてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20〜25時間）

事例検討の前後での支援観の変化について考え、整理してください。

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	事例レポート①	属性の記述	クライエントの特徴が理解できるように記述する
2	事例レポート②	主訴	問題に対するクライエントの主観的解釈
3	事例レポート③	概要の記述	問題に対する客観的情報
4	事例レポート④	生育歴・生活歴	わかる範囲で記述する
5	成果レポート①	事例の概要	検討された事例の概要をまとめる
6	成果レポート②	問題の概要	検討し、明らかにされた問題についてまとめる
7	成果レポート③	事例検討による提供者の変化	事例提供者に生じた変化についてまとめる
8	成果レポート④	事例検討による受講者の変化	受講者に生じた変化についてまとめる

■レポート課題

1 単位め	**（スクーリング事前課題）＝事例レポート** 「これまでの支援経験もしくは人生経験の中で、問題解決にいたらず、もてあました事例」 ＜事例の書式（いずれもわかる範囲で）＞ 1. クライエントの属性（性別、年齢、職業、所属など） 2. 主訴 3. 問題の概要（どのような問題がどのように起きて現在の問題状況にいたっているのか） 4. 生育歴もしくは生活歴 5. 事例提供者の立場（老人施設職員など） 6. 事例提供者が困っていること 7. その他必要と思われる情報 ＜事例提供者＞提出された事例レポートを授業で取りあげる場合は、担当教員がプライバシー保護のために加工し、抽象化を加え、講義資料を作成します。 ＜事例検討参加者＞1単位めアドバイスを参照し作成してください。

2 単位め	**（スクーリング事後課題）＝成果レポート** 1. 演習で検討された事例の概要 2. 問題の概要 3. 事例検討によって明らかにされたこと 4. 事例検討による展開の変容の可能性 5. 事例検討に参加した自分自身の気づき

※ 1 単位めレポートは添削指導を行いません。スクーリング申込締切日までにメールuc@tfu-mail. tfu. ac. jpあてに提出してください。

※ 2 単位めレポートは、通常のレポート形式を郵送してください。添削指導を行い返却します。

■アドバイス

事前に事例レポートを提出していただき、その中からグループスーパービジョンで検討する事例を選抜します。そのため、事例は公表を前提にできるものを選択して書式にしたがって記述してください。

また、検討事例に選抜された事例提供者には事前に連絡し、プライバシーが保護され、かつ問題が理解できるように加筆修正が依頼されますのでご協力をお願いいたします。

1単位め アドバイス

事例レポートの作成について

⑴　事例提供者

これまで取り組んできた事例のうち、解決が困難で、あらためて事例の読み解きや支援方針を作成してみたいと思われるものをレポートしてください。内容は、わかる範囲での記述でかまいません。

事例の提出には倫理的配慮が求められますので、職場の許可を受け、実名を避けてA、Bなど記号を用いて記述してください。

⑵　事例検討参加者

これまでの人生で出会った解決が困難で、あらためて事例の読み解きや支援方針を作成してみたいと思われるものをレポートしてください。内容は、わかる範囲での記述でかまいません。

2単位め アドバイス

演習では、事例についての詳細なケース検討を行います。支援観や支援力に生じる変容に注目し、その変容を記述してください。

また、問題解決力錬成のために、事例を整理してまとめてください。

福祉心理学演習

科目コード	FP5571

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
2	SR（講義）	4年以上	山口奈緒美

※担当教員によって演習の内容がまったく異なります。『With』の案内に従い、希望教員のスクーリング予備登録・受講申込みをしてください。
※2020年度以降は、中村先生と山口先生の演習を、１年に１クラスのみ、交互に開講する予定です。2021年度は山口先生の演習です。
※いずれか１名の教員の演習しか受講できません。
※社会福祉学科の方は履修登録・受講できません。
※購読する論文文献は自身で入手していただきます（大学からの配本はありません）。
※心理系の大学院進学予定者は受講をお奨めします。
※この科目は、スクーリング受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

担当教員	内　容	ページ
中村恵子先生	職場の問題解決演習・グループスーパービジョン	p. 294〜298
山口奈緒美先生	文献講読（社会心理学領域）	p. 299〜303

科目の概要

■科目の内容

心理学領域の講義を受けていると、さまざまな知見が示されることと思います。例えば、単純接触効果、ピグマリオン効果、ハロー効果、バーナム効果…。人々の心の一般法則が多種多様に示されていますが、そのような効果や知見がどのように見いだされたのか、考えてみたことはありますか？　緻密で精巧な実験や調査によって生み出されています。この演習では、「心理学研究」「社会心理学研究」「実験社会心理学研究」に掲載されている論文のうち、受講生の皆さんひとりひとり最も関心のある論文を講読し、論文の内容を理解し、問題点を発見する力を身につけます。

■到達目標

１）論文の「背景・目的」部分を正しく読み取ることができる。
２）論文で示されている仮説を検討するためにふさわしい方法が採用されているかどうか判断できる。
３）結論が適切な手続きや結果によって導かれているかどうかを判断できる。
４）論文の問題点に対して改善方法を提案できる。

■教科書

2021年度は特に使用しません（文献は自身で入手してください。大学からの配本はありません）。

■履修登録条件

この科目は、下記の受講条件の達成に必要な科目をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録可能です

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力のうち、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考にもとづく問題発見・解決力」を身につけます。

■科目評価基準

レポート評価80％＋スクーリング評価20％

■参考図書

浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書、2008年

スクーリング

■スクーリング受講条件

1）受講希望者は2021年 6 月30日までに履修登録をし、「福祉心理学演習」予備登録をメールで行ってください（10月生の方は予備登録の段階では 3 年次でも大丈夫で履修登録も不要です）。

予備登録は下記のことを記載してメール　uc@tfu-mail. tfu. ac. jp へ送信してください。

①「福祉心理学演習」2021年度受講希望　②学籍番号　③氏名

2）「TFUオンデマンド」https://web. netrecorder. jp/tfu/　が利用できる環境にあること。

3）スクーリング申込締切日までに、90単位以上の単位修得をしていること。

4）スクーリング申込締切日までに、下記の学習をしていること。

科目名	履修方法	単位修得	レポート提出	スクーリング受講
統計情報を見る眼 または 心理学統計法		○		
心理学概論A・B	RorSR	○		
福祉心理学	RorSR	○		
社会・集団・家族心理学A（社会・集団心理学）	RorSR	○		
人間関係論	S	○		
心理学実験ⅠA・ⅠB	SR	○		
心理学実験ⅡA・ⅡB	SR			○
心理学研究法A	RorSR		○	

※2017年度入学者は「統計情報を見る眼または心理学統計法」「心理学概論」「福祉心理学」「社会心理学」「人間関係論」「心理学実験Ⅰ」「心理学実験Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ」となります。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	論文講読の基礎	論文講読に必要なスキルについて概説します。
2	論文講読の基礎（実例）	教員によるデモ発表を行います。
3	論文講読(1)	受講者の方が選んだ論文を講読します。
4	論文講読(2)	受講者の方が選んだ論文を講読します。
5	論文講読(3)	受講者の方が選んだ論文を講読します。
6	論文講読(4)	受講者の方が選んだ論文を講読します。
7	論文講読(5)	受講者の方が選んだ論文を講読します。
8	論文講読(6)	受講者の方が選んだ論文を講読します。

※この演習はスクーリングを３回（いずれも日曜日を予定）に分けて、１・２回めを初日、３～５回めを２日め、６～８回めを３日めに行います。３回に分けて仙台に足を運ぶ必要があるので、ご注意ください。

■講義の進め方

毎時間一人の方に論文の要約を発表していただきます。その後、論文全文を参加者全員で読み、仮説、仮説が導かれる理論的プロセス、仮説検討方法（調査や実験内容）の妥当性、結果の妥当性について検討します。受講生はすべて１本の論文を要約して発表することが求められます。

■スクーリング　評価基準

積極的な参加態度

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

１）予備登録者に、「TFUオンデマンド」上で文献の探し方の案内動画を流します。

２）「心理学研究」「社会心理学研究」「実験社会心理学研究」から関心のある論文をさがして、可能ならば初回スクーリング時にご持参ください。

３）論文の読み方は初回スクーリング時に教員が説明します。

４）自分が選んだ論文を理解するように努めてください。どのような理論的なプロセスによって仮説が導かれたのか、どのような実証的手法を用いて仮説を検討したのか、仮説が支持されたのかどうか、どのような考察が展開されているのかを要約できるようにしてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

自分が選んだ論文のどこにどのような問題があったのかを整理し、どのような改善策が求められるのか

をまとめてください。また、その論文によって導かれた結果の妥当性を再度確認し、結果の適用範囲についても考えてください。

レポート学習

■在宅学習 8 のポイント

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	問題・背景の理解	仮説	論文で示されている仮説が、どのような理論的説明によって導かれたのかを理解する。
2	方法の理解	方法の適切さ	どのような方法を用いて仮説を検討しようとしているのかを理解する。
3	方法	実証的手法の適切さ	仮説検討のために用いられた実証的方法が適切かどうかを考える。
4	結果①	結果の把握	仮説が支持されたのかどうかを把握する。
5	結果②	分析手法の適切さ	どのような分析方法を用いているのかを理解し、仮説検討にふさわしいかどうかを考える。
6	考察	考察の理解	考察部分で述べられていることを理解する。
7	問題点の把握	問題点の把握	論文中の問題点を把握する。
8	問題点の改善	問題点の改善	問題点の改善案と知見の適用範囲を理解する。

■レポート課題

1 単位め	**（スクーリング事前課題）** 自分が発表しようと思う論文の要約を作って事前にメールで提出してください。 提出先はuc@tfu-mail. tfu. ac. jp。 締め切りは自分の発表回の 2 週間前まで。
2 単位め	**（スクーリング事後課題）** スクーリングを通して明らかになった、自分の発表した論文の問題点について整理し、改善策を論じてください。また、知見の適用範囲についても論じてください。

※ 1 単位めレポートは添削指導を行いません。自分の発表する回の 2 週間前までにメール　uc@tfu-mail. tfu. ac. jp あてに提出してください。

※ 2 単位めレポートは、通常のレポート形式で郵送してください。添削指導を行い、返却します。

■アドバイス

1単位めアドバイス

自分の関心のある論文の要約をしてみましょう。「背景・目的」部分では、仮説は何か、どのようにその仮説が導かれたのかをまとめましょう。「方法」部分では、その仮説を検討するためにどのような実証的方法がとられたのか、参加者、調査内容or実験内容をまとめましょう。「結果」部分では、仮説が支持されたのか、仮説の支持or不支持という判断はどのような数的根拠によってもたらされたのかをまとめましょう。「考察」部分では、仮説が支持された理由、支持されなかった理由という観点からまとめましょう。詳細はスクーリング初日1～2回目で示します。

2単位めアドバイス

スクーリングで検討した結果、自分が発表した論文にはどのような問題点が指摘されたのかをまとめましょう。その問題点をどうすれば解決することができるのかについてもまとめましょう。

卒業研究			科目コード	ZZ5991
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
8	卒業研究	4年	本学専任教員	

※この科目は、受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

■科目の内容

卒業研究は、在学中における学習成果をもとに、各自が研究テーマを設定し、担当教員の指導助言を受けながら、論文を作成するものです。

必修科目ではありませんが、学生時代に学問的な創造性を発揮し得る絶好の機会です。自分がはたして大学で何を学び身につけることができたのかを確認することもできます。時間的な余裕のある学生は履修することをお勧めします。

■教科書

各自で研究テーマに応じて準備。福祉心理学科の方は『福祉心理学科スタディガイド』Ⅵ章は必読。

■卒業研究の流れ

1　研究テーマの決定

(1)　問題意識の具体化・明確化

一般に論文を書く場合、まず第１に、テーマをどのようなものにするかが問題となります。テーマは、かなり漠然とした興味や関心から出発することが多いものです。また、講義や実習・実験の中で、こういうことを研究したいという、ある程度具体的な問題意識を持つ場合もあるでしょう。しかし、いざ自分の研究として進めていこうとすると、どこから手をつけてよいか、方向づけに迷いがちなものです。したがって、研究を進めていく第一歩は、問題をできるだけ明確にし、一定期間内でまとめあげられるように絞り込んでいくことです。そのためにはまず、自分の興味・関心に関連のある文献を読むことが必要です。また、この段階で可能ならば通信教育部事務室を通して然るべき先生に相談し、指導を仰ぐことも、問題意識を深める上で非常に役立つはずです。さらに、順序は逆になりますが、はっきりした問題意識の方向がなかなか定まらない場合に、文献を読むことによって、おもしろそうな問題を発見することもあると思われます。

(2)　関連文献を調べること

問題意識がある程度具体化してきたら、関連のある文献を読み始めます。文献とは、単行本だけではなく、オリジナルな論文（専門誌・学会誌や紀要など＝『福祉心理学科スタディ・ガイド（第３版）』p. 210〜211参照）も含まれます。文献は、まず、最も新しいものを読み、それからさかのぼって読んでいくのがいいと思いますが、１つの論文を読むと、それに関連した文献が、参考文献（references）の欄に挙げられていますから、その文献を次々に読んでいくのが効率的です。

関連論文が見つかったら、自分なりの文献目録を作ります。そうすると、後で本格的に文献を整理する時に効果的です。

⑶　仮テーマ（仮題）の決定＝卒業研究の受講申込み

＝通信教育部への提出（３月卒業希望者）４月５日必着／（９月卒業希望者）10月５日必着

⑴、⑵により、ある程度問題意識が明確になったら、その問題の方向に従って、仮テーマを決定し、本冊子巻末の「卒業研究　申込用紙」に必要事項を記入して、大学に提出していただきます。各自の提出したテーマを検討し、大学で指導教員を決定します（各自の提出したテーマを検討し、大学で担当教員を決定しますので、希望の教員と異なる場合があります）。

この段階でｐ.308〜309の「卒業研究の受講条件」を満たしていることが必要です。また、テーマや主旨が明確でない方は、卒業研究の受講ができない場合もありますので、ご了承ください。

⑷　指導教員の決定

通信教育部から書面で連絡　５月初旬／11月初旬に発送予定。なお、指導教員が決まったら、できるだけ早く面接指導でも通信指導でもよいので、初回の指導を受けてください。

⑸　テーマ（論題）の最終決定

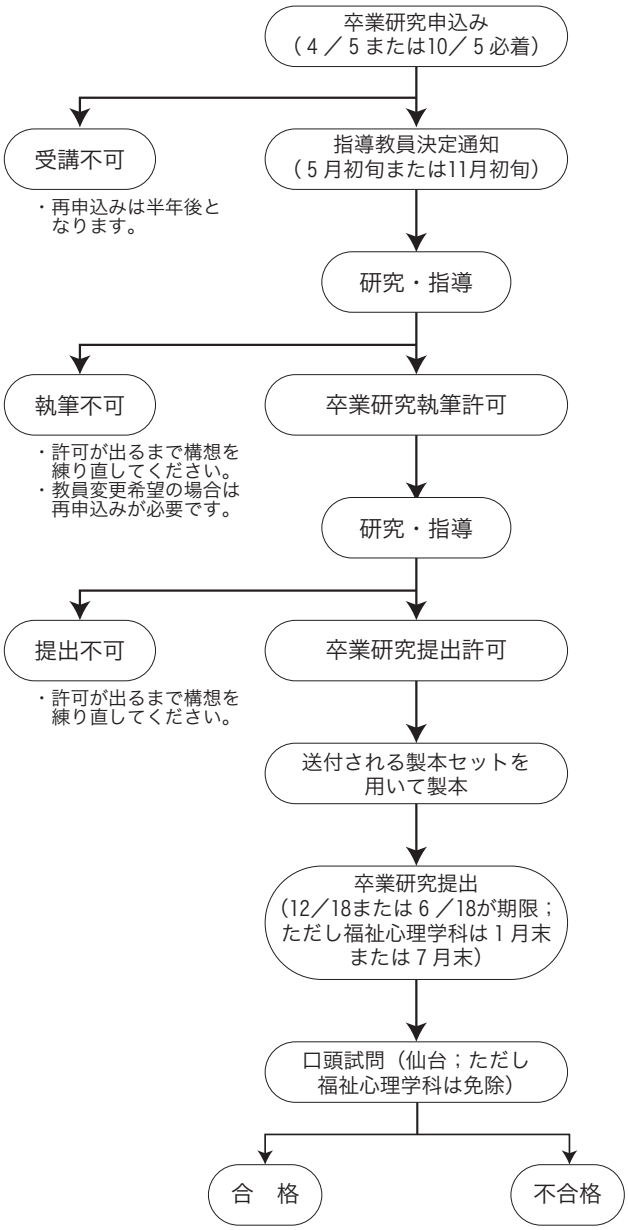
指導教員が決定したら、その指導、助言のもとに、具体的なテーマを決定します。テーマは、研究の具体的な内容が理解できるように、できるだけ具体的かつ簡潔なものであることが望まれます。また、やや抽象的なメインテーマに、具体的なサブテーマをつける方法もよく使われています。

②　研究を進める

研究を進めるプロセスとしては、①文献研究、②データ・資料の収集・分析、③執筆などが考えられますが、指導教員の指導を十分に受けてください。研究・執筆の過程で、最低限２回の面接指導、３回の通信指導を受けることが必要です。ただし面接指導の回数が２回より多くなる場合は、通信指導はその分減らすことができます。

なお、口頭で構いませんので指導教員か

――申込以降の流れ――



ら、執筆の前には卒業研究執筆許可を、提出の前には卒業研究提出許可をもらうようにしてください。

また、**調査やインタビューなどを実施する前には、必ず指導教員の了承を得る必要があります。**福祉心理学科の場合は、指導教員の了承を得たうえで、調査に協力をいただく機関ないし個人に「調査依頼状」を提出してください。「調査依頼状」の書式見本は、『福祉心理学科　スタディガイド』第１版ｐ.135、第２版ｐ.165、第３版ｐ.194に掲載されています。ご自身で作成した「調査依頼状」に指導教員の署名・捺印をいただいたうえで、ご自身で調査依頼先に提出してもらいます。なお、書式フォーマットを希望される方は通信教育部卒業研究担当までご連絡ください。

⑴　通信指導（３回以上）

通信指導は、卒業研究の進行状況に応じたレジュメ（要旨・要約）などを作成・提出することにより指導教員に指導を受けるものです。指導は、一般的には通信教育部事務室経由で郵送で行っていただきますが、指導教員によっては学生－教員間で直接やりとりを行っていただきます。

また、指導教員の許可があればスカイプなどのWeb会議システムを利用した指導を受けることも可能です。なお、Web会議システムを利用した指導の場合、面接指導に替えることもできます。希望者は、卒業研究係までメールでご相談ください（電子メールアドレス　ua@tfu-mail. tfu. ac. jp）。

⑵　面接指導（２回以上）

面接指導は、担当教員と直接会い、指導を受けるものです。原則として、本学の演習室か教員研究室で行います。面接指導には、事前の申込みが必要です。申込みは、⑴通信教育部事務室経由で行う場合、⑵指導教員と直接相談して決めていただく場合があります。

通信教育部事務室経由で行う場合は、本冊子巻末の「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」の「面接指導」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAXまたは郵送でお申込みください。同様の内容を記入していただいて、電子メールでの申込みも可能です。

■到達目標

１）卒業研究のテーマを見つけることができる。
２）テーマに関連した文献をレビューできる。
３）研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。
４）仮説を立てることができる。
５）調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。
６）結果について統計処理ができる。
７）考察を行い、論文としてまとめることができる。

■在宅学習30のポイント　（通信指導３回以上・面接指導２回以上の受講は必須）

回数	テーマ	内　容
1	研究テーマの設定	関心のあるテーマで、研究として成り立つものを設定する。
2	文献の収集①　先行研究	テーマに沿った先行研究を探す。
3	文献の収集②　文献検索	テーマに沿った文献を、インターネットで検索し収集する。

回数	テーマ	内　容
4	文献の整理①　項目整理	収集した文献の内容を項目ごとにまとめカード化する。
5	文献の整理②　全体把握	カードについてKJ法などを用いて全体性をつかむ。
6	再度文献の収集	不足している文献の収集を行う。
7	再度文献の整理	付け加えた文献の整理を行う。
8	文献のレビュー	整理した文献についてのレビューを行う。わかっていることとわからないことを確認する。
9	研究の目的	研究の目的を決定する。
10	独立変数と従属変数	独立変数と従属変数の関係について検討する。
11	仮説の生成	研究で明らかにしたいことを踏まえた仮設を設定する。
12	研究の整合性	研究の整合性が保たれているか、検討を行う。
13	統計の方法	どのようにして統計処理を行うか、具体的に検討する。
14	尺度の設定	どの尺度を使用するかの検討と決定を行う。
15	質問紙作成に向けてのチェック	ここまでの工程を振り返り、不備がないかどうかの確認作業を行う。
16	質問紙の作成	実際に質問紙を作成する。
17	質問紙の最終チェック	調査のための質問紙に不備がないかどうか最終チェックを行う。「調査依頼状」の作成・提出。
18	アンケートの実施	本調査を実施する。調査を依頼するときの配慮や依頼の仕方に十分注意すること。
19	データの入力	調査データを間違えのないよう入力する。
20	データの分析	入力したデータを統計分析する。
21	結果の整理	分析の結果を整理する。
22	仮説の検討	結果を元に仮説が妥当かどうか検討する。
23	卒論の執筆前準備	構成として先行研究のレビューを行う。
24	卒論執筆①　目的・仮説	目的、仮説を書く。
25	卒論執筆②　方法	方法として、対象、質問紙の構成、調査の実施の手続きを書く。
26	卒論執筆③　結果	結果にどのような統計分析を行ったかについても書く。
27	卒論執筆④　図表	図表を作成する。
28	卒論執筆⑤　考察	仮説についての考察を行う。予防や援助につながる点からの考察を望む。
29	卒論執筆⑥　文献	引用文献、要約、資料などについて、書き方にしたがってまとめる。
30	卒論完成	論文をしっかりと通読し、最終の推敲を行ったうえで提出する。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、手順が異なります。

■在宅学習の留意点

1）卒業研究の取り組みは、原則として、自分なりの取り組んだ時間が学習になる。
2）卒業研究の執筆方法のための参考文献をよく読むこと。
3）テーマに関連した文献を最低でも30以上読むこと。
4）独立変数と従属変数との関係から、仮説を立てること。
5）研究の流れを考え、どのような統計分析を使うかを見極めること。
6）あせらないためにも、早め早めの取り組みを行うこと。
7）図表や引用文献の書き方を習得しておくこと。
8）研究全体を通して倫理には最大限の配慮を行うこと。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、留意事項が若干異なります。

■卒業研究　評価基準

提出された卒業研究をもって行う。

■提出の方法

⑴　400字詰原稿用紙で50枚以上100枚以内の分量が必要です。もちろん卒業研究としてふさわしい論文の内容でないと合格することはできません。

⑵　パソコンの場合は、下記のスタイルに統一してください。

・Ａ４判の用紙ヨコ書　左右40字×天地30行　マージン上下左右各30mm
・文字サイズは本文10.5ポイントを原則としてください。見出しは、適宜大きいポイントにしたり、太字にしてください。

⑶　ページ数を頁下部に記入または印字してください。

⑷　本文以外に、論文のスタイルにそって①目次や②注または引用・参考文献などをつける必要があります。

⑸　３月卒業希望者の論文提出締切は12月18日（ただし福祉心理学科は１月末）、９月卒業希望者の論文提出締切は６月18日（ただし福祉心理学科は７月末）前後となり、１～２月、７～８月の口頭試問に合格することが必要です（福祉心理学科は口頭試問なし）。提出の際の「製本」仕様については受講者にご案内します。なお、論文は正副あわせて２部提出していただきます。

⑹　論文は本学通信教育部事務室などで公開されます。プライバシー侵害などのないようにし、個人情報の記載は行わないでください。

■卒業研究の受講条件

⑴　正科生・４年生以上で、受講申込締切日〔４／５　or　10／５〕までに「卒業研究」を履修登録し、卒業見込となる単位数（１年次入学者は90単位以上、２年次編入学者は60単位以上、３年次編入学者は28単位以上）を修得済みであること。

⑵　自身で研究したいテーマがあり、論文の構想が申込み時に作成できていること。指導教員は、希望する研究テーマにもとづき大学側で決定されます。

⑶　執筆の過程で、最低２回以上の面接指導、３回以上の通信指導を受けられること。

⑷　福祉心理学科で「卒業研究」を受講するためには、下記①～③の条件を満たす必要があります。

【2017年度以前入学者】

①　受講申込締切日までに「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ（または「心理学統計法」）」の単位が修得済みであること。

②　実験・研究法・特講科目・Ｓ科目を除く福祉心理学科　専門必修科目・専門選択科目Ａ群のうち10科目以上の単位を修得しているか、学習を終了（レポート提出済、かつ科目修了試験受験済orスクーリング受講済）していること。

③　「卒業研究第２回目ガイダンス（事前個別相談）」を受講していること。

【2018年度以降入学者】

①　受講申込締切日までに「心理学概論Ａ・Ｂ」「福祉心理学」「発達心理学」「社会・集団・家族心理学Ａ（社会・集団心理学）」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理学実験ⅠＡ・Ｂ」「心理学実験ⅡＡ・Ｂ」「心理学研究法Ａ」「心理学統計法」を含む専門必修科目・専門選択科目Ａ群（Ｓ科目を除く）から15科目以上の単位修得、または学習を終了（レポート提出済、かつ科目修了試験受験済み・スクーリング受講済み）していること。

②　「心理学研究法Ｂ」を履修登録し学習中であること。

③　「卒業研究第２回目ガイダンス（事前個別相談）」を受講していること。

■福祉心理学科・卒業研究ガイダンス

福祉心理学科で卒業研究の受講を考えている方を対象に、事前に２回の「卒業研究ガイダンス」を行っています。なお、以下のガイダンスに出席したから必ず「卒業研究」に取り組まなければいけないということはありません。

※卒業研究指導教員とガイダンス担当教員は異なる場合があります。

⑴　卒業研究第１回めガイダンス

卒業研究の概要について説明されるものです。この内容は、「TFUオンデマンド授業」視聴の要領で自宅のパソコンで視聴することができます（科目名「福祉心理学科・卒業研究ガイダンス」）。２回めガイダンス前までに必ず視聴してください。視聴環境がない方は、事前に通信教育部までご相談ください。第１回めガイダンスの受講申込みは不要です。

⑵　卒業研究第２回めガイダンス（事前個別相談）

３年生以上の方が、希望するテーマをもとに教員と個別、または少人数のグループで相談するものです。

第２回めガイダンス（事前個別相談）は、毎年３・８・12月ごろに実施します。第２回めガイダンスは、下記の要領で申込みが必要です。

・卒業研究第２回めガイダンス（事前個別相談）の申込方法

卒業研究第２回めガイダンスは、本冊子巻末の「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」の「ガイダンス」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAX（FAXで返信可の場合のみ）または

郵送でお申込みください。同様の下記の内容を記入していただいて、卒業研究係あての電子メールでの申込みも可能です（電子メールアドレス　ua@tfu-mail. tfu. ac. jp）。

メールの件名　卒業研究２回めガイダンス申込み

メール本文　下記①～⑩を箇条書きに記入してください。

① 卒業研究２回めガイダンス申込み
② 氏名
③ 学籍番号
④ 住所
⑤ 連絡先電話番号・FAX・携帯番号
⑥ 電子メール　アドレス
⑦ 卒業研究で取り組んでみたいテーマ（簡単で可）
⑧ 希望日時（期間内でできるだけ多くの候補をあげてください）
⑨ 希望教員の有無（ない場合はなしで可。ある場合は第１希望・第２希望）
⑩ （あれば）質問

・卒業研究第２回めガイダンス（事前個別相談）の実施期間および申込締切日

申込締切日	連絡予定日	第２回めガイダンス期間
７月第１月曜日必着	７月20日すぎ	８月１～25日ごろ
11月第１月曜日必着	11月20日すぎ	12月１～25日ごろ
２月第１月曜日必着	２月20日すぎ	３月１～25日ごろ

■社会福祉学科　卒業研究ガイダンス

社会福祉学科の方のための全体ガイダンスもTFUオンデマンド授業の方法（名称「卒業研究ガイダンス」）で視聴が可能です。

社会福祉学科の方で、取り組んでみたいテーマはあるが研究方法がわからないなどご質問・ご相談のある方は、⑴学籍番号、⑵氏名、⑶卒業研究テーマ、⑷質問内容を記入し、郵送・FAX・電子メールなどの書面で通信教育部までお問い合わせください（電子メールアドレス　ua@tfu-mail. tfu. ac. jp）。

■諸注意

卒業研究を途中で断念する場合は、通信教育部または指導教員まで文書にて（様式自由）ご連絡ください。

卒業研究は１年で終えなくても継続して取り組むことができます。

卒業研究を「科目等履修生」として履修することはできません。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

大学での学修の総まとめとして、ディプロマポリシーに示されている力すべてを身につけるように取り組んでほしい。

■参考図書

1）論文執筆全般に関するもの

吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第 2 版）』ナカニシヤ出版、2004年

新堀聡著『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』同文舘出版、2002年

慶應義塾大学通信教育部編『卒業論文の手引<新版>』慶應義塾大学出版会、2003年

山田剛史・林創著「大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房、2011年

白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008年

奥田統巳ほか著『読みやすく考えて調べて書く（第 2 版）』学術図書、2003年

2）社会福祉学関連

川村匡由著『福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規出版、2002年

久田則夫著『ノリさんの楽々レポート作成術』大揚社、1995年

平山尚ほか著『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003年

斎藤嘉孝著『社会福祉調査　ワードマップ』新曜社、2010年

立石宏昭著『社会福祉調査のすすめ』ミネルヴァ書房、2005年

畠中宗一・木村直子著『社会福祉調査入門』ミネルヴァ書房、2004年

岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣、2006年

鈴木庄亮ほか著『保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方［改訂第 2 版］』南江堂、2006年

3）歴史学関連

歴史科学協議会編『卒業論文を書く』山川出版社、1997年

4）心理学関連

「福祉心理学科　卒業研究作成のしおり」の文献欄参照（『福祉心理学科スタディ・ガイド』所収）

新しいものとしては、下記の書籍がある。

板口典弘・山本健太郎著『心理学レポート・論文の書き方　演習課題から卒論まで（ステップアップ心理学シリーズ）』講談社サイエンティフィク、2017年

小塩真司・宅香菜子著　『心理学の卒業研究ワークブック』金子書房、2015年

松井豊著『心理学論文の書き方（改訂新版）』河出書房新社、2010年

都筑学著『心理学論文の書き方』有斐閣アルマ、2006年

杉本敏夫著『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』サイエンス社、2005年

※統計の基礎を学ぶものとしては、下記の書籍がお勧めです。

櫻井広幸・神宮英夫著『使える統計　Excelで学ぶ実践心理統計』ナカニシヤ出版、2003年

吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998年

B. フインドレイ著『心理学　実験・研究レポートの書き方　学生のための初歩から卒論まで』北大路書房、1996年

岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997年

浦上昌則・脇田貴文著『調査系論文の読み方』東京図書、2008年
近藤宏ほか著『Excelでかんたん統計分析』オーム社、2007年
小塩真司　著『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』東京図書、2012年
小塩真司　著『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析（第 3 版）―因子分析・共分散構造分析まで』東京図書、2018年

福祉心理学科　卒業研究指導教員一覧（五十音順）

『　』内は過去の指導論文タイトルの一例。

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
大　関　信　隆	発達障害・認知機能に関する実験心理学的研究 情動・ストレスに関する実験心理学的研究 『通園施設における園内活動が養育者の心理的変化に及ぼす効果に関する研究』、『音楽を媒介した知的発達障害に伴う自閉症者支援の可能性に関する研究』
菊　池　陽　子	臨床心理学 『言語表記方法変更に伴う視覚的文字イメージの差異―「がん・癌」「かぜ・風邪」の２疾患による文字イメージの考察』、『認知症の家族介護者が在宅介護に限界を感じる要因の分析と早期介入方法の検討－認知症初期症状から入院に至るまでの経過からの質的分析－』
佐　藤　俊　人	主として乳児期から青年期までを対象とし、その発達や心理に及ぼす環境の影響について調査、実験を通して検討します。 『成人のストレス対処についての研究～「癒し」の視点から～』、『「冬のソナタ」と韓流ブームとの社会的な要因・背景を探る』、『「子どもはどうして親と同じような考え方や行動をするのか」～親子のつながりって意外とおもしろい～』、『青年期における自我同一性と対面的コミュニケーションによる友人関係とインターネットコミュニケーションによる友人関係の差異』
重　宗　弥　生	神経・生理心理学、認知心理学
柴　田　理　瑛	実験心理学、認知科学、発達心理学
清　水　めぐみ	臨床心理学、深層心理学、心理療法に関する卒論の指導を行います。 『難聴者における難聴の程度及びアサーティブネスと「健聴者の世界との葛藤」の関係についての研究』
白　井　秀　明	「教えること」「学ぶこと」「動機づけ」に関わる分野 『青年期における父親への抵抗の表出と心理的離乳との関係―父親の態度との関連から―』、『看護教員初年度における小児看護学実習指導に関する一考察～看護実践を学ぶためのよりよい実習過程の実現に向けての取り組み～』、『看護師の自我同一性及び自律性の発達と終末期患者の自己決定に対する援助傾向の認識の関係について』、『看護師が抱く看護肯定感と看護職を続けていくうえでの支えに関する調査』、『学習行動の主体性に及ぼす学習動機と内的矛盾の感性の影響』、『フィンランドの教育について～子どもたちの心の中で何が起きているのか～』
武　村　尊　生	臨床心理学、心理アセスメント、心理療法、心理的介入、リエゾン精神医学
内　藤　裕　子	学校保健、臨床心理学
中　村　　修	発達心理学、健康心理学分野 『福祉系大学１年生における福祉職の選択意思に及ぼす福祉体験の影響～大学入学前の福祉体験と入学後の実習体験を中心に～』、『働く人々の生きがい感に影響を与える要因　―成人期初期を対象として―』
中　村　恵　子	学校心理学・カウセリング分野 『社会人学生の自ら学ぶ意欲とワーク・エンゲイジメントの関連』、『青年期と成人期における自尊感情と対人ストレスイベントおよび精神的回復力との関連』、『精神障害者が就労を決意してから職場に定着するまでの心理的プロセス』、『子育てをしながら通信制大学に通う女性の成長的変容プロセス』

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
半　澤　利　一	犯罪心理学・家族心理学分野（非行、家族、思考と感情、心理査定、心理社会的支援）
平　川　昌　宏	生涯発達心理学、発達臨床分野 『保育経験年数が保育観と保育場面における働きかけに及ぼす影響～保育専攻学生及び保育経験の異なる保育者間比較を通した検討～』、『育児期の母親における過剰適応傾向と統合的葛藤解決スキルの関連』、『小学生の自己受容に関する研究－小学生の時の母親の養育態度と信頼感に着目して－』
三　谷　聖　也	臨床心理学、心理療法、家族心理学、ブリーフセラピー
山　口　奈緒美	社会心理学分野（寛容性、対人葛藤、葛藤解決） 『文化的自己観の違いが対人葛藤場面における罪悪感喚起に及ぼす影響』
山　本　　良	臨床心理学、遊戯療法、学生相談
吉　田　綾　乃	社会心理学分野（自己、対人行動、集団行動など） 『成功体験の意味づけと振り返りが自己及び他者への肯定的感情に及ぼす影響―在米高校生の組織キャンプにおけるリーダー経験に基づく検討―』、『職場の復職支援のあり方に関する研究：職場復帰において管理職が考える支援と復職者本人の職場に対する期待感のずれに着目して』、『社会人の友人関係と社会適応の関連性について：内面的類似性・対人コンピテンスの観点から』、『援助者の依存性と共感性および被援助者のライフストーリーの有無が援助行動に及ぼす影響』、『社会人のナショナル・アイデンティティ、関係効力感と差別意識の関連性について』ほか
渡　部　純　夫	臨床心理学 ・病院臨床…病院における心理療法のあり方と効果 カウンセリング技法 ・学校心理学…スクールカウンセリングの枠構造 チームアプローチの効果的技法 ・芸術療法…箱庭療法、描画療法 『心身の健康に及ぼす主観的健康統制観について』、『高校生における親に対する信頼感に関する研究―基本的信頼感及び対人的信頼感に関連して』、『集合同一化と対人ストレスの相関関係について』、『高校生の風景構成法を通した不登校傾向』

特講・福祉心理学

●特講科目のスクーリング

特講科目は、原則として同じ科目は次年度以降開講いたしません（一部隔年開講をしている科目があります）。

科目名	開講日	履修・申込 （取消）締切
特講・福祉心理学５ （自分さがしの心理学）	５／８・９	４／22
特講・福祉心理学８ （ストレスとつきあう心理学）	10／16・17	９／８
特講・福祉心理学９ （コミュニティ心理学）	オンデマンド	情報ブック参照
特講・福祉心理学17 （認知行動療法）	オンデマンド	情報ブック参照

特講科目と他の科目とで手続きが異なる点は、下記２点となります。

●締切日までに取消連絡をすれば特例で履修取消が可能

スクーリングに出席できない方は、上記に定めるスクーリング申込締切日前ならば、履修登録の取消が可能です。取消を希望される方は、書面（メール・ＦＡＸ・郵送）でご連絡ください。ただし、超過履修費を納入したことがある方は原則として履修取消はできません。

●教科書がある科目はスクーリング受講料納入後に送付

履修登録・スクーリング申込み後、スクーリング受講料を期限までに納入した方に発送いたします。履修登録時には発送いたしません。

特講・福祉心理学 5 （自分さがしの心理学）			科目コード	FT2605
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S（講義）	1年以上	菊住　　彰	

※この科目は５／８・９の仙台会場のスクーリング受講が必須です。受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

皆さんは自分がどういう人間なのか、よくご存知でしょうか。どんな性格を持ち、他者からもそれを認められているでしょうか。長所を短所と思い込んでいませんか。この講義では心理テストを多用し、皆さん自身が被験者となって、自己イメージを客観的に明らかにしていきます。自立性、責任感、外向性、対人関係の特性、家族観など、心の様相が浮き彫りになってくることでしょう。思考や行動、人間関係のパターンを確認し、自分らしさを自覚することによって、自己実現のヒントを得る。それがこのスクーリングの目的です。

■到達目標

1）自分の性格や行動の長所と短所を、それぞれ最低でも10項目あげて説明できる。
2）対人関係を築くうえで改善していく目標を、３つあげることができる。
3）自分らしさを生かせる今後の人生のプランを、物語にして話すことができる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	主観的自己像と客観的自己像①	他者は自分をどう見ているかを知る
2	主観的自己像と客観的自己像②	自己イメージは本当に正しいかを確認する
3	ものの見かたの癖と個人差①	思い込みや決め付けの強さを再認識する
4	ものの見かたの癖と個人差②	“常識”は十人十色であることを知る
5	対人関係のパターン①	他者と関わる時の自己流のルールに気付く
6	対人関係のパターン②	快適で安心な交わりかたを考える
7	自分らしさの発見	自分を好きになるヒントを探す
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

心理テストを使った自己分析などは座学で行いますが、身体の感覚や使い方の特徴を知るワークや、簡

単なロールプレイを通して第三者の目に自分がどう映るかなどの客観的なイメージを知るワークを行ったりもします。見る・聞く・話すを、それぞれ多用する講義とお考えください。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（論述式、持込すべて可）

■スクーリング時の教科書

レジュメと心理テストをスクーリング中に配布するので、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10時間）

特別な予習は必要ありません。座学だけではなく、グループワークをたくさん行いますので、新しい仲間との対話を楽しむ心のゆとりをもって参加してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で知り得た自分の長所を、実際の生活で生かす努力を続けてください。また、短所が繰り返して表出しないように、これまで常習化していた思考や行動のパターンを崩す工夫を試みてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

特講・福祉心理学 8 （ストレスとつきあう心理学）			科目コード	FT2608
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S（講義）	1年以上	菊住　　彰	

※この科目は10／16・17の仙台会場のスクーリング受講が必須です。受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

人間は少なからずストレスを抱えながら過ごしています。そのストレス社会を生き延びるのは簡単なことではありません。ストレスがたまって仕方がないという方。どうして自分だけがこんなにストレスを被りながら生きなくてはいけないのだろうと嘆く方。どうせストレスなんかなくならないと耐える覚悟を決めている方……。つらさが高じて、ひきこもったり、燃え尽き（バーンアウト）症候群に陥ったりしてしまうのを防ぐために、この講義でヒントを得ていただきたいのです。福祉・医療・教育など、人間の心や身体をフォローする対人援助職に従事する方だけでなく、日常の生活ストレスに悩んでいる方にも、気付きと対処スキルを得ていただければと願っています。

■到達目標

1）ストレスを抱えやすい自分の性格や行動の特徴を説明できる。
2）人間関係を築くうえで使えるコミュニケーション・スキルを、最低でも 3 つあげることができる。
3）ストレスフルな時の自分の身体の状態を知り、身体に働きかけてリラックスする方法を 3 つ以上持つ。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	ストレス概論	ストレスと「つきあう」とは
2	リラクゼーション	ストレスを抱えた身体の状態に意識を向ける
3	性格と行動のチェック①	落ち込みや燃え尽きやすさを知る
4	性格と行動のチェック②	認知や行動のパターンを知る
5	人間関係のスキルアップ①	想いを伝えるコツを学ぶ
6	人間関係のスキルアップ②	適切な距離感を保つ
7	五感の活性化	右脳を使って取り越し苦労をやめる
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

・ストレスを自己増幅してしまう思考パターンに気付き、その循環に歯止めをかける方法を考えていきます。その際に、座学による講義だけではなく、グループワークやロールプレイを取り入れます。
・理論や知識ばかりでなく、身体に働きかける対処法を体験していただきます。座ったり寝転んだりしやすい服装でご参加ください。フロアに寝転ぶこともありますので、ビニールシートをご用意ください。シートの上では固いと思う方、腰に痛みのある方は、バスタオルなど柔らかい敷物をお持ちになることをお勧めします。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験100%（論述式、持込すべて可）
試験では到達目標に関する自己の考察を具体的に記述することを求めます。

■スクーリング時の教科書

レジュメと心理テストをスクーリング中に配布するので、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

特別な予習は必要ありません。座学だけではなく、グループワークをたくさん行いますので、新しい仲間との対話を楽しむ心のゆとりをもって参加してください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業で学んだことを、実際の生活で使ってみなければ、参加してくださった意味がありません。少しずつでも取り入れる努力を続けてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」、「集団理解に基づく対人調整力」、「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

特講・福祉心理学 9 （コミュニティ心理学）			科目コード	FT2609
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
1	S（講義）	1年以上	田中　　究	

※2021年度はオンデマンド・スクーリングのみ開講いたします。受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

多くの心理療法や心理学は「個人」をベースとしますが、コミュニティ心理学は「個人とコミュニティ、システムとの関わり」に関心を持ちます。ですから、専門家であってもコミュニティの一員としてできることはなにか？と考えてアプローチします。本スクーリングでは、個人と環境をセットでとらえるコミュニティ心理学独自のスタンスについて、基礎的な理解を目ざしたいと考えています。

■到達目標

1）コミュニティ心理学の特色を説明できる。

2）コミュニティ心理学の発想は心理療法や心理的支援においてどのように活かされているか説明できる。

3）コミュニティ・アプローチと伝統的な個人心理療法の差異について説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	イントロダクション	コミュニティ心理学と伝統的個人療法の比較
2	コミュニティ心理学の歴史	コミュニティ心理学の歴史と特徴
3	危機介入	危機介入の理論と方法
4	コンサルテーションと予防	コンサルテーションと予防の理論と方法
5	システムへのアプローチ	システム理論の概要とシステムズ・アプローチ
6	ブリーフセラピーによるアプローチ	ブリーフセラピーの理論と方法
7	コミュニティ・アプローチの実際	スクールカウンセリング等における活用例
8	質疑応答	講義内容についての質疑応答
9	スクーリング試験	講義内容の理解度を問う試験

■講義の進め方

配付資料をもとに穴埋め作業をしながら進めます。板書、パワーポイントなどを用います。

■スクーリング　評価基準

授業へ参加の程度50％＋スクーリング試験50％（持込可、論述式）

スクーリングへの参加度と最終時限に実施する試験結果とをあわせて総合的に評価します。

オンデマンド・スクーリングでは、スクーリング試験100％で評価します。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安： 5 ～10時間）

下記参考図書を読了後に授業にのぞむと、授業内容がよりよく理解できると思います。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

配付資料、参考図書等を用いてさらに理解を深めてください。また関心領域の自己学習や講義内でふれるアプローチの各論に目を向けてもいいでしょう。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」「集団理解に基づく対人調整力」「心理学の学びを生かした社会貢献力」を身につけてほしい。

■参考図書

山本和郎著『コミュニティ心理学』東京大学出版会、1986年

特講・福祉心理学17
（認知行動療法）

科目コード	FT2617

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
1	S（講義）	1年以上	中村　恵子

※2021年度はオンデマンド・スクーリングのみ開講いたします。受講希望者はスクーリング申込締切日までに履修登録とスクーリングの申込みが必要です。

■スクーリングで学んでほしいこと

認知とは、ものごとに対する個人の解釈です。行動とは、刺激や解釈に対する反応です。認知行動療法では、不適応は問題行動によって起きるので、それを引き起こしている誤学習を修正すれば問題が解決するはずだと考えます。この授業では、不適応場面での問題行動をとらえ、その背景にある認知と行動の分析方法および誤学習の解除について学びます。

■到達目標

1）認知とは何か説明できる。
2）行動とは何か説明できる。
3）学習行動について説明できる。
4）誤学習について説明できる。
5）誤学習の解除について説明できる。
6）認知行動療法について説明できる。

■スクーリング講義内容

回数	テーマ	内　容
1	行動主義の誕生	学習行動の発見、行動療法の開発
2	行動療法の技法	機能分析と行動形成法
3	問題行動の刺激操作	誤学習とその解除
4	恐怖症の治療技法	問題行動の同定と悪循環の切断
5	認知療法	問題行動の背景にある認知への注目
6	論理療法	思い込みの自己修正
7	思考停止と拮抗停止	フラッシュバックの中学生に対する認知行動療法
8	認知再構成法	抜毛症の大学生に対する認知行動療法
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントの資料を基に、具体的な解説を行います。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況30％＋スクーリング試験70％（持込可）。

試験では、とくに機能分析とスキーマ分析についての理解を問います。

オンデマンド・スクーリングでは、スクーリング試験100％で評価します。

■スクーリング時の教科書

スクーリングにあたって、教科書は使用しません。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに本を読んだり学びたいことを考えてきてください。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25時間）

授業での配付資料や講義内容を基に、自分自身の問題行動を一つあげてください。そして、その機能分析とスキーマ分析を行い、誤学習の解除を試みてください。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」、「共感と自他尊重に基づくコミュニケーション力」を身につけてほしい。

■参考図書

大野　裕著『はじめての認知療法』講談社現代新書、2011年

坂野雄二監修『60のケースから学ぶ認知行動療法』北大路書房、2012年

大野　裕監修・今谷鉄柱漫画『マンガでわかりやすい うつ病の認知行動療法―こころの力を活用する７つのステップ』きずな出版、2015年

玉井仁著、星井博文シナリオ制作、深森あき作画『マンガでやさしくわかる認知行動療法』日本能率協会マネジメントセンター、2016年

共通基礎科目・専門選択科目B群

「統計情報を見る眼」は心理学研究法を理解する上での基礎となる科目のため、ここにも掲載しています。

統計情報を見る眼			科目コード	AB1146・DA3146
単位数	履修方法	配当年次	担当教員	
2	R or SR(講義)	1年以上	平川　昌宏	

※この科目は、2018年度より科目区分が変更されました。履修登録年度によって科目コードと科目区分が異なります。

2017年度以前履修登録者→科目コード：DA3146、科目区分：専門選択科目（B群）

2018年度以降履修登録者→科目コード：AB1146、科目区分：共通基礎科目

※この科目の会場スクーリングは隔年開講予定です。2021年度は開講しません（次回開講予定は2022年度）。

※オンデマンド・スクーリングは2021・2022年度開講予定です。

科目の概要

■科目の内容

私たちは普段テレビや新聞、広告などを通してたくさんの統計情報に接しています。統計情報は物事を客観的に理解し、人に伝える上で非常に有効で便利なものです。さらに、統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことによって、そこから有益な結論を論理的に導き出すことが可能になると考えられます。しかし、その反面、このように統計情報を適切に「読みこなし」「使いこなす」ことは必ずしも簡単なことではありません。

本科目では、１）統計情報の種類やそれらの特徴について理解すること、２）それらを利用し解釈する際の留意点や統計的な思考法について学んでいくこと、３）手元のデータを一般化する方法について学んでいくことの３点を目的とします。以上を通して、統計情報に騙されることなく、それを「読みこなし」「使いこなす」ことができるよう「統計情報を見る眼」をより豊かなものにすることを目指します。

なお、統計情報は事象を数値的に処理したものであり、統計情報についての理解を深める上である程度の数学的な知識が必要になります。その点で、特に数学に苦手意識を持つ方には、履修することがはばかれる科目かもしれません。しかし、本科目では、統計値の算出の仕方やその数式の理解ではなく、その統

計値の意味やその統計値を解釈し利用する際の留意点について理解を深めることに重点を置きます。

■到達目標

1）平均や度数といった統計情報の特徴、およびこれらを理解・使用する際の留意点について説明できる。
2）データのばらつきを理解することの重要性について説明できる。
3）相関について、相関関係を様々な観点から解釈することができる。
4）統計的検定の思考法について説明できる。
5）示された統計情報やそこでなされている主張に対して、統計的な思考法に基づきながら批判的に検討できる。

■教科書

神林博史・三輪哲著『社会調査のための統計学ー生きた実例で理解するー』技術評論社、2011年

（最近の教科書変更時期）2018年４月

（スクーリング時の教科書）スクーリングでは資料を配付します。上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「根拠に基づく情報発信力」、「批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価60％＋スクーリング評価or科目修了試験40％

■参考図書

1）青木繁信著『統計数字を読み解くセンス』化学同人、2009年
2）飯田泰之著『考える技術としての統計学　生活・ビジネス・投資に生かす』日本放送出版協会、2007年
3）大村　平著『統計のはなし（改訂版）』日科技連、2002年
4）小島寛之著『完全独習　統計学入門』ダイヤモンド社、2006年
5）ジョエル・ベスト著、林大訳『統計はこうしてウソをつく―だまされないための統計学入門』白揚社、2002年
6）高橋信著『マンガでわかる統計学』オーム社、2004年
7）谷岡一郎著『データはウソをつく』筑摩書房、2007年
8）ダレル・ハフ著、高木秀玄訳『統計でウソをつく法』講談社ブルーバックス、1968年
9）吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1999年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングは大きくは３つの内容から成り立っています。まず１つ目が「１つの変数の特徴を記述し、理解するための方法」についてです。ここでは、①変数を視覚化（グラフ化）し、その全体的な特徴

を理解することの重要性、②代表値と散布度で変数を記述することの重要性等について学びを深めてください。２つ目が「２つの変数の関係を理解し、変数間の関係を解釈する方法」についてです。ここでは、特に相関係数について、さらに、変数間の関係を解釈する際の留意点と多様な解釈の視点について学びを深めてください。そして、３つ目が「データの一般化」についてです。ここでは、特に統計的検定の考え方と手順について学びを深めてください。

■講義内容

回数	テーマ	内　容
1	統計情報の有効性とその落とし穴	統計詐欺の３つのパターンを理解する。
2	１つの変数の特徴を記述する①	度数分布表による変数の特徴の把握。代表値によるデータの記述について学ぶ。
3	１つの変数の特徴を記述する②	データのばらつきの理解の重要性と散布度について学ぶ。
4	２つの変数の関係を記述する	相関関係と相関係数について学ぶ。
5	２つの変数の関係を解釈する	相関関係の多様な解釈について学ぶ。
6	データの世界から一般の世界へ	推測統計とサンプリングの重要性について学ぶ。
7	統計的検定	統計的検定の考え方、進め方について学ぶ。
8	まとめ	まとめとして、統計的思考の特徴について学ぶ。
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

空欄穴埋め式の配付資料にそって、パワーポイントを提示しながら講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング中に学んだ内容から出題します。（持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

皆さんの身の回りの統計情報について意識して目を向けるようにしておいてください。そして、スクーリングを受講した後で、その統計情報についての見方に変化があったかどうかを確かめていただきたいと思います。

レポート学習

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	データと変数	「量的変数」と「質的変数」の違いについて学ぶ。	教科書第１章。変数の種類として「量的変数」と「質的変数」について理解してください。そして、身近な統計情報の中から「量的変数」と「質的変数」の具体例を幾つか挙げることで、理解を確認し、深めるようにしてください。
2	変数の特徴を分析しよう① 変数の分布とその視覚化（グラフ）	変数の特徴を理解する方法として「度数分布」とその視覚化（グラフ化）について学ぶ。	教科書第２章２－１～２－３。「度数分布」の理解が、変数理解の第１歩となります。また様々なグラフ（「ヒストグラム」など）の種類と〈グラフで表現したいこと〉との対応関係について、書籍や広告、インターネットで用いられるグラフを見直しながら、理解を深めるようにしてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	変数の特徴を分析しよう② 変数の中心を理解する	量的変数の数値的な要約として「代表値」について学ぶ。	教科書第２章２－４・２－５。「代表値」として用いられる「平均」「中央値」「最頻値」がそれぞれどのような値なのかを整理してください。また、最も頻繁に用いられる「平均」について、その使用や解釈の際の留意点について説明できるように学びを深めてください。
4	変数の特徴を分析しよう③ 変数のばらつき	変数のばらつきを示す数値として「散布度」（特に「分散」と「標準偏差」）について学ぶ。	教科書第３章。特に、「分散」と「標準偏差」について、これらがどのような値なのかについて整理してください。また、データのばらつきを理解することの重要性について説明できるよう理解を深めてください。
5	変数の特徴を分析しよう④ 標準偏差の応用	標準偏差の応用の１つとして「標準化」について学ぶ。	データを「標準化」することの意義とその方法について整理してください。さらには、テストの結果を点数ではなく「偏差値」で表すことの意味について説明できるよう、学びを深めていってください。
6	変数の関係を分析しよう① クロス集計表	質的変数間の関係について理解する方法として、「クロス集計表」とのその図示（グラフ化）について学ぶ。	教科書第４章（特に４－１～４－４）。「クロス集計表」について理解すると同時に、度数そのものではなく比率で分布を比べることの重要性について説明できるように学びを深めてください。
7	変数の関係を分析しよう② 平均値の比較と相関分析	質的変数と量的変数の関係、量的変数同士の関係について理解する方法について学ぶ。「相関係数」の特徴について学ぶ。	教科書第５章。特に、量的変数同士の関係について理解する方法（「散布図」による視覚化と「相関係数」による要約）について説明できるよう学びを進めてください。加えて、相関係数から２つの量的変数の関係についてどのような情報を読み取ることができるのか説明できるように学びを進めてください。
8	変数の関係をより深く考えよう① 見かけ上の関連	「因果関係」を解釈する際の基準、および、実際には因果関係はないが、統計上関係がみられる事象（「見かけ上の相関」・「擬似相関」）について学ぶ。	教科書の第６章６－１、６－２、第７章の７－５の１。教科書の内容、そして、関連書籍やインターネットを参考ｚに「擬似相関」の具体例を幾つか考えてください。なお、第８章では見かけ上の関連を考慮した統計分析の方法が紹介されています。難しい内容ですが、興味のある方は一読してみてください。
9	変数の関係をより深く考えよう② 媒介変数	原因と結果をつなぐものとして、「媒介変数」について学ぶ。	教科書の第６章６－３、第７章７－５の２。教科書の内容、そして、関連書籍やインターネットを参考に「媒介変数」の具体例を幾つか考えてください。
10	変数の関係をより深く考えよう③ 交互作用効果	３つ以上の変数が組み合わさることで生じる複雑な因果関係の事象として「交互作用効果」について学ぶ。	教科書の第７章７－５の３。ｐ.144の図７－５に「いろいろな交互作用のパターン」が図示されています。関連書籍やインターネットを参考に、これらのパターンに当てはまりそうな具体例を考えてください。
11	母集団と標本（サンプル）	「母集団」と「標本（サンプル）」の関係について学ぶ。また、「標本抽出（サンプリング）」の留意点について学ぶ。	教科書第９章。以降の学習において「母集団」と「標本（サンプル）」、および、その関係を理解することは大切になります。また、「９－２誤った標本の危険性」を読み、「標本抽出（サンプリング）」の際の留意点について学びを深めてください。
12	部分から全体を知る① 推測統計とは	「記述統計」と「推測統計」のちがいについて学ぶ。また、「標準正規分布」について学び、「区間推定」の理論的背景を理解する。	教科書第10章。この回より学習の内容がさらに難しくなります。「推測統計」について、さらには、「区間推定」や「標準正規分布」について学び、推測統計の基本的な考え方について学びを進めてください。
13	部分から全体を知る② 統計的検定とは	「統計的検定」とは何か、また、「帰無仮説」と「対立仮説」について学ぶ。	教科書第11章11－１、11－２。「統計的検定」とは何か、さらには、その重要性について学びを進めてください。また、実際に統計的検定を行う上で重要となる「帰無仮説」「対立仮説」について説明できるよう学びを進めてください。
14	部分から全体を知る③ 統計的検定の手順	帰無仮説を棄却できるかどうかを確率的に判断する統計的検定の手順について学ぶ。	教科書第11章11－３、11－４、11－５。統計的検定の回りくどい手順について整理してください。また、「統計的に有意」とは何を意味するのかについて学びを深めてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
15	部分から全体を知る④ 統計的検定の実際	幾つかの検定法について、その基本を学ぶ。	第12章・第13章。これらの章では「カイ 2 乗検定」「t検定」「分散分析」という 3 つの検定法が紹介されています。細かな数式までは理解しなくて良いので、各検定法の特徴、各検定法をどのようなときに用いるのかについて整理してください。

■レポート課題

1 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください（Web解答可）。
2 単位め	以下の 3 つの設題から 1 題を選び、論じなさい。 **設題 1**　変数の中心を示す統計量として代表値があります。代表値について次の問いに解答してください。 ⅰ）代表値として用いられる統計量として「平均」「中央値」「最頻値」があります。それぞれの値について説明し、性質の違いについて論じてください。 ⅱ）平均の使用・解釈の留意点について具体例を挙げて説明してください。その際、「外れ値」という用語を必ず用いること。 **設題 2**　2 つの量的変数の関係を述べる際に相関という言葉が用いられます。相関について次の問いに解答してください。 ⅰ）「正の相関関係」「負の相関関係」について具体例を挙げて説明してください。さらに相関係数の特徴について述べてください。 ⅱ）相関関係を解釈する際の留意点の 1 つとして「擬似相関」について具体例を挙げて説明してください。 **設題 3**　サンプリング（標本抽出）について次の問いに解答してください。 ⅰ）統計学においてサンプリング（標本抽出）とはどのような手続きのことか、「母集団」と「標本（サンプル）」という言葉を説明し、論じてください。 ⅱ）標本抽出（サンプリング）の際の留意点について具体例を挙げながら説明してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

1単位め アドバイス

教科書をよく読み、『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。「TFUオンデマンド」上で解答することも可能です。

2単位め アドバイス

必ず 3 つの設題の中からどれか 1 つを選び、論述していってください。また、論述においてはⅰ）とⅱ）どちらも論じるようにしてください。

〈設題 1 について〉

「在宅学習15のポイント」の第 3 回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。まず、ⅰ）について取り組む中で、代表値として「平均」以外に「中央値」「最頻値」があること、それぞれが異なった性質を持ち、異なった観点から変数の中心を示してくれることについて理解を深めてください。

3 つの統計値の中で、「平均」は最も使用頻度が高く私たちにとって非常になじみ深い統計値です。それゆえに、その特徴や留意点を理解した上でつきあっていく必要があると考えられます。ⅱ）に取

り組む中でこの点について理解を深めてもらえればと思います。具体例については、実際に「外れ値」が存在しており平均が変数の中心とは考えられない統計情報を挙げるか、自身で架空のデータを示し「外れ値」の有無によって平均の値が大きく変わることを説明するようにしてください。なお、以前スクーリングで「外れ値」について説明を行った際に、「私のボーナスの金額が報道されていた日本全体のボーナスの平均金額より低いことが納得できた」と感想に書いてくださった学生さんがいらっしゃいました。このような身近な事柄を具体例として挙げてくださっても構いません。

〈設題 2 について〉

「在宅学習15のポイント」の第 7 回目・ 8 回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。ⅰ）については、まず、「正の相関関係」「負の相関関係」について説明してください。具体例については「勉強時間の長さとテストの成績」（「正の相関関係」の例：勉強時間が長ければテストの成績が良くなる）「鉛筆で書く字の数と鉛筆の長さ」（「負の相関関係」の例：書けば書くほど鉛筆は短くなる）などのように、「正の相関関係」や「負の相関関係」が成り立ちそうな事象を考え述べるようにしてください。さらに、相関係数についてはその算出の仕方や「共分散」について述べる必要はありません。相関係数から 2 つの量的変数の関係についてどのような情報を読み取ることができるのかという点について主に論じてください。

相関関係とは 2 つの変数に統計上関連があることを示すものであり、その関連が実質的に何を意味するかについては様々な観点から検討・解釈していく必要があります。ⅱ）に取り組む中でこの点について理解を深めてもらえればと思います。擬似相関の具体例については、参考図書やインターネット等から探し論じるようにしてください。また、「ナマズが暴れると地震が起こる」のような民間伝承を具体例として挙げてくださっても構いません。

〈設題 3 について〉

「在宅学習15のポイント」の第11回目の学習内容に基づきレポートの作成を進めてください。教科書のｐ.165に「母集団から標本を選ぶ方法が適切であること」と強調して書かれています。しかし、実際の調査においては標本を選ぶ方法やデータの偏りについて十分な検討がなされないまま、誤った主張がなされていることが少なくありません。レポート課題に取り組む中でその危険性について理解を深めると同時に、統計情報を理解、解釈する際に、標本抽出（サンプリング）の適切性やデータの偏りについて検討する視点を確かにしてもらえればと思います。具体例については、参考図書やインターネット等から選択バイアスの具体例を探し、論じるようにしてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験は論述式の試験を行います。「在宅学習の15のポイント」で「　」で書かれている専門用語、さらには、教科書の章の冒頭にあげられている「第○章のポイント」についての理解を問う問題を出題します。

通信教育で学ぶことを決意されたみなさまは、多くの本を読み、知識として得たこと、自ら考えたことを「レポート」という形にまとめていくことが、これからの学習活動の中心になります。

この『レポート課題集』は、一般の大学の授業と同じ働きをするものです。その科目で何を学んでほしいかの「科目の内容」、レポート課題に取り組むにあたっての「アドバイス」などには、担当の先生方からみなさまへのメッセージが込められています。

今後学習を進めていくなかで、時には本の内容がまったく頭に入らなかったり、レポート用紙を前に何を書けばよいかととまどったりすることがあるかもしれません。そんなときは、ちょっと一休みしたあと、この『レポート課題集』のなかにある担当の先生方からのアドバイスをもう一度読んで、取り組みやすそうな課題から再び学習を始めてください。

学問とは難しそうに感じることもありますが、人間が考えたことです。必ず理解できるはずです。どうしてもわからないときは、「質問票」を使って担当の先生に質問をすることもできます。

みなさまがこの『レポート課題集』を存分に活用し、学習を順調に進めていかれることを願っています。

レポート課題集 2021 C心理専門編

2021年3月1日　初版発行

発　行　東北福祉大学通信教育部
〒983-8511　仙台市宮城野区榴岡2-5-26
電話 022-233-2211
https://www.tfu.ac.jp/tushin

印刷・製本　今野印刷株式会社

©Tohoku Fukushi University 2021　Printed in Japan

本書の一部または全部を無断で複写複製（コピー）することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。

卒業研究ガイダンス・面接指導　申込書

FAX・電子メール可（郵送・FAXの場合はコピーして使用してください）

フリガナ 氏　名		学籍番号	T
現住所	〒　　－	電話	
		FAX	
		携帯	
		Eメール	

■事前相談・２回めガイダンス（指導教員決定前）

取り組んでみたいテーマ（簡単で可）							
第１希望	月	日（　　）	時間	：	～	：	
第２希望	月	日（　　）	時間	：	～	：	
第３希望	月	日（　　）	時間	：	～	：	
指導希望教員（あれば）	先生						

■面接指導（指導教員決定後）

教員指導	先生						
第１希望	月	日（　　）	時間	：	～	：	
第２希望	月	日（　　）	時間	：	～	：	

■連絡事項／相談・質問内容

（記入しないで下さい）	決定日		教員	教員連絡	学生連絡	備考
	／	／				

B5版（またはA4版）用紙にコピーして使用してください

卒業研究　申込用紙

※提出締切①：４月５日　②：10月５日

郵送（FAX不可）・三ツ折可

※希望者は別途「卒業研究」の履修登録を忘れずに行ってください。

フリガナ 氏　名		学籍番号	T	生年月日	昭和 平成　　年　　月　　日	男 女

現住所	〒　　－	電話	
		FAX	
		携帯	
勤務先		Eメール	

テーマ・論題	
現時点の主旨と構想(箇条書きでもよい)	※書き切れない場合は別紙に記入・添付してください
研究の方法(予定)	未定　文献研究　アンケート（対象　　）　インタビュー（対象　　） その他
質問(あれば)	

指導を希望する教員	なし	第1希望	先生	第2希望	先生

(記入しないで下さい)	履修条件	指導教員	面1	面2		通1	通2	通3		許1	許2	取消
	可　不可											

B5版（またはA4版）用紙にコピーして使用してください

※本用紙(B5サイズ)を**A4サイズに拡大コピー**のうえご使用ください。市販原稿用紙の使用も可。

(20字×30行＝600字)

□ ページ

※本用紙(B5サイズ)を**A4サイズに拡大コピー**のうえご使用ください。市販原稿用紙の使用も可。

(20字×30行＝600字)

□ ページ